鹿角市文化財調査資料68

特別史跡
大湯環状列石

発掘調査報告書(17)

2001－3

秋田県鹿角市教育委員会

序

鹿角市は、石川啄木が“鹿角の国を憶ふ歌”のなかで「青垣山を繞らせる天さかる鹿角の国」と詠んでいるように、緑の山々と青々とした空と川に恵まれた自然の豊な地域です。

この自然を背景に、縄文時代より多くの生活の場が営まれ、遺跡として今日まで残っています。この遺跡のなかでも、大湯環状列石は縄文時代の代表的な遺跡として、昭和31年に特別史跡に指定されました。

この貴重な文化遺産を保存しつつ、学術的・歴史的価値を後世に伝えていくことが、現在に生きる私達の努めであり、昭和59年より発掘調査を行うとともに、平成２年には周辺遺跡の特別史跡への追加指定、同３年からは指定地の公有化を進めてまいりました。

また平成元年には、遺跡の保存と活用を進めるため「環境整備検討委員会」を設置、同４年に「特別史跡大湯環状列石環境整備基本構想」を、同７年には「同基本計画」を策定し、平成10年度より文化庁の地方拠点史跡等総合整備事業で史跡環境整備を開始しました。

史跡の環境整備を進めるうえで、遺跡の保存と研究、特徴的な遺跡の構造と広がりを感じ取ることができ、しかも縄文の雰囲気を大切にした整備を基本理念に据え、整備を進めております。

本報告書は、史跡の解明と環境整備に必要な基礎資料収集を目的に発掘調査した野中堂環状列石南西側隣接地の調査成果をまとめたもので、縄文文化の研究、文化財保護の資料として活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、発掘調査ならびに環境整備に際し、多大なご協力とご指導を賜わりました文化庁・秋田県教育委員会・関係機関各位に心から感謝申し上げるとともに、今後の事業につきましても一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年３月30日

鹿角市教育委員会

教育長　織　田　育　生

例　　言

1．本報告書は、平成12年度に国ならびに秋田県の補助を得て実施した特別史跡大湯環状列石地方拠点史跡等総合整備事業の一環として実施した発掘調査の成果をまとめたものである。

2．調査の概要については、機会あるごとに公表してきたが、本報告書を正式なものとする。

3．本報告書の執筆は、調査員が分担し、文責は各々の文末に記した。

4．出土資料等の鑑定・分析については、下記の方々に依頼・委託した。

　石器類の石質鑑定 …… 秋田県立十和田高等学校　教諭　鎌　田　健　一

　炭化樹種の鑑定 …… 小坂町立十和田小中学校　教諭　山　谷　昌　久

5．土層・土器等の色調の記載には『新版　標準土色帖』(日本色彩研究所)を使用した。

6．遺物の実測、拓本、トレース等の一連の作業は、調査員の指導のもとに調査補助員、整理作業員が行った。

7．本報告書に掲載した図版にはスケールを付した。なお写真図版については任意の縮尺とした。

8．本報告書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の「毛馬内」を使用した。

9．本報告書に使用した用語については、統一するように努めたが、数度にわたり使用されるものについては簡略しているものもある。なお、図版ならびに写真図版で下記のような記号を使用した。

　ＳＢ … 建物跡、　ＳＩ … 竪穴住居跡、　ＳＫ … 土坑、　ＳＫ(Ｆ) … フラスコ状土坑

　ＳＫ(Ｔ) … Ｔピット、　ＳＸ（ｆ）… 焼土遺構、　ＳＸ（Ｏ）… 石囲炉

　ＳＸ(Ｓ) … 配石遺構・配石列、　ＳＸ(Ｕ) … 埋設土器、　Pit … 柱穴状ピット

　… 遺構確認面以下の土層、　… 焼土、　… 柱痕

10．発掘調査並びに報告書作成にあたって、下記の方々よりご指導・ご協力をいただきました。記して感謝の意を表します。(敬称略・順不同)

　本中　眞、岡村道雄、平澤　毅、沢田正昭、小林達雄、冨樫泰時、熊谷常正、安村二郎

　佐原　真、阿部義平、村越　潔、葛西　励、遠藤正夫、高田和徳、鈴木克彦、井上雅孝

　岩越宏典、久保田太一、稲野裕介、高橋　学

本　文　目　次

序
例　言
本文目次
図版・写真図版・表目次

第Ⅰ章　遺跡の環境
1．遺跡の位置と立地 …… 1
2．遺跡の層序 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要
1．調査要項 …… 7
2．調査の方法 …… 8
3．調査の経過 …… 8

第Ⅲ章　縄文時代の検出遺構と出土遺物
1．竪穴住居跡 …… 11
2．建物跡と柱穴状ピット …… 17
3．配石遺構 …… 36
① 方形配石遺構 …… 36
② 配石列 …… 36
4．石囲炉 …… 39
5．焼土遺構 …… 42
6．埋設土器 …… 49
7．土　坑
① Tピット …… 49
② 土　　坑 …… 50
③ フラスコ状土坑 …… 74
8．遺構外出土遺物
① 縄文土器 …… 94
② 石　　器 ……109
③ 土 製 品 ……119
④ 石 製 品 ……125

第Ⅳ章　歴史時代の検出遺構と出土遺物
1．溝状遺構 ……129
2．古　　道 ……129

第Ⅴ章　自然科学的調査 ……130

第Ⅵ章　調査のまとめ ……132
参考文献 ……136
写真図版 ……137
報告書抄録 ……160

図版・写真図版・表目次

図 版 目 次

第１図　遺跡の位置と立地 …… 1
第２図　調査区位置図 …… 4
第３図　Ｂ２区基本層序(1) …… 5
第４図　Ｂ２区基本層序(2) …… 6
第５図　Ｂ２区遺構配置図 …… 10
第６図　第01号竪穴住居跡実測図 …… 12
第７図　第02号竪穴住居跡実測図 …… 13
第８図　竪穴住居跡出土土器実測図 …… 15
第９図　竪穴住居跡出土土器拓影図 …… 16
第10図　第01号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 17
第11図　第02号竪穴住居跡出土遺物実測図 …… 17
第12図　柱穴状ピット実測図(1) …… 18
第13図　柱穴状ピット実測図(2) …… 19
第14図　柱穴状ピット実測図(3) …… 20
第15図　柱穴状ピット実測図(4) …… 21
第16図　柱穴状ピット実測図(5) …… 22
第17図　柱穴状ピット実測図(6) …… 22
第18図　柱穴状ピット断面図(1) …… 23
第19図　柱穴状ピット断面図(2) …… 24
第20図　柱穴状ピット断面図(3) …… 25
第21図　柱穴状ピット断面図(4) …… 26
第22図　柱穴状ピット断面図(5) …… 27
第23図　柱穴状ピット断面図(6) …… 28
第24図　柱穴状ピット断面図(7) …… 29
第25図　柱穴状ピット断面図(8) …… 30
第26図　柱穴状ピット断面図(9) …… 31
第27図　柱穴状ピット断面図(10) …… 32
第28図　柱穴状ピット断面図(11) …… 33
第29図　柱穴状ピット断面図(12) …… 34
第30図　柱穴状ピット断面図(13) …… 35
第31図　柱穴状ピット出土土器実測図 …… 39
第32図　柱穴状ピット出土土器拓影図(1) …… 40
第33図　柱穴状ピット出土土器拓影図(2) …… 41
第34図　柱穴状ピット出土土器拓影図(3) …… 42
第35図　柱穴状ピット出土石器実測図 …… 43
第36図　第01号配石列実測図 …… 44
第37図　第02号方形配石遺構実測図(1) …… 44
第38図　石囲炉実測図 …… 44
第39図　焼土遺構実測図(1) …… 45
第40図　焼土遺構実測図(2) …… 47
第41図　第01号埋設土器実測図(1) …… 49
第42図　第01号埋設土器実測図(2) …… 49
第43図　Ｔ－ピット実測図 …… 50
第44図　Ｔ－ピット出土土器拓影図 …… 50
第45図　土坑実測図(1) …… 52
第46図　土坑実測図(2) …… 55
第47図　土坑実測図(3) …… 57
第48図　土坑実測図(4) …… 58
第49図　土坑出土土器実測図(1) …… 60
第50図　土坑出土土器実測図(2) …… 61
第51図　土坑出土土器拓影図(1) …… 62
第52図　土坑出土土器拓影図(2) …… 63
第53図　土坑出土土器拓影図(3) …… 64
第54図　土坑出土土器拓影図(4) …… 65
第55図　土坑出土遺物実測図(1) …… 66
第56図　土坑出土遺物実測図(2) …… 67

第57図　土坑出土遺物実測図(3) …… 68
第58図　フラスコ状土坑実測図(1) …… 75
第59図　フラスコ状土坑実測図(2) …… 76
第60図　フラスコ状土坑実測図(3) …… 79
第61図　フラスコ状土坑実測図(4) …… 82
第62図　フラスコ状土坑実測図(5) …… 83
第63図　フラスコ状土坑
出土土器実測図 …… 83
第64図　フラスコ状土坑
出土土器拓影図(1) …… 84
第65図　フラスコ状土坑
出土土器拓影図(2) …… 85
第66図　フラスコ状土坑
出土土器拓影図(3) …… 86
第67図　フラスコ状土坑
出土土器拓影図(4) …… 87
第68図　フラスコ状土坑
出土土器拓影図(5) …… 88
第69図　フラスコ状土坑
出土遺物実測図(1) …… 89
第70図　フラスコ状土坑
出土遺物実測図(2) …… 90
第71図　フラスコ状土坑
出土遺物実測図(3) …… 91
第72図　フラスコ状土坑
出土遺物実測図(4) …… 92
第73図　フラスコ状土坑
出土遺物実測図(5) …… 93
第74図　土器破片分布状況(1) …… 94
第75図　土器破片分布状況(2) …… 94
第76図　遺構外出土土器実測図(1) …… 97
第77図　遺構外出土土器実測図(2) …… 98
第78図　遺構外出土土器実測図(3) ……100
第79図　遺構外出土土器実測図(4) ……101
第80図　遺構外出土土器実測図(5) ……102
第81図　遺構外出土土器実測図(6) ……103
第82図　遺構外出土土器実測図(7) ……104
第83図　グリッド出土土器組合図 ……106
第84図　遺構外出土土器拓影図(1) ……107
第85図　遺構外出土土器拓影図(2) ……108
第86図　遺構外出土土器拓影図(3) ……109
第88図　遺構外出土土器拓影図(4) ……110
第89図　遺構外出土土器拓影図(5) ……111
第90図　遺構外出土土器拓影図(6) ……112
第91図　遺構外出土土器拓影図(7) ……113
第92図　遺構外出土土器拓影図(8) ……114
第93図　石器分布状況 ……115
第94図　遺構外出土石器実測図(1) ……116
第95図　遺構外出土石器実測図(2) ……117
第96図　遺構外出土石器実測図(3) ……118
第97図　土器片利用土製品分布状況 ……120
第98図　土製品分布状況 ……120
第99図　遺構外出土土製品実測図(1) ……121
第100図　遺構外出土土製品実測図(2) ……122
第101図　遺構外出土土製品実測図(3) ……123
第102図　遺構外出土土器片利用
土製品拓影図(1) ……124
第103図　遺構外出土土器片利用
土製品拓影図(2) ……124
第104図　石製品分布状況 ……126
第105図　遺構外出土石製品実測図(1) ……127
第106図　遺構外出土石製品実測図(2) ……128
第107図　溝状遺構実測図 ……129
第108図　遺構分布略図 ……133

写真図版目次

ＰＬ１　調査区全景 ……137
ＰＬ２　調査区全景・竪穴住居跡 ……138
ＰＬ３　竪穴住居跡・建物跡 ……139
ＰＬ４　柱穴状ピット・方形配石遺構 ……140
ＰＬ５　配石列・石囲炉 ……141
ＰＬ６　焼土遺構・埋設土器・土坑(1) ……142
ＰＬ７　土坑(2) ……143
ＰＬ８　土坑(3)・フラスコ状土坑 ……144
ＰＬ９　遺構内出土土器(1) ……145
ＰＬ10　遺構内出土土器(2) ……146
ＰＬ11　遺構内出土遺物 ……147
ＰＬ12　遺構外出土土器(1) ……148
ＰＬ13　遺構外出土土器(2) ……149
ＰＬ14　遺構外出土土器(3) ……150
ＰＬ15　遺構外出土土器(4) ……151
ＰＬ16　遺構外出土土器(5) ……152
ＰＬ17　遺構外出土土器(6) ……153
ＰＬ18　遺構外出土土器(7) ……154
ＰＬ19　遺構外出土土器(8)・出土石器 ……155
ＰＬ20　遺構外出土土製品(1) ……156
ＰＬ21　遺構外出土土製品(2) ……157
ＰＬ22　遺構外出土土製品(3) ……158
ＰＬ23　遺構外出土石製品 ……159

表　目　次

第１表　第01号竪穴住居跡
柱穴状ピット一覧表 …… 14
第２表　第02号竪穴住居跡
柱穴状ピット一覧表 …… 14
第３表　建物跡柱穴状ピット一覧表 …… 36
第４表　Ｂ２区柱穴状ピット一覧表(1)……37
第５表　Ｂ２区柱穴状ピット一覧表(2)……38
第６表　遺構外出土土器観察表 ……105

第Ⅰ章　遺跡の環境

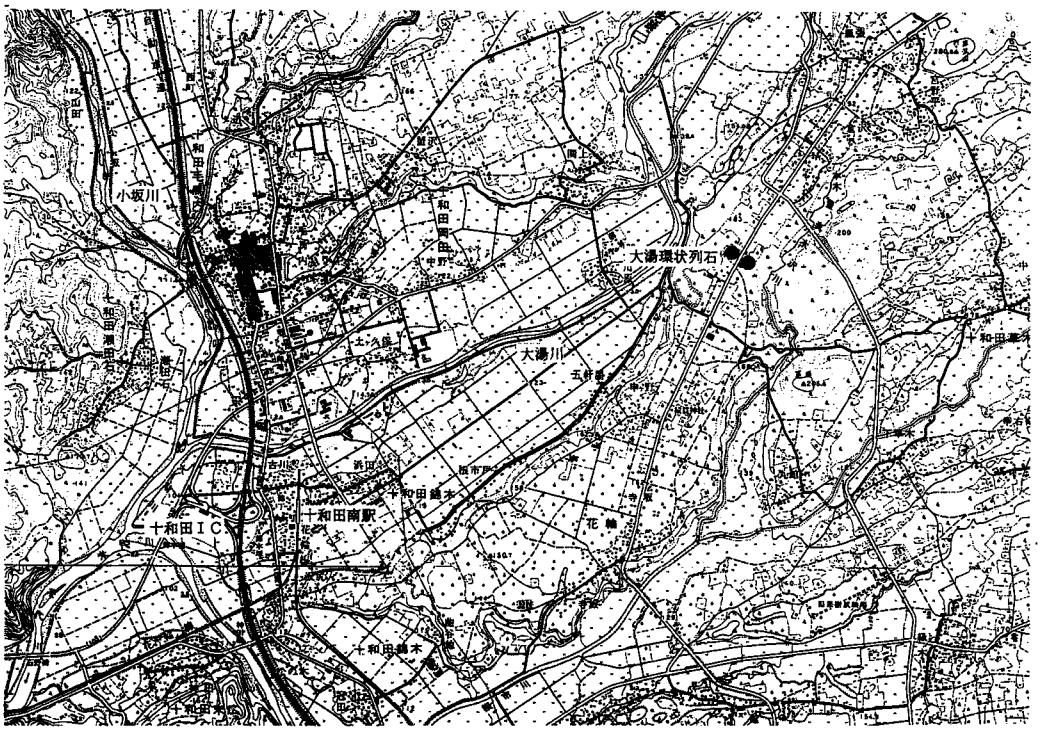
1．遺跡の位置と立地（第１図、２図）

鹿角市は秋田県の北東部に位置し、十和田八幡平国立公園をはじめとする豊な自然に恵まれ、北東北三県の観光拠点となっている。自然を背景に、縄文時代には特別史跡大湯環状列石をはじめとする多くの遺跡が残され、また古代になると律令国家の東国を支配するうえで重要な地域であり、「日本三大実録」（878）に「上津野」と記載されている。

鹿角の所在する鹿角盆地は、東の奥羽山脈と西の高森山地の懐に形成された盆地で、盆地のほぼ中央を米代川が北へ向い貫流し、その支流である根市川、間瀬川などは蛇行と合流を繰り返し、本流である米代川に注ぎ込んでいる。これらの支流は、十和田火山の火砕流によって形成された段丘を浸食し、沖積面とは比高差30m程の舌状台地をつくり出している。

鹿角市内で発見される遺跡は、この舌状台地上の至る所に分布し、平成元年に実施した遺跡分布調査では、416ヵ所の遺跡が確認された。

特別史跡大湯環状列石は、鹿角市の北東部に位置し、大湯川と豊真木沢川の侵食によってつくり出された全長5.6km、幅0.5～1.0km、標高150m～190mの舌状台地のほぼ中央部に立地する。



第１図　遺跡の位置と立地

遺跡周辺の自然環境を観察すると、四方の山並みを見渡すことができるほど眺望に優れている。遺跡ののる台地斜面の至るところには今でも豊かな水量を保つ涌き水やクリやツノハシバミといった堅果類をつける広葉樹が点在している。台地西側下には川の幸を供給した大湯川が西流している。

大湯環状列石は、鹿角市十和田大湯字万座、字野中堂、字一本木後ロに所在し、ＪＲ東日本鉄道花輪線・十和田南駅の北東3.5km、東北縦貫自動車道十和田ＩＣの北東3.7km、北緯40度16分20秒、東経140度48分49秒の地点である。

発掘調査区は、野中堂環状列石の南西側隣接地であり、史跡の公有化以前は果樹園、原野であった。（藤井）

２．遺跡の層序と地形

遺跡の層序（第３図）

各調査区の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層は、大湯浮石層までの堆積層で、20cm～45cmの厚さで各調査区に堆積する。また、野中堂環状列石フェンス下には昭和26、27年の国営調査時の盛土がみられる。第Ⅱ層は、大湯浮石層（十和田ａ降下火山灰）で各調査区にみられるが、後世の撹乱により消失している地域もある。色調や粒子の粗細によって分層することが出来る。Ⅱａ層は粒子の極めて細かな火山灰層、Ⅱｂ層は粒径0.5cm～４cmの明黄褐色の浮石（軽石）である。層の厚さはⅡａ層で平均４cm程、Ⅱｂ層で平均10cm程を測る。また、Ｂ区においては、野中堂環状列石南東側の台地縁辺部では、沢部分に第Ⅱ層が厚さ15～20cm程を測る箇所も見受けられた。本調査において確認された歴史時代の溝状遺構は当該時期の遺構確認面である。

第Ⅲ層は、大湯浮石層から地山漸位層（第Ⅳ層）までの堆積層で、色調・堅さ・混入物の量によって４層に分層することができる。Ⅲａ層は混入物をほとんど含まない黒色土層で、堅く締まっている。Ⅲｂ層も黒色土層であるが、堅さや粗密度からⅢａ層とは区別される。Ⅲａ、Ⅲｂ層ともに遺物包含層である。本調査区では配石遺構、石囲炉、焼土遺構が本層で確認されることもみられた。Ⅲｄ層は、地山粒を少量含んだ黒褐色土層で、遺物包含層・遺構確認面である。また本調査ではこれまで確認されてきたⅢｃ層よりⅢｄ層に近いがⅢｄ層とは異なる暗褐色のⅢｄ′層が広範囲にみられ、遺構確認を苦慮させられた。当時の遺構の堀り上げ時の排土が散乱したものか、または、整地の可能性を示唆させる層である。

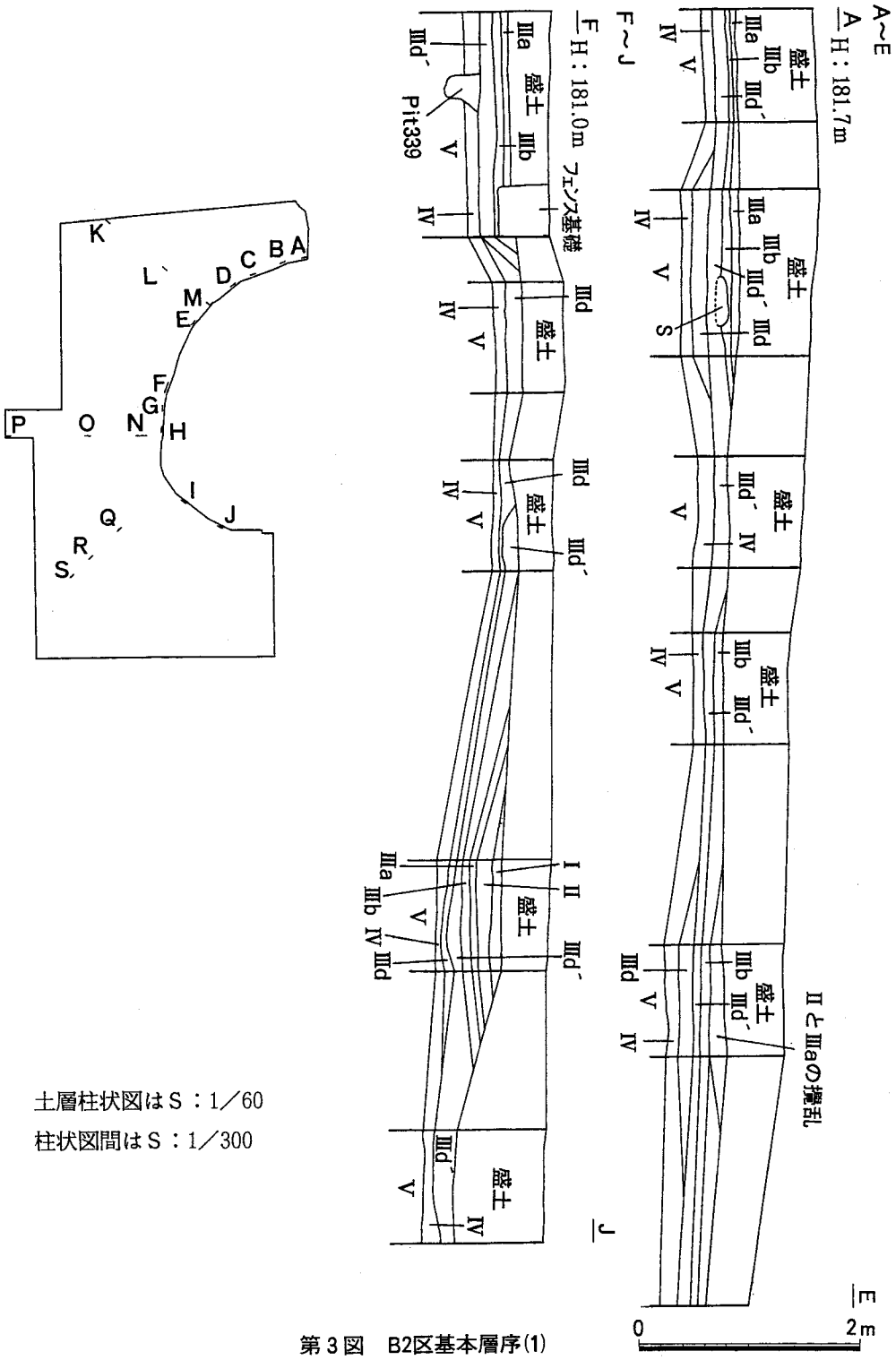
第Ⅳ層は、地山直上の暗褐色土層で地山ブロックを多量に含み、締まりのある層である。第Ⅴ層は、申ケ野火山灰と呼ばれる黄褐色土層で、十和田火山の火砕流にあたる。確認された遺構の掘り込みはすべてこの層まで達し、なかには本層下のシラス層まで達しているものもある。

調査地は全体に起伏に富み、遺構は小丘状の地域に集中する傾向が強い。調査地北側と南側では約２ｍ近い高低差があり、遺物は南側台地縁辺部からのびる沢地部に多く分布する傾向にある。

（花海　義人）

F6区
F1区
F5区
D1区
F4区
F3区
F2区
D2区
D3区
D5区
D4区
E4区
D8区
万座環状列石
G2区
D6区
D7区
G1区
C1区
E1区
B1区
B2区
A1区
A2区
A3区
0
200m

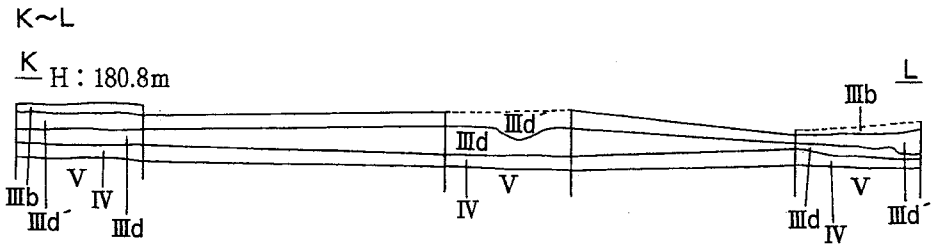
第2図　調査区位置図

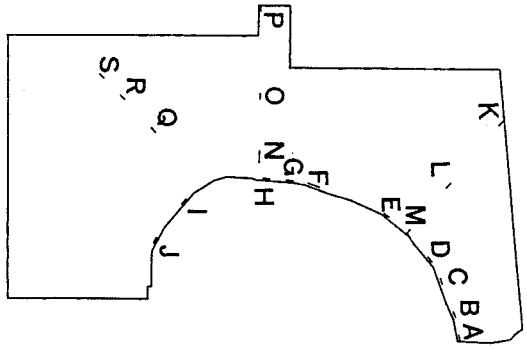


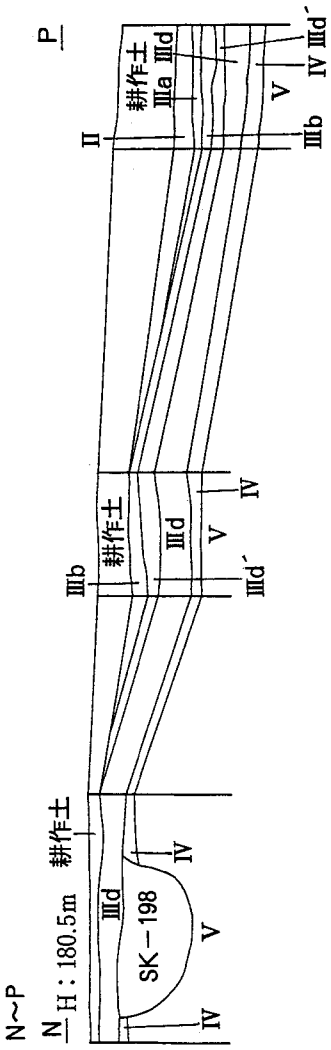
土層柱状図はＳ：1／60

柱状図間はＳ：1／300

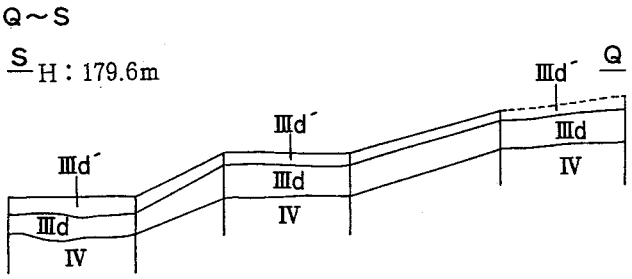
第３図　B2区基本層序(1)







盛 土：昭和26、27年国営調査時排土
Ⅰ 層：黒色土(10YR2/1)
Ⅱ 層：大湯浮石層シルト質火山灰
Ⅲa層：黒色土(10TR2/1)シルト質
Ⅲb層：黒色土(10YR2/1)シルト質で微量の地山粒を含む。遺物包含層である。
Ⅲd 層：黒褐色土(10YR2／3)地山粒を少量含む、遺構確認面・遺物包含層である。
Ⅲd´層：暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入
Ⅳ 層：暗褐色土(10YR3／3)地山ブロックを多量に含む、地山までの漸位層
Ⅴ 層：黄褐色土(10YR5／8)地山層



土層柱状図はＳ：1／60

柱状図間はＳ：1／300

第４図　B2区基本層序(2)

第Ⅱ章　調査の概要

1．調査要項

1．遺　跡　名　　特別史跡大湯環状列石（遺跡番号：123）

2．調査目的　　野中堂環状列石南側隣接地遺構・遺物分布状況の把握を目的とした。

3．調　査　地　　鹿角市十和田大湯字野中堂１番地（調査地名：B_2区）

4．調査面積　　発掘調査面積　2,745 m^2

5．調査期間　　発掘調査　　平成12年5月8日～平成12年10月31日

　　整理・報告書作成　　平成12年11月１日～平成13年３月30日

6．調査主体者　　鹿角市教育委員会

7．調査担当者　　鹿角市教育委員会　生涯学習課

　　主任　藤井安正　　主任　花海義人

8．調査参加者　　調査指導　　大野憲司（秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室文化財保護班　副主幹）

　　調査員　　鎌田健一（秋田県立十和田高等学校　教諭）

　　山谷昌久（小坂町立十和田小中学校　教諭）

　　調査補助員　　松田隆史、　柳沢和仁

　　発掘調査・整理作業員

　　佐藤　一男、三浦　茂雄、高嶋　　剛、川又　リサ、工藤チエ子、宮沢　カヨ、柳沢恵美子、苗代沢ノブ、兎沢サツ子、柳沢　ミネ、木村千鶴江、柳舘　愛子、安村　ヨコ、児玉　フデ、高村　サツ、田中美千栄、田中　栄子、成田由紀子、関　　イサ、宮沢トミエ、柳沢　勝江、木村　キン、柳沢　千晶、福島美紀子、黒沢　文子

9．事　務　局　　鹿角市教育委員会　生涯学習課

課　　長	奈良勝哉
主席課長補佐	成田弘子
課長補佐	上田　　透
主　　査	秋元信夫
主　　任	藤井安正
主　　任	花海義人

10．協力機関・協力者　　文化庁文化財保護部記念物課、奈良国立文化財研究所

　　秋田県教育委員会、秋田県埋蔵文化財センター

2．調査の方法

調査区内のグリッドについては、第１次発掘調査以来のＮ－49°－Ｗを基準線とし、万座環状列石内に打設した基準杭より延長し、５ｍ単位の方眼を設定した。グリッドの名称は、アルファベッドと算用数字の組合せとし、西側の杭をもってグリッド名とした。

Ⅱ層（大湯浮石層・十和田ａ降下火山灰）から遺物包含層については人力により分層発掘とし、極力上層での遺構の確認に努めたが、一部第Ⅳ層または第Ⅴ層まで掘り下げ、遺構を確認した地域もある。

確認された遺構については、発見順に番号を付したが精査の結果遺構として認定できなかったものもあり欠番としている。遺構の精査は、後々に調査データを残すことまた遺構の保護を考慮したことから、竪穴住居跡については土層観察用ベルトを多くし、小規模な遺構については半裁するに留めた。

遺構の実測図の作成については、グリッド杭を利用し、簡易遣り方測量を用い、縮尺1／20で図化した。

遺物の取り上げについては、出土層位を観察し、各グリッドごとに取り上げた。なお、完形土器、復元可能土器並び土製品・石製品については出土層位・出土地点・出土状況を観察し、写真撮影後、収納した。

写真撮影については、小型一眼レフカメラ２台を使用し、調査の各段階ごとに白黒・リバーサルフィルムに収めた。（藤井）

3．調査の経過

特別史跡大湯環状列石第17次発掘調査は平成12年５月８日より開始し、現地でのすべての調査を終えたのは平成12年10月31日である。

５月25日、調査作業員に事務連絡並びに調査目的の方法を説明後、野中堂環状列石の西側周辺より大湯浮石層（第Ⅱ層）及び遺物包含層（第Ⅲ層）の除去を開始、各グリッドより遺物の出土が続く。30日には調査も北東側に広がり、野中堂環状列石の北側出入り口と考えられる配石列を確認する。

６月１日～２日、特別史跡大湯環状列石環境整備検討委員会が開催され、文化庁並びに検討委員の現地視察があった。６月２日より作業員の一部を同列石南側に移し、大湯浮石層及び遺物包含層の除去を行い、土偶や石刀といた祭祀に関る遺物の出土が相次ぐ。Ｐ・Ｑグリッドラインで確認した幅の広い落ち込みは、明治以前の古道であることが地元住民からの情報で判明した。この頃には調査範囲も広くなり、同列石の南東部に及び、径４ｍの落ち込みとこれと重複する径１ｍ程の落ち込みを確認する。19日よりこの落ち込みの精査を開始し、竪穴住居跡・

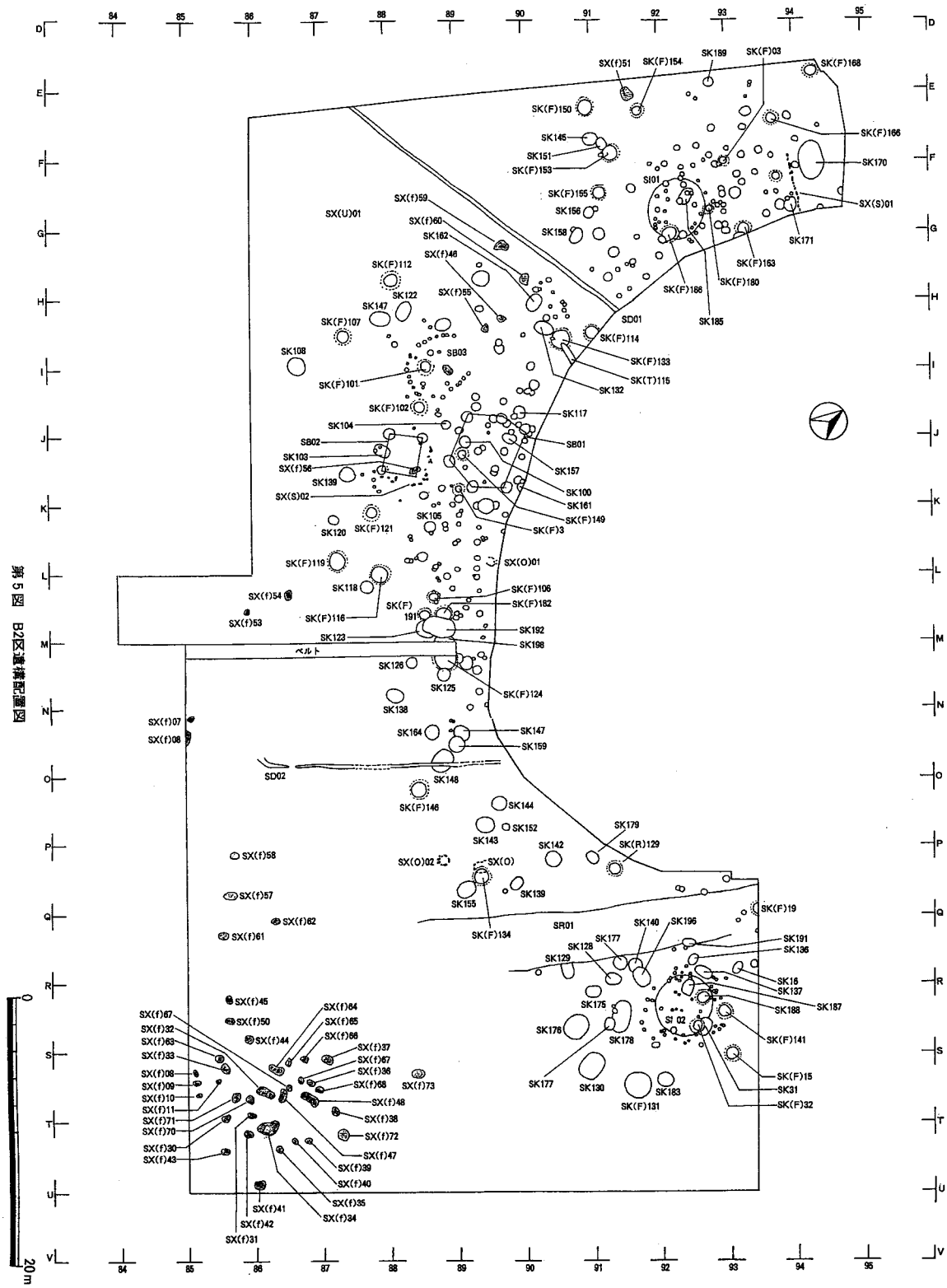
土坑・フラスコ状土坑の重複であることが判明した。また、同列石の南側30m付近、S—86グリッド付近より多量の焼土遺構が発見された。

7月は例年になく好天が続き、遺構確認面までの掘り下げは順調に進むが、土層の乾燥が速く遺構の確認作業ができない状況が続く。

8月22日、秋田県教育庁・生涯学習課文化財保護室　大野憲司副主幹が現場を訪れ、調査状況を視察し、指導があった。28日より調査区南端部の大湯浮石層及び遺物包含層の除去を開始し、大型の川原石が出現し始める。8月の後半に及んでも好天は続き、遺構確認作業に難渋する。9月に入り、精査された遺構も50余りに及ぶが、遺構の数が多量なため作業員のほとんどが遺構の半裁作業へ、調査員・補助員は土層断面図作成、遺構及び全体の写真記録を行う。9月上旬には南端部の遺構確認面までの堆積土除去を終了した。

9月末で確認・精査された遺構は420基余り、取り上げた遺物はコンテナ50箱余であった。

土層断面図、平面図作成については、随時行っていたが、すべての土層図、平面図を作成し終わったのは平成12年10月31日であった。　（藤井）



第5図 B2区遺構配置図

第Ⅲ章　縄文時代の検出遺構と出土遺物

B_2区において、確認された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡２軒、石囲炉２基、建物跡３棟、柱穴状ピット427個、配石列１条、方形配石遺構１基、土器埋設遺構１基、焼土遺構43基、Ｔピット１基、フラスコ状土坑34基、土坑57基、が検出された。また、遺構内・外より復元（可能）土器35個体、縄文土器破片コンテナ59箱、石器1,703点、土製品419点、石製品81点の出土があった。

１．竪穴住居跡

第01号竪穴住居跡（第６図、第１表）

調査区北部のＦ・Ｇ－92グリットに位置する。Ⅳ層上面でプランを確認したが、土層断面からその構築時期はⅢｄ層上面であることが判明している。本住居跡南西部分は未発掘である。第186号フラスコ状土坑、第185号土坑と重複し、本住居跡はいずれより新しい。

平面形は、規模4.7ｍ×3.2ｍの楕円形で、床面積は11.8m^2程度と考えられる。

堆積土は、３ブロックに区分され、人為堆積である。床面はⅤ層を若干掘り込み、しまりはやや弱い。確認された壁面は、床面より緩やかに立ち上がり、高さは18cmを測る。

住居内より18個のピットが検出されたが、ピット273、285、297が主柱穴と考えられる。

炉は、住居跡中央部の床面に焼土跡のみが確認された。

本住居跡より縄文時代後期前葉の土器破片74点、縄文時代後期中葉の注口土器１点、壺形土器１点、土器破片３点、石器16点が出土している。注口土器、壺形土器は床面直上からの出土で、同じく床面直上より凹石１点、掻器３点、石刀１点が出土している。

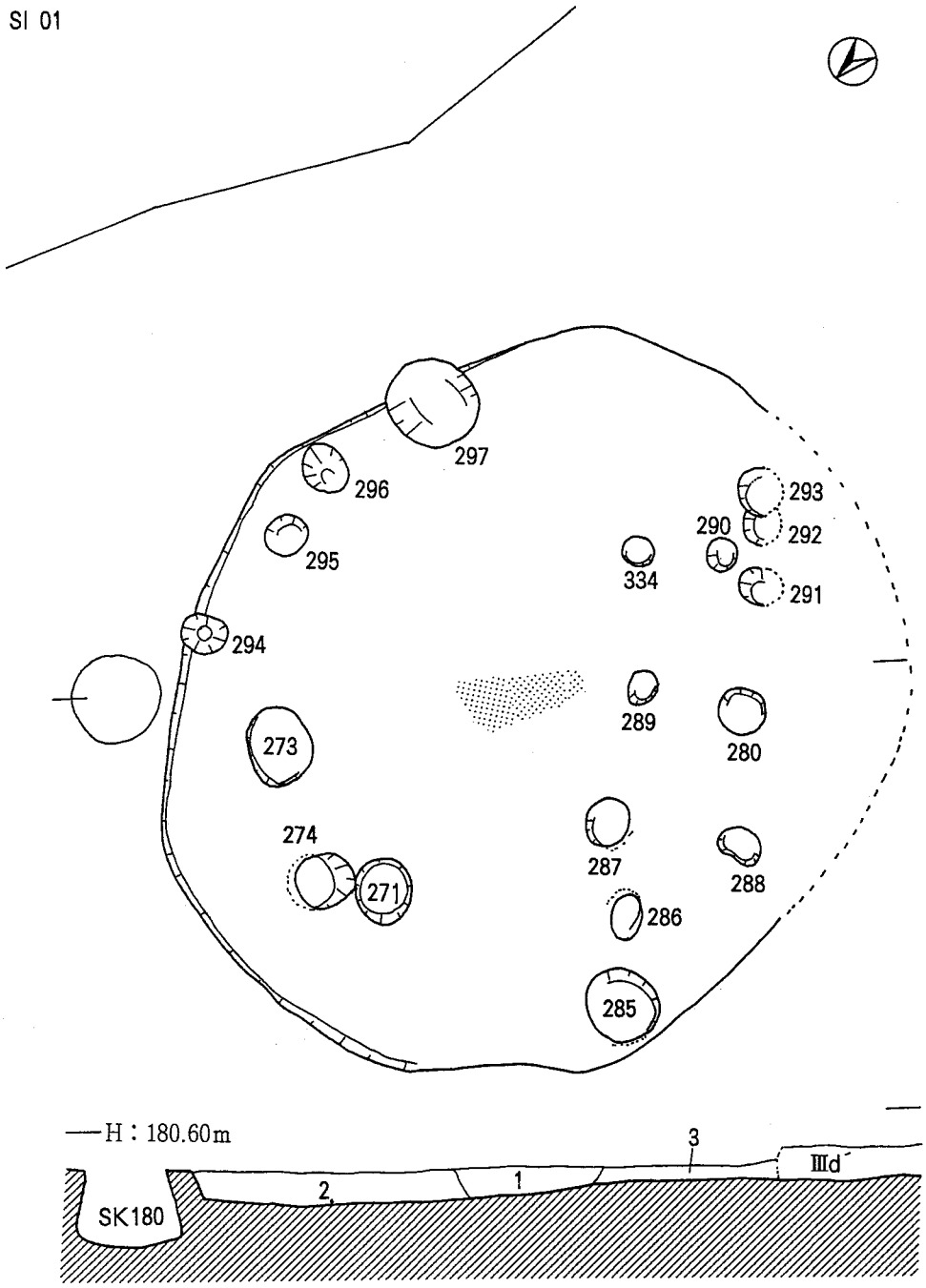
本住居跡の構築時期は、出土遺物から縄文時代後期中葉と判断される。

第02号竪穴住居跡（第７図、第２表）

調査区東部のＱ－92、Ｒ－91・92グリットに位置する。Ⅳ層上面でプランを確認した。第31・188号フラスコ状土坑、第31・187号土坑と重複し、本住居跡はいずれより新しい。

平面形は、規模4.4ｍ×4.4ｍの円形で、南側に張り出し部が確認された。床面積は15.2m^2程度と考えられる。

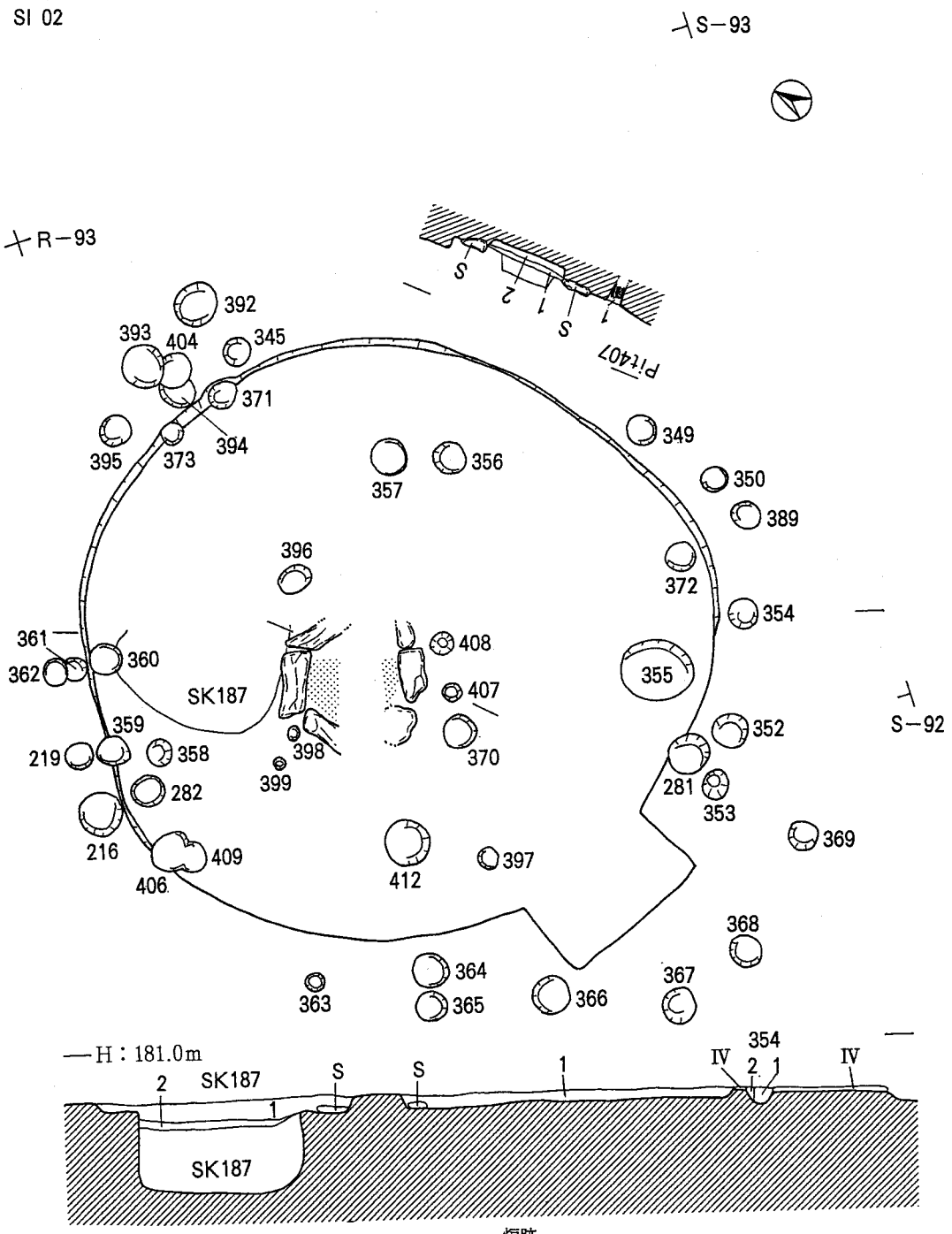
堆積土は、１ブロックに区分され、炭化物が多量に混入していることから焼失家屋と考えられる。床面はⅤ層を若干掘り込み、堅くしまり、重複する遺構上部には貼り床がなされている。確認される壁面は、床面より緩やかに立ち上がり、高さは10cmを測る。住居内より20個のピットが検出されたが、その規模、配置からピット412、355、の２本以外は主柱穴と考えられず、本住居跡周囲に分布するピットが主柱穴となる可能性がある。



SI01
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 褐色土(10YR4/4)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

第6図　第01号竪穴住居跡実測図

0　4m



SI02
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒多量、炭化物微量混入、かたくしまる

Pit354
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる

炉跡
1. 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、炭化物少量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)焼土粒多量混入、やや軟弱

Pit407
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱

第7図　第02号竪穴住居跡実測図

0　4m

第１表　第01号竪穴住居跡柱穴状ピット一覧表

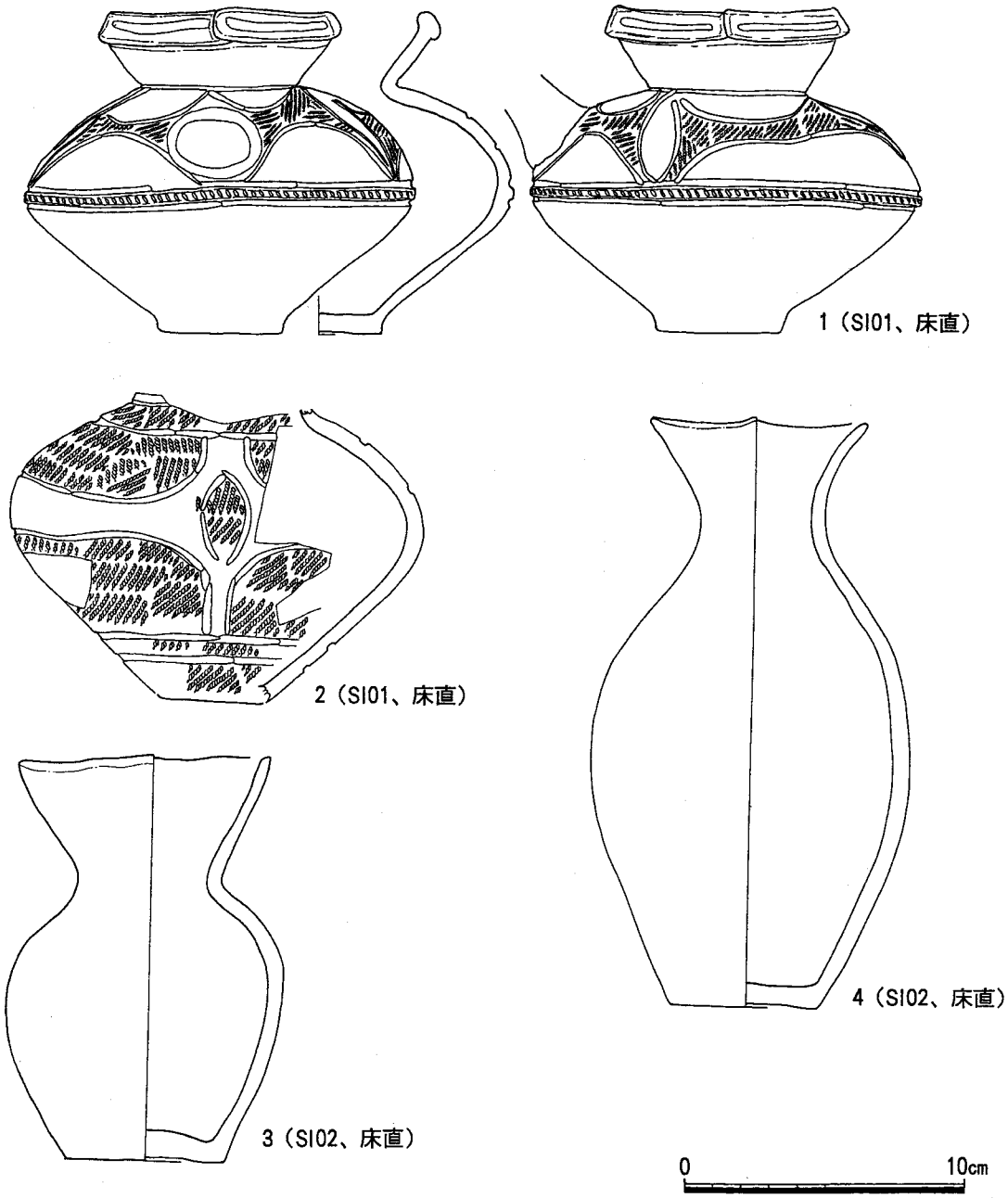
（新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧関係不明）

ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係	ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係
２７１	Ｆ－９２	34×(31)×54(79)		２９０	Ｆ－９２	(20)×　17×　21	
２７３	Ｆ－９２	(49)×(37)×32(92)		２９１	F91~F92	(27)×(23)×　31	P291→P293
２７４	Ｆ－９２	37×　33×62(67)		２９２	F91~F92	×(23)×　31	P292→P293
２８０	F91~F92	(27)×　25×41(71)		２９３	F91~F92	×(27)×32(82)	P291・292→293
２８５	Ｆ－９２	(49)×(42)×51(76)		２９４	Ｆ－９２	27×　24×　36	
２８６	Ｆ－９２	(27)×　19×　50		２９５	Ｆ－９２	(25)×(25)×37(47)	
２８７	Ｆ－９２	(29)×　25×　41		２９６	F91~G92	(33)×　25×　31	
２８８	Ｆ－９２	(27)×(16)×　27		２９７	Ｇ－９２	(50)×　×48(78)	
２８９	Ｆ－９２	(23)×(16)×　19		３３４	Ｆ－９２	19×(18)×　6	

第２表　第02号竪穴住居跡柱穴状ピット一覧表

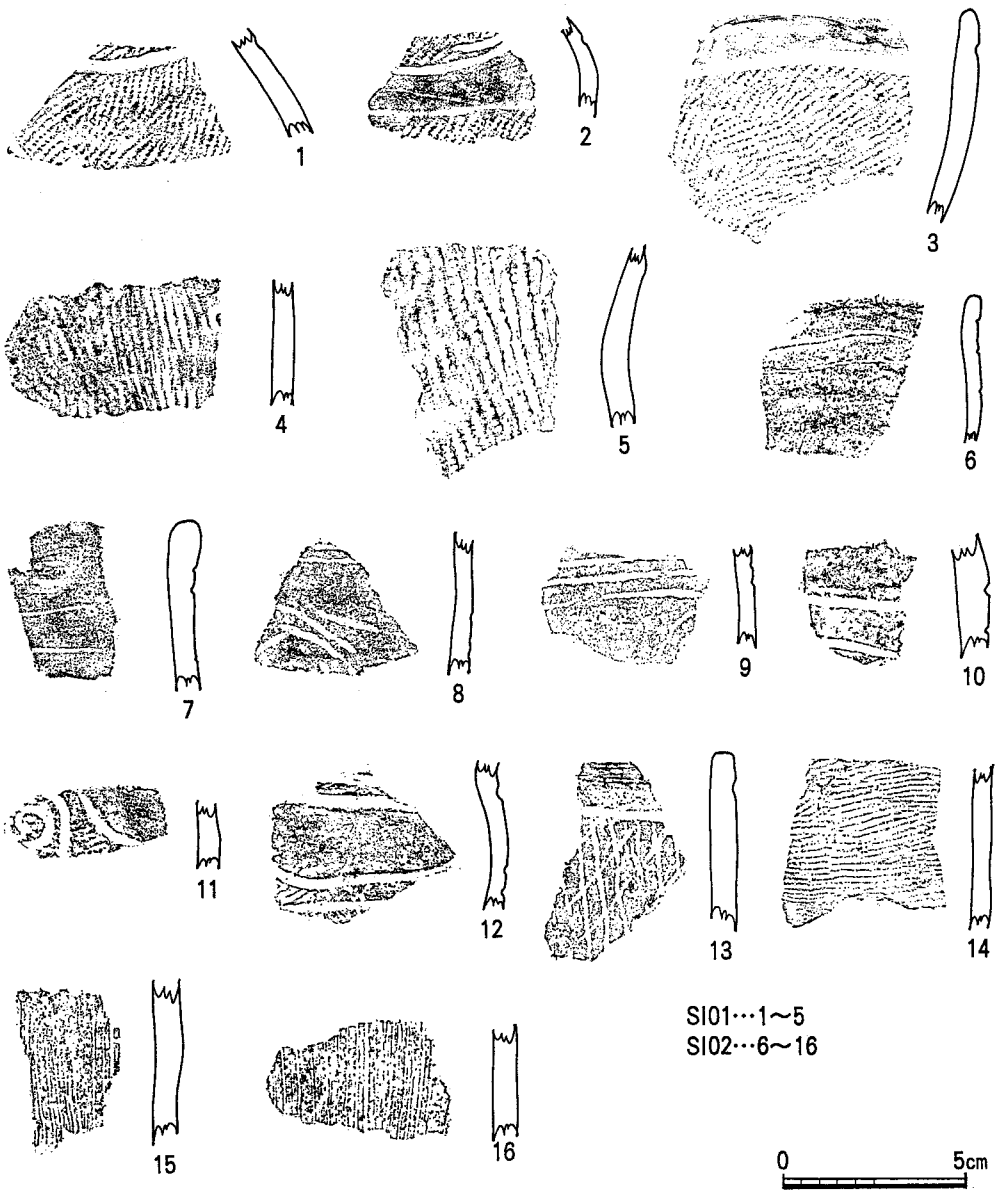
（新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧関係不明）

ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係	ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係
２１６	Ｑ－９２	32×　31×　10		３６７	Ｒ－９１	23×　22×　21	
２１９	Ｑ－９２	19×　18×　13		３６８	Ｒ－９１	23×　21×　8	
２８１	R91~R92	31×　28×　20		３６９	Ｒ－９１	21×　20×　6	
２８２	Ｑ－９２	24×　22×　16		３７０	Ｒ－９２	24×　23×　14	
３４５	Ｒ－９２	21×(19)×　6		３７１	Ｒ－９２	(23)×　19×　26	
３４９	Ｒ－９２	21×　20×　8		３７２	Ｒ－９２	22×　20×　5	
３５０	Ｒ－９２	19×　18×15(28)		３８９	Ｒ－９２	20×　17×　9	
３５２	Ｒ－９２	25×　22×　8		３９２	Ｒ－９２	(30)×　29×　8	
３５４	Ｒ－９２	(20)×　19×　14		３９３	Ｒ－９２	(32)×　29×　9	
３５５	Ｒ－９２	50×　43×　14		３９４	Ｒ－９２	(25)×(23)×	P394→P404
３５６	Ｒ－９２	(23)×　22×　12		３９５	Ｒ－９２	(21)×　20×　13	
３５７	Ｒ－９２	(26)×　25×　24		３９６	Ｒ－９２	22×(19)×　11	
３５８	Ｑ－９２	19×　18×　15		３９７	Ｒ－９１	15×　12×25(48)	
３５９	Ｑ－９２	21×　21×　17		３９８	Ｒ－９２	10×　8×　5	
３６０	Ｑ－９２	23×　22×　21	SK187→P360	３９９	Ｒ－９２	8×　8×　4	
３６１	Ｑ－９２	(18)×(16)×　13		４０４	Ｒ－９２	(25)×(25)×　10	
３６２	Ｑ－９２	(20)×(18)×　12		４０６	Ｒ－９２	31×　26×15(21)	
３６３	Ｒ－９１	13×　13×　6		４０７	Ｒ－９２	14×　13×　12	
３６４	Ｒ－９１	25×　25×　25		４０８	Ｒ－９２	16×　16×　10	
３６５	Ｒ－９１	22×　20×　7		４０９	Ｒ－９２	22×(18)×　6	
３６６	Ｒ－９１	27×　26×　9		４１２	R91~R92	33×(32)×　11	



第８図　竪穴住居跡出土土器実測図

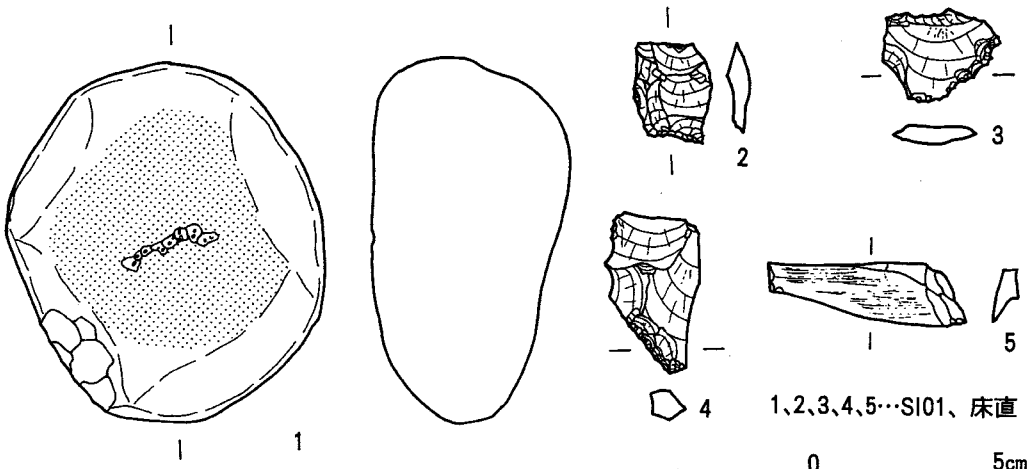
炉は、住居跡中央部よりやや西側に位置し、30～50cm大の川原石を、径70cmの円形に配した石囲炉である。炉底部は10cm程掘り込まれ、焼土層が確認される。炉周囲には小ピットが巡らされ、ピット407、408より炭化した枝木が差し込まれた状態で出土した。



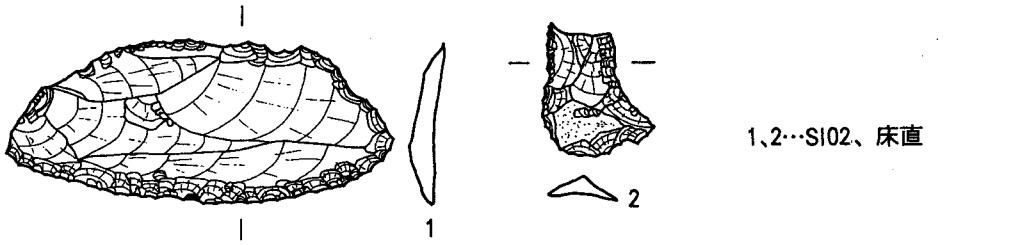
第９図　竪穴住居跡出土土器拓影図

本住居跡より縄文時代後期前葉の壺形土器２点、土器破片184点、石器39点が出土している。壺形土器は床面直上からの出土で、同じく床面直上より掻器２点が出土している。

本住居跡の構築時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断される。



第10図　第01号竪穴住居跡出土遺物実測図



第11図　第02号竪穴住居跡出土遺物実測図

2．建物跡と柱穴状ピット（第14図、第15図12・13・16～30、第３～５表）

B_2区からは455個（昨年度確認分27個含む）の柱穴状ピットが検出された。これらのピットはやむを得ずⅤ層上面で確認されたものもあるが、構築時期は縄文時代後期と考えられる。いずれも円形や楕円形の平面プランで、規模は径８～96cm、深さ４～150cmと様々である。多数のピットには柱痕が確認され、その大部分は建物跡の柱穴と考えられ、規則的な配列が示される。B_2区では多数の建物跡の存在が予想されるが、ここでは柱配列を明確にし得た３棟の建物跡について記述する。

ピットより完形土器、蓋形土器、土器破片、石器が多数出土している。ピットの構築時期は、確認面及び出土遺物より縄文時代後期前葉と考えられる。

第01号建物跡（第15図）

調査区中央部のＪ－89・90、Ｋ－88・89グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第149号フラスコ状土坑、第160・157号土坑、ピット17、164、166、220、221、134、135、200、199、170、136、137、150と重複し、新旧不明のピット17、220、221、134、135、200、199、170、

136、137、156以外、本建物跡が全ての遺構より新しい。

ピット15、337、198、33、16、171の６本柱の建物跡で、長辺3.5m、短辺2.3m、張り出し部間軸長5.2mの規模である。柱穴の規模は堀方径70～90cm、深さ70～116cmを測る。ピット16以外の柱穴から、径30～40cmの柱痕が確認されている。

本建物跡柱穴からの出土遺物は、ピット15より縄文後期の土器破片１点、ピット16より、縄文時代後期の土器破片４点、ピット171より縄文土器破片８点、凹石１点が出土している。

確認面及びピット出土遺物より、縄文時代後期前葉の構築時期と考えられる。

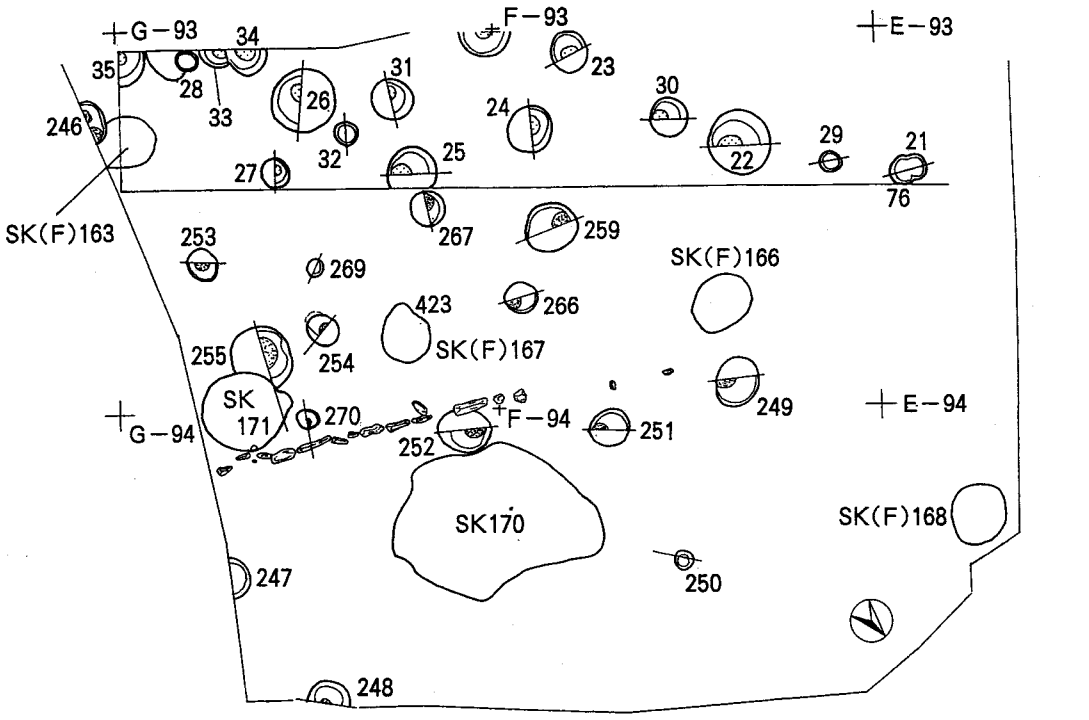
第02号建物跡（第15図）

調査区中央部のＩ－87・88、Ｊ－87・88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第02号環状配石遺構、第56号焼土遺構と重複し、本建物跡がいずれより古い。

ピット114、116、306とボーリング調査で確認済みであるが未発掘のピットを含む、４本柱の建物跡で、長辺2.7m、短辺2.5mの規模である。柱穴の規模は堀方径60～80cm、深さ125～141cmを測る。検出された柱穴から、径20～46cmの柱痕が確認されている。

本建物跡柱穴から遺物は出土しなかった。

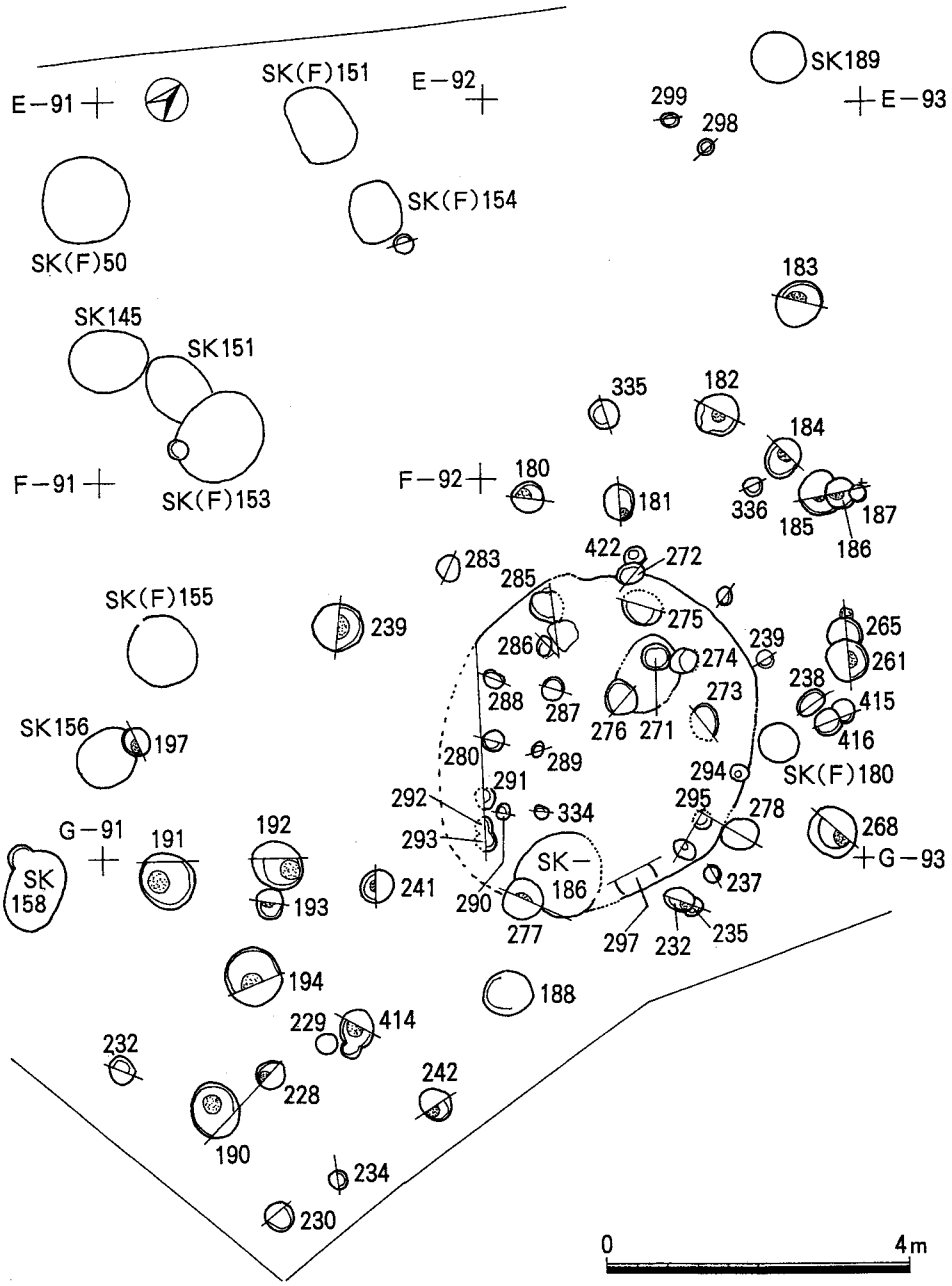
確認面及び周辺出土遺物より、縄文時代後期前葉の構築時期と考えられる。



第12図　柱穴状ピット実測図(1)

第03号建物跡（第14図）

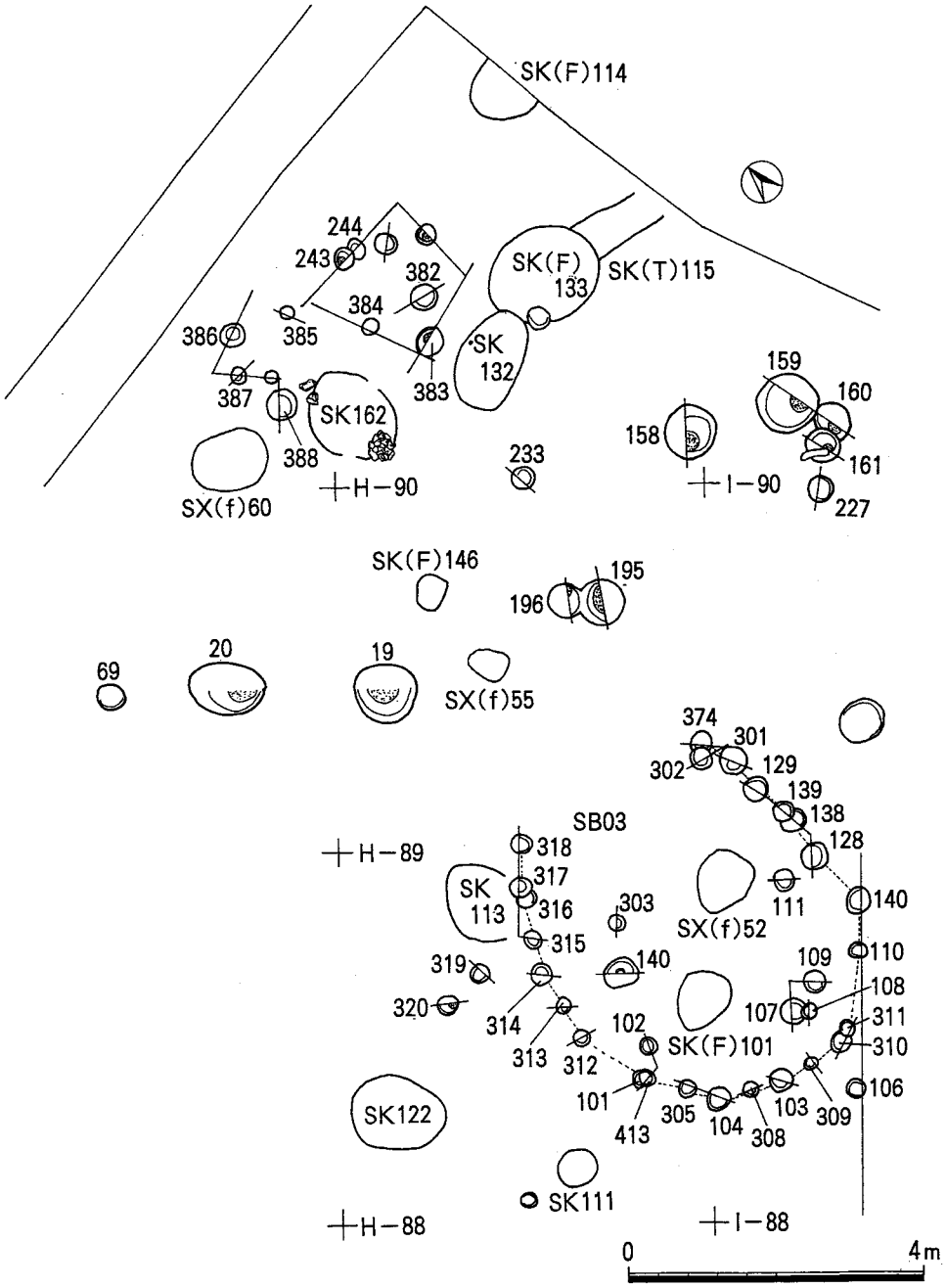
調査区北部のＨ・Ｉ－88・89リッドに位置し、Ⅳ層上面で確認したが、基本層序断面より、本来の構築時期時期はⅢｄ層上面と判断される。ピット102、107、108、109、111、140、303、



第13図　柱穴状ピット実測図(2)

第52号焼土遺構、第101号フラスコ状土坑、第113号土坑と重複し、第113号土坑より新しく、それ以外の新旧関係については不明である。

ピット101、103、104、110、128、138、139、140、274、305、308、309、310、311、312～318の15個の小ピットを楕円形に配列した建物跡で、環径は長径4.6m、短径4.1mの規模である。

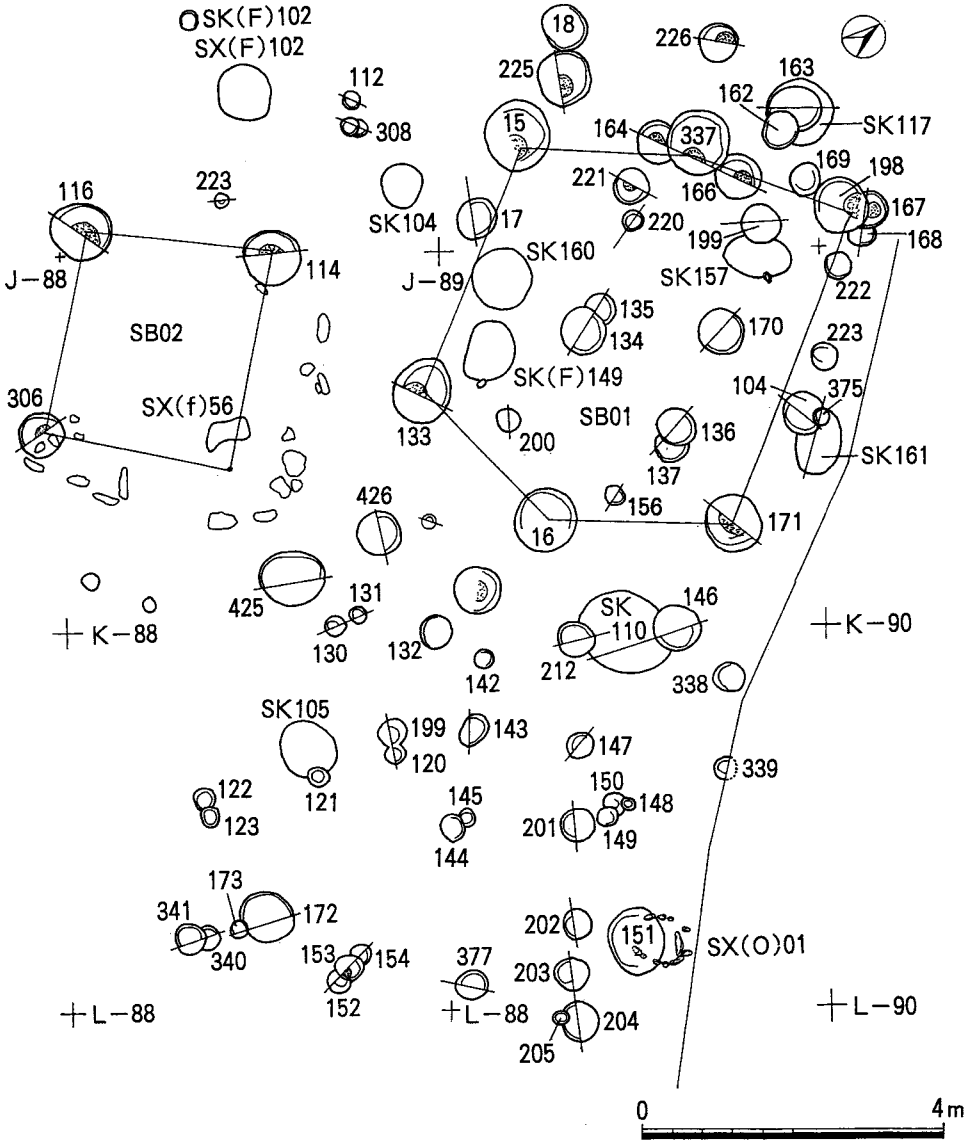


第14図　柱穴状ピット実測図(3)

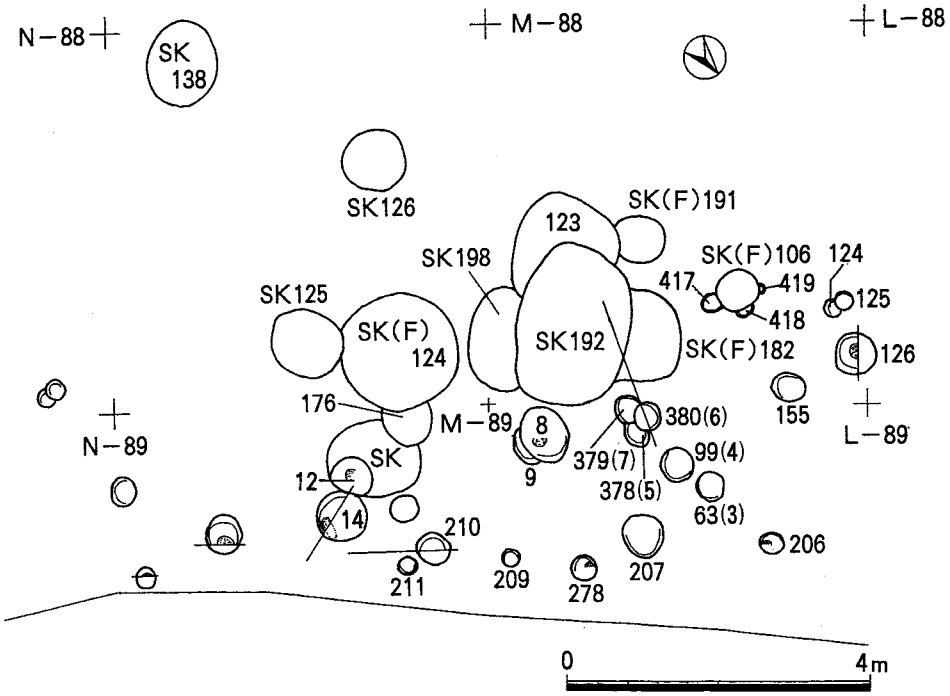
柱穴の規模は堀方径20～40cm、深さ９～60cmを測る。

本建物跡柱穴からの遺物は、ピット138より無文の深鉢土器が柱穴の中位で横たわるように出土した。

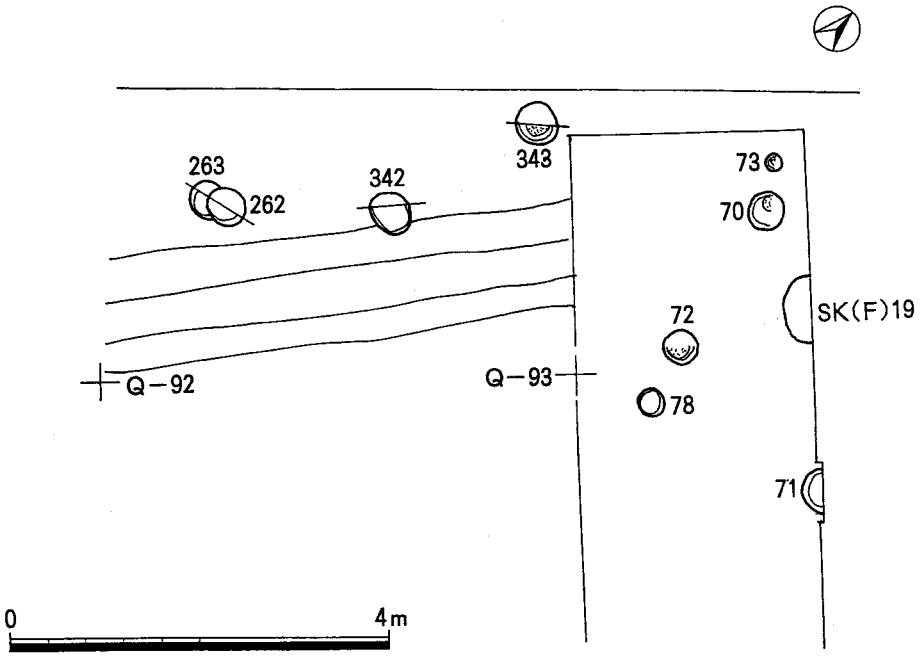
構築時期は、確認面及び周辺出土遺物より、縄文時代後期前葉と考えられる。



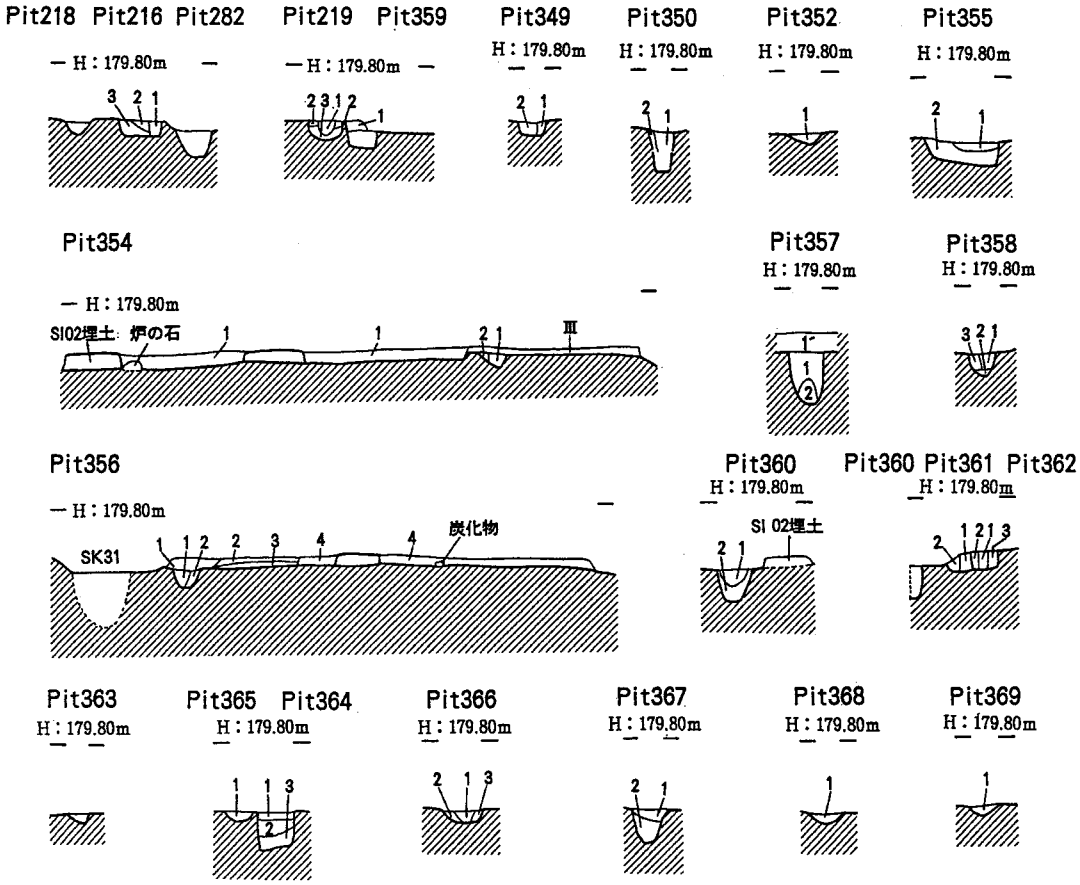
第15図　柱穴状ピット実測図(4)



第16図　柱穴状ピット実測図(5)



第17図　柱穴状ピット実測図(6)



Pit216
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、しまる

Pit219
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、ややしまる

Pit349
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、焼土粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit350
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit352
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit355
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、焼土粒少量混入、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒多量、炭化物微量混入、かたくしまる

Pit354
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山ブロック、粒多量、炭化材、炭化物少量混入、し
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit357
1. 褐色土(10YR4／4)地山ブロック、粒多量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量混入、軟弱

Pit358
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、しまる

Pit356
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒多量混入、かたくしまる

Pit360
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量、炭化物少量混入、しまる

Pit361
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、ややしまる

Pit362
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒少量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒少量混入、しまる

Pit365
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、しまる

Pit364
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YT3／2)地山粒少量混入、軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、軟弱

Pit366
1. 黒褐色土(10YR2／2)炭化物微量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、やや軟弱

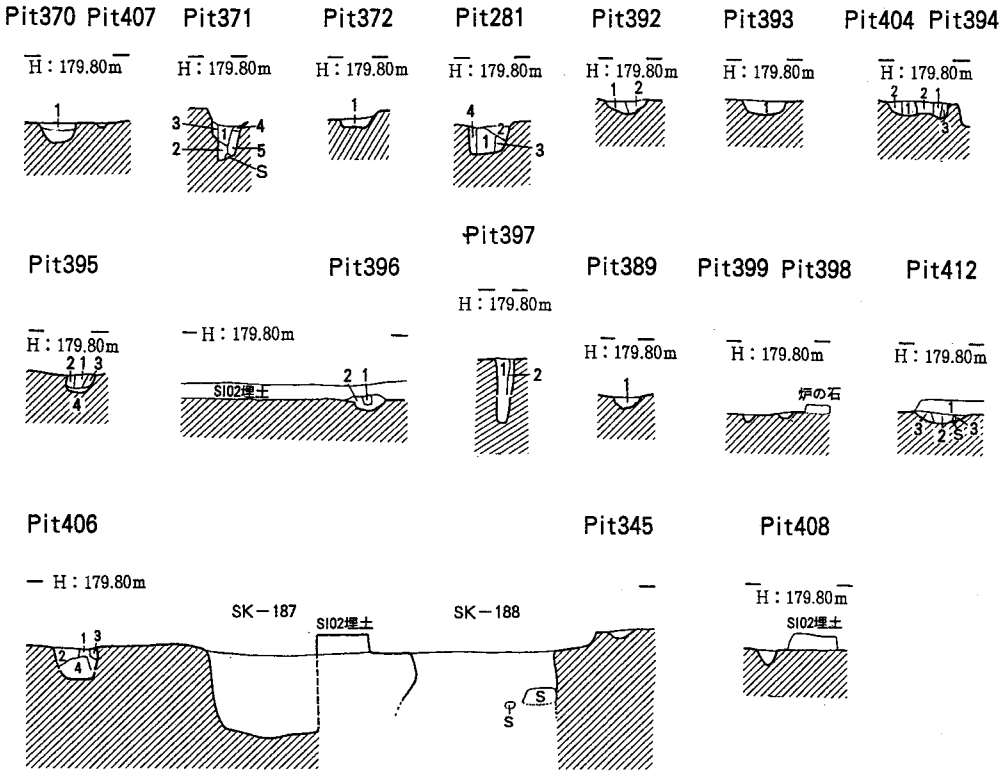
Pit367
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、軟弱

Pit368
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、しまる

Pit369
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、軟弱

第18図　柱穴状ピット断面図(1)

0　2m



Pit370
1. 黒褐色土(7.5YR2／2)焼土粒多量、炭化物微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、かたくしまる

Pit371
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒色土(10YR2／1)炭化物微量混入、軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 褐色土(10YR4／6)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit372
1.暗褐色土(10YR3／4)地山粒多量混入、かたくしまる

Pit281
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒多量混入、やや軟弱

Pit392
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、かたくしまる

Pit393
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、かたくしまる

Pit404
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量混入、かたくしまる

Pit394
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒、炭化物少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit395
1. 黒褐色土(10YR2／2)炭化物微量混入、かたくしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、かたくしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、しまる
4. 褐色土(10YR4／4)地山粒多量混入、かたくしまる

Pit396
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化材微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、しまる

Pit397
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒少量混入、しまる

Pit389
1. 灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒少量混入、ややしまる

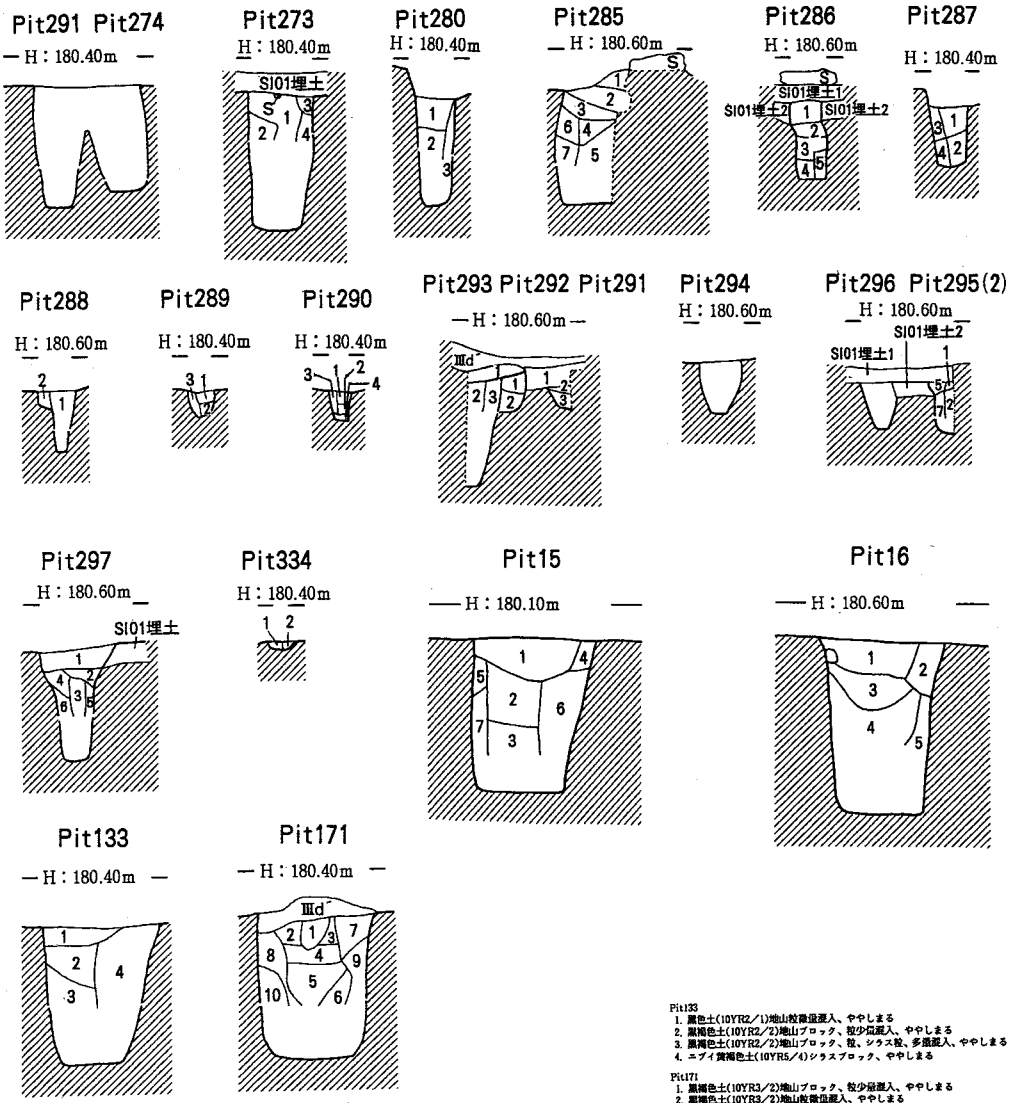
Pit399
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit406
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量混入、かたくしまる
3. 褐色土(10YR4／4)地山粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量混入、軟弱

Pit412
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山ブロック、粒多量、炭化材、炭化物少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)炭化物微量混入、かたくしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量混入、かたくしまる

0　2m

第19図　柱穴状ピット断面図(2)



Pit273
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)シラスブロック多量混入、やや軟弱

Pit280
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、軟弱
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit285
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、やしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
7. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit286
1. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、軟弱
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱

Pit287
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、軟弱、ボサボサ
3. ニブイ黄褐色土(10YR7/4)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、軟弱、ボサボサ

Pit288
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit289
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit290
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、軟弱

Pit293
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit292
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit291
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる (SI埋土)
2. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit295(2)
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit297
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒少量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit334
1. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

Pit133
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒、シラス粒、多量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)シラスブロック、ややしまる

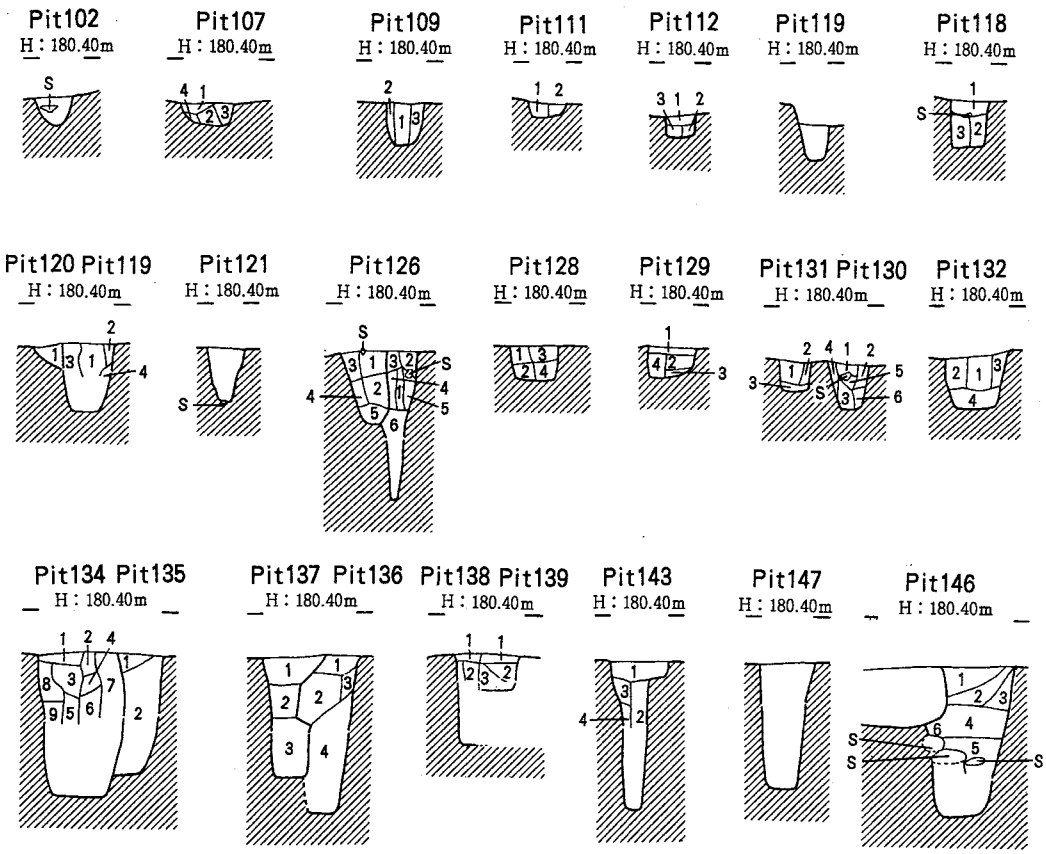
Pit171
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
9. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、しまる
10. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、しまる

Pit15
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒少量混入、軟弱
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒多量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
6. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、しまる
7. 黒褐色土(10YR2/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit16
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 強い黄褐色土(10YR8/4)シラスブロック、地山ブロック多量混入、しまる
4. 明黄褐色土(10YR6/6)地山ブロック、粒、シラスブロック、粒多量混入、しまる
5. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

0　2m

第20図　柱穴状ピット断面図(3)



Pit107
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit109
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量混入、ややしまる

Pit111
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒微量混入、しまる

Pit112
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit118
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit119
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit120
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒微量混入、ややしまる

Pit126A
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、しまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、かたくしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、かたくしまる

Pit126B
1. 黒色土(10YR2／1)混入ない、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、やや軟弱
5. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、かたくしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、軟弱

Pit128
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit129
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit130
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR2／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit131
1. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山粒、炭化物、焼土粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物、焼土粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒、炭化物、焼土粒微量混入、ややしまる

Pit132
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit134
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
8. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量混入、ややしまる
9. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit135
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit136
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit137
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit138
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

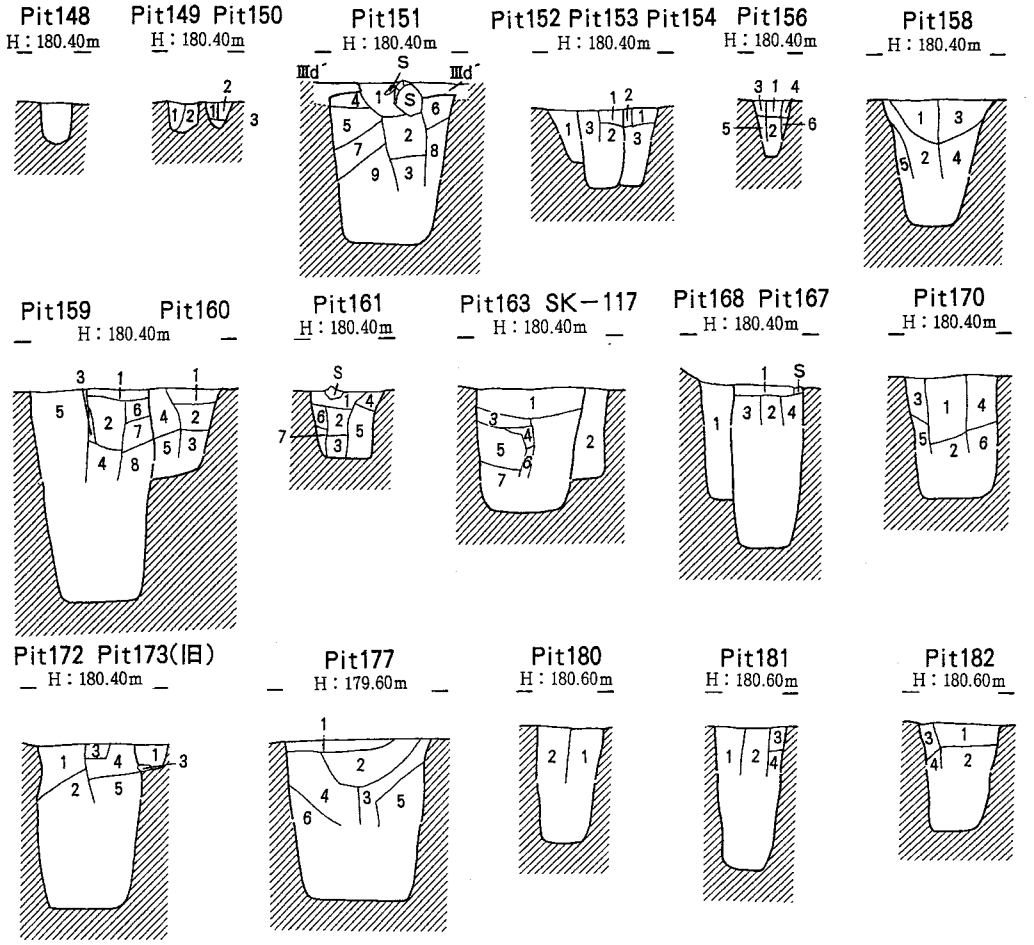
Pit139
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit143
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit146
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、軟弱
6. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる

0　2m

第21図　柱穴状ピット断面図(4)



Pit149
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit150
1. 黒褐色土(10YR2/2)中身なし、しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)中身なし、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/1)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱

Pit151
1. 黒褐色土(10YR2/2)鉄土粒少量、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、鉄土粒、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒少量混入、軟弱
4. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック微量、粒少量混入、かたくしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、しまる
6. 暗褐色土(10YR3/4)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)シラス粒、地山粒少量混入、しまる
8. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、やや軟弱
9. 黒褐色土(10YR2/2)浮三粒、シラス粒少量混入、軟弱

Pit152
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、かたくしまる

Pit153
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3/1)地山粒少量混入、やや軟弱（柱跡）

Pit154
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR3/1)混入なし、やや軟弱
3. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、かたくしまる

Pit156
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit158
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、やや軟弱

Pit159
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒多量混入、軟弱
5. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、粒微で混入、かたくしまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒多量混入、やややや軟弱

Pit160
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit161
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、しまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
7. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit163
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit168
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit167
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit170
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit172
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit173
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

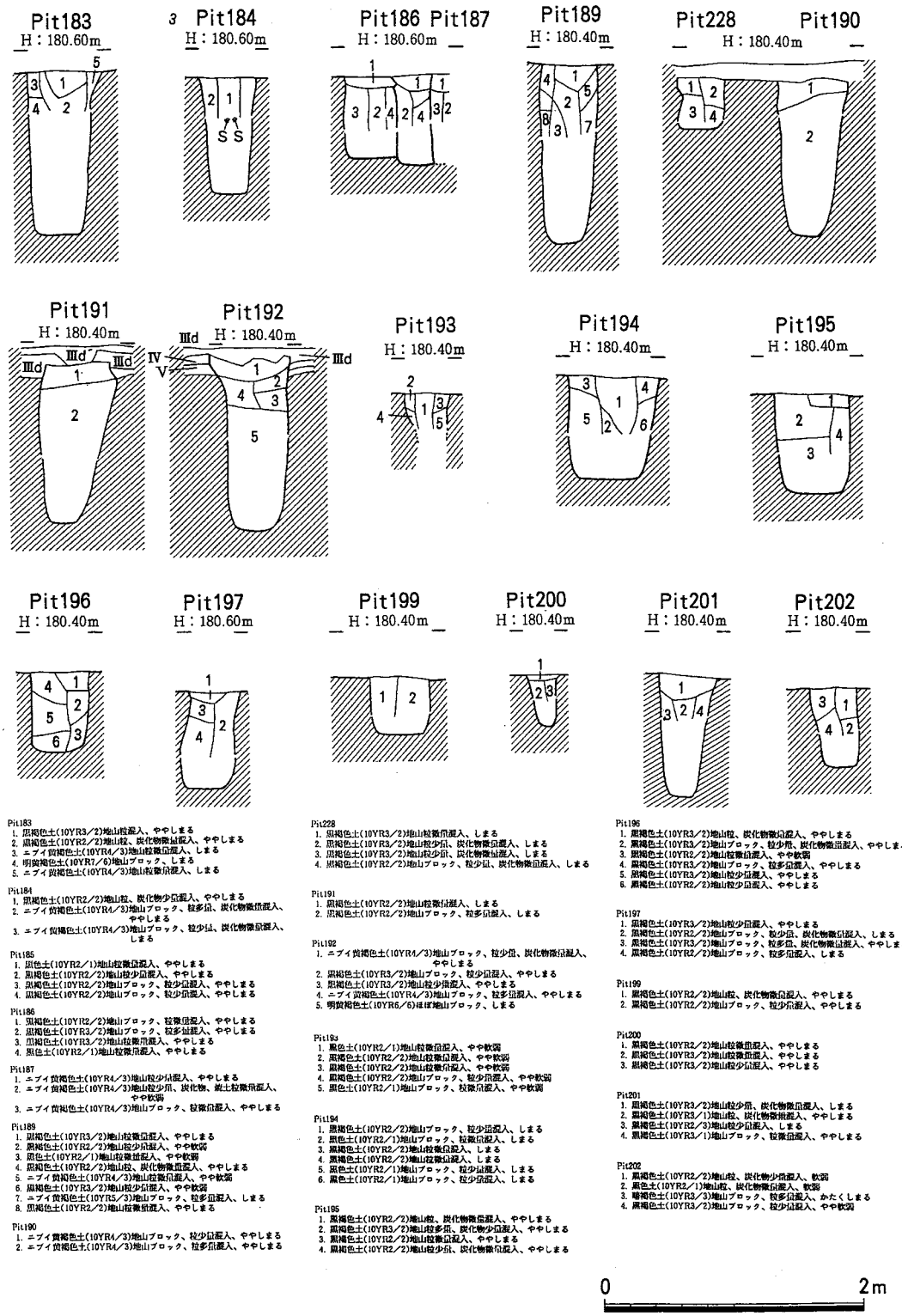
Pit177
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒、シラス粒多量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
6. ニブイ黄橙色土(10YR7/4)シラスブロック、しまる

Pit180
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit181
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)シラスブロック多量、地山粒微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、シラス粒多量混入、ややしまる

0　2m

第22図　柱穴状ピット断面図(5)



Pit183
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、しまる
4. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、しまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、しまる

Pit184
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物少量混入、やや しまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、やや しまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる

Pit185
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる

Pit186
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒散混入、やや しまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや しまる

Pit187
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量混入、やや しまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量、炭化物、炭土粒微量混入、やや軟弱
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒微量混入、やや しまる

Pit189
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや軟弱
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、やや軟弱
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、やや軟弱
7. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる
8. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや しまる

Pit190
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、やや しまる

Pit228
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる

Pit191
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit192
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、やや しまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、やや しまる
5. 明黄褐色土(10YR6/6)ほぼ地山ブロック、しまる

Pit193
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱
5. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱

Pit194
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、しまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、しまる
5. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、しまる
6. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、しまる

Pit195
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒多量、炭化物少量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、やや しまる

Pit196
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、やや しまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや しまる

Pit197
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、やや しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit199
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや しまる

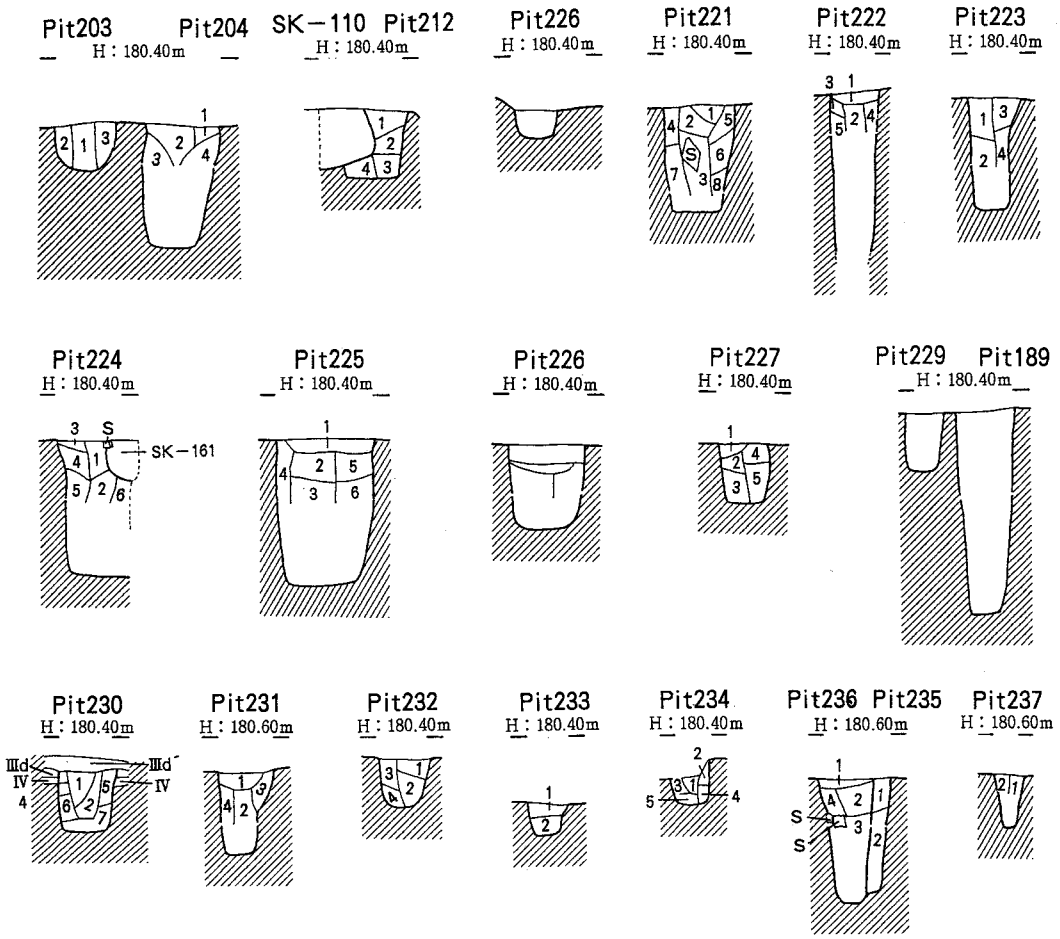
Pit200
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、やや しまる

Pit201
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3/1)地山粒、炭化物微量混入、やや しまる
3. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒少量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR3/1)地山ブロック、粒微量混入、やや しまる

Pit202
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物少量混入、軟弱
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒、炭化物微量混入、軟弱
3. 暗褐色土(10YR2/3)地山ブロック、粒多量混入、かたくしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱

0 2m

第23図　柱穴状ピット断面図(6)



Pit203
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、しまる

Pit204
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、軟弱
4. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒多量混入、やや軟弱

Pit212
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit221
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
7. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量混入、ややしまる

Pit222
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 明黄褐色(10YR7／6)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit223
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit224
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR5／4)地山粒少量混入、ややしまる

Pit225
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、やや軟弱
5. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量混入、しまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山ブロック、粒、シラス粒多量混入、しまる

Pit226
1. 黒褐色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit227
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

Pit230
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
7. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit231
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる

Pit232
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量混入、ややしまる

Pit233
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit234
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

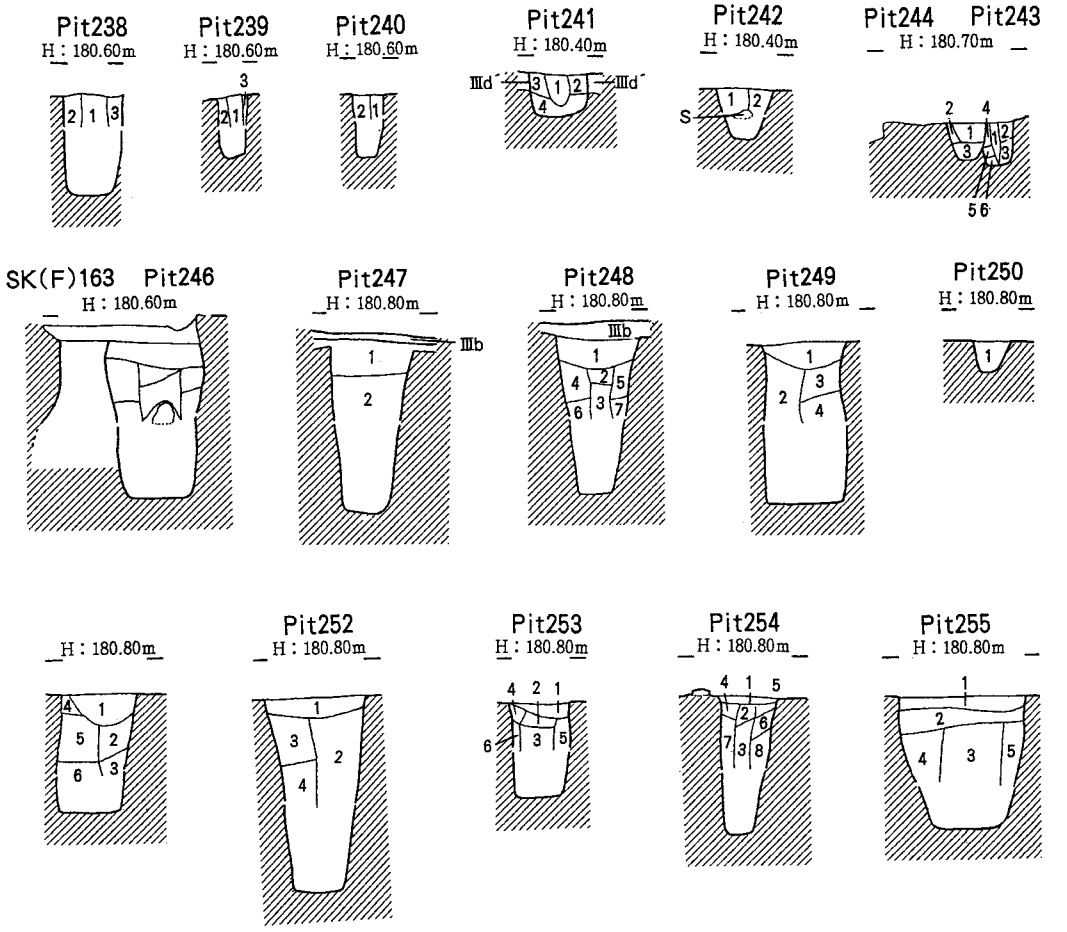
Pit235
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit236
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit237
1. 黒褐色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／4)地山粒微量混入、ややしまる

0　2m

第24図　柱穴状ピット断面図(7)



Pit238
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit239
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit240
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit241
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 褐色土(10YR4/4)地山粒少量混入、ややしまる

Pit242
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit243
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit244
1. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit246
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒、シラス粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
7. ニブイ黄褐色土(10YRT4/3)地山粒、シラスブロック、粒多量混入、ややしまる
8. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる

Pit247
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 灰黄褐色(10YR5/2)地山ブロック、粒微量混入、しまる

Pit248
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit249
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit250
1. 黒褐色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit251
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒、シラス、粒多量混入、しまる
4. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる
5. 褐色(10YR4/4)地山粒多量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒、シラスブロック多量混入、しまる

Pit252
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

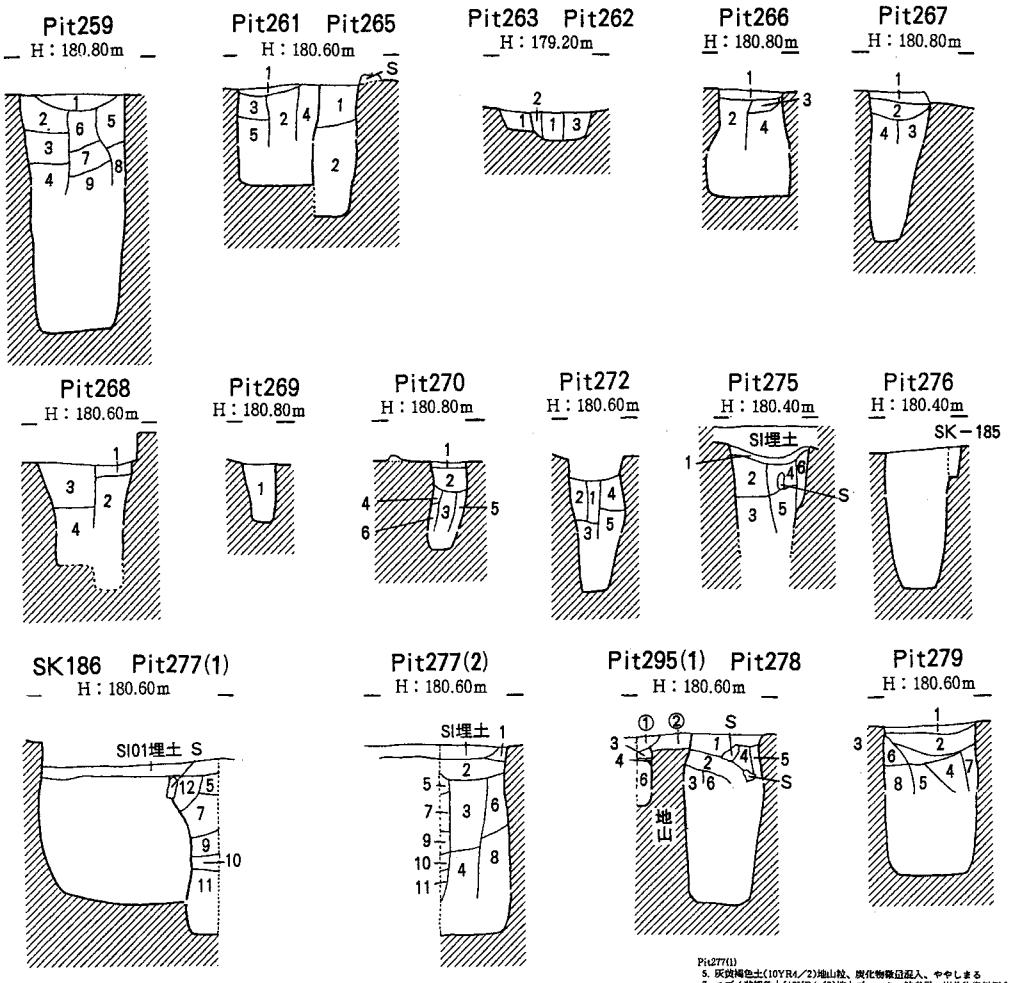
Pit253
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit254
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒少量、炭化粒微量混入、ややしまる
8. ニブイ黄褐色(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit255
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、しまる

0　2m

第25図　柱穴状ピット断面図(8)



Pit259
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、しまる
2. 灰黄褐色(10YR4/2)地山粒少量混入、しまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、やや軟弱
5. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒少量混入、しまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
7. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、シラスブロック多量混入、しまる
8. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、やや軟弱
9. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱

Pit261
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒、シラス粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)シラスブロック、地山ブロック多量混入、しまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、ややしまる

Pit265
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit263
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit262
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit266
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒少量混入、やや軟弱
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、しまる

Pit267
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、やや軟弱

Pit268
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒、シラス、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

Pit269
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、しまる

Pit270
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色(10YR5/4)地山粒多量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit272
1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit275
1. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、何強
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや軟弱
6. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量、炭化物微量混入、やや軟弱

Pit277(1)
5. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
7. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
9. 黒色土(10YR2/1)地山粒少量混入、ややしまる
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山ブロック、粒多量混入、やや軟弱
11. 黒褐色(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱
12. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

Pit277(2)
1. 黒褐色(10YR2/2)地山粒少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、軟弱
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、軟弱

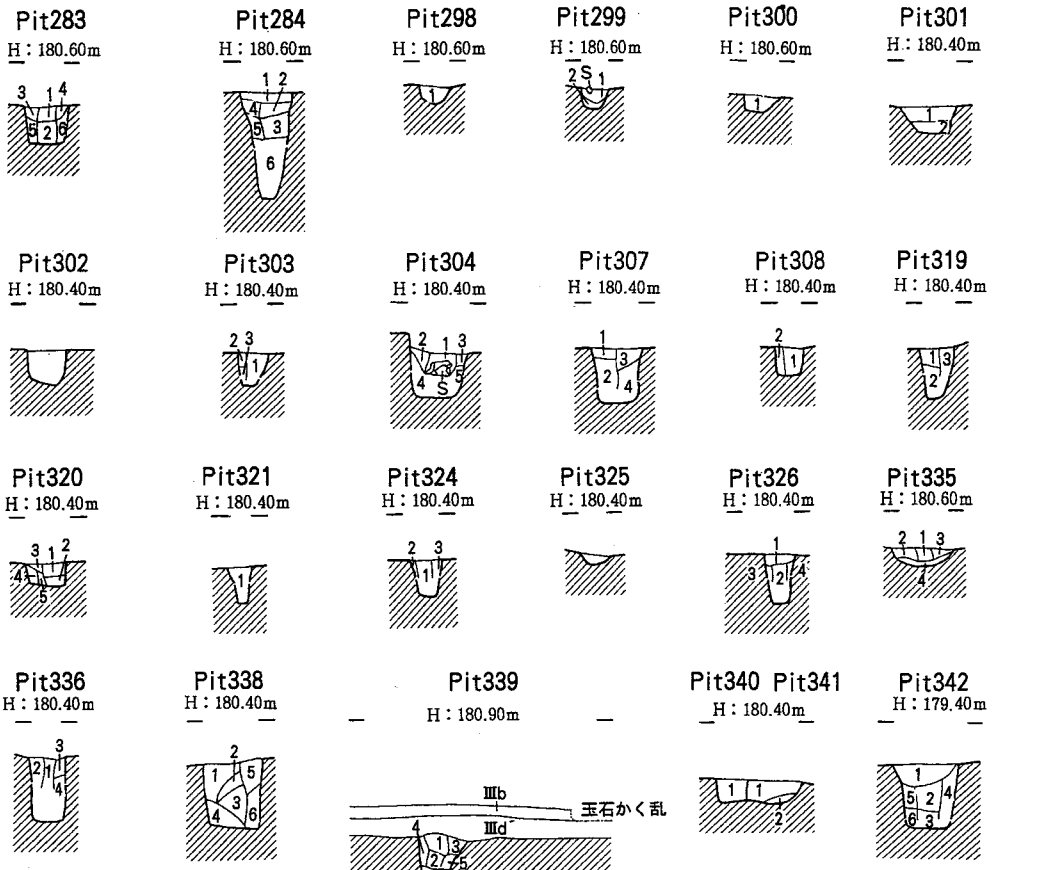
Pit278
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit295(1)
① 暗褐色土(10YR3/3)地山粒少量混入、ややしまる
② 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit279
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック粒、多量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック粒、多量混入、ややしまる

0 2m

第26図　柱穴状ピット断面図(9)



Pit283
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR7／4)地山粒多量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit284
1. 暗褐色土(7.5YR3／4)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、軟弱

Pit299
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit300
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱

Pit301
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、軟弱

Pit303
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒多量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit304
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit307
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、軟弱
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit306
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit319
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit320
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山粒微量混入、ややしまる
5. 明黄褐色土(10YR7／6)地山ブロック、しまる

Pit321
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit324
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit326
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)地山粒微混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微混入、ややしまる

Pit335
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微混入、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒多混、地山ブロック微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、軟弱
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量混入、しまる

Pit336
1. 暗褐色土(YR3／3)地山ブロック、粒少量混入、しまる
2. 暗褐色(10YR3／4)地山粒多量混入、やや軟弱
3. 褐色土(10YR4／4)地山粒微量混入、軟弱
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒多量混入、やや軟弱

Pit338
1. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)シラスブロック、はまる
2. 灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR5／3)シラスブロック、しまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒多量混入、ややしまる

Pit339
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

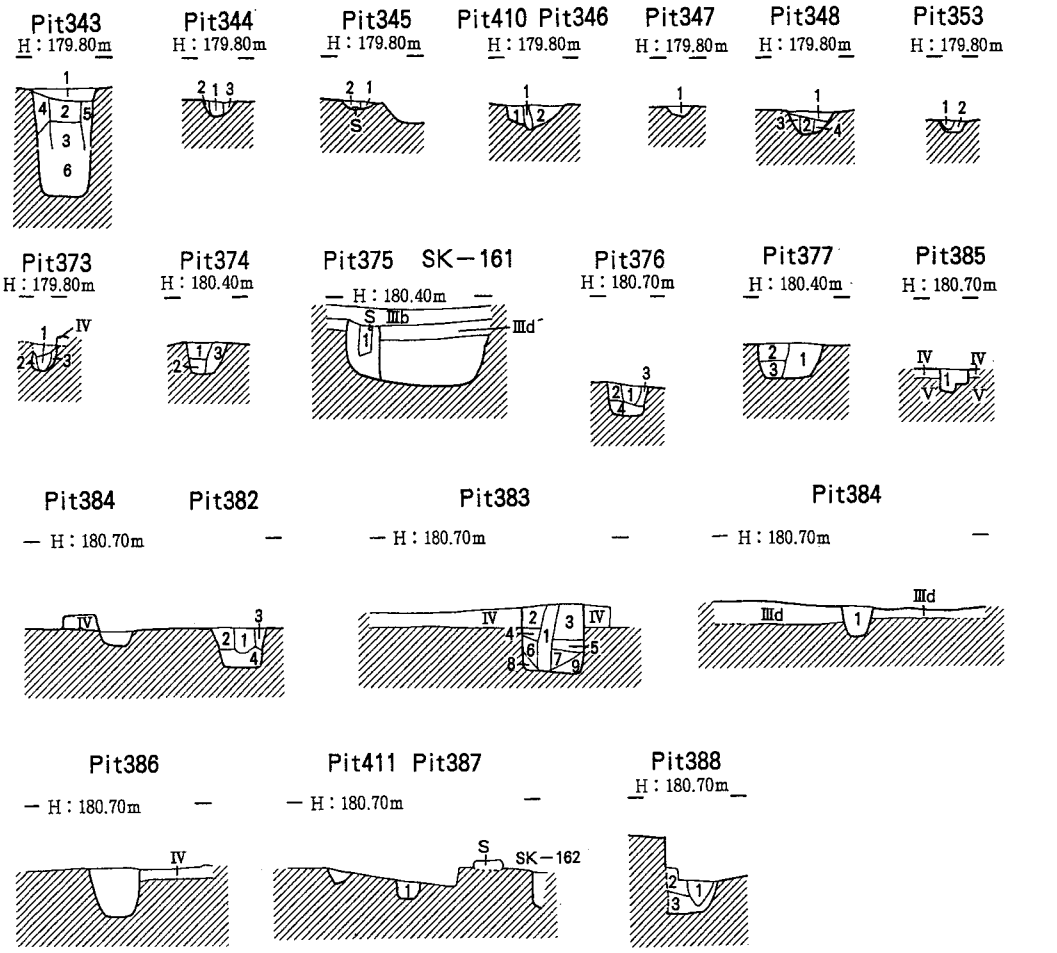
Pit340
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit341
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit342
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、やや軟弱
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、やや軟弱
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

0　2m

第27図　柱穴状ピット断面図(10)



Pit343
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、やや軟弱
4. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. 黒色土(10YR2／1)地山粒、シラス粒少量混入、ややしまる

Pit344
1. 黒色土(10YR2／1)混入なし、しまる
2. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、しまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、しまる

Pit345
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、しまる

Pit346
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit410
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit347
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit348
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒微量混入、やや軟弱

Pit353
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量混入、しまる

Pit373
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、かたくしまる
3. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、やや軟弱

Pit374
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit375
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit376
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit377
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、焼土粒少量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／3)焼土微量混入、ややしまる
3. 褐色土(10YR4／6)地山粒多量、焼土少量混入、軟弱

Pit385
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

Pit382
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit383
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
9. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

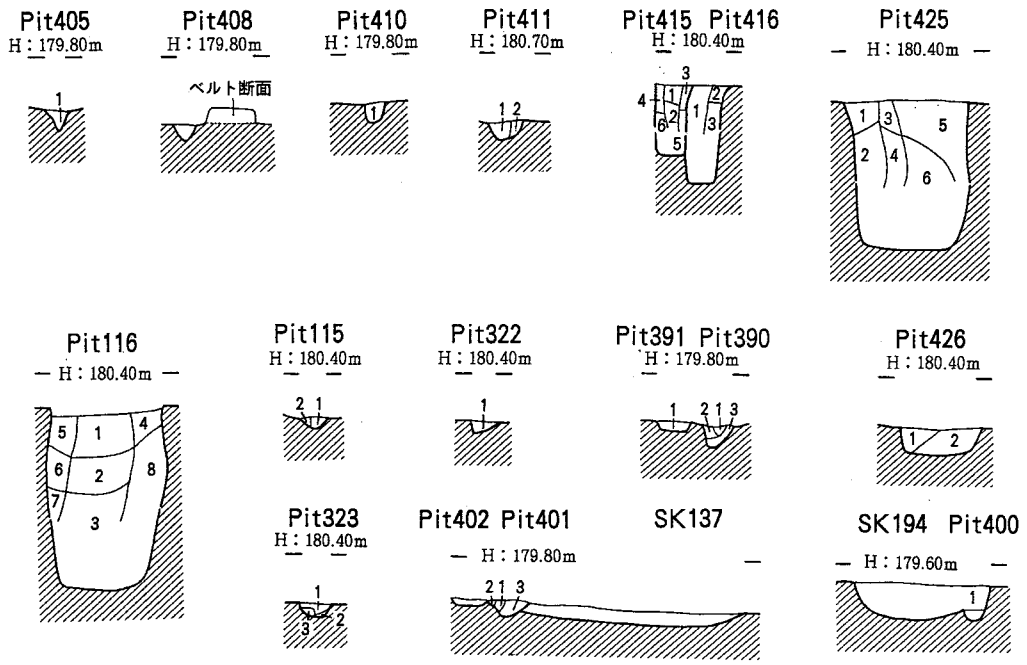
Pit384
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit387
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit388
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

0　2m

第28図　柱穴状ピット断面図(11)



Pit405
1. 褐色土(10YR4／4)地山粒多量混入、しまる

Pit410
1. 黒褐色(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit411
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit415
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、しまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)シラス、粒多量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒微量混入、ややしまる

Pit416
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、焼土粒微量混入、ややしまる

Pit425
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、シラス粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、シラス粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒、シラス粒多量混入、ややしまる
5. 明黄褐色土(10YR7／6)シラスブロック、かたくしまる
6. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒、シラスブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit116
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
7. 明黄褐色土(10YR7／6)シラスブロック、しまる
8. 明黄褐色土(10YR7／6)シラスブロック（地山ブロック、粒少量混入）しまる

Pit115
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit322
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒少量混入、ややしまる

Pit391
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit390
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量混入、ややしまる

Pit426
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

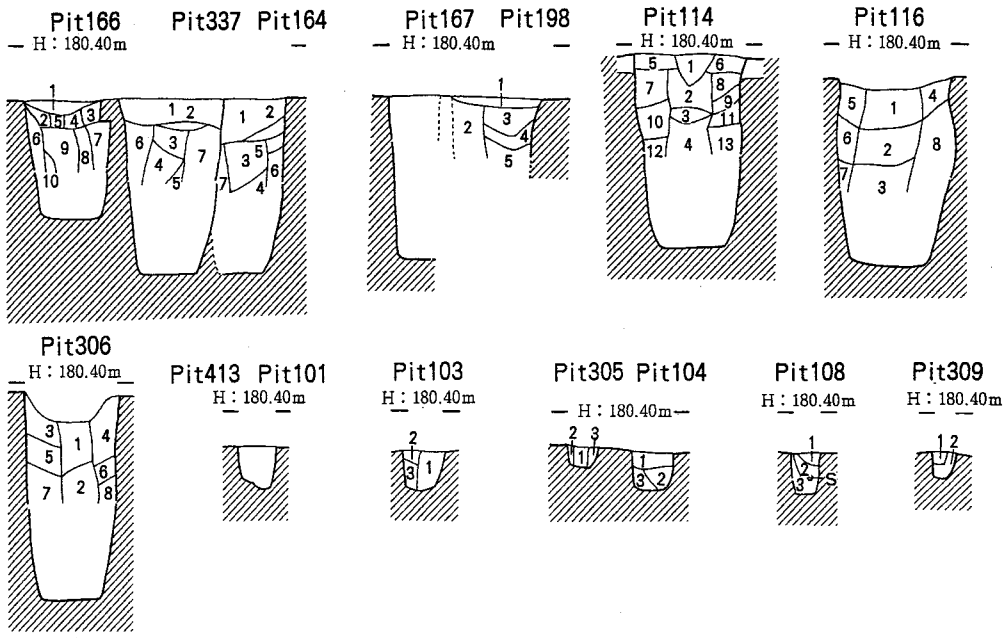
Pit323
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量混入、ややしまる
3. 明黄褐色土(10YR6／6)地山ブロック

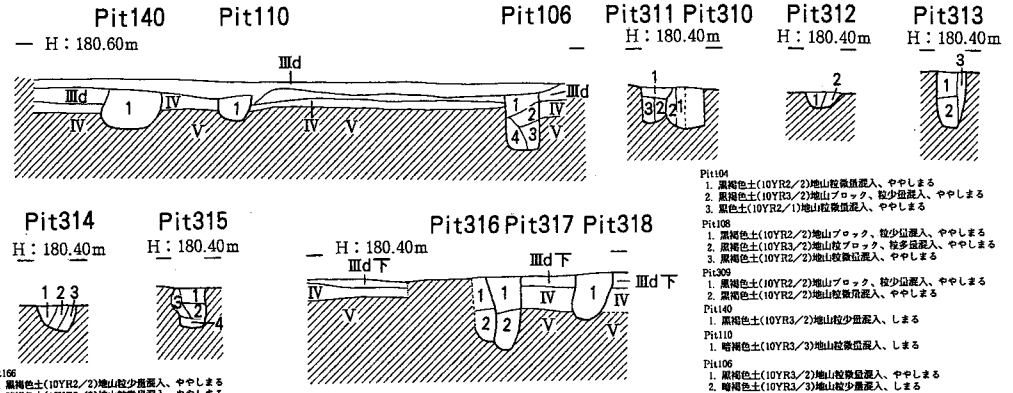
Pit401
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱
2. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、かたくしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量混入、しまる

Pit400
1. 黒色土(10YR4／4)地山粒多量混入、やや軟弱

0　2m

第29図　柱穴状ピット断面図(12)





Pit166
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる
7. ニブイ黄褐色地(10YR4/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる
8. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
9. 黒褐色土(10YR2/1)地山粒少量混入、ややしまる
10. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit337
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、しまる
7. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、しまる

Pit164
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒少量、焼土多量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、やや軟弱
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒微量混入、やや軟弱
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)シラス粒少量、地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

Pit198
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山　ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit116
1. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
7. 明黄褐色土(10YR7/6)シラスブロック、しまる
8. 明黄褐色土(10YR7/6)シラスブロック、地山ブロック、粒少量混入、しまる

Pit114
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒、シラスブロック粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、シラス粒混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
7. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)シラスブロック粒多量、地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
8. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
9. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
10. 明黄褐色(10YR7/6)シラスブロック、地山粒少量混入、しまる
11. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
12. 黒褐色土(10YR2/3)シラスブロック粒多量混入、ややしまる
13. 黒褐色土(10YR3/2)シラスブロック粒多量混入、ややしまる

Pit306
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)シラス粒、地山粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2/2)シラスブロック、粒多量、地山粒びり除う混入、ややしまる

Pit103
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

Pit305
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

Pit104
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit108
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒ブロック、粒多量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit309
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit140
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、しまる

Pit110
1. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒微量混入、しまる

Pit106
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒少量混入、しまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒少量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、やや軟弱

Pit310
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

Pit311
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/4)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit312
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit313
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ褐色土(10YR4/3)地山粒多量混入、ややしまる

Pit214
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒少量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

Pit315
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる

Pit316
1. 黒褐色土(10YR2/3)地山ブロック、粒少量混入、しまる
2. 暗褐色土(10YR3/4)地山ブロック、粒多量混入、しまる

Pit317
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒多量混入、しまる

Pit318
1. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒多量混入、しまる

0　2m

第30図　柱穴状ピット断面図(13)

第３表　建物跡柱穴状ピット一覧表

（新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧関係不明）

ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係	ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係
15･16ℓ	Ｉ－８９	78×　70×　79		３０２	H89~I89	32×　28×　23	P374→P302
16･16ℓ	Ｊ－８９	93×　83×　74		３０５	H88~I88	24×　22×　15	
１０１	Ｈ－８８	22×（17）×　28		３０６	J87~J88	62×(58)×76(141)	
１０３	Ｉ－８８	29×　28×　27		３０８	Ｉ－８８	20×　19×　19	
１０４	H88~I88	33×　28×　26		３０９	Ｉ－８８	19×　16×　17	
１１０	Ｉ－８８	(24)×　23×　18		３１０	Ｉ－８８	(27)×　26×　27	P311→P310
１１４	I88~J88	(77)×(73)×66･126		３１１	Ｉ－８８	21×（21）×　22	P311→P310
１１６	I88~J88	74×(73)×80(125)		３１２	Ｈ－８８	22×　20×　9	
１２８	I88~I89	38×　37×　22		３１３	Ｈ－８８	(23)×　18×　38	
１２９	Ｉ－８９	34×　31×　21		３１４	Ｈ－８８	(28)×　27×　17	
１３３	J88~J89	(88)×　76×52(92		３１５	Ｈ－８８	26×　19×　26	
１３８	Ｉ－８９	(34)×(32)×18(60)	P138→P139	３１６	Ｈ－８８	(28)×（23）×　42	P316→P317
１３９	Ｉ－８９	30×　29×	P138→P139	３１７	Ｈ－８８	(29)×（24）×　48	P316→P317
１４０	Ｉ－８８	35×（30）×　26		３１８	H88~H89	(29)×　25×　32	
１７１	Ｊ－８９	(79)×　77×60(95)		３３７	Ｉ－８９	83×（80）×56(116)	
１９８	I89~I90	(72)×（70）×　40	P168→167→198	３７４	H89~I89	31×（26）×　22	P374→P302
３０１	Ｉ－８９	36×　35×　18		４１３	Ｈ－８８	23×（19）×　23	

３．配石遺構

(1)　方形配石遺構

第01号方形配石遺構（第15図、第37図）

調査区中央部のＪ－88グリッドに位置し、Ⅲｂ層上面で確認した。第02号建物跡、第56号焼土遺構と重複し、第02号建物跡より新しく、第56号焼土遺構との新旧関係は不明である。

遺構は一部破壊されているが、10～45cm大の扁平や細長い川原石を方形に配置したもので、辺長3.5ｍの規模のものと考えられる。

使用される石材は、石英閃緑ひん岩である。

構築時期は、確認面及び周辺出土遺物より縄文時代後期と考えられる。

(2)　配石列

第01号配石列（第12図、第36図）

調査区中央部のＥ－93、Ｆ－93、94グリッドに位置し、Ⅲｄ′層上面で確認した。ピット252と重複し、本配石列が新しい。

20～50cm大の角礫や細長い川原石が長軸方向を連結するように配置されるほか、それらの延長線上に20cm大の角礫２個程がそれぞれ70cm～１ｍずつ離れて配置される配石列である。長さ

第４表　B₂区柱穴状ピット一覧表 (1)

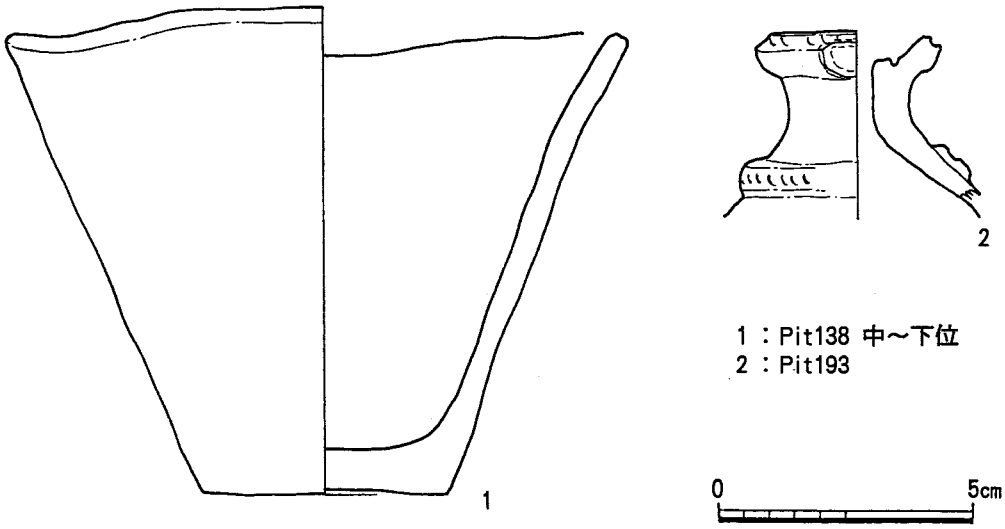
（新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧関係不明）

ピット番号	グリット	規模 (cm) 長径×短径×深さ	重複関係	ピット番号	グリット	規模 (cm) 長径×短径×深さ	重複関係
102	H－88	25×　25×　19		182	E－92	(58)×　54×32(72)	
105	H－88	22×　20×		183	E－92	(66)×(56)×30・125	
106	I－88	(27)×　24×　37		184	E－92	(52)×　44×30(90)	
107	I－88	34×　33×　15	P107→P108	185	F－92	(55)×(52)×42(62)	P185→P186
108	I－88	21×　20×19(29)	P107→P108	186	F－92	(42)×(38)×39(69)	P185・187→186
109	I－88	30×　26×　27		187	F－92	×　×37(137)	P187→P186
111	I－88	28×　26×　11		188	G92~G93	(66)×　57×34(44)	
112	I－88	21×　21×　14		189	G－91	(52)×(43)×56・136	
113	欠番	×　×		190	G－91	(71)×　65×37(127)	
115	K－88	20×　19×　8		191	F91~G91	(74)×　71×74(124)	
117	J－87	27×　24×　24	SK103→P117	192	F91~G91	(67)×(58)×64・134	
118	J－87	30×　(28)×　31	SK103→P118	193	G－91	42×(36)37×　26	
119	K－88	(38)×(35)×21(45)		194	G－91	(78)×　73×45(180)	
120	K－88	(28)×　(23)×　16		195	H－89	62×　59×46(76)	
121	K－88	27×　25×　36	SK105→P121	196	H－89	(48)×　46×　62	
122	K－88	28×　23×	P122→P123	197	F－91	39×(32)×51(76)	SK156→P197
123	K－88	27×　25×	P122→P123	199	I－89	(49)×　43×30(45)	P199→SK157
124	L－88	(23)×　(22)×	P124→P125	200	J－89	(31)×(28)×19(39)	
125	L－88	24×　(22)×	P124→P125	201	K－89	(45)×(45)×36(96)	
126	K88~L88	55×　51×　48		202	K－89	(39)×(38)×36(61)	
127	欠番	×　×		203	K－89	(44)×　42×　32	
130	J－88	(28)×　27×　21		204	L－89	52×(47)×27(82)	P204→P205
131	J－88	22×　21×　21		205	L－89	21×　17×	P204→P205
132	J・K88・89	44×　(39)×　39		206	L－89	32×　29×	
134	J－89	(48)×(47)×48(93)	P135→P134	207	L－89	(59)×　52×	
135	J－89	(41)×(40)×40(80)	P135→P134	208	L－89	37×　32×	
136	J－89	(52)×(48)×52・107		209	L－89	24×　23×	
137	J－89	(50)×(46)×52・106	P136→P137	210	M－89	43×　42×	
141	欠番	×　×		211	M－89	25×　23×　20	
142	K－89	24×　(24)×		212	J89~K89	(49)×　(45)×　45	
143	K－89	(44)×　33×43(99)		213	N－88	26×　24×	P214→P213
144	K88~K89	34×　33×	P145→P144	214	N－88	25×　24×	P214→P213
145	K－89	22×　(21)×	P145→P144	215	欠番	×　×	
146	K－89	(61)×(61)×75・100		217	Q－90	(48)×　41×	
147	K－89	36×　35×27(82)		218	Q－92	18×　17×　8	
148	K－89	21×　17×　27	P150→P148	220	I－89	28×　25×　20	
149	K－89	(25)×　(22)×　21		221	I－89	47×(46)×59(69)	
150	K－89	(20)×　18×　17		222	J－90	33×(32)×30・100	
151	K－89	82×(76)×71・106		223	J89~J90	(37)×　35×49(79)	
152	K－88	(30)×(30)×20(35)	P152・154→153	224	J89~J90	(54)×(54)×40(90)	SK161→P224
153	K－88	(34)×(30)×21(51)	P152・154→153	225	I－89	(72)×　64×42(97)	
154	K－88	(29)×(26)×21(51)	P152・154→153	226	I－89	50×(49)×34(54)	
155	L－88	44×　38×		227	I89~I90	(35)×　33×　39	
156	J－89	(27)×　24×27(37)		228	G－91	(39)×(34)×43(48)	
157	欠番	×　×		229	G－91	27×　26×　37	
158	H90~I90	72×(68)64×50(80)		230	G－91	(38)×　38×　41	
159	I－90	(82)×　79×62(142)	P160→P159	231	E－92	38×(35)×36(56)	
160	I－90	(54)×(45)×48(58)	P160→P161	232	G－91	(34)×　(33)×　32	
161	I－90	48×　×　44	P160→P161	233	H－90	(30)×　27×　22	
162	I90~J90	(52)×(45)×64(89)	SK117→P162	234	G－91	(25)×　23×　31	
163	I90~J90	(71)×(62)×62(82)	→P163	235	G－92	(29)×　×24(66)	
164	I－89	(54)×(53)×60・120		236	G－92	38×(29)×24(74)	
165	欠番	×　×		237	G－92	(23)×(21)×12(36)	
166	I－89	(53)×　50×48(78)		238	F－92	39×(25)×23(68)	
167	I－90	(50)×　45×27(107)	P168→167	239	F－92	(25)×　22×21(41)	
168	I－90	(34)×(32)×30(80)	→P198	240	F－92	(24)×(20)×17(42)	
169	I－89	40×　36×		241	G－91	(45)×　(38)×　27	
170	J－89	(62)×　60×50(80)		242	G－91	(47)×　39×17(32)	
172	K－88	(73)×(66)×37・107		243	H－90	(27)×　(24)×　28	P243→P244
173	K－88	(25)×　(21)×　18		244	H－90	(27)×　26×　22	P243→P244
174	欠番	×　×		245	G91~G92	×　×　34	
175	欠番	×　×		246	G－93	(62)×(55)×54・104	SKF163→P246
176	M88~M89	(74)×　65×	P176→SKF124	247	F－94	56×(52)×49(109)	
177	Q－91	96×(95)×56(106)		248	F－94	(61)×　57×46(98)	
178	欠番	×　×		249	E－93	(66)×　55×52(106)	
179	H－90	27×　(26)×	SKF133→P179	250	E－94	(26)×　24×　20	
180	F－92	44×(40)×38(78)		251	E－94	(52)×(48)×56(80)	
181	F－92	48×(41)×33(67)		252	F－94	68×(58)×72(132)	

第５表　B_2区柱穴状ピット一覧表 (2)

（新旧関係は旧→新で標記。標記のないものは新旧関係不明）

ピット番号	グリット	規模（cm）長径×短径×深さ	重複関係
253	F－93	(43)x(37)x35(69)	
254	F－93	(43)x 38x50(92)	
255	F－93	84x(76)x62(92)	P255→SK171
256	欠番	x x	
257	欠番	x x	
258	欠番	x x	
259	E－93	72x(62)x66(171)	
260	欠番	x x	
261	F－92	(55)x(55)x39(69)	P265→P261
262	P－92	(43)x (39)x 19	P263→P262
263	P－92	(40)x (36)x 15	P263→P262
264	欠番	x x	
265	F－92	(47)x(44)x26(76)	P265→P261
266	E－93	43x(40)x42(72)	
267	F－93	(65)x(60)x45(85)	
268	F－92	(65)x(60)x45(85)	
269	F－93	24x (20)x 39	
270	F－93	(32)x 24x45(57)	
272	F－92	35x(27)x22(62)	
275	F－92	53x (44)x 58	
276	F－92	50x 41x32(92)	SK185→P276
277	G－92	(56)x (55)x(125)	SK186→P277
278	F－92	(49)x(43)x32·112	
279	F－91	(67)x(63)x44·100	
283	F－92	32x (31)x 26	
284	F－91	35x(29)x38(68)	
298	E－92	22x 22x 12	
299	E－92	19x (17)x 14	
300	E－91	25x (24)x 12	
303	H－88	21x 20x18(23)	
304	H－88	45x(39)x17(32)	
307	I－88	38x(26)x26(36)	
319	H－88	(26)x 22x17(32)	
320	H－88	29x 25x 16	
321	J－88	18x 18x9(24)	
322	K－88	(18)x 17x 8	
323	K－88	(22)x 20x 10	
324	J－87	(23)x 22x11(33)	
325	J－87	24x 21x 7	
326	J－87	(22)22x20x18(33)	
327	欠番	x x	
328	M89~N89	36x 33x	
329	N－88	17x 16x	
330	M－89	27x 26x	
331	P－89	30x 33x	
332	欠番	x x	
333	欠番	x x	
335	E－92	40x (37)x 13	
336	F92~F92	(25)x 24x21(43)	
338	K－89	(40)x 37x 44	
339	K－89	33x (27)x 31	
340	K－88	(32)x (31)x 15	P340→P341
341	K－88	(43)x (40)x 15	P340→P341
342	P－92	(53)x 42x36(42)	
343	P92~P93	43x 42x40(70)	
344	Q－92	26x (22)x 10	
346	R－92	(25)x 19x 17	P346→P410
347	R－92	18x 16x 6	
348	R－92	31x 27x 15	
351	欠番	x x	
353	R－91	21x 18x 8	
373	R－92	15x (13)x 17	
375	J89~J90	(20)x (20)x 38	SK161→P375
376	H－90	(30)x 27x 22	
377	K－89	(43)x (35)x 23	
378	L－88	36x (31)x	
379	L88~L89	x x	
380	L88~L89	40x (35)x	
381	H－90	(29)x 26x 30	
382	H－90	36x (34)x 17	
383	H－90	(39)x (39)x 46	
384	H－90	23x 20x 8	
385	G－90	18x (16)x 15	
386	G－90	33x 31x 31	
387	G－90	18x 16x 11	
388	G－90	(41)x (38)x 20	
390	R－92	21x 19x 16	
391	R－92	24x 20x 6	
400	Q－92	16x (13)x 23	P400→SK194
401	Q－92	32x (26)x 10	SK137→P401
402	Q－92	29x 24x 4	
403	Q－92	22x (21)x	
405	Q－92	15x (13)x 14	
410	R－92	16x (14)x 13	P346→P410
411	G－90	21x (19)x 12	
414	G－91	(27)x 25x	
415	F－92	(35)x(31)x34(52)	
416	F－92	(35)x(31)x30(63)	
417	L－88	27x 23x	
418	L－88	27x (19)x	
419	L－88	14x (14)x	
420	R－91	21x 19x	SK178→P420
421	R－91	32x 31x	SK178→P421
422	F－92	26x 24x	P422→P272
423	F－93	26x (24)x	
424	E－91	26x (23)x	SKF153→P424
425	J－88	(87)x(69)x55(95)	
426	J－88	(56)x 55x 19	
427	F－90	(40)x 38x	P427→SK158



第31図　柱穴状ピット出土土器実測図

は、6.4mを測る。

本配石列は、野中堂環状列石北西側部分と接続するものと考えられる。

使用される石材は凝灰岩、石英安山岩、石英閃緑ひん岩である。

4．石 囲 炉

第01号石囲炉（第15図、第38図）

調査区中央部K－89グリットに位置し、Ⅲb層で確認した。第151号ピットと重複し本石囲炉が新しい。

10～53cm大の円礫や細長い川原石を円形に並べた石囲炉である。炉中央部には径50cm範囲で焼土が確認される。

構築時期は周囲の出土遺物及び確認面より、縄文時代後期中葉と判断される。

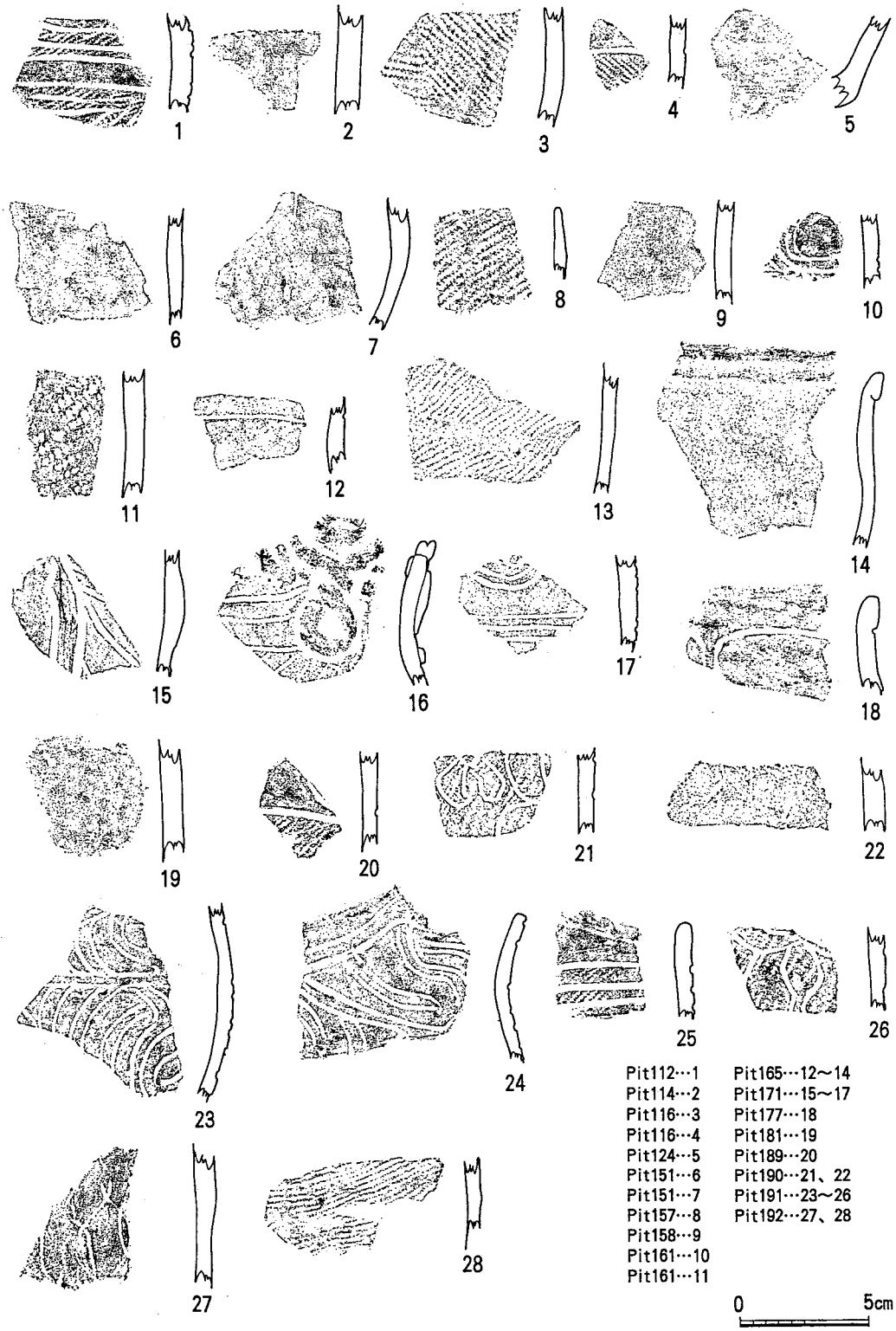
第02号石囲炉（第38図）

調査区中央東部寄P－88グリットに位置し、Ⅲb層で確認した。

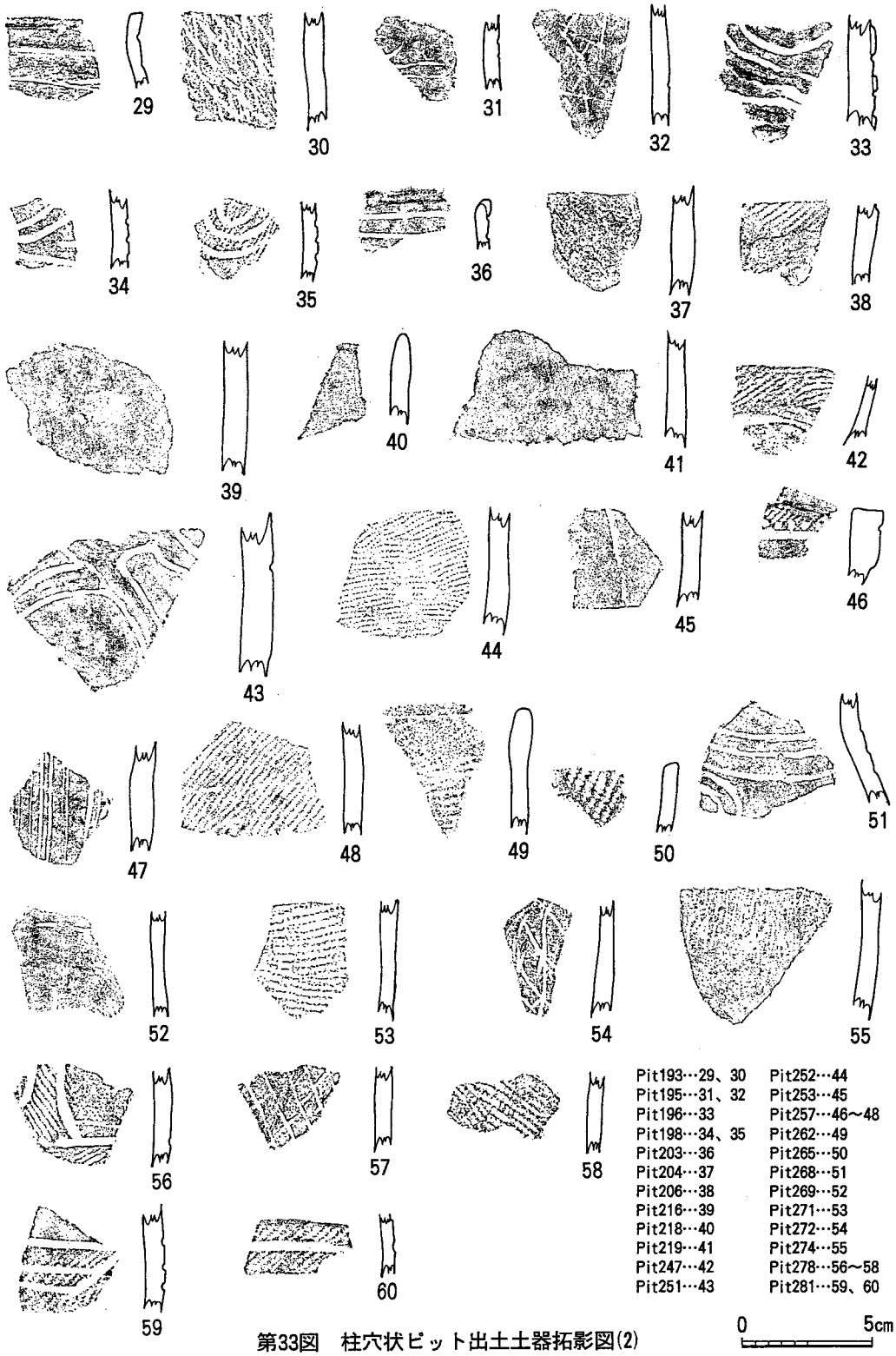
8～40cm大の細長い川原石を円形に並べ、南側に張り出し部を附設した石囲炉である。炉中央部には径50cm範囲で焼土が確認される。

南側に附設されたの張り出し部近くでは、縄文時代後期前葉の復元可能な深鉢土器が張り出し部に底部を向け、横たわるような状態で確認された。

構築時期は出土遺物及び確認面より、縄文時代後期と判断される。

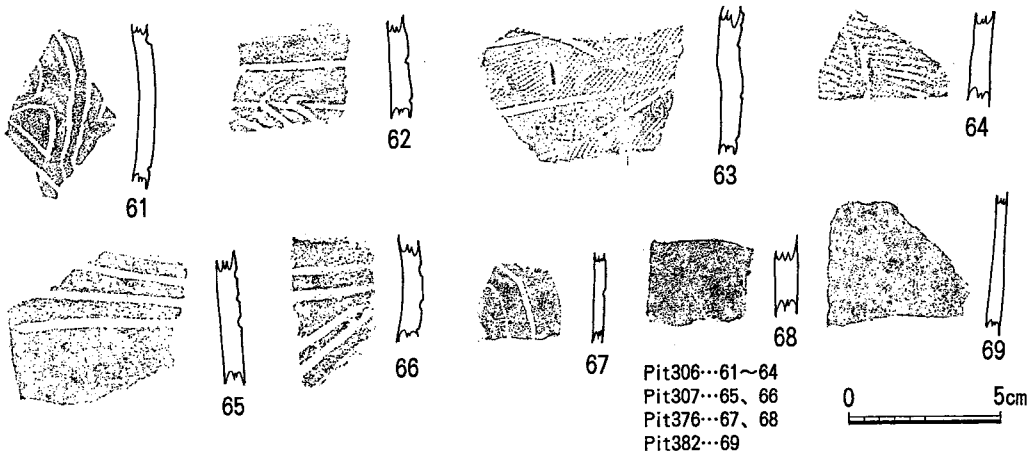


第32図　柱穴状ピット出土土器拓影図(1)



Pit193…29、30
Pit195…31、32
Pit196…33
Pit198…34、35
Pit203…36
Pit204…37
Pit206…38
Pit216…39
Pit218…40
Pit219…41
Pit247…42
Pit251…43
Pit252…44
Pit253…45
Pit257…46～48
Pit262…49
Pit265…50
Pit268…51
Pit269…52
Pit271…53
Pit272…54
Pit274…55
Pit278…56～58
Pit281…59、60

第33図　柱穴状ピット出土土器拓影図(2)



第34図　柱穴状ピット出土土器拓影図(3)

5．焼土遺構

焼土遺構は調査区全域に点在しているが、特に南端部に集中していた。本調査区では43基が確認された。

第30号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は42×33cmである。

第31号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は36×26cmである。

第32号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は126×41cmである。

第33号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は98×56cmである。

第34号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＴ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は143×95cmである。

第35号焼土遺構（第39図）

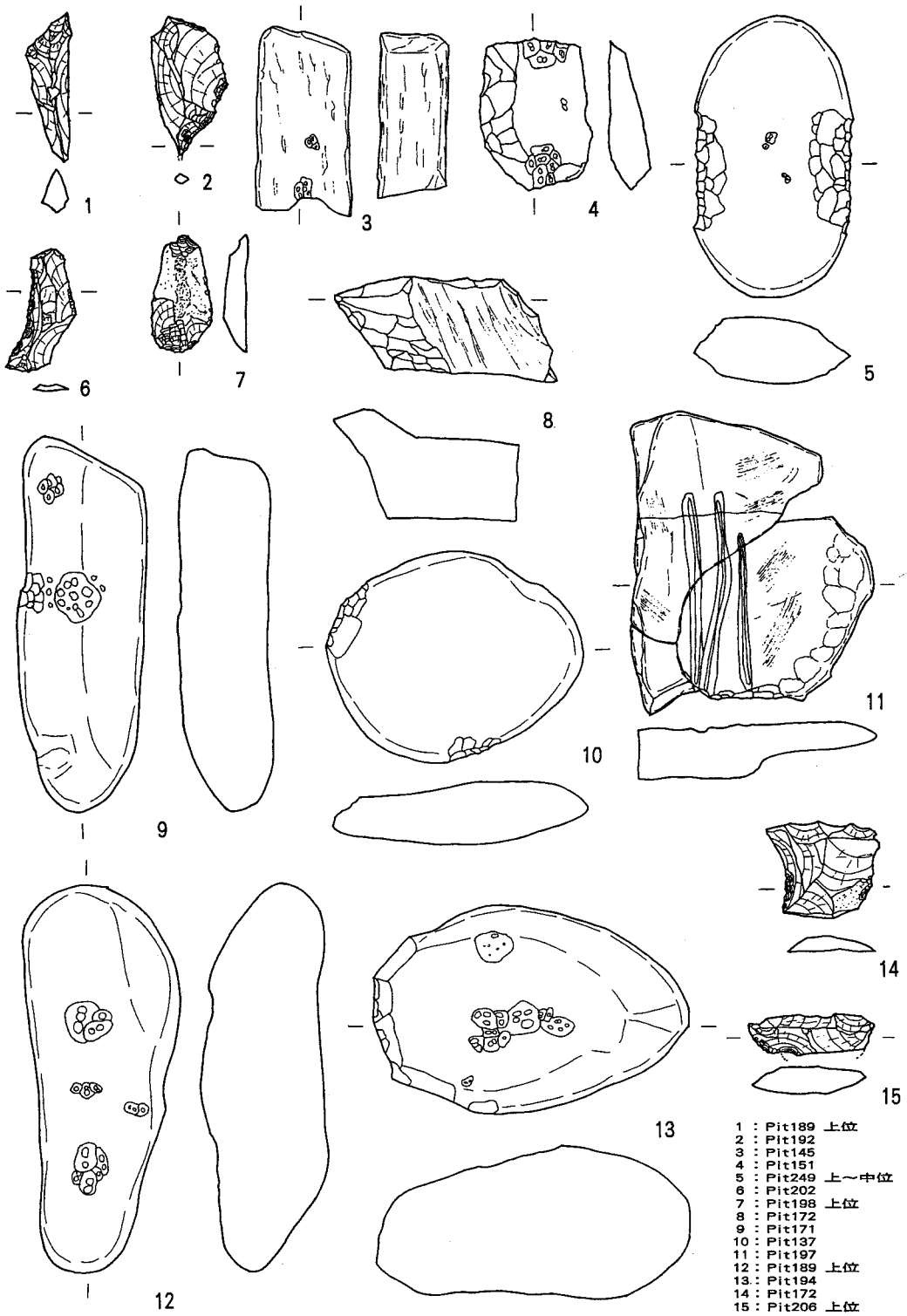
調査区南部のＴ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は38×36cmである。

第36号焼土遺構（第39図）

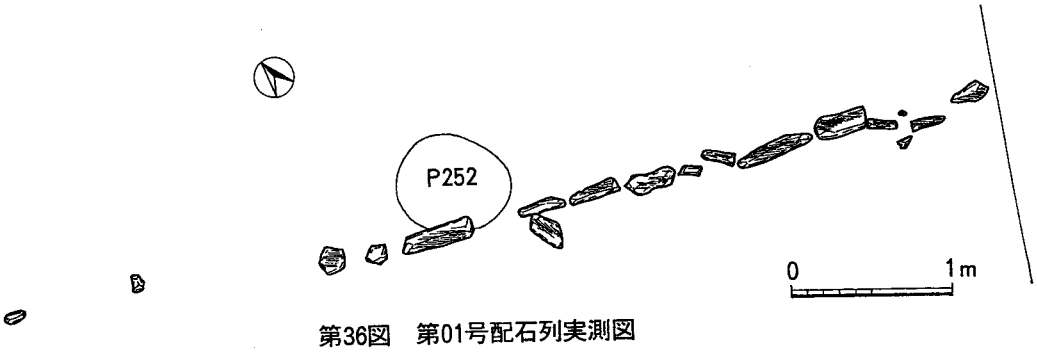
調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は71×44cmである。

第37号焼土遺構（第39図）

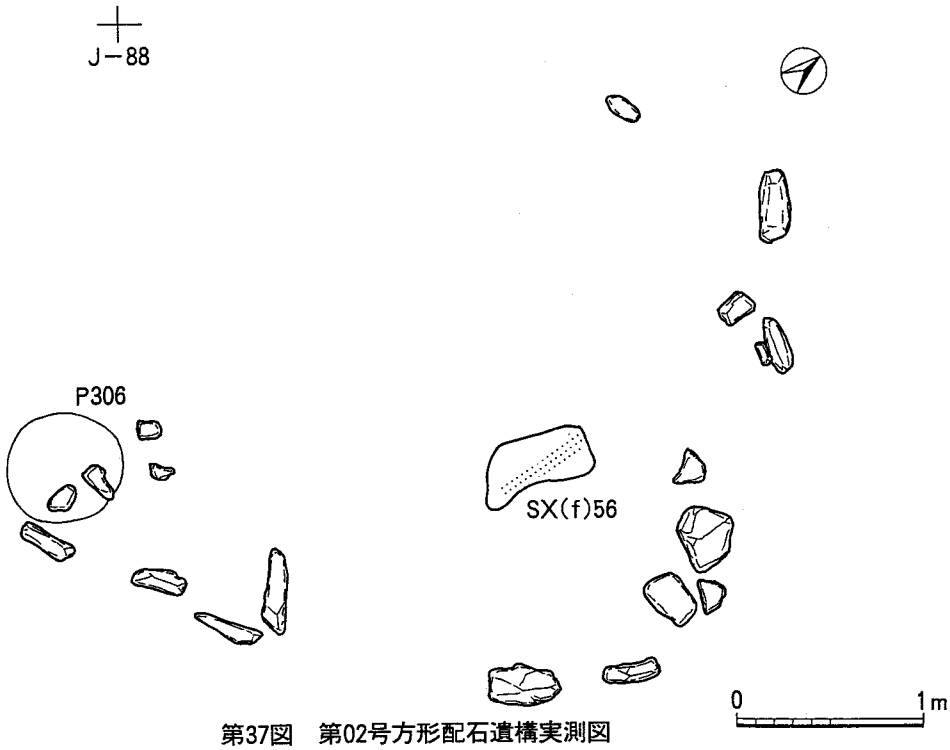
調査区南部のＳ－87グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は73×60cmである。



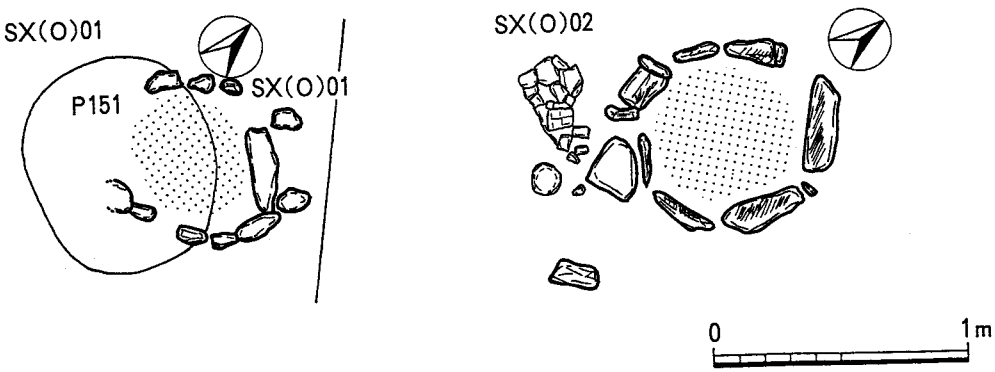
第35図　柱穴状ピット出土石器実測図



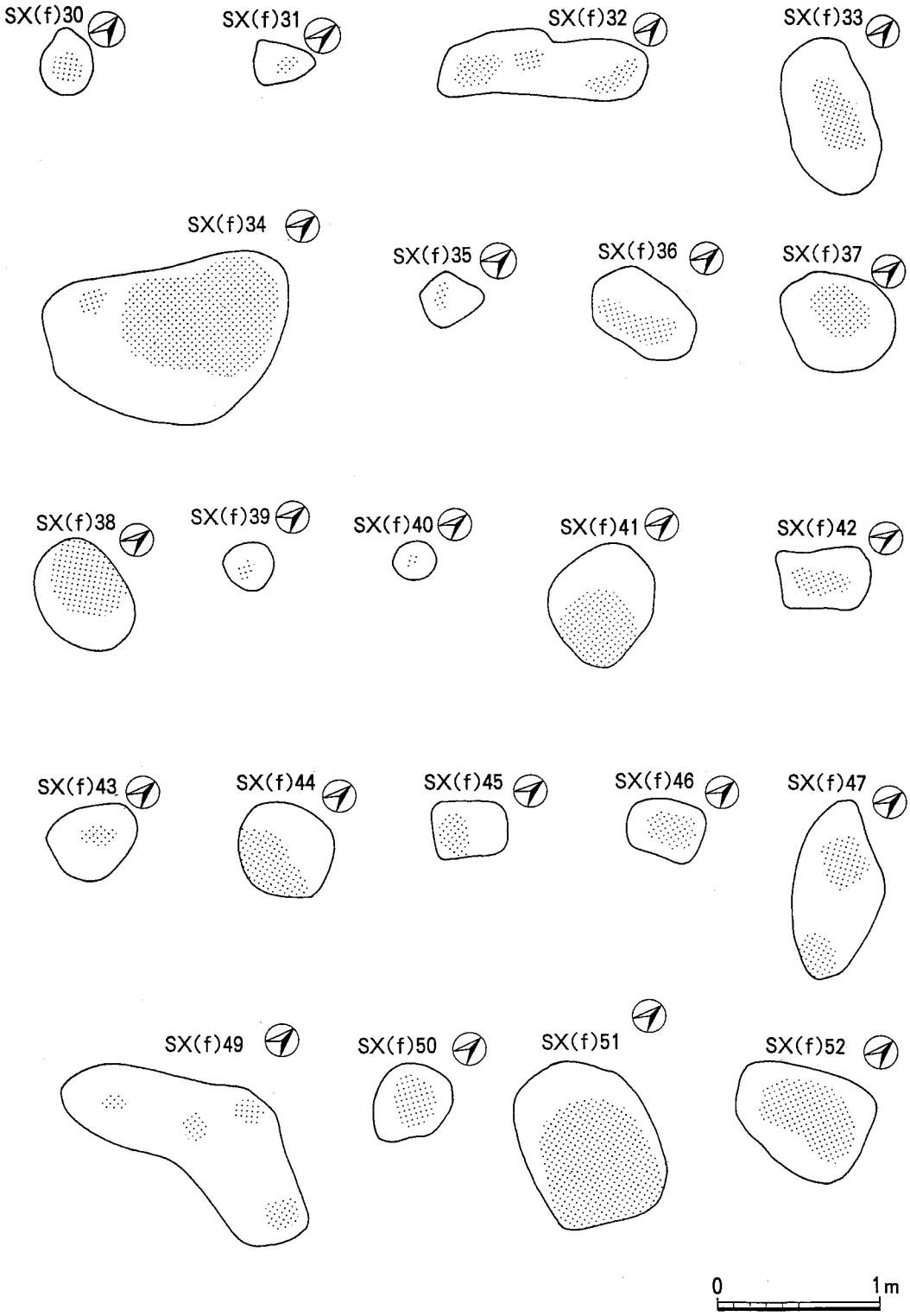
第36図　第01号配石列実測図



第37図　第02号方形配石遺構実測図



第38図　石囲炉実測図



第39図　焼土遺構実測図(1)

第38号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－87グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は71×64cmである。

第39号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＴ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は29×29cmである。

第40号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＴ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は25×22cmである。

第42号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＴ－85グリッド、Ⅲｂ層上面で確認。焼土範囲は54×36cmである。

第43号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＴ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は52×47cmである。

第44号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＲ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は64×56cmである。

第45号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＲ－85グリッド、Ⅲｂ層上面で確認。焼土範囲は45×35cmである。

第46号焼土遺構（第39図）

調査区中央部北西寄りのＨ－89グリッド、Ⅲｂ層上面で確認。焼土範囲は47×38cmである。

第47号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は111×54cmである。

第49号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は166×65cmである。

第50号焼土遺構（第39図）

調査区南部のＲ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は55×46cmである。

第51号焼土遺構（第39図）

調査区北端部のＤ、Ｅ－91グリッド、Ⅲｄ′層下面で確認。焼土範囲は104×80cmである。

第52号焼土遺構（第39図）

調査区中央部西寄りのＨ、Ｉ－88グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は87×64cmである。

第53号焼土遺構（第40図）

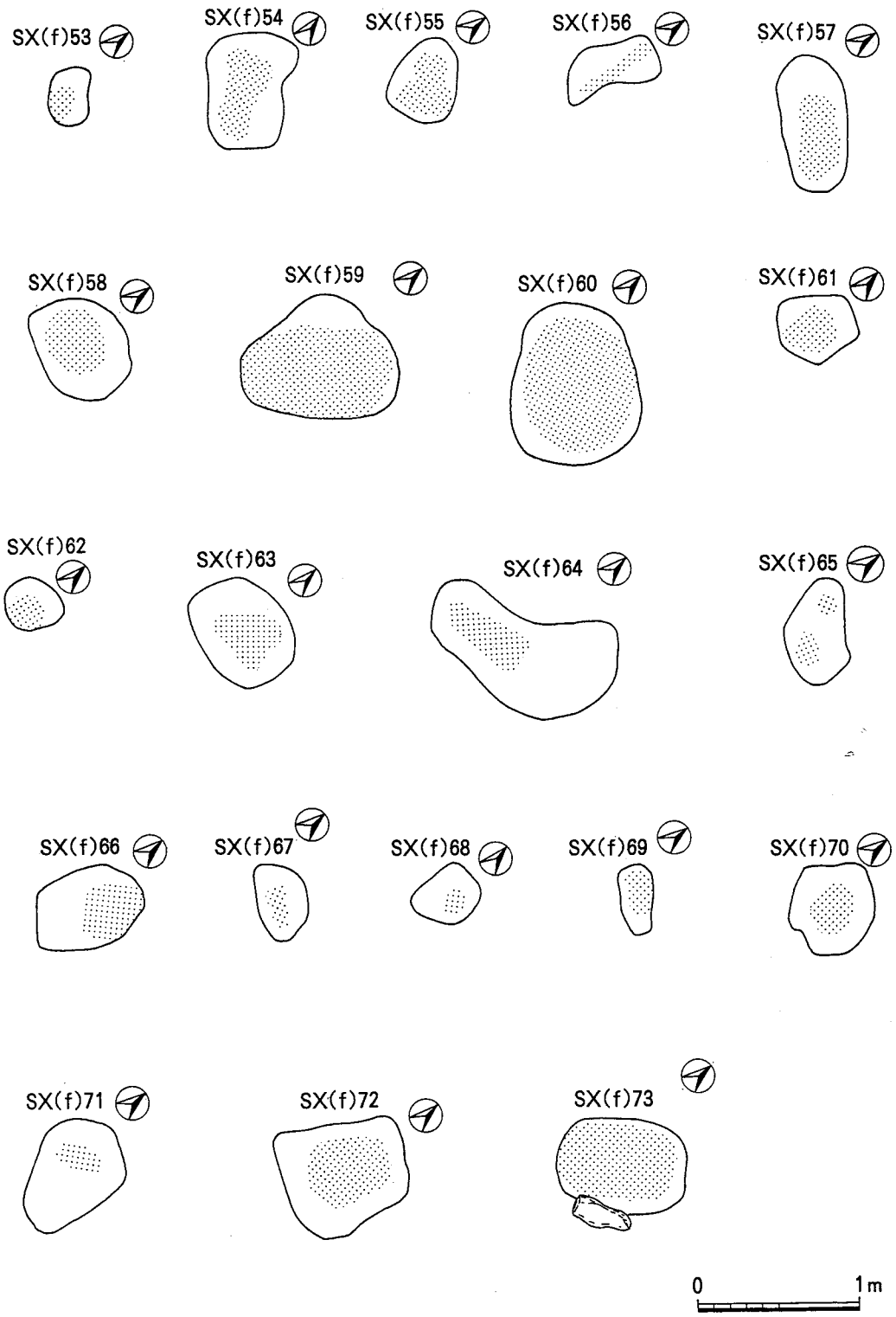
調査区中央部のＬ－84グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は15×10cmである。

第54号焼土遺構（第40図）

調査区中央部のＬ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は72×46cmである。

第55号焼土遺構（第40図）

調査区中央部北西寄りのＨ－89グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は52×41cmである。



第40図　焼土遺構実測図(2)

第56号焼土遺構（第40図）

調査区中央部のＪ－88グリッド、Ⅲｂ層上面で確認。焼土範囲は61×28cmである。

第57号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＰ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は85×43cmである。

第58号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＰ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は68×57cmである。

第59号焼土遺構（第40図）

調査区中央部北寄りのＧ－89グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は95×77cmである。

第60号焼土遺構（第40図）

調査区中央部北寄りのＧ－89グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は98×80cmである。

第61号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＱ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は50×42cmである。

第62号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＱ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は35×34cmである。

第63号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は73×56cmである。

第64号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は120×75cmである。

第65号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は67×36cmである。

第66号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は70×49cmである。

第67号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は47×31cmである。

第68号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は43×36cmである。

第69号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－86グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は43×20cmである。

第70号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は62×52cmである。

第71号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－85グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は75×56cmである。

第72号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＴ－87グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は78×62cmである。

第73号焼土遺構（第40図）

調査区南部のＳ－88グリッド、Ⅲｄ層上面で確認。焼土範囲は81×58cmである。

焼土遺構の構築時期については、第42、45、46、56号焼土遺構が縄文時代後期中葉で、それ以外は全て縄文時代後期前葉である。

６．埋設土器遺構

第01号埋設土器遺構

調査区西部のＦ－87グリッドに位置し、Ⅲｄ′層上面で胴部を確認したが、構築面はⅢｄ上面である。土器は胴部半部が破損し、倒立した状態で検出された。

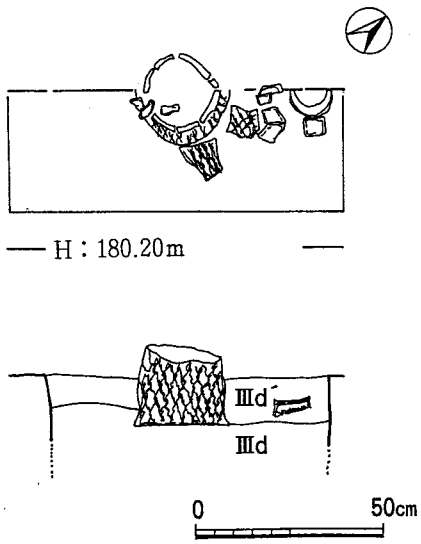
波状口縁深鉢形土器で、口縁部上端より網目状撚糸文が施文されている。原体はＬ縄文、色調はにぶい黄橙色である。構築時期は縄文時代後期前葉である。

７．土　坑

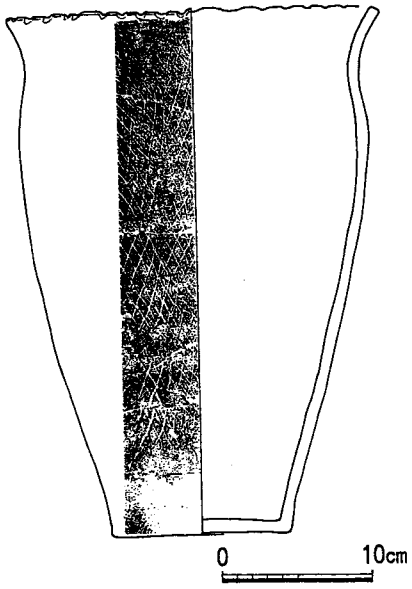
①　Ｔピット

第115号Ｔピット（第43図、第44図）

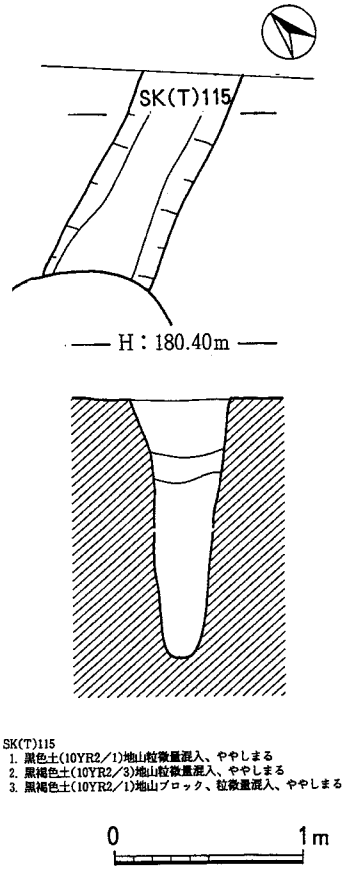
調査区中央部北寄りのＨ－90グリッドに位置し、Ⅲｄ′層上面で確認した。第133号フラス



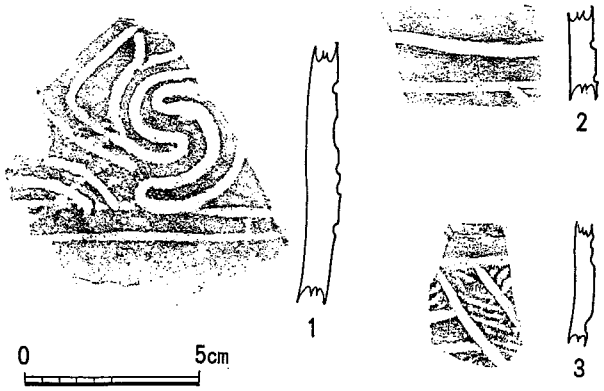
第41図　第01号埋設土器実測図(1)



第42図　第01号埋設土器実測図(2)



第43図　T－ピット実測図



第44図　T－ピット出土土器拓影図

コ状土坑と重複し、本遺構が古い。

遺構東側半部は野中堂環状列石フェンス下まで延びているため未発掘であるが、確認できる規模は長軸110cm×短軸54cm、深さ139cmを測る。短軸断面形は逆台形を呈する。堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が6点出土している。

構築時期は、遺構重複関係及び出土遺物より縄文時代後期前葉である。

② 土　坑

第31号土坑（第45図）

調査区東部のR－92グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第02号竪穴住居跡、第32号フラスコ状土坑と重複し、本遺構はいずれより古い。平面形は長軸144cm×短軸56cmの楕円形で、深さ56cmを測る。底面はやや鍋底状になり、地山面まで掘り込まれ、しまっていた。壁は、底面からややくびれながら外反し立ち上がる。堆積土は7ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第103号土坑（第45図）

調査区中央部のJ－87グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第02号建物跡、ピット117、118と重複し、本遺構がいずれより古い。平面形は長軸116cm×短軸80cmの楕円形で、深さ18cmを測る。底面は平坦で、地山面まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しな

がら立ち上がる。堆積土は４層に区分され、自然堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第104号土坑（第45図）

調査区中央部西寄りのＩ－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸58cm×短軸55cmの円形で、深さ14cmを測る。底面は平坦で、地山面まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は３層に区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第105号土坑（第45図）

調査区中央部のＫ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸73cm×短軸70cmの円形で、深さ41cmを測る。底面は平坦で、地山面まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は２層に区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片７点が出土した。

第108号土坑（第48図、第51図）

調査区中央部南西寄りのＨ・Ｉ－86グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸138cm×短軸125cmの楕円形で、深さ47cmを測る。底面は平坦で、地山面まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は３層に区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片23点、掻器１点、板状石製品１点が出土した。

第110号土坑（第45図）

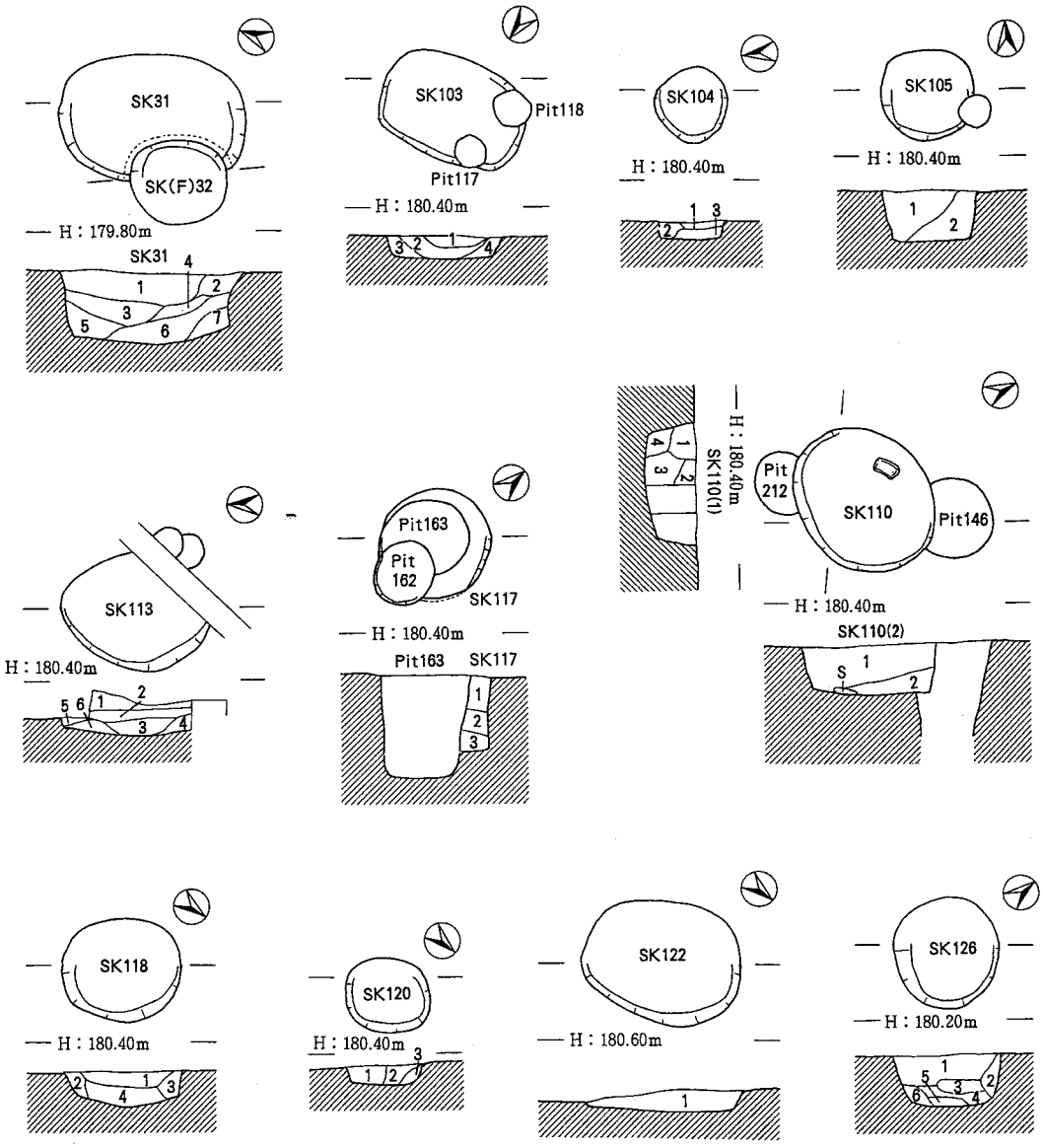
調査区中央部のＫ－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。ピット212、146と重複し、本遺構がいずれより新しい。平面形は長軸126cm×短軸103cmの楕円形で、深さ42cmを測る。底面は平坦で扁平な川原石が確認された。掘り込みは地山面まで達し、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第111号土坑（第48図、第51図）

調査区中央部のＨ－88グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認した。平面形は長軸55cm×短軸50cmの楕円形で、深さ16cmを測る。底面は鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。



SK31
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒、炭化物少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量、炭化物少量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、かたくしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量、炭化物微量混入、やや軟弱
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量、炭化物少量混入、やや軟弱
6. 褐色土(10YR4／4)地山ブロック、粒多量、炭化物少量混入、軟弱
7. 黒褐色土(10YR2／3)地山ブロック、粒少量混入、やや軟弱

SK103
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

SK104
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒多量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK105
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる

SK110(1)
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK110(2)
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK120
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

SK113
1. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、しまる
2. 暗褐色土(7.5YR3／4)地山粒少量混入、かたくしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量、白色土少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、ややしまる

SK117
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる

SK118
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

SK122
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

SK126
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物、白色粘質土ブロック微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄燈色土(10YR6／3)白色粘質土ブロック多量混入、しまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

0 2m

第45図　土坑実測図(1)

遺構内上面から下位にかけ深鉢土器の一部がまとまって出土した。遺構内より18点の縄文時代後期の土器破片が出土している。

第113号土坑（第45図）

調査区中央部のＨ－88グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認した。平面形は長軸117cm×短軸93cmの楕円形で、深さ14cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。一部消失しているが、確認される堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第117号土坑（第45図、第51図、第55図）

調査区中央部北寄りのＩ－89、90グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認した。ピット162、163と重複し、本遺構がいずれより古い。平面形は長軸87cm×短軸86cmの円形で、深さ60cmを測る。確認される底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より縄文時代後期の土器破片が１点、土器片利用土製品１点が出土している。

第118号土坑（第45図、第51図、第55図）

調査区中央部のＬ－87、88グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認した。平面形は長軸85cm×短軸82cmの円形で、深さ29cmを測る。確認される底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より縄文時代後期の土器破片が18点、凹石１点、板状石製品１点が出土している。

第120号土坑（第45図）

調査区中央部のＫ－87グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認した。平面形は長軸70cm×短軸59cmの円形で、深さ18cmを測る。確認される底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第122号土坑（第45図）

調査区中央部北西寄りのＧ・Ｈ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層下面で確認した。平面形は長軸125cm×短軸97cmの楕円形で、深さ17cmを測る。底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積と考

えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第123号土坑（第45図、第49図）

調査区中央部南寄りのＬ－88グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認したが、基本層序断面より本来の構築面はⅢｄ層上面である。第191号フラスコ状土坑、第178号、192号土坑と重複し、本遺構がいずれより古い。平面形は推定長軸170cm×短軸150cmのやや歪な楕円形で、深さ63cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の完形土器が１点出土した。土器は深鉢形土器で、口径26cm、底形11.8cm、高さ34cmの大きさで、胴部にはＬ縄文の圧痕による施文がなされている。

第125号土坑（第59図）

調査区中央部南寄りのＭ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第124号フラスコ状土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形は長軸99cm×短軸84cmの楕円形で、深さ17cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は２層に区分され、自然堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第126号土坑（第45図、第51図）

調査区中央部南寄りのＭ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸88cm×短軸84cmの楕円形で、深さ40cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積と考えられる。

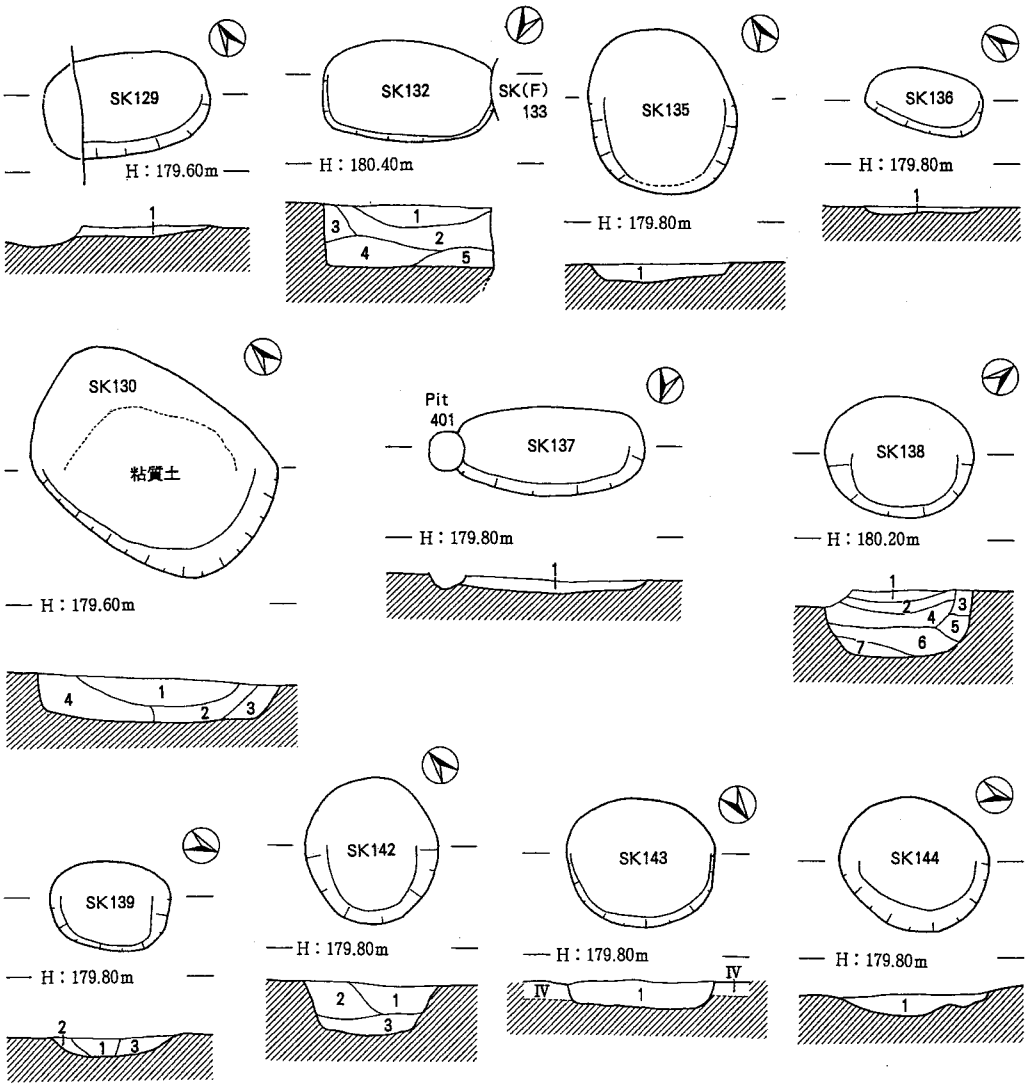
遺構内より、縄文時代後期の土器破片13点が出土した。

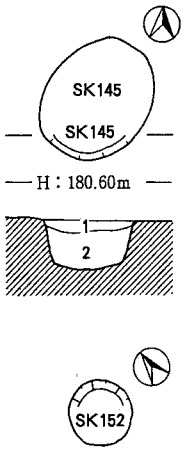
第129号土坑（第46図）

調査区東部のＱ－90グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸131cm×短軸81cmの楕円形で、深さ８cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からゆるやかに外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積と考えられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。





SK129
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる

SK130
1. 明黄褐色土(10YR7／6)シラスブロック、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK132
1. 黄燈色土(10YR8／6)シラスブロック、地山粒、炭化物微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒、炭化物少量、白色粘質土微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる

SK135
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

SK136
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒少量混入、軟弱

SK137
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる

SK138
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量混入、しまる
7. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

SK139
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK142
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK143
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK144
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる

SK145
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

0　2m

第46図　土坑実測図(2)

第130号土坑（第46図、第51図、第55図）

調査区東部のＳ－90、91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸195cm×短軸138cmの楕円形で、深さ38cmを測る。遺構上面には白色粘質土が充填されている。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片13点、掻器１点が出土した。

第132号土坑（第46図、第49図）

調査区中央部北寄りのＨ－90、91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第133号フラスコ状土坑と重複し、本遺構が古い。平面形は長軸132cm×短軸79cmの楕円形で、深さ50cmを測る。底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の復元可能土器１点、土器破片107点、掻器４点、凹石２点、敲石２点が出土した。土器は、横たわるような状態で検出され、波状口縁の深鉢形土器で口径21.5cmを測り、胴部には帯縄文による入組文が施文されている。色調は灰褐色である。

第135号土坑（第46図、第51図）

調査区中央部南東寄りのＰ－88、89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸135cm×短軸111cmの楕円形で、深さ13cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片４点が出土した。

第136号土坑（第46図）

調査区東部のＱ－92グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸91cm×短軸48cmの楕円形で、深さ６cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

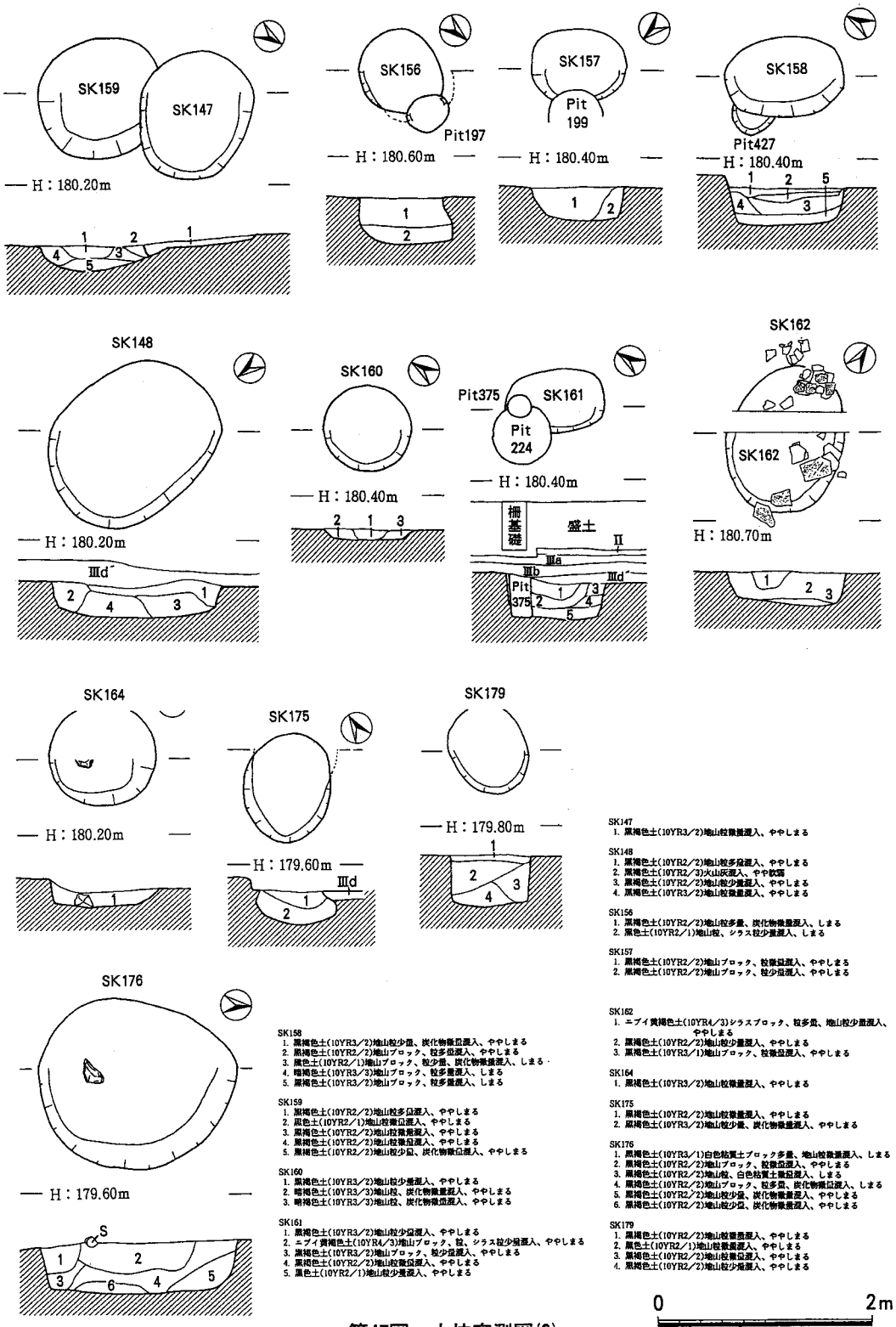
構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第137号土坑（第46図）

調査区東部のＱ－92グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸147cm×短軸70cmの楕円形で、深さ13cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。



SK147
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

SK148
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒多量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/3)火山灰混入、やや軟質
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

SK156
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒多量、炭化物微量混入、しまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒、シラス粒少量混入、しまる

SK157
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK162
1. エブイ黄褐色土(10YR4/3)シラスブロック、粒多量、地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる

SK164
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒微量混入、ややしまる

SK175
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK176
1. 黒褐色土(10YR3/1)白色粘質土ブロック多量、地山粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、白色粘質土微量混入、しまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、しまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK179
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量混入、ややしまる

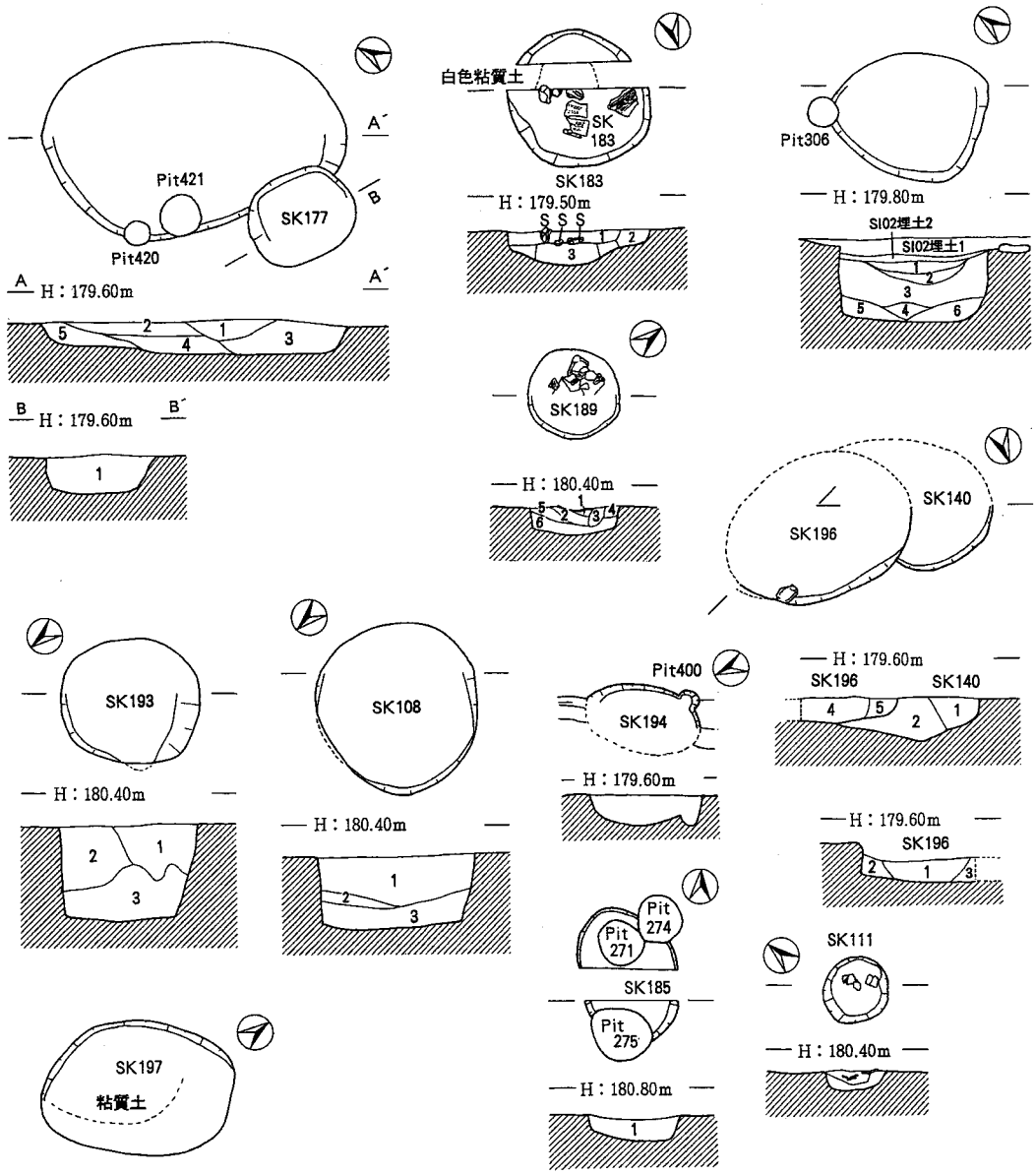
SK158
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる
4. 暗褐色土(10YR3/3)地山ブロック、粒多量混入、しまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量混入、しまる

SK159
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒多量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK160
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

SK161
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量混入、ややしまる
2. エブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒、シラス粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2/1)地山粒少量混入、ややしまる

第47図　土坑実測図(3)



SK177
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK178
1. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒、炭化材微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK183
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
5. ニブイ黄褐色土(10YR5／4)白色粘質土ブロック、しまる

SK187
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒、炭化物少量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3／1)地山ブロック、粒微量、炭化物少量混入、やや軟弱
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量混入、炭化材、炭化物、紫土粒微量混入、しまる
4. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒多量、紫土粒、炭化物微量混入、しまる
5. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒少量混入、しまる

SK189
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる

SK108
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる

SK185
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック粒多量、炭化物微量混入、しまる

SK196
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK140
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK193
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 明黄褐色土(10YR7／6)シラスブロック、しまる

SK111
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる

0　2m

第48図　土坑実測図(4)

第138号土坑（第46図、第56図）

調査区中央部南東寄りのM－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸115cm×短軸94cmの楕円形で、深さ52cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は7ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片3点、土偶1点が出土した。土偶は、破損品の頭部で、粘土紐の貼り付けによって髪型が表現され、逆三角形の顔立ちである。下あご部には沈線が施文されている。

第139号土坑（第46図、第51図）

調査区中央部南東寄りのP－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸94cm×短軸69cmの楕円形で、深さ14cmを測る。底面は鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からゆるやかに外反しながら立ち上がる。堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片10点が出土した。

第140号土坑（第48図、第51図）

調査区東部のQ－91グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第196号土坑と重複し、本遺構が古い。平面形は長軸158cm×短軸98cmの楕円形で、深さ36cmを測る。底面は鍋底状で、やや起伏があり、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。確認される堆積土は2ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片3点が出土した。

第142号土坑（第46図、第52図）

調査区東部のP－90グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は長軸115cm×短軸105cmの楕円形で、深さ42cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片1点が出土した。

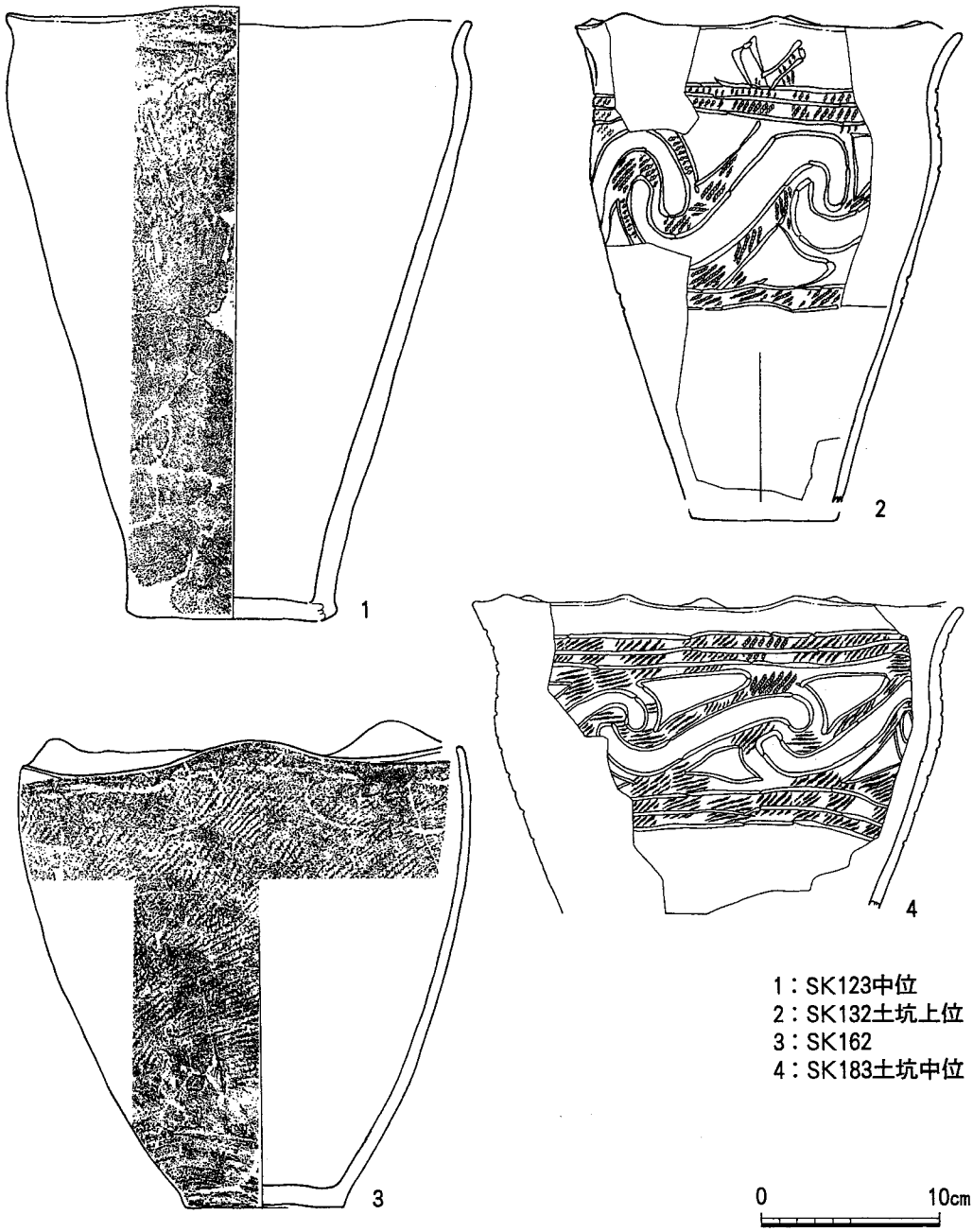
第143号土坑（第46図）

調査区東部のO－89グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は長軸118cm×短軸101cmの楕円形で、深さ17cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は1ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片3点が出土した。

第144号土坑（第46図、第52図）

調査区東部のO－89グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は長軸117cm×短軸



第49図　土坑出土土器実測図(1)

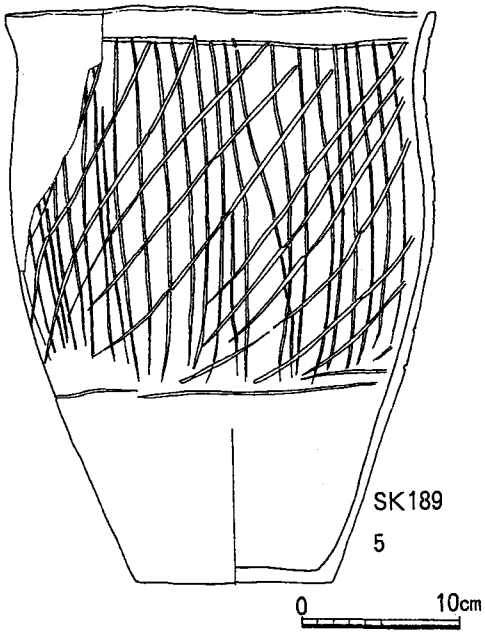
100cmの楕円形で、深さ17cmを測る。底面はやや鍋底状で、起伏があり、地山まで掘り込まれ、しまっている。南側壁は、底面からゆるやかに外反しながら立ち上がり、北側壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片７点が出土した。

第145号土坑（第46図、第52図、第56図、第57図）

調査区北西端のＥ－90、91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸100cm×短軸80cmの楕円形で、深さ38cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片21点、掻器１点、敲石１点、板状石製品１点が出土した。



第50図　土坑出土土器実測図(2)

第147号土坑（第47図、第52図、第56図、第57図）

調査区中央部南東寄りのＮ－88、89グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第159号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形は長軸122cm×短軸98cmの楕円形で、深さ21cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片27点、掻器１点、板状土製品１点が出土した。

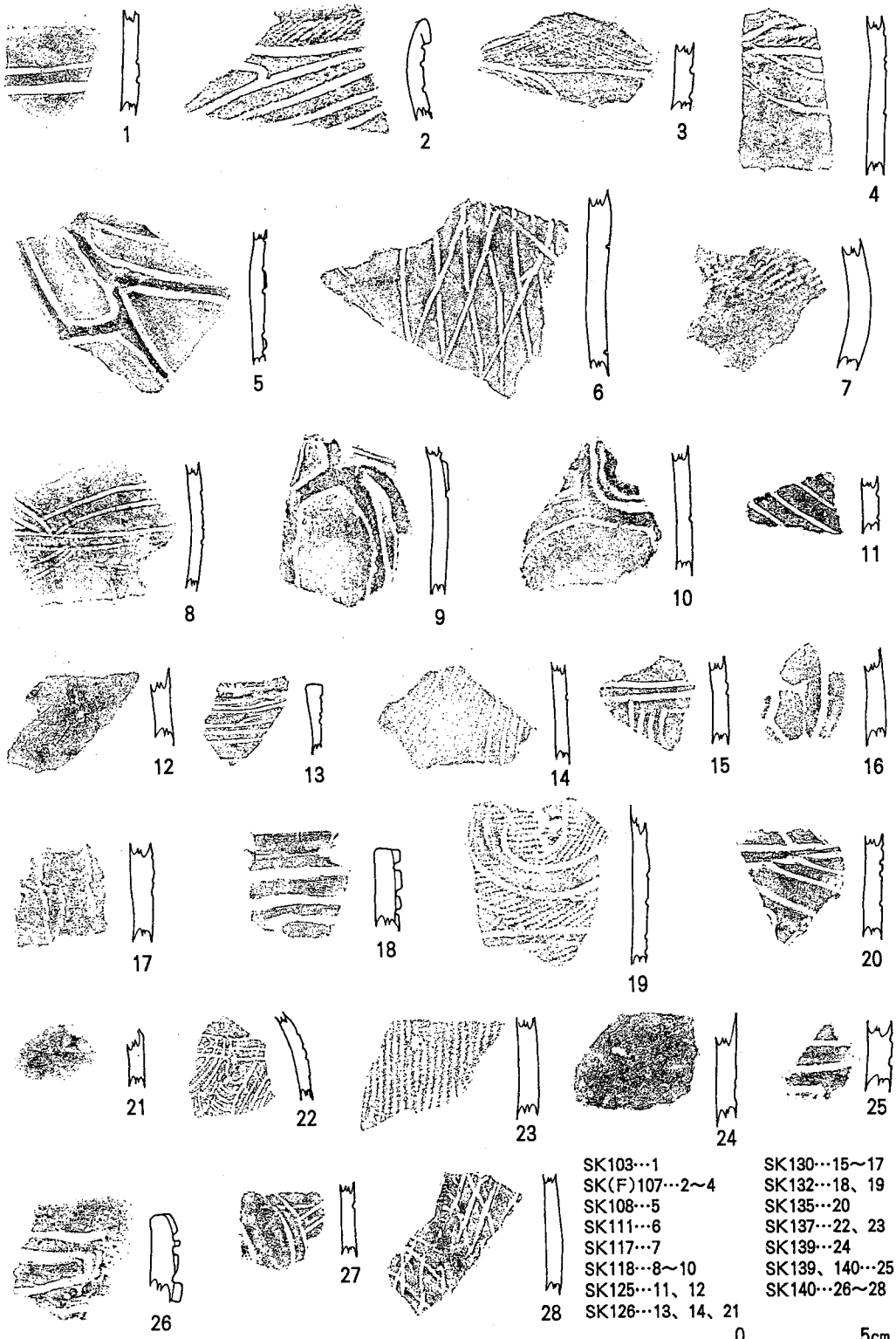
第148号土坑（第47図、第52図、第57図）

調査区中央部南東寄りのＮ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ′層上面で確認した。平面形は長軸151cm×短軸130cmの楕円形で、深さ36cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

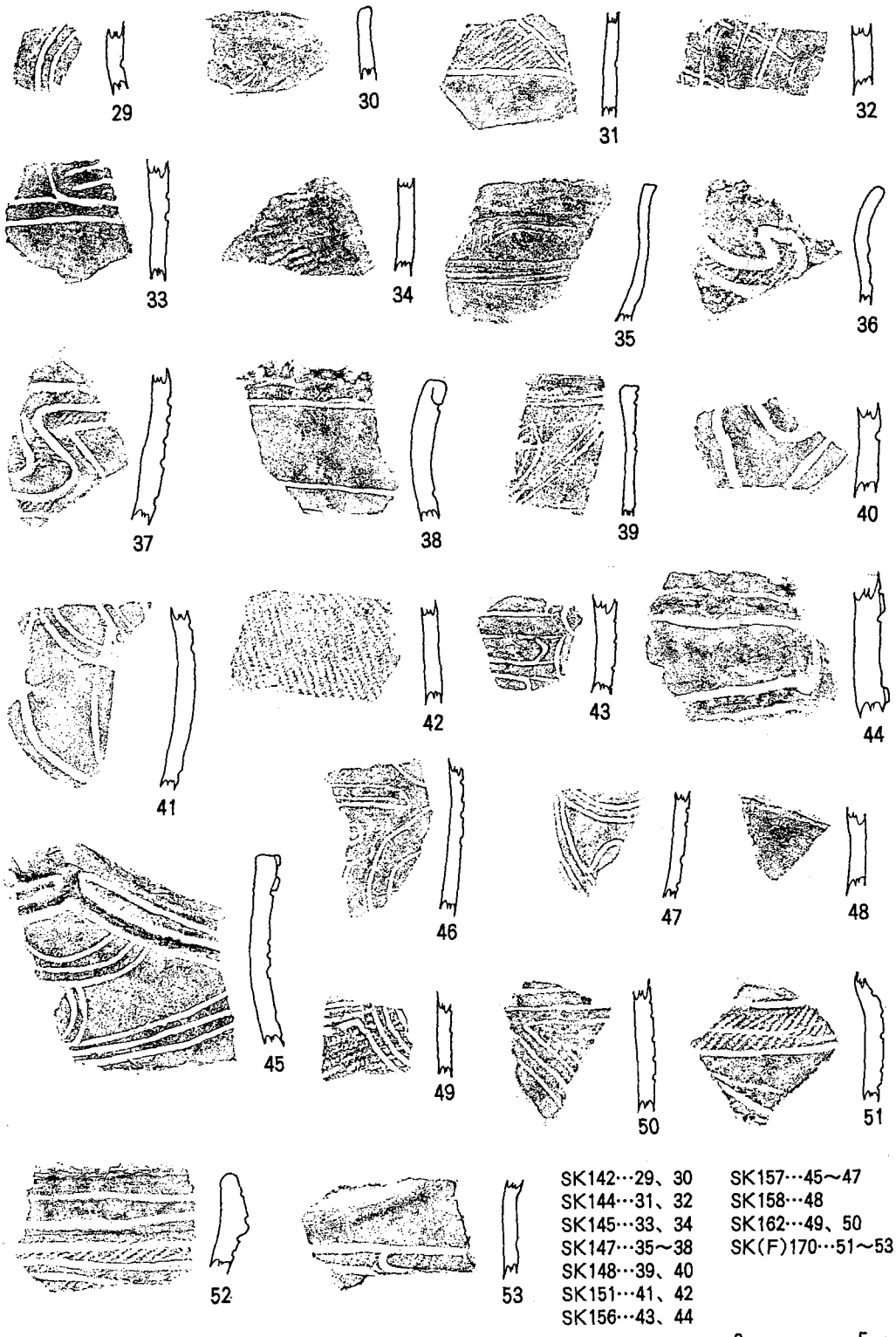
遺構内より、縄文時代後期の土器破片５点、凹石２点、敲石１点、砥石１点、板状石製品１点が出土した。

第151号土坑（第52図、第56図、第60図、第62図）

調査区北西端のＥ－90グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第153号フラスコ状土坑と重複し、本遺構が古い。平面形は推定長軸105cm×短軸81cmの楕円形で、深さ61cmを測る。底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。



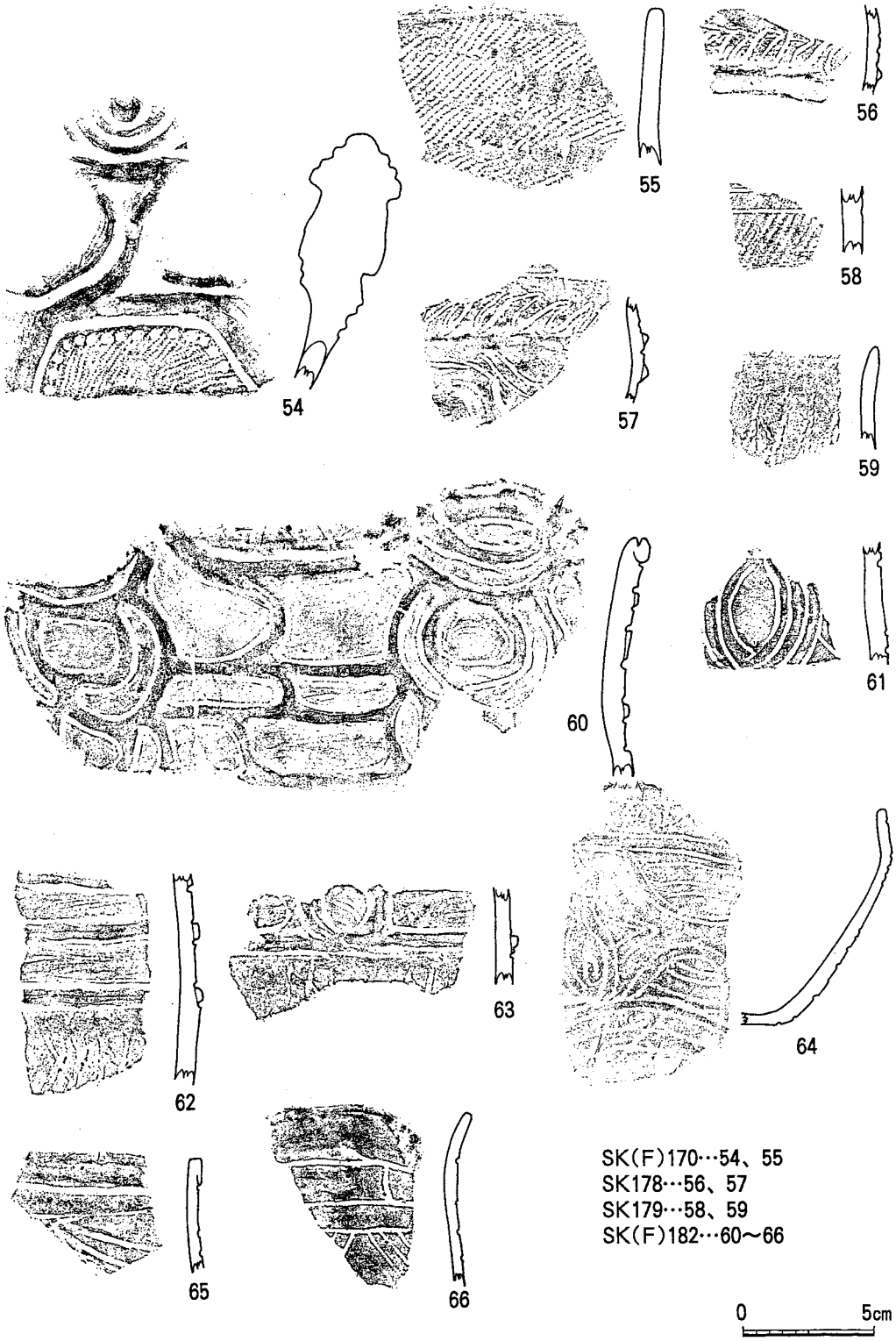
第51図　土坑出土土器拓影図(1)



SK142…29、30
SK144…31、32
SK145…33、34
SK147…35～38
SK148…39、40
SK151…41、42
SK156…43、44
SK157…45～47
SK158…48
SK162…49、50
SK(F)170…51～53

0　5cm

第52図　土坑出土土器拓影図(2)



第53図　土坑出土土器拓影図(3)

遺構内より、縄文時代後期の土器破片12点、掻器１点が出土した。

第152号土坑（第46図）

調査区中央部東寄りのＱ－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸50cm×短軸50cmの楕円形である。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

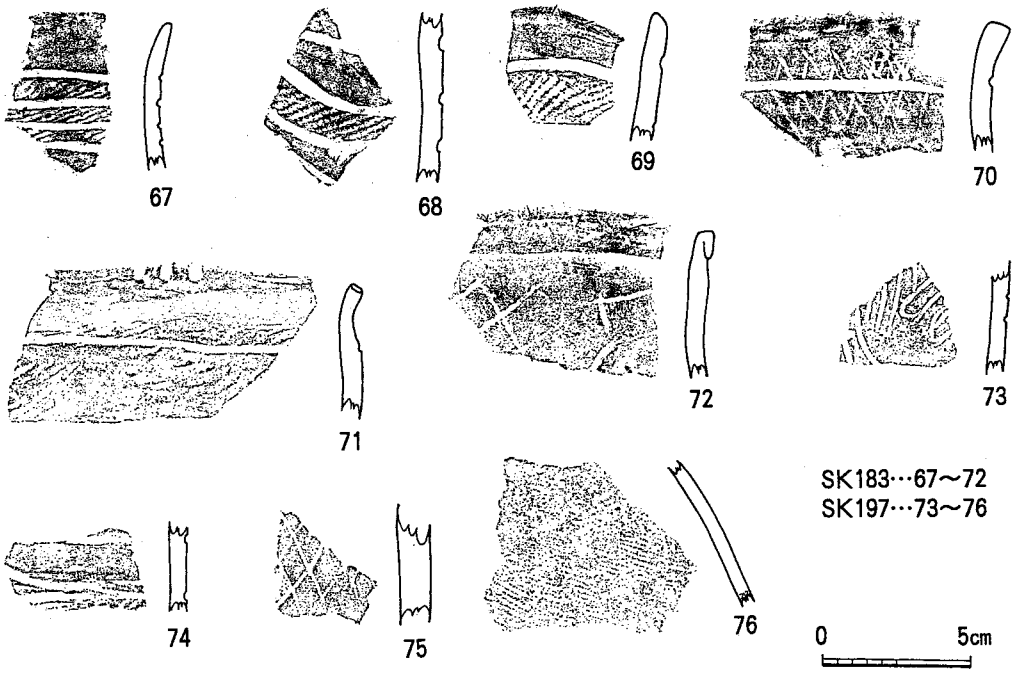
第156号土坑（第47図、第56図、第52図）

調査区北部のＦ－90、91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット197と重複し、本遺構が古い。平面形は長軸80cm×短軸71cmの楕円形で、深さ42cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまりがある。南東側壁は底面から外反しながら立ち上がり、北西側壁は靴形状に立ち上がる。確認される堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積である。

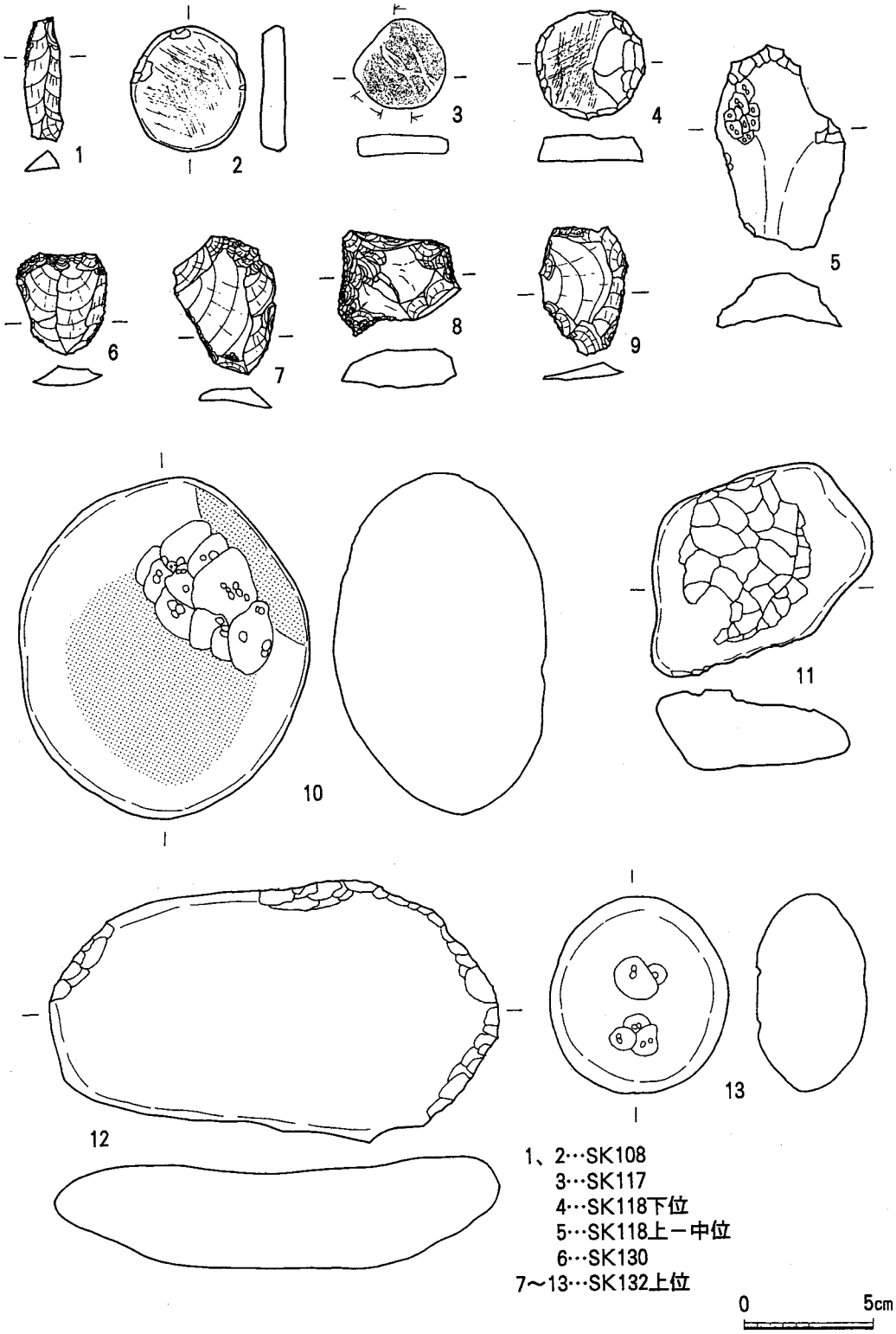
遺構内より、縄文時代後期の土器破片12点、凹石１点が出土した。

第157号土坑（第47図、第52図、第56図）

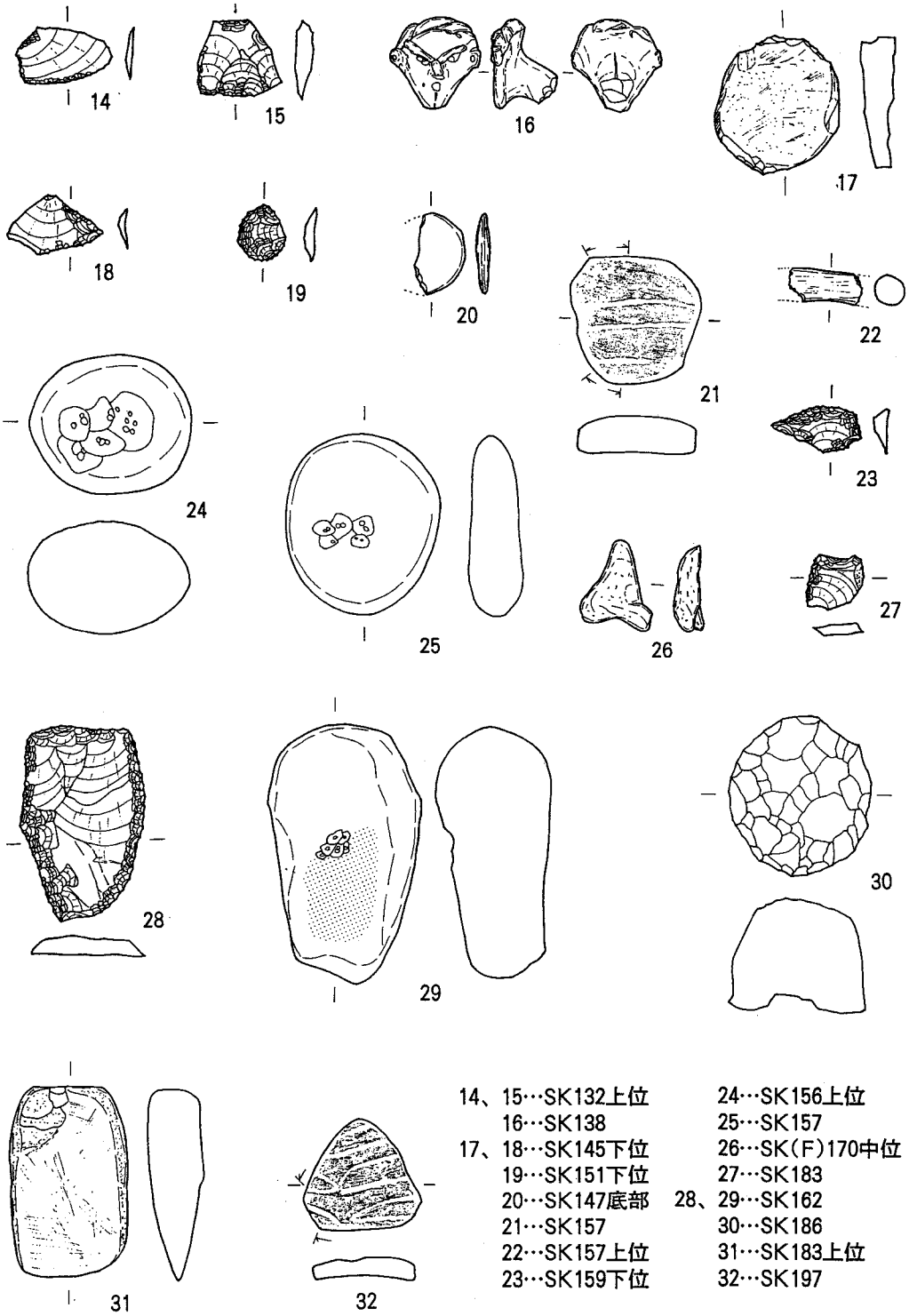
調査区中央部のＩ、Ｊ－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。ピット199と重複し、



第54図　土坑出土土器拓影図(4)



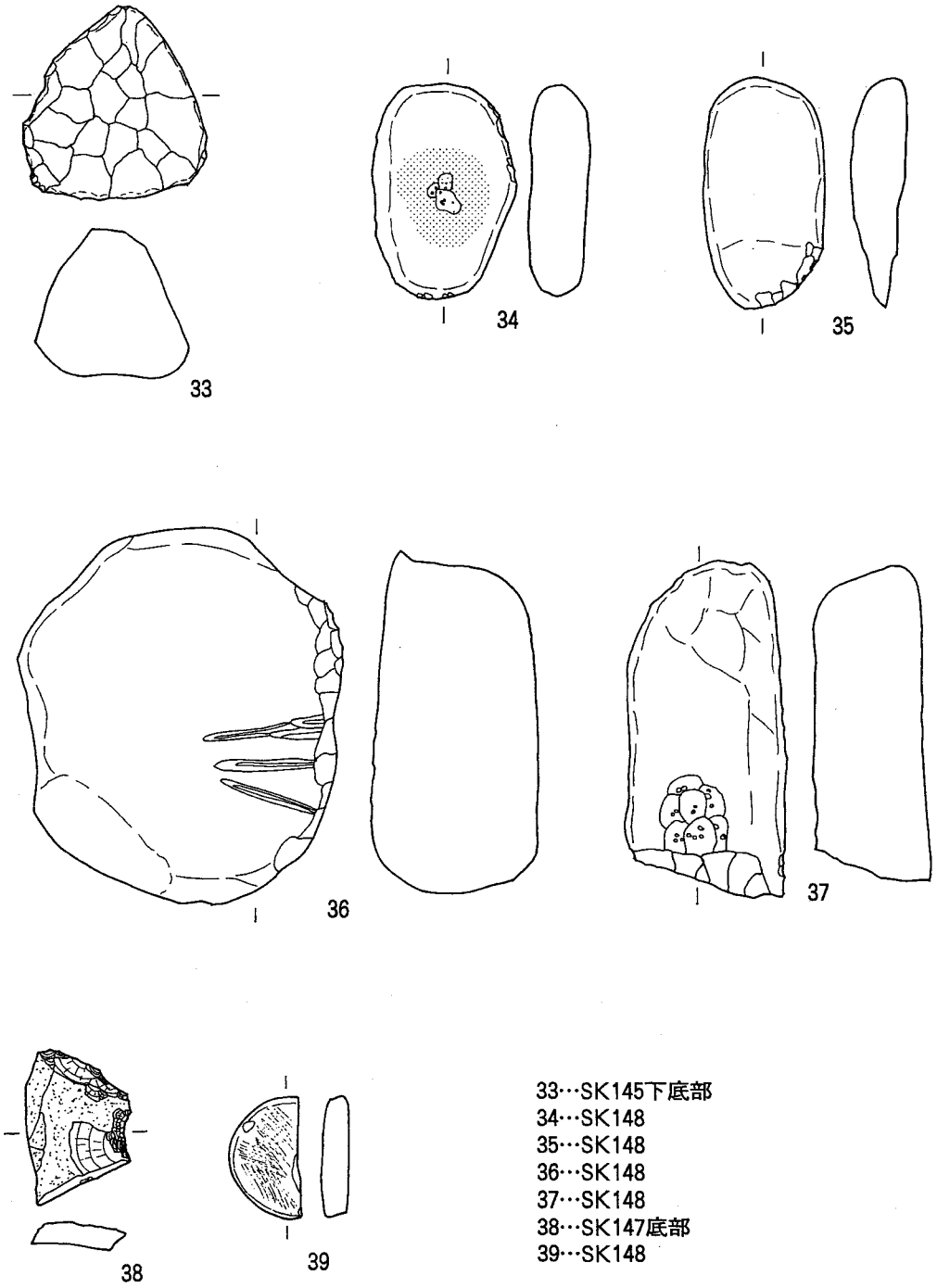
第55図　土坑出土遺物実測図(1)



14、15…SK132上位
16…SK138
17、18…SK145下位
19…SK151下位
20…SK147底部
21…SK157
22…SK157上位
23…SK159下位
24…SK156上位
25…SK157
26…SK(F)170中位
27…SK183
28、29…SK162
30…SK186
31…SK183上位
32…SK197

0 5cm

第56図　土坑出土遺物実測図(2)



33…SK145下底部
34…SK148
35…SK148
36…SK148
37…SK148
38…SK147底部
39…SK148

0　5cm

第57図　土坑出土遺物実測図(3)

本遺構が古い。平面形は長軸93cm×短軸62cmの楕円形で、深さ23cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまりがある。西側壁は底面からやや垂直に立ち上がり、東側壁はゆるやかに外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は２ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片44点、凹石１点、腕輪の破損品１点、土器片利用土製品１点が出土した。

第158号土坑（第47図、第158図）

調査区北部のＦ、Ｇ－90グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット427と重複し、本遺構が新しい。平面形は長軸108cm×短軸73cmの楕円形で、深さ35cmを測る。底面はほぼ平坦で、地山まで掘り込まれ、しまりがある。壁は底面からゆるやかに外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片３点が出土した。

第159号土坑（第47図、第56図）

調査区中央部南東寄りのＮ－88、89グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。第147号土坑と重複し、本遺構が古い。平面形は長軸114cm×短軸108cmの楕円形で、深さ24cmを測る。底面は鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片３点、掻器１点が出土した。

第160号土坑（第47図）

調査区中央部のＪ－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸80cm×短軸77cmの楕円形で、深さ11cmを測る。底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第161号土坑（第47図）

調査区中央部のＪ－90グリッドに位置し、Ⅲｄ層下面で確認した。ピット224、375と重複し、本遺構はいずれより古い。平面形は長軸80cm×短軸60cmの楕円形で、深さ34cmを測る。底面は平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第162号土坑（第47図）

調査区中央部北寄りのG、H－90グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は長軸140cm×短軸105cmの楕円形で、深さ33cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面から外反しながら立ち上がる。堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の完形土器1点、土器破片11点、掻器1点、凹石1点が出土した。土器は波状口縁の深鉢形土器で口径24.3cm、底形8.9cm、高さ27.2cmの大きさで、胴部には口縁部から底部にかけLR縄文が、また、口縁部にはLR縄文の圧痕文が施文されている。色調はにぶい赤褐色である。

第164号土坑（第47図）

調査区中央部南東寄りのN－88グリッドに位置し、Ⅲd層下面で確認した。平面形は径98cmの円形で、深さ26cmを測る。底面は平坦で礫が置かれ、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は1ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第171号土坑（第61図）

調査区北部のF－93、94グリッドに位置し、Ⅲd層下面で確認した。ピット423、第190号フラスコ状土坑と重複し、新旧関係は、（旧）SK（F）190→SK170（本遺構）→ピット423（新）である。平面形は長軸108cm×短軸106cmの楕円形で、深さ30cmを測る。底面は平坦で、やや軟弱である。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は1ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第175号土坑（第47図）

調査区中央部南東寄りのP－90、91グリッドに位置し、Ⅲd層中位面で確認した。平面形は長軸100cm×短軸80cmの楕円形で、深さ31cmを測る。底面は鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。北東側壁は、底面からやや外反しながら立ち上がり、北西側壁は、底面から袋状に立ち上がる。堆積土は2ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第176号土坑（第47図）

調査区中東部のR－90グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。平面形は長軸182cm×短軸

159cmの楕円形で、深さ46cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。遺構上面に白色粘質土が充填され、38cm大の礫が置かれていた。壁はやや外反しながら立ち上がる。堆積土は6ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第177号土坑（第47図）

調査区東部のR－91グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第178号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形は長軸86cm×短軸67cmの楕円形で、深さ30cmを測る。底面は平坦で、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は1ブロックで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第178号土坑（第47図、第53図）

調査区東部のR－91グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。ピット421、420、第177号土坑と重複し、本遺構はいずれより古い。平面形は長軸240cm×短軸152cmの楕円形で、深さ25cmを測る。底面はやや平坦でしまり、壁は底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は5ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片42点が出土した。

第179号土坑（第47図、第53図）

調査区中央部南東寄りのP－90、91グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は長軸84cm×短軸69cmの楕円形で、深さ47cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁はやや外反しながら立ち上がる。堆積土は4ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片5点が出土した。

第183号土坑（第48図、第49図、第56図）

調査区東端部のS－91、92グリッドに位置し、Ⅲd層中位で確認した。平面形は長軸117cm×短軸105cmの楕円形で、深さ26cmを測る。底面は鍋底状で、大きな起伏あり、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は5ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の復元可能土器1点、土器破片91点、掻器1点、磨製石斧1点が出土した。土器は、遺構底部に粘質土を盛り、その上に拳大の礫を設置し、その中央部に横たわるような状態で検出された。波状口縁の深鉢形土器で口径27.3cmを測り、3条の沈線によっ

て区画された胴部には、沈線によって入組文が施文され、沈線間にはＬ・ＬＲ縄文が充填されている。色調は暗褐色である。

第185号土坑（第48図）

調査区北部のＦ－92グリッドに位置し、第01号竪穴住居跡の床面で確認された。ピット271、274、276とも重複し、本遺構は第01号竪穴住居跡、ピット271、274、276いずれより古い。平面形は長軸112cm×短軸80cmの楕円形で、深さ32cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は１ブロックで、人為堆積である。

遺構内より遺物は、出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第187号土坑（第48図）

調査区南西部のＱ、Ｒ－92グリッドに位置し、第02号竪穴住居跡の床面で確認された。ピット306とも重複し、本遺構はいずれより古い。平面形は長軸129cm×短軸104cmの楕円形で、深さ66cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より遺物は、出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第189号土坑（第48図、第50図）

調査区北端部のＤ－92グリッドに位置し、Ⅲｄ層下位で確認した。平面形は長軸74cm×短軸70cmの円形で、深さ22cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期の完形土器１点、土器破片５点が出土した。土器は、遺構中央部上面に押しつぶされ、横たわるような状態で検出された。深鉢形土器で口径27.3cm、底形12.5cm、高さ37cmを測り、１条の沈線によって区画された口縁部と胴部間に網目状の沈線文が施文されている。色調は明赤褐色である。

第192号土坑（第61図）

調査区中央部南寄りのＬ－88グリッドに位置し、Ｖ層上面で確認したが、基本層序断面より本来の構築面はⅢｄ層上面である。第191号、182号フラスコ状土坑、第123号、198号土坑と重複し、新旧関係は（旧）ＳＫ（Ｆ）191、ＳＫ198→ＳＫ192（本遺構）→ＳＫ（Ｆ）182、ＳＫ123である。平面形は長軸280cm×短軸160cmの歪な楕円形で、深さ75cmを測る。底面はやや鍋底状で、大きな起伏にとみ、地山まで掘り込まれ、ややしまりがある。壁は、底面から外反し

ながら立ち上がる。確認される堆積土は8ブロックに区分され、人為堆積である。炭化物の混入がみられる。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第193号土坑（第48図）

調査区中央部のＪ－87グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸111cm×短軸99cmの楕円形で、深さ79cmを測る。底面はやや平坦で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。確認される堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より遺物は、出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第194号土坑（第48図）

調査区東部のＱ－92グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸91cm×推定短軸52cmの楕円形で、深さ25cmを測る。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。

遺構内より遺物は、出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第196号土坑（第48図）

調査区東部のＱ－91グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第140号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形は長軸153cm×短軸110cmの楕円形で、深さ22cmを測る。底面は鍋底状で、やや起伏があり、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。確認される堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より遺物は、出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

第197号土坑（第48図、第56図）

調査区中央部西寄りのＨ－87、88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。平面形は長軸155cm×短軸101cmの楕円形で、遺構上面には粘質土が敷かれていた。底面はやや鍋底状で、地山まで掘り込まれ、しまっている。壁は、底面からやや外反しながら立ち上がる。

遺構内より、縄文時代後期の土器破片17点、土器片利用土製品1点が出土した。

第198号土坑（第81図）

調査区中央部南寄りのＬ－88グリッドに位置し、Ⅴ層上面で確認したが、基本層序断面より本来の構築面はⅢｄ層上面である。第123号、192号土坑と重複し、本遺構はいずれより新しい。

平面形は長軸132cm×短軸87cmの歪な楕円形で、深さ61cmを測る。底面は鍋底状で、、地山まで掘り込まれ、ややしまりがある。北側壁は、底面から外反しながら立ち上がり、南側壁は靴形状に立ち上がる。確認される堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は、周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

③ フラスコ状土坑

第32号フラスコ状土坑（第58図）

調査区南東部のＲ－92グリッドに位置し、第02号竪穴住居跡床面で確認した。第02号竪穴住居跡、第31号土坑と重複し、本遺構が第02号竪穴住居跡より古く、第31号土坑より新しい。

重複のため遺構上半を欠いているため口縁部径は不明であるが、住居跡床面からの深さ88cm、底部径は68cmを測る。堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が４点、凹石１点、装飾品１点が出土している。

第101号フラスコ状土坑（第14図、第58図）

調査区南中央部のＨ・Ｉ－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第02号建物跡と重複し、新旧関係は不明である。深さ推定87cm、口縁部径は83×71cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

第102号フラスコ状土坑（第58図）

調査区南中央部のＩ－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ推定92cm、口縁部径は78×76cmを測る。確認される堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が４点出土している。

第106号フラスコ状土坑（第58図）

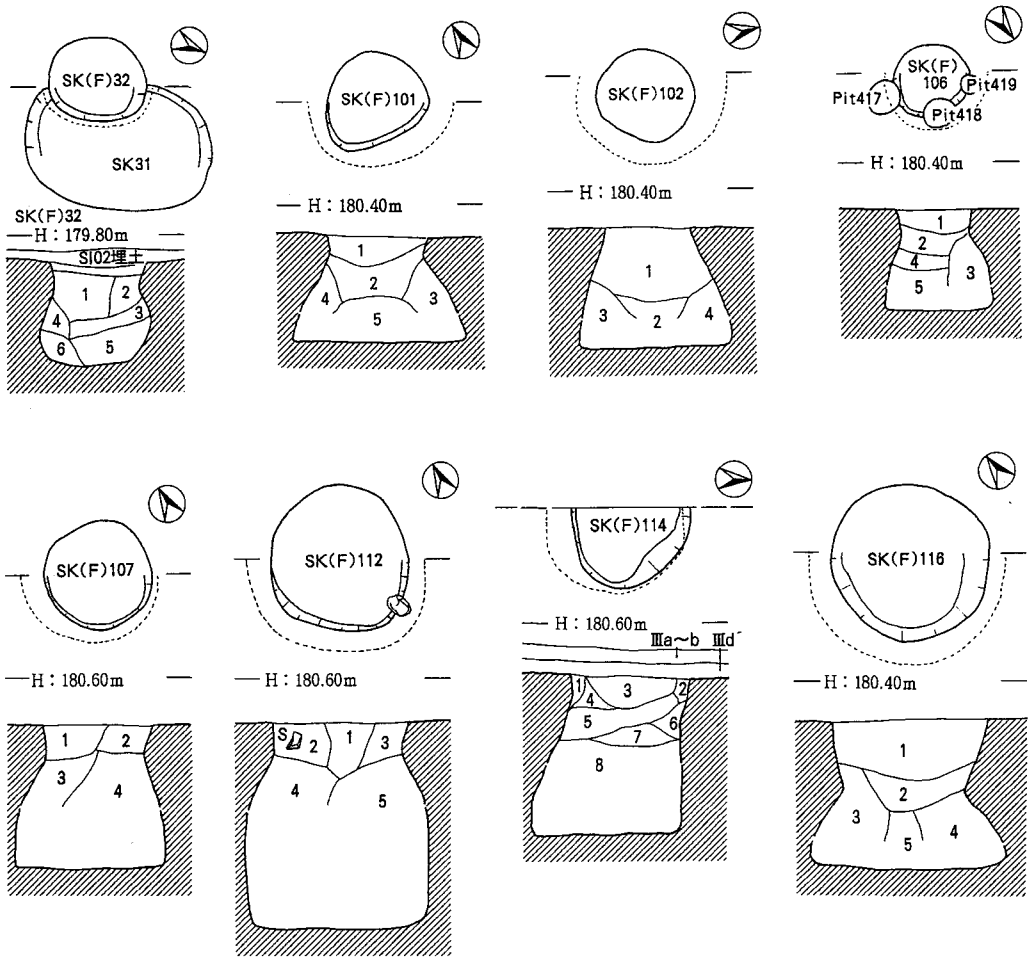
調査区中央部のＬ－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。ピット417～419と重複し、新旧関係は不明である。深さ推定90cm、口縁部径は59×53cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が14点出土している。

第107号フラスコ状土坑（第58図）

調査区西部のＨ－87グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ推定113cm、口縁部径は81cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片14点、凹石１点、敲石１点、石皿１点が出土している。７の石皿は破損品であるが、裏面の縁部に花弁文様が彫り込まれているもので、石英安



SK(F)32
1. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)地山粒多量混入、ややしまる
4. 明黄褐色土(10YR7/6)地山ブロック、粒多量混入、しまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒、シラス粒多用混入、ややしまる
6. 灰白色土(10YR7/1)白色粘質土ブロック、しまる

SK(F)101
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2/1)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭水化物微量、焼土粒多量混入、ややしまる

SK(F)102
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK(F)106
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR3/1)地山粒少量混入、かたくしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、軟弱
4. 灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒微量、白色粘質土少量混入、やや軟弱
5. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、やや軟弱

SK(F)107
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2/1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山粒少量、炭化物少量混入、ややしまる

SK(F)112
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量、炭化物少量混入、やや軟弱
2. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/3)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. 暗褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

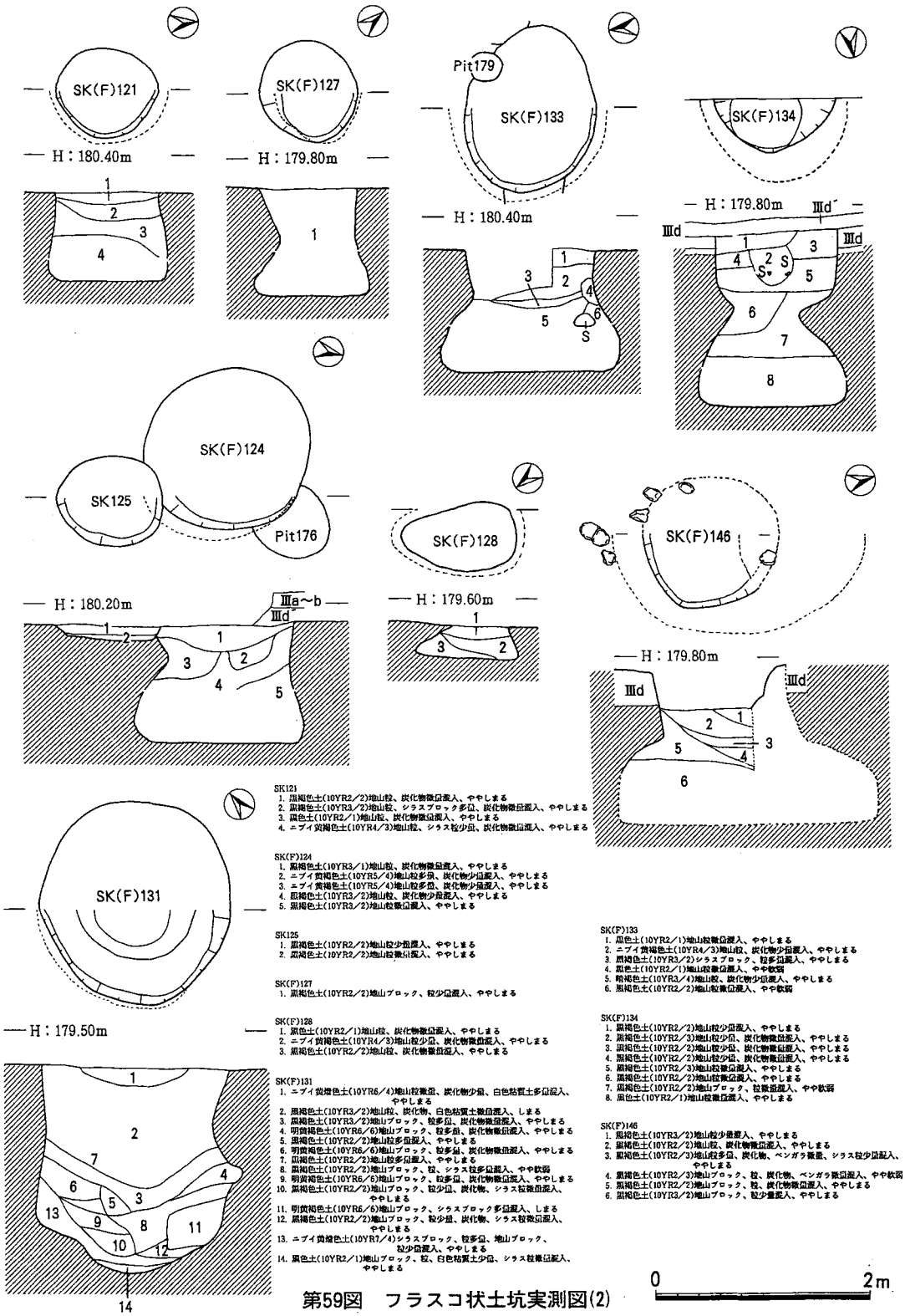
SK(F)114
1. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒色土(10YR2/1)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)シラスブロック、粒、地山粒少量混入、ややしまる
5. 灰黄褐色土(10YR4/2)シラスブロック、粒多量、地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)シラスブロック、粒多量、地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
7. 黒色土(10YR2/1)シラスブロック、粒多量、地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR3/2)シラスブロック、粒多量、地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK(F)116
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒多量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK(F)119
1. 黒褐色土(10YR2/2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2/2)地山粒微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
5. 暗褐色土(10YR3/4)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3/2)地山ブロック、粒多量、炭化物少量混入、ややしまる

0　2m

第58図　フラスコ状土坑実測図(1)



SK121
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、シラスブロック多量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
4. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒、シラス粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK(F)124
1. 黒褐色土(10YR3／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR5／4)地山粒多量、炭化物少量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR5／4)地山粒多量、炭化物少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK125
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK(F)127
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

SK(F)128
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる

SK(F)131
1. ニブイ黄橙色土(10YR6／4)地山粒微量、炭化物少量、白色粘質土多量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物、白色粘質土微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 明黄褐色土(10YR6／6)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量混入、ややしまる
6. 明黄褐色土(10YR6／6)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量混入、ややしまる
8. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒、シラス粒多量混入、やや軟弱
9. 明黄褐色土(10YR6／6)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
10. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量、炭化物、シラス粒微量混入、ややしまる
11. 明黄褐色土(10YR6／6)地山ブロック、シラスブロック多量混入、しまる
12. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量、炭化物、シラス粒微量混入、ややしまる
13. ニブイ黄橙色土(10YR7／4)シラスブロック、粒多量、地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
14. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒、白色粘質土少量、シラス粒微量混入、ややしまる

SK(F)133
1. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
2. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)シラスブロック、粒多量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、やや軟弱
5. 暗褐色土(10YR3／4)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、やや軟弱

SK(F)134
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
7. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒微量混入、やや軟弱
8. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

SK(F)146
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒多量、炭化物、ベンガラ微量、シラス粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／3)地山ブロック、粒、炭化物、ベンガラ微量混入、やや軟弱
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる

第59図　フラスコ状土坑実測図(2)

山岩が石材として使用されている。

第112号フラスコ状土坑（第58図、第64図、第69図）

調査区西部のＧ－88・89グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定170cm、口縁部径は118×101cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が106点、石匙１点、掻器１点、磨石１点、土器片利用土製品１点が出土している。

第114号フラスコ状土坑（第58図、第64図）

調査区北部のＨ－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定128cm、口縁部径は112×92cmを測る。確認される堆積土は８ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が４点が出土している。

第116号フラスコ状土坑（第58図、第64図）

調査区中央部のＫ－87・88、Ｌ－87・88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定120cm、口縁部径は122×120cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片34点が出土している。

第119号フラスコ状土坑（第58図、第64図、第70図）

調査区中央部のＫ－87グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ61cm、口縁部径は140×115cmを測る。確認される堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が５点、掻器１点が出土している。

第121号フラスコ状土坑（第59図、第64図）

調査区中央部のＫ－87グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ推定85cm、口縁部径は82×75cmを測る。確認される堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片８点が出土している。

第124号フラスコ状土坑（第59図、第64図、第69図）

調査区中央部東寄りのＭ－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット176、第125号土坑と重複し、本遺構は第125号土坑より古く、ピット176より新しい。深さ推定111cm、口縁部径は153×148cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が75点、掻器１点、磨石１点が出土している。

第127号フラスコ状土坑（第59図、第64図）

調査区東央部のＰ－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定99cm、口縁部径は90×82cmを測る。確認される堆積土は１ブロックのみで、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片４点が出土している。

第128号フラスコ状土坑（第59図）

調査区東端部のQ－91グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ30cm、口縁部径は106×64cmを測る。堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

第131号フラスコ状土坑（第59図、第65図、第70図）

調査区東端部のS－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定191cm、口縁部径は192×174cmを測り、本調査区において最大のフラスコ状土坑である。堆積土は14ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉・中葉の土器破片が222点、敲石１点、土器片利用土製品１点が出土している。

第133号フラスコ状土坑（第59図、第65図、第70図）

調査区中央部北寄りのH－90グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット179、第132号土坑と重複し、本遺構は第132号土坑より古く、ピット179より新しい。深さ推定115cm、口縁部径は153×121cmを測る。確認される堆積土は５ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が３２点、土器片利用土製品１点が出土している。

第134号フラスコ状土坑（第59図、第63図、第65図、第70図、第71図）

調査区北部のP－89グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定165cm、口縁部径は117×114cmを測る。確認される堆積土は８ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の復元可能壺形土器１点、土器破片が174点、掻器２点、敲石１点、土器片利用土製品８点が出土している。

第146号フラスコ状土坑（第59図、第66図、第71図）

調査区中央部北東寄りのO－88グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定102cm、口縁部径は131×120cmを測る。確認される堆積土は６層に区分され、自然堆積である。

遺構内より、土器片利用土製品１点が出土している。

第149号フラスコ状土坑（第60図、第66図）

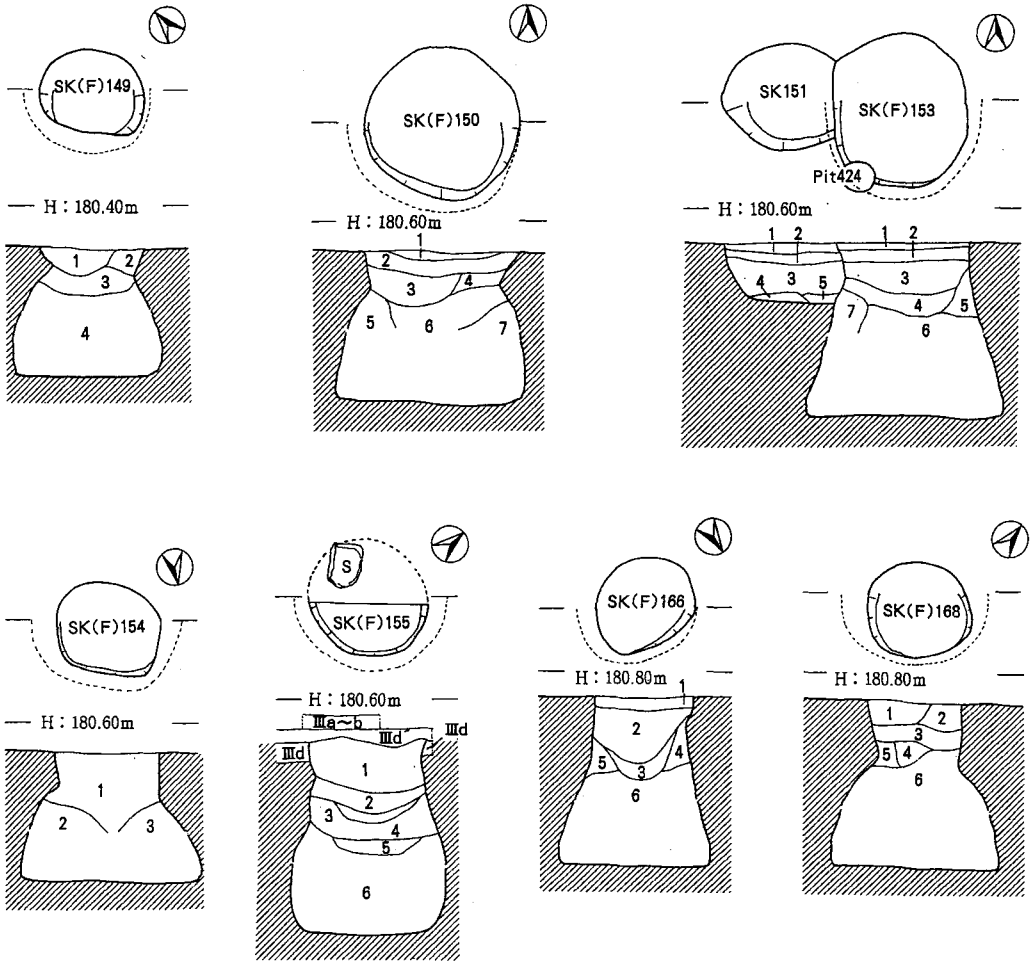
調査区中央部のJ－89グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。深さ推定103cm、口縁部径は82×64cmを測る。確認される堆積土は４ブロックに区分され、人為堆積である。

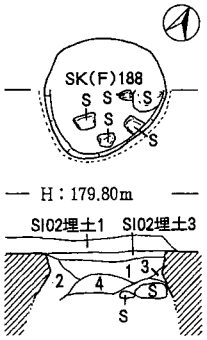
遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が６点出土している。

第150号フラスコ状土坑（第60図、第66図、第71図）

調査区北西端部のE－90、91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定122cm、口縁部径は120×109cmを測る。確認される堆積土は７ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が30点、凹石１点が出土している。





SK(F)149
1. 灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、シラス粒多量混入、ややしまる

SK(F)150
1. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物少量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／3)地山粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化粒微量混入、やや軟弱
6. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒、シラス粒多量、炭化物少量混入、ややしまる
7. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化粒微量混入、ややしまる

SK151
1. ニブイ黄燈色土(10YR7／4)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

SK(F)153
1. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 暗褐色土(10YR3／3)地山粒多量、炭化物少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる

SK(F)154
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
2. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
3. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる

SK(F)155
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒少量、炭化物微量混入、しまる
3. 黒褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、やや軟弱
4. 黒褐色土(10YR3／2)地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
5. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒多量、炭化粒微量混入、ややしまる
6. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる

SK(F)166
1. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる
3. ニブイ黄褐色土(10YR4／3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
4. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2／1)地山粒、炭化物微量混入、ややしまる
6. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒微量混入、しまる

SK(F)168
1. 暗褐色土(7.5YR3／4)地山粒少量混入、かたくしまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒少量混入、ややしまる
3. 黒褐色土(10YR2／2)地山ブロック、粒少量混入、ややしまる
4. 暗褐色土(10YR3／3)地山ブロック、粒多量、炭化物微量混入、ややしまる
5. 黒色土(10YR2／1)地山粒微量混入、ややしまる
6. 黒色土(10YR2／1)地山ブロック、粒少量、炭化物微量混入、ややしまる

SK(F)188
1. 暗褐色土(10YR3／4)地山ブロック、粒多量、炭化材、炭化物少量混入、しまる
2. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒微量、炭化物少量混入、ややしまる
3. 暗褐色土(10YR3／2)地山ブロック、粒多量、炭化物少量混入、軟弱
4. 黒褐色土(10YR2／2)地山粒多量、炭化物微量混入、ややしまる

0　2m

第60図　フラスコ状土坑実測図(3)

第153号フラスコ状土坑（第60図、第66図、第71図）

調査区北西端部のＥ－91、Ｆ－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット424、第151号土坑と重複し、本遺構は第132号土坑より新しく、ピット424より古い。深さ推定127cm、口縁部径は120×105cmを測る。確認される堆積土は７ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が25点、掻器１点が出土している。

第154号フラスコ状土坑（第60図、第66図、第71図）

調査区北西端部のＥ－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定101cm、口縁部径は86×68cmを測る。確認される堆積土は３ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が16点、土器片利用土製品２点が出土している。

第155号フラスコ状土坑（第60図、第66図、第71図、第72図）

調査区北西端部Ｆ－91グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定155cm、口縁部径は95×86cmを測る。確認される堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が41点、掻器２点、凹石１点、土器片利用土製品２点が出土している。

第163号フラスコ状土坑（第62図）

調査区北部Ｆ・Ｇ－93グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。ピット246と重複し、本遺構が古い。深さ推定156cm、口縁部径は93×67cmを測る。確認される堆積土は１ブロックのみで、人為堆積である。

遺構内より、遺物は出土しなかった。

第166号フラスコ状土坑（第60図、第66図）

調査区北部Ｅ－93グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ推定131cm、口縁部径は81×69cmを測る。確認される堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が20点出土した。

第167号フラスコ状土坑（第62図、第66図、第67図、第72図）

調査区北部Ｆ－93グリッドに位置し、Ⅲｄ層上面で確認した。深さ164cm、口縁部径は78×63cmを測る。堆積土は10ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が12点、板状石製品１点が出土した。

第168号フラスコ状土坑（第60図、第67図、第72図）

調査区北端部Ｄ－94グリッドに位置し、Ⅲｄ′層上面で確認した。深さ推定130cm、口縁部径は84×74cmを測る。確認される堆積土は６ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が69点、軽石製品５点が出土している。48、50は円形に整形したもので、51は板状の軽石に沈線によって渦巻き文様を施している。52は破損品

であるが球状の下部に薄く沈線が施文されているもので、53は石皿のミニチュアの破損品と思われる。

第170号フラスコ状土坑（第61図、第72図）

調査区北端部E・F－94グリッドに位置し、Ⅲd′層上面で確認した。深さ推定107cm、口縁部径は272×205cmを測り、歪な形である。確認される堆積土は5ブロックに区分され、人為堆積である。なお、№4の層は自然堆積と考えられる。

遺構内より、縄文時代後期前葉、中葉の土器破片が85点、土偶1点、軽石製品1点が出土している。54は破損品であるが、土偶の胴部で、女性を形取り、刺突による文様が施文されている。54は、軽石製品で三脚土製品に類似するものである。

第180号フラスコ状土坑（第62図、第67図、第72図）

調査区北部F－92グリッドに位置し、Ⅲd′層上面で確認した。深さ推定40cm以上、口縁部径は54×53cmを測る。確認される堆積土は2ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片が5点、掻器2点が出土している。

第182号フラスコ状土坑（第61図、第63図、第67図、第68図、第72図、第73図）

調査区中央部のL－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認したが、基本層序断面より本来の構築面はⅢd層上面と考えられる。第123号、第192号土坑と重複し、本遺構はいずれより古い。深さ推定125cm、口縁部径は重複のため不明である。確認される堆積土は4ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より、復元可能深鉢土器1点、縄文時代後期前葉の土器破片301点、掻器1点、敲石2点、磨石1点、石皿（破損品）1点、凹石7点、土偶1点、茸形土製品1点、土器片利用土製品3点が出土した。2は復元可能深鉢土器で、口縁部と胴部に隆沈文により区画がなされ、口縁部には隆沈により、胴部には沈線により渦巻き文が施文されている。器形は胴部が広がるだるま状のもので、色調は浅黄橙色である。76は板状土偶の右肩部分である。乳房と考えられる突起部から先端部に向かって細い沈線が施文されている。74は茸形土製品である。

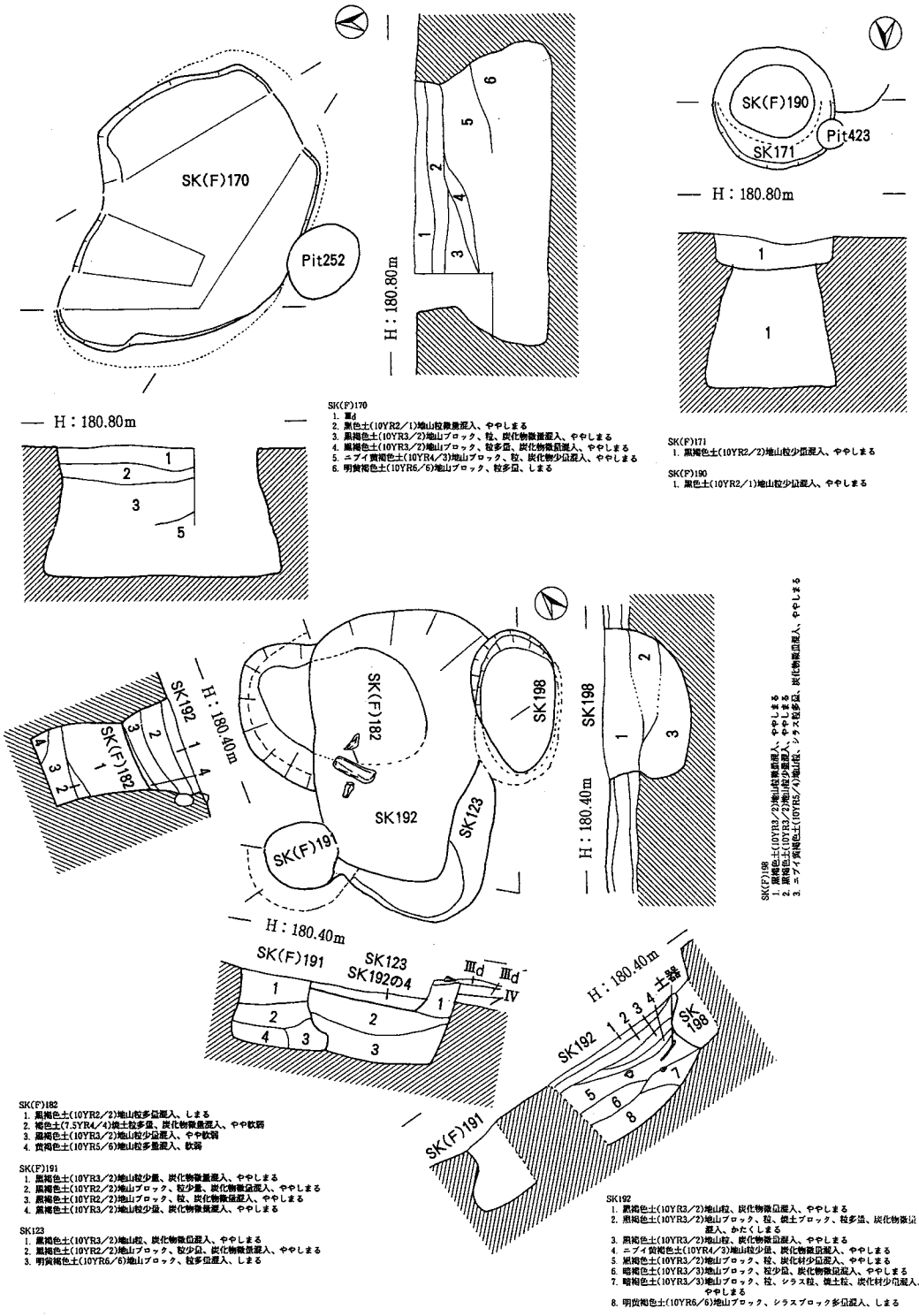
第186号フラスコ状土坑（第62図、73図）

調査区北部のF・G－92グリッドに位置し、第01号竪穴住居跡の床面で確認された。ピット277とも重複し、本遺構は、第01号竪穴住居跡、ピット277いずれより古い。深さ82cm、口縁部径は87×74cmを測る。確認される堆積土は3ブロックに区分され、人為堆積である。

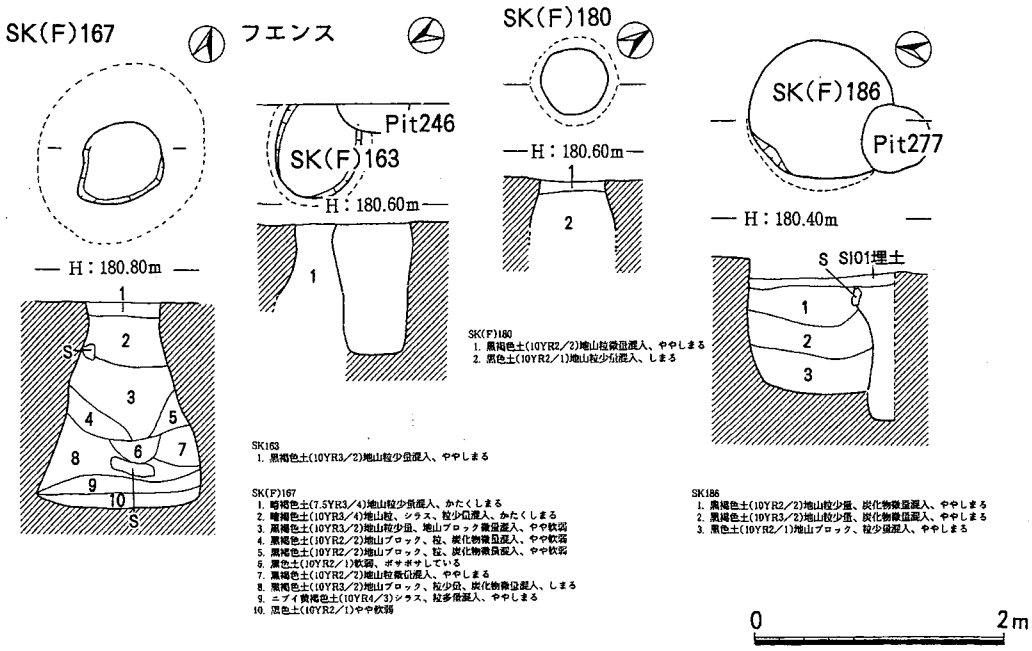
遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片6点、敲石1点が出土した。

第188号フラスコ状土坑（第60図、第68図）

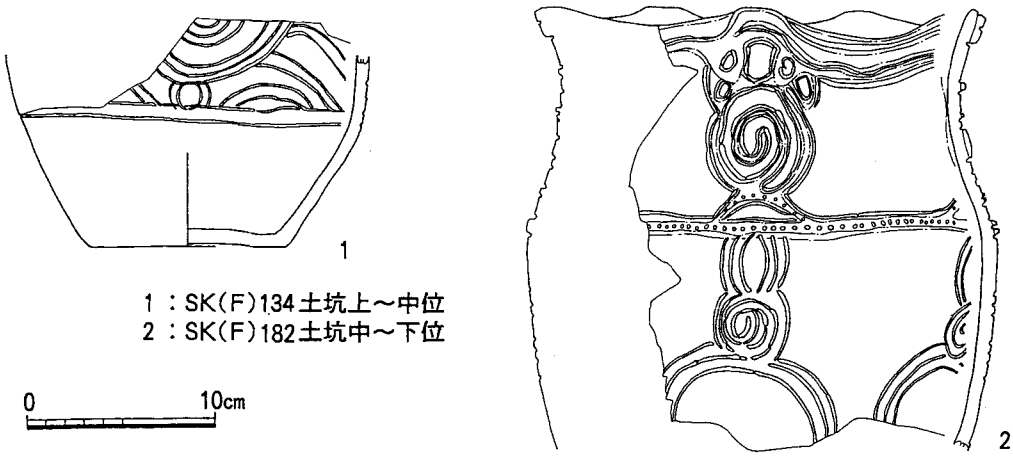
調査区東部のR－92グリッドに位置し、第02号竪穴住居跡の床面で確認された。深さ推定47cm以上、口縁部径は103×88cmを測る。確認される堆積土は4ブロックに区分され、人為堆積



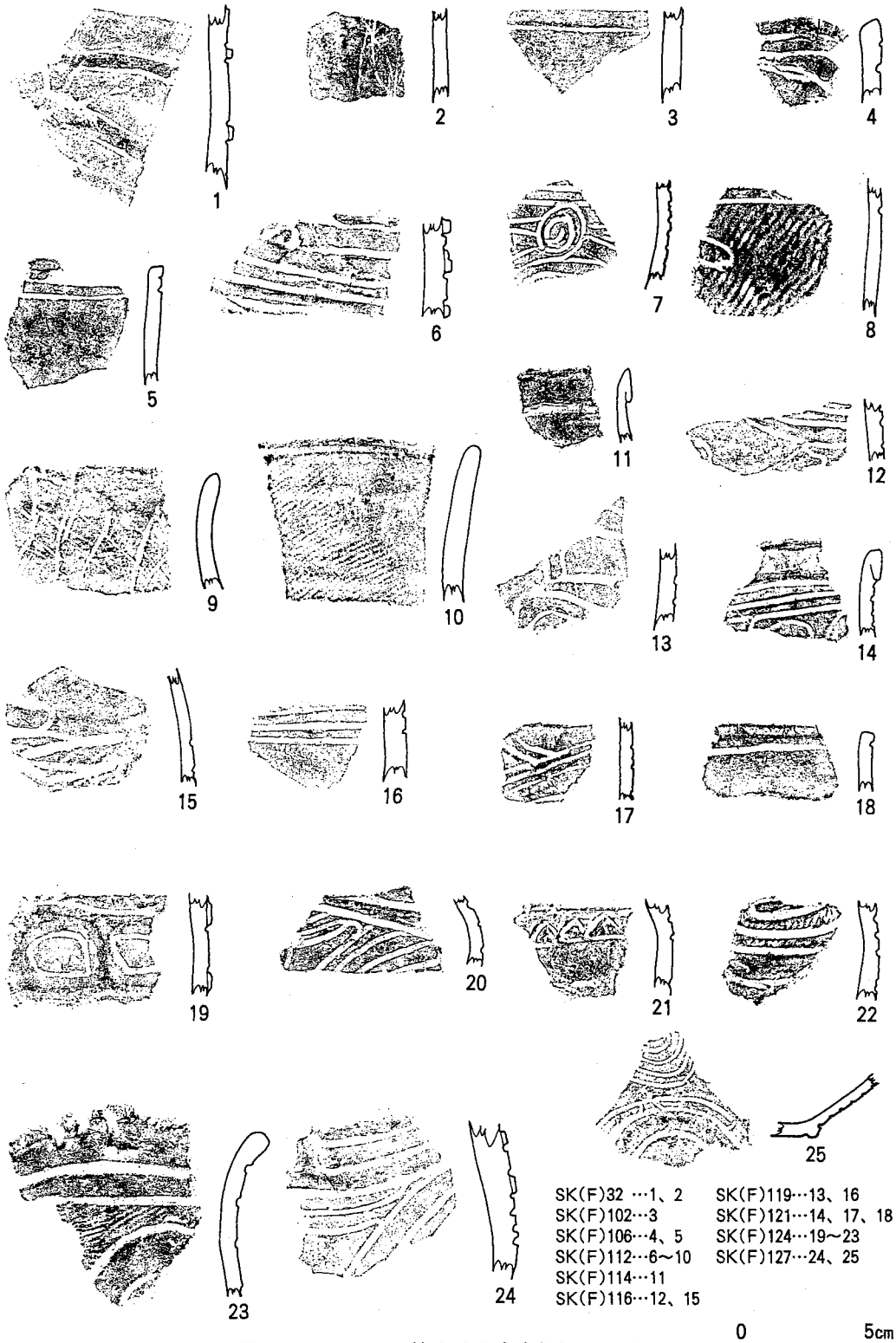
第61図　フラスコ状土坑実測図(4)



第62図　フラスコ状土坑実測図(5)



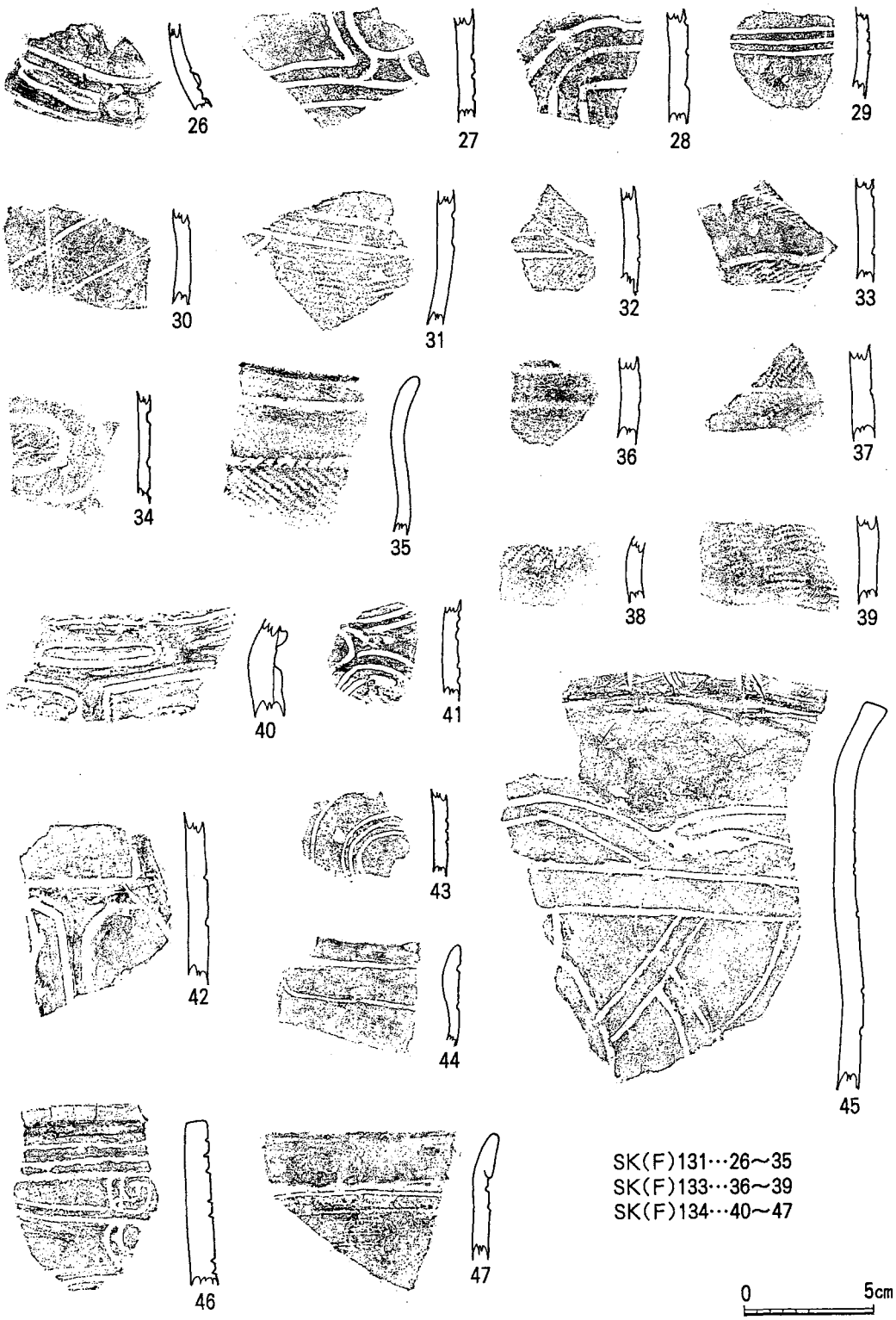
第63図　フラスコ状土坑出土土器実測図



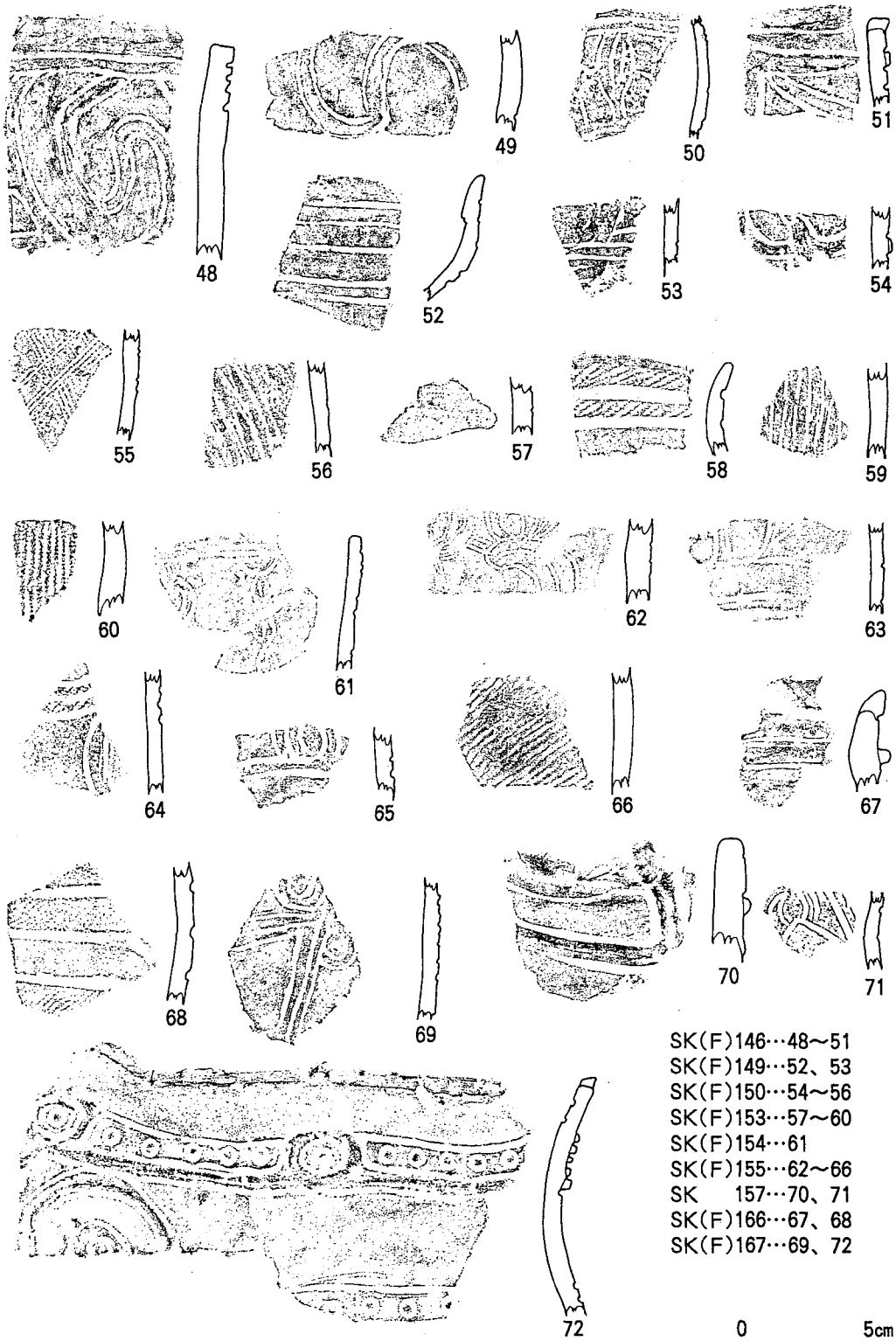
SK(F)32 …1、2
SK(F)102…3
SK(F)106…4、5
SK(F)112…6～10
SK(F)114…11
SK(F)116…12、15
SK(F)119…13、16
SK(F)121…14、17、18
SK(F)124…19～23
SK(F)127…24、25

0　5cm

第64図　フラスコ状土坑出土土器拓影図(1)

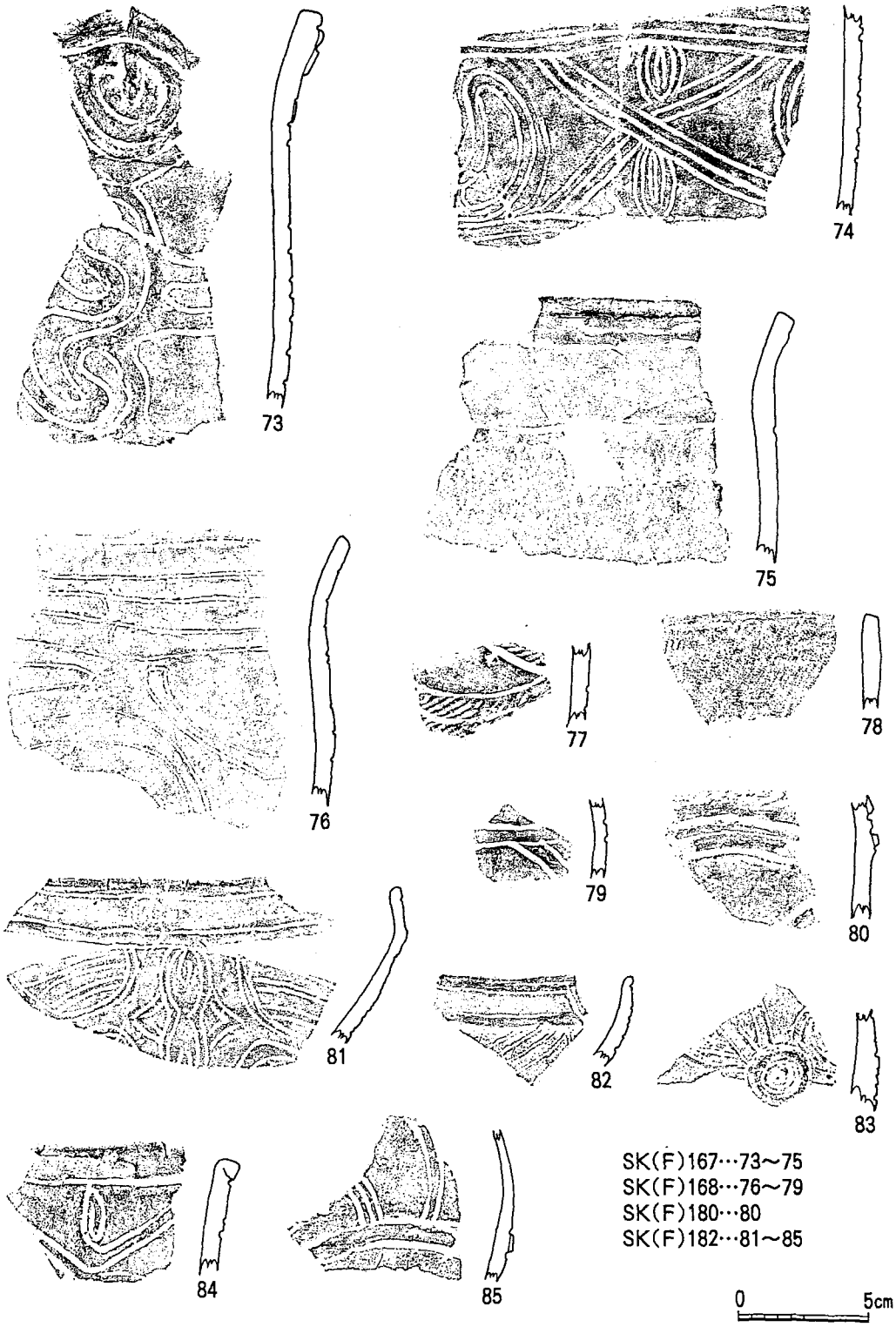


第65図　フラスコ状土坑出土土器拓影図(2)

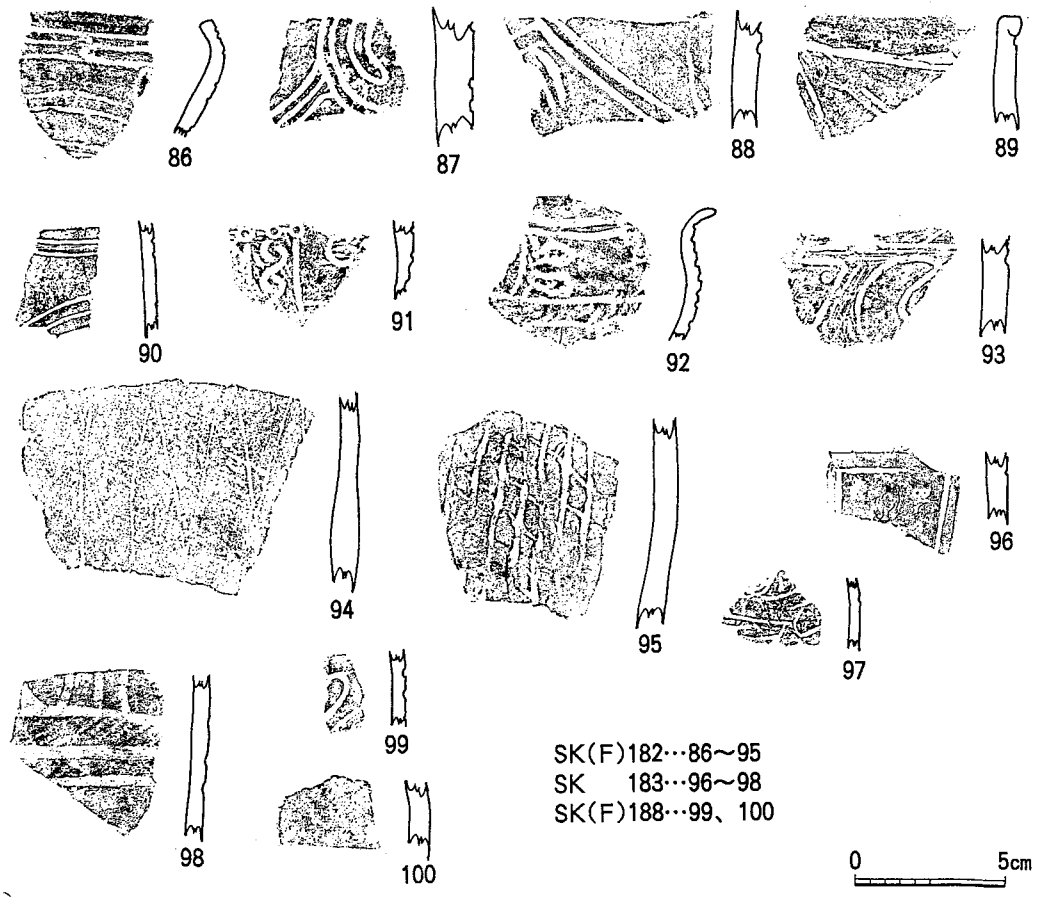


SK(F)146…48～51
SK(F)149…52、53
SK(F)150…54～56
SK(F)153…57～60
SK(F)154…61
SK(F)155…62～66
SK　157…70、71
SK(F)166…67、68
SK(F)167…69、72

第66図　フラスコ状土坑出土土器拓影図(3)



第67図　フラスコ状土坑出土土器拓影図(4)



第68図　フラスコ状土坑出土土器拓影図(5)

である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片が出土した。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

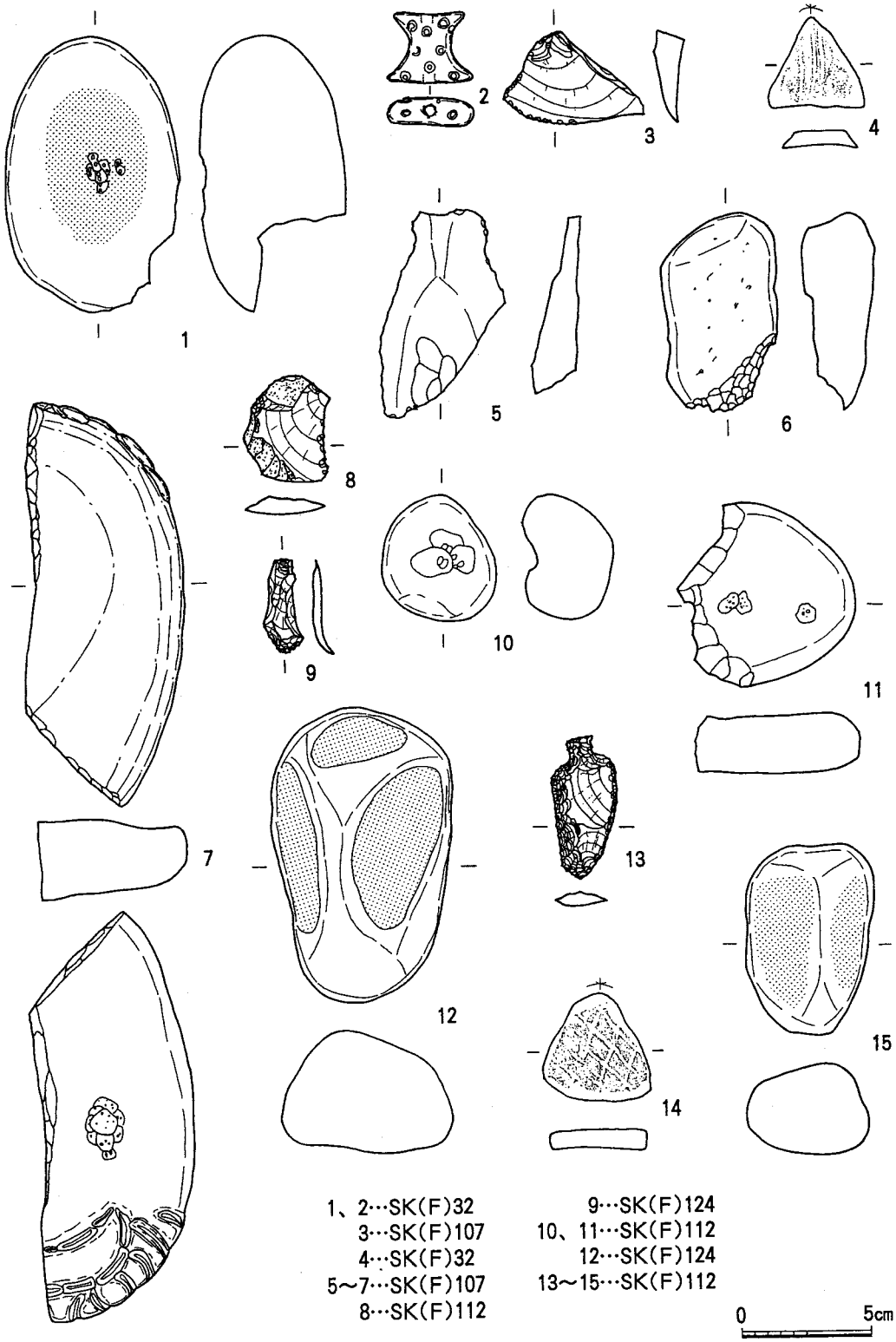
第190号フラスコ状土坑（第61図、第73図）

調査区北部のＦ－93グリッドに位置し、Ⅲｄ′層下面で確認した。ピット423、第171号土坑と重複し、本遺構はいずれより古い。深さ推定150cm、口縁部径は77×62cmを測る。確認される堆積土は１ブロックのみで、人為堆積である。

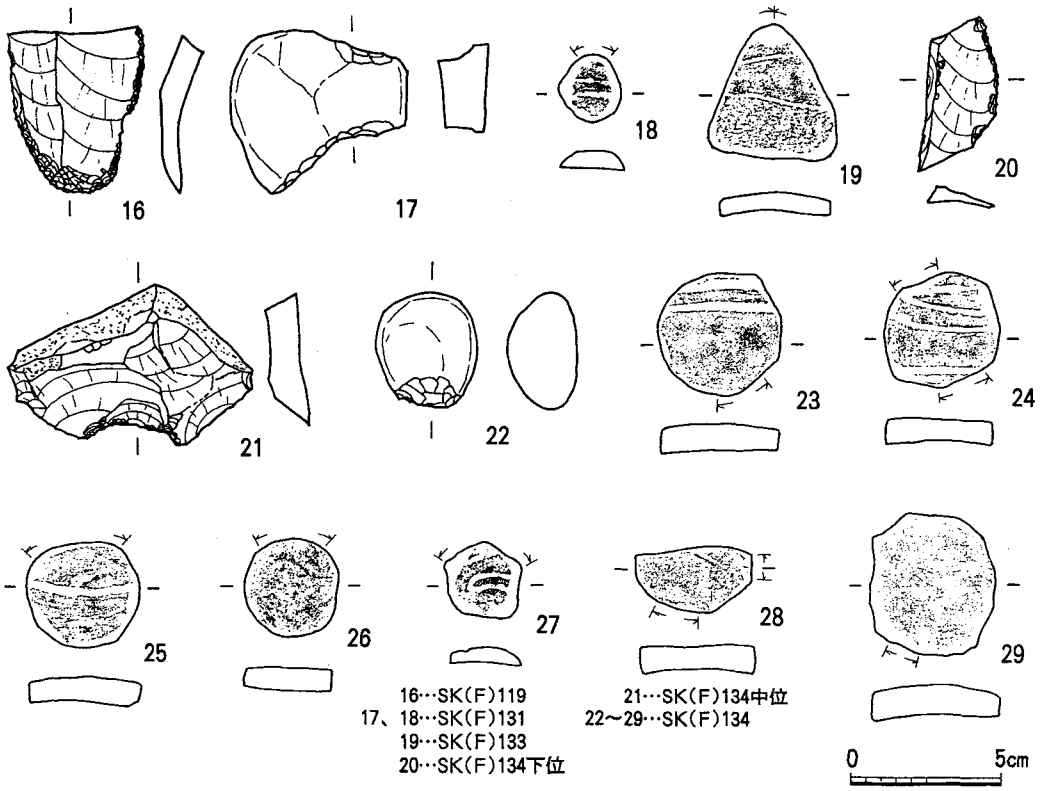
遺構内より、縄文時代後期前葉の土器破片10点、土器片利用土製品１点が出土した。

第191号フラスコ状土坑（第61図）

調査区中央部のＬ－88グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。第123号、第192号土坑と重複し、本遺構はいずれより新しい。深さ61cm、口縁部径は62×59cmを測る。堆積土は４ブロッ



第69図　フラスコ状土坑出土遺物実測図(1)



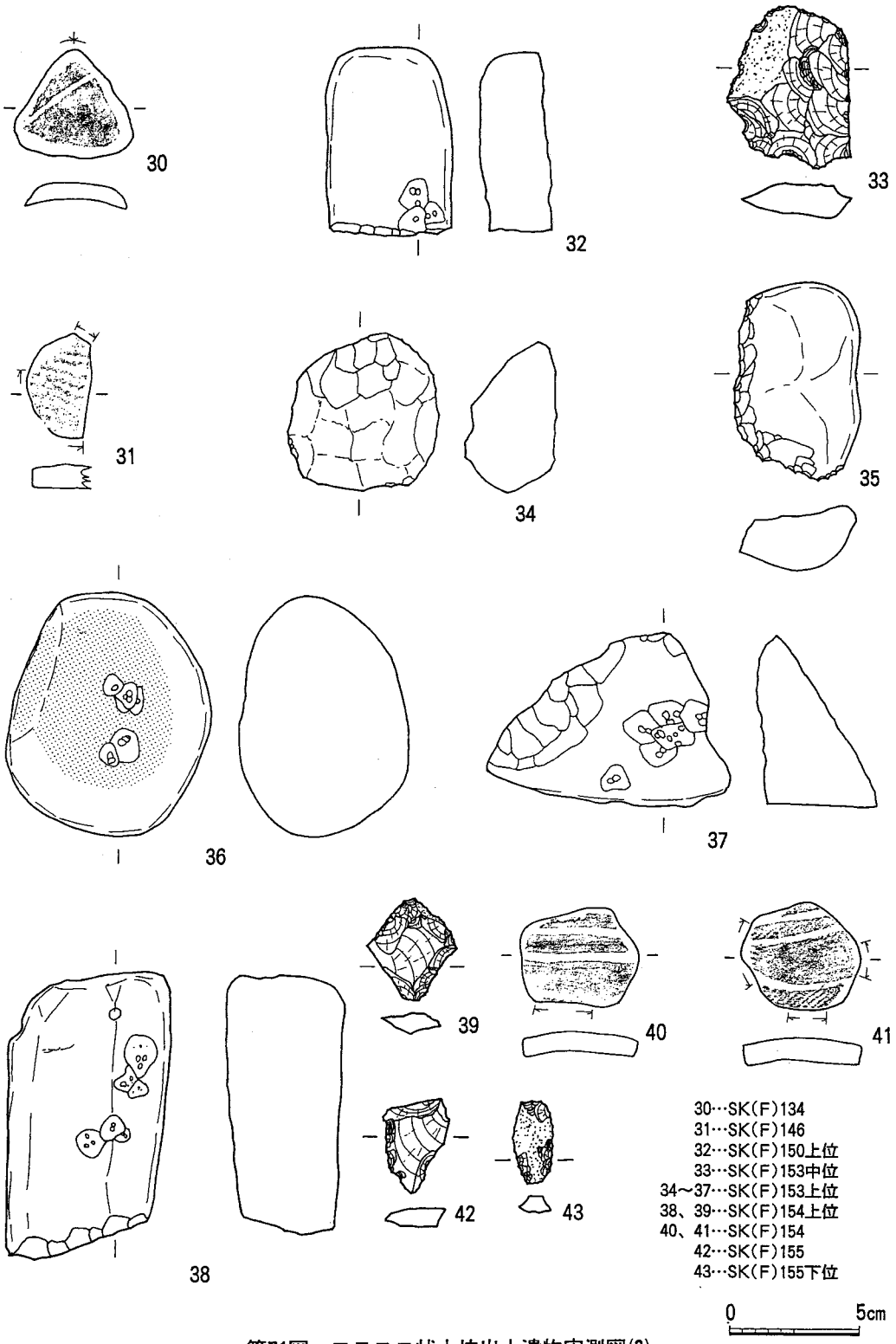
第70図　フラスコ状土坑出土遺物実測図(2)

クに区分され、人為堆積である。

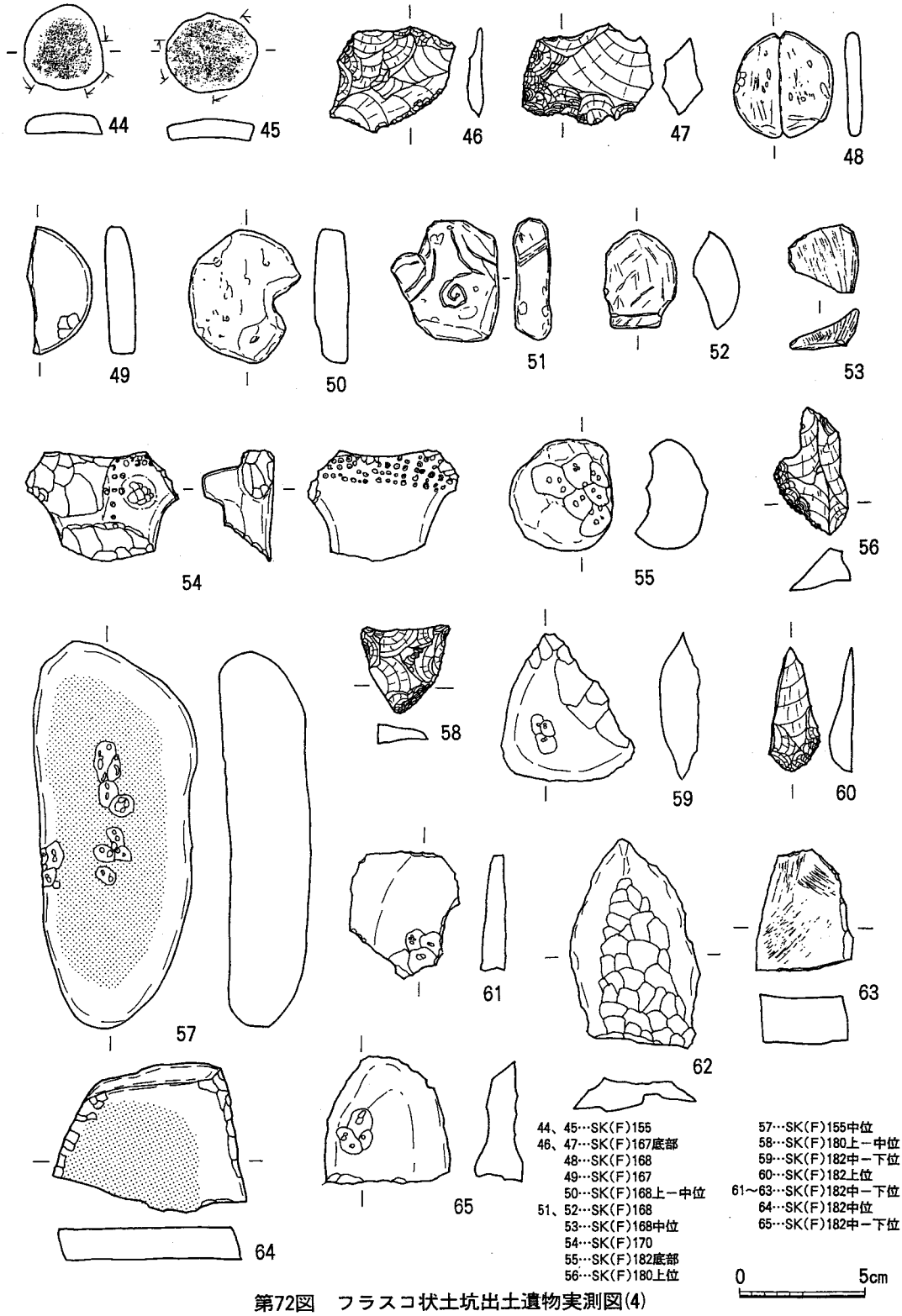
遺構内より、遺物は出土しなかった。

構築時期は周辺出土遺物より縄文時代後期と判断される。

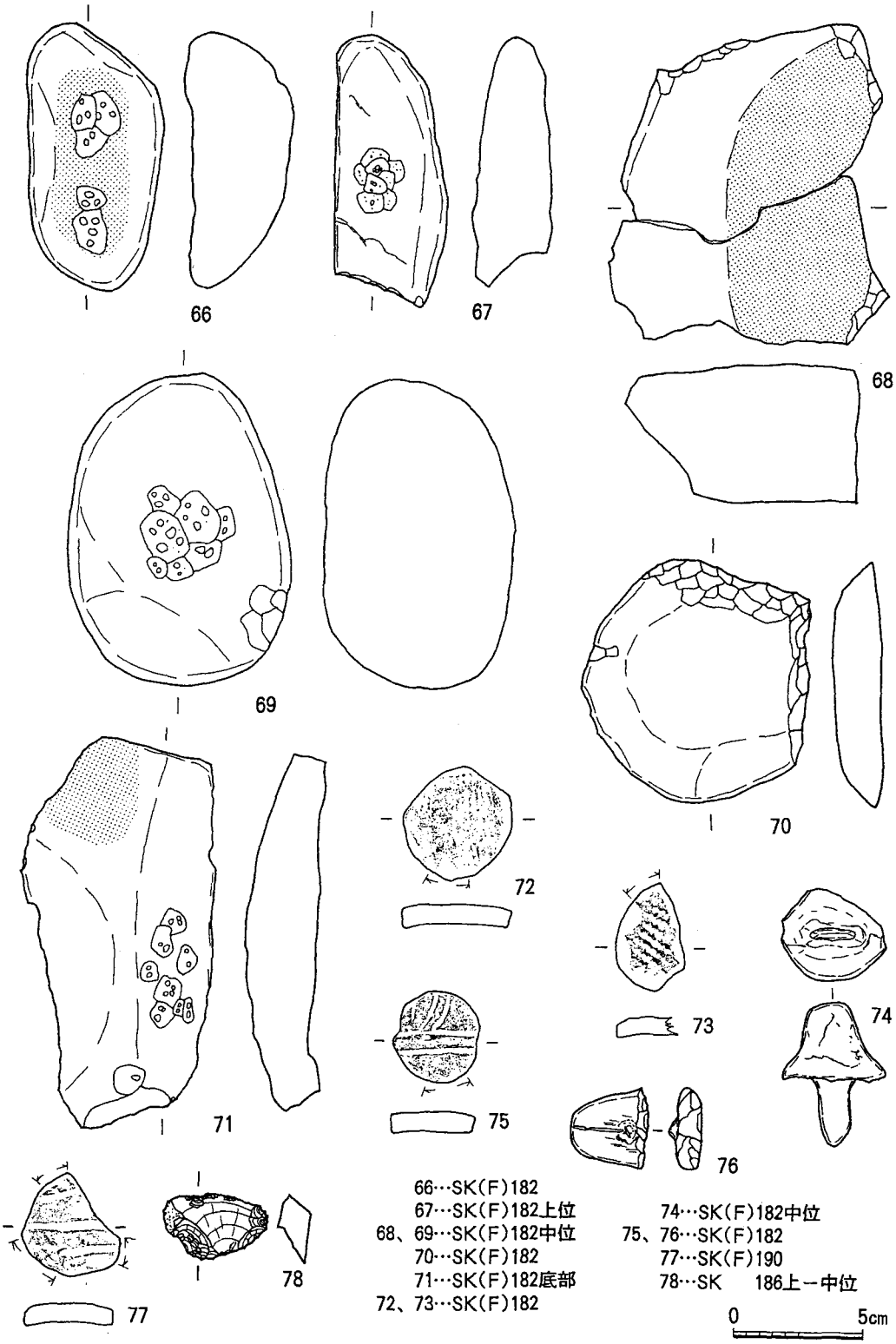
フラスコ状土坑の構築時期は第131号、170号フラスコ状土坑が縄文時代後期中葉と考えられ、それ以外は全て縄文時代後期前葉である。　（花海）



第71図　フラスコ状土坑出土遺物実測図(3)



第72図　フラスコ状土坑出土遺物実測図(4)



第73図　フラスコ状土坑出土遺物実測図(5)

8．遺構外出土遺物

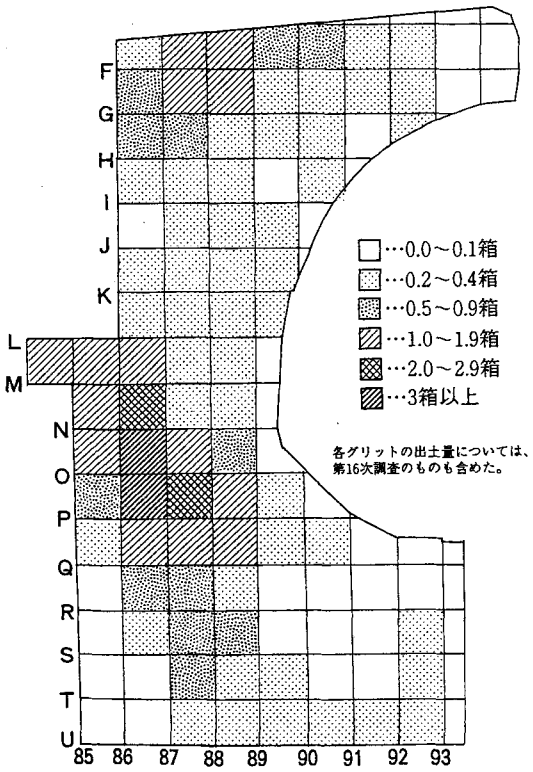
① 土　　器（第74図～第92図）

第17次発掘調査において、完形土器・復元土器（図化土器を含む）35点とコンテナ（規模縦54cm×横34.5cm×高さ20cm）59箱の土器破片の出土があった。

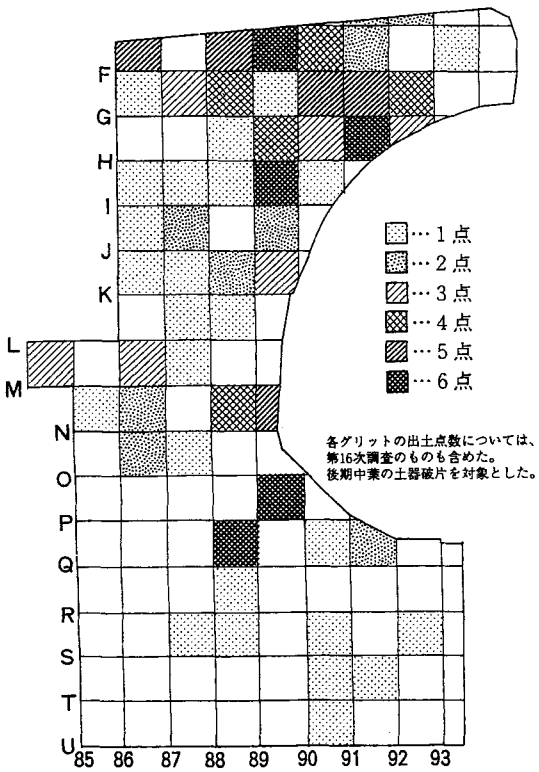
これらの土器は、縄文時代後期初頭から中葉に属するもので、出土量は後期前葉のものが圧倒的に多く、その出土層位は基本層序Ⅲb層～Ⅲd層からである。

第74図は各グリッドの出土量を図化したものであるが、野中堂環状列石よりやや離れた位置、言いかえると遺構の密集する地域を取り巻くように分布しており、このような状況は万座環状列石の分布状況においても同様のことが看取された。さらにその密度は、野中堂環状列石の西側及び南側に偏在する傾向が見られる。

第75図は後期中葉の土器破片を摘出し、各グリッド毎の出土量を図化したものである。第74図と比べ特徴的なことは、野中堂環状列石外帯に近い所からの出土が多いことに気付く。また野中堂環状列石の西側隣接地の密集部は第01号竪穴住居跡と同列石南側の密集部は張出施設を持った第01号石囲炉と位置的に一致する。



第74図　土器破片分布状況(1)



第75図　土器破片分布状況(2)

第83図は、出土した土器を各グリッド毎に集合させたもので、当然ながら出土量の多いグリッドからは複数体の完形・復元土器が出土している。M—86グリッドには沈線文系の土器、O—86グリッドからは帯縄文系の土器に偏っていることが看取される。

土器の分類については、時期ごとに群別し、文様や施文技法で分類した。なお、遺構外より出土した完形・復元土器（図化した土器）の出土グリッド及び層位、法量、色調等については第６表に記載した。

第Ⅰ群土器　　縄文時代早期～前期の土器

本調査区より出土しなかった。なお、第16次発掘調査報告書に掲載し説明した第Ⅰ群1類土器は縄文後期中葉の十腰内Ⅱ式土器、同群２類土器は後期初頭～前葉の十腰内Ⅰ式土器に伴うものである。

第Ⅱ群土器　　縄文時代後期初頭～前葉の土器（第76図～第89図）

本群土器は、縄文時代後期初頭から前葉に位置付けられるもので、本群土器は十腰内Ⅰ式に比定されるものである。なお、本群4類土器は大湯式土器の特徴を持ったものである。

１類：隆線文、隆沈文の土器（第76図１、第84図１～９）

深鉢、壷がみられ、波状口縁を呈した深鉢が主体となる。文様帯は隆線文、隆沈線で区画され、深鉢では胴部２／３まで、壷は胴部最張部にまで及ぶ。１～２は深鉢の口縁で楕円形文が施文されている。３～９は隆沈文の施された深鉢で、文様帯の区画は隆線文の土器と同様である。１は復元された大小の６つの山形突起を有する深鉢で胴部に主文様帯を持つ。文様帯は楕円形文によって縦位に区画され、区画された文様帯内には方形文、楕円形文、三角形文が効果的に充填されている。焼成は非常に良く、色調は橙色～灰褐色を呈する。３～５は楕円形文や幾何学文、６～７は渦巻文が主文様となる。６～７は隆沈文上に縄文、８～９は刺突が施されている。焼成は良好なものが多く、色調は橙色、灰褐色を呈する。

２類：地文上に沈線文が施文される土器（第84図10～15）

深鉢が主体となり、波状口縁を呈するものが見受けられる。口縁部上端に隆沈線により楕円形文を施文するものやボタン状の粘土の貼り付けを行うものもある。文様帯は口縁・胴部に区画され、弧線文、渦巻文、Ｓ字文が主文様となり、14～15には入組文の萌芽が見られる。10は深鉢の胴部下半で、1条の沈線により縦走する曲線文とこれに連結する弧線文が施されている。器面には地文としてＬＲ縄文が施文されるものが多い。本類土器の焼成は良好で、色調は赤褐色、暗赤褐色等を呈する。

３類：沈線文の土器（第76図２～第77図８、第84図16～第86図49）

無文研磨された器面上に１～数条の沈線、平行沈線によって主文様を描き出したものを一括した。また、隆沈文によって文様帯が区画されたものも含めた。器形としては深鉢、浅鉢、壷が主体となる。主文様が展開される方向や特徴から細分した。

ａ：主文様が縦位方向に施文される土器（第76図２・３、第85図22～27、第86図49）

主文様としてＳ字文、渦巻文、弧線、円形文、楕円形文が縦位方向に施文された土器を一括した。深鉢、鉢、浅鉢、壷が主体となり蓋形土器も見られる。深鉢は波状または山形口縁を呈し、文様帯は胴部上・下半に区画される。

２は小さな山形口縁を呈する深鉢で、口縁部と胴部に文様帯を有する。口縁部文様帯は垂下する２条の沈線によって方形に区画されている。胴部文様帯には、２段に渡り弧線文が施文され「ウロコ状」の文様を呈している。３は浅鉢で口縁部より底部へ垂下・蛇行する沈線が施文されている。25～27は楕円文・円文が縦位方向に施文された後、区画された内部を楕円文によって充填している。28～36は深鉢、浅鉢、壷の破片でＳ字文、渦巻文が主文様となり、楕円形文、弧線文が付加されている。49は底部に文様が施されるもので渦巻文と変形した楕円形文が施文されている。

本類土器の焼成は良好で、色調はにぶい褐色、橙色等を呈する。

ｂ：斜行する平行沈線文の土器（第86図43～46）

文様が縦位方向に展開することから本類ａの範疇に入るものと想定されるが、文様の特徴から細分した。波状口縁を呈する深鉢が主体となる。43～44は斜行する沈線が交差し、格子目状の文様が施文されている。43には粘土紐の貼り付けが見られる。45～46は縦方向に施文された沈線を挟み、いわゆる「杉葉」状の文様が施文されている。

本類土器の焼成は良好で、灰褐色、暗赤褐色を呈する。

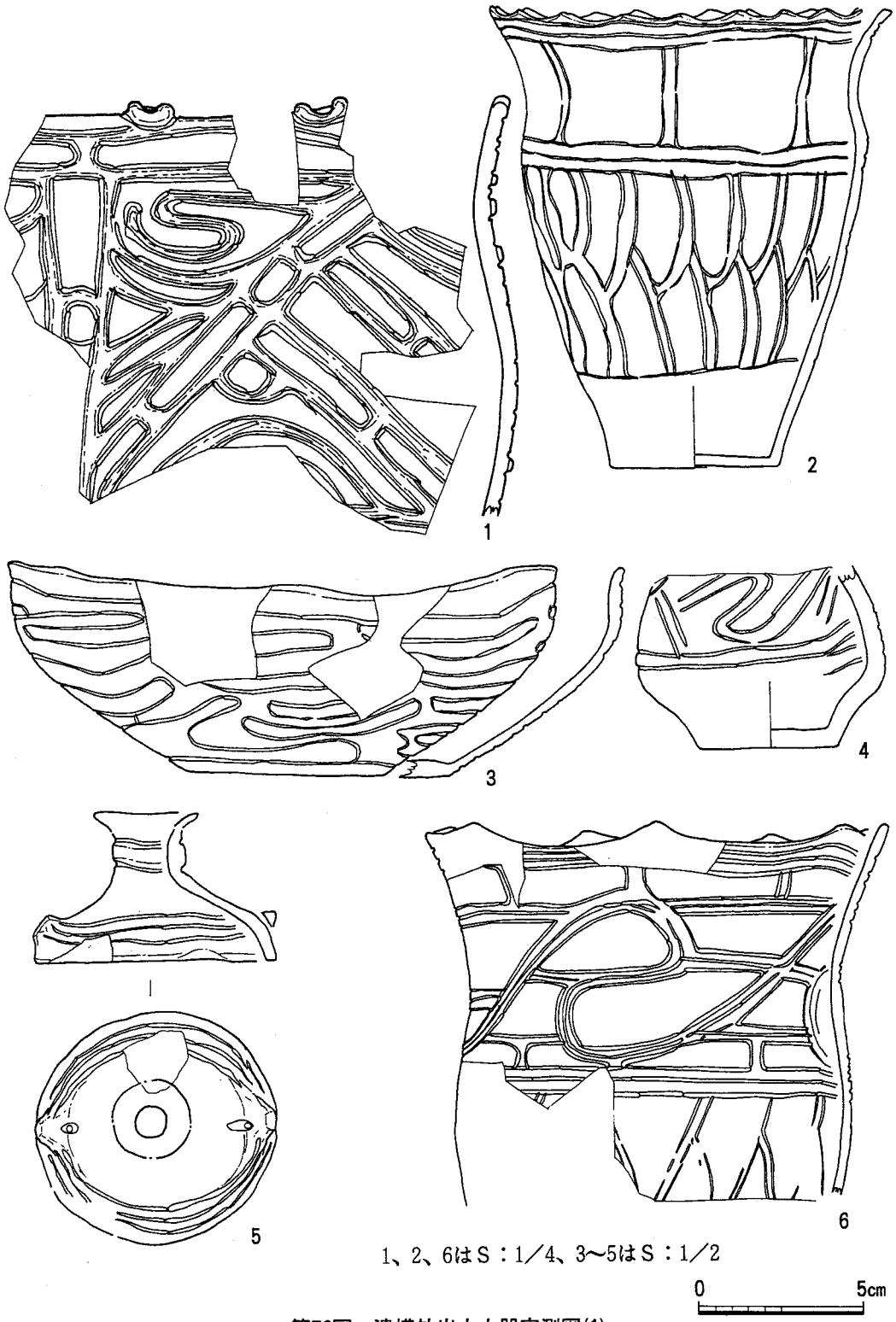
ｃ：主文様が横位方向に施文される土器（第77図７～８、第85図33、第88図50～55）

器形は深鉢、鉢、浅鉢、壷が主体となるが、蓋状のものも見られる。深鉢、鉢とも波状または山形口縁を呈するものが多い。深鉢の文様帯は胴部上半に限定されるもの、胴部２／３付近まで広がっているものがある。８は山形口縁を呈する深鉢で、文様帯は胴部２／３にまで及び、入組文を主文様とし弧線文が付加されている。７は山形口縁を呈する鉢で、頭頂部に粘土粒の貼り付けが行われる。文様帯は胴部ほぼ全域に及び、波状文を主文様とし弧線文や三角形文が付加されている。33はミニチュア土器で横位に流れる曲線文が施文されている。
50～55は主文様として入組文が施文されるもので、54は蓋形土器の口縁部破片である。

本土器は焼成が良好なものが多く、色調はにぶい橙色、にぶい褐色を呈する。

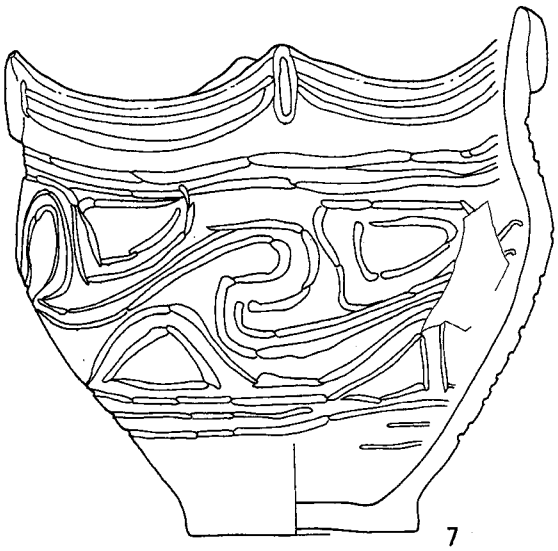
ｄ：幾何学的な文様が施文される土器（第86図46～47）

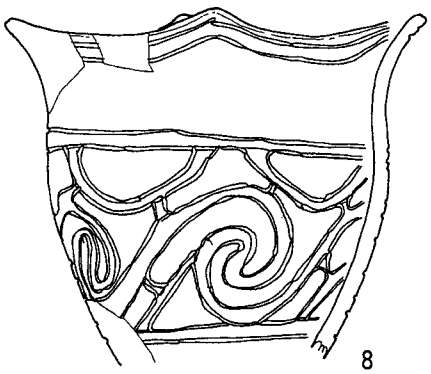
器形は深鉢が主体になるものと考えられる。46は菱形文、47はＵ字文が重層施文されている。

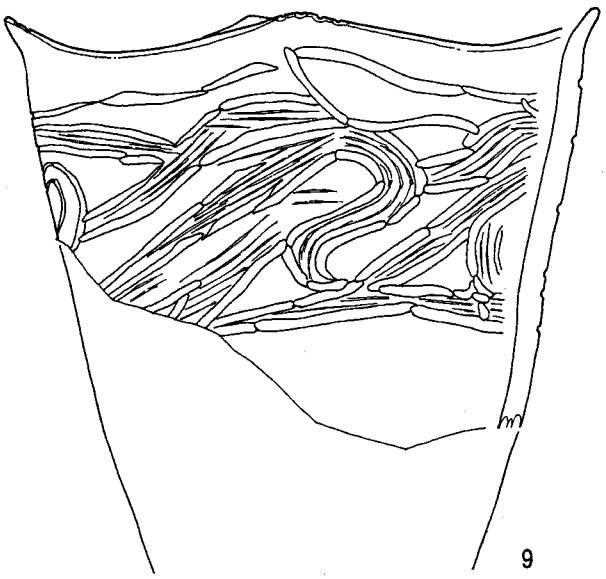


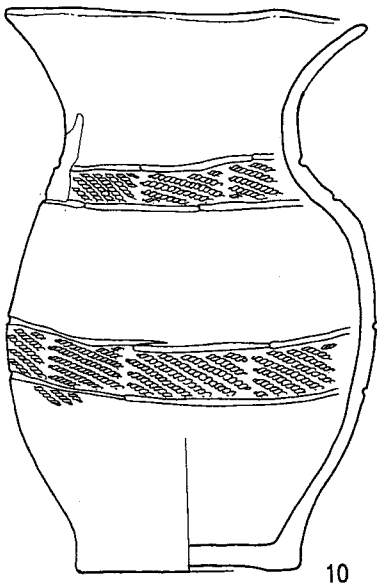
1、2、6はＳ：1／4、3～5はＳ：1／2

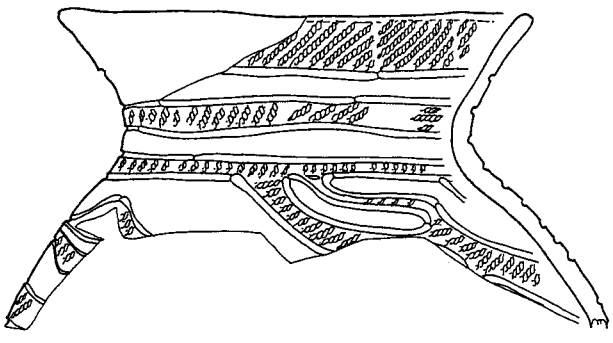
第76図　遺構外出土土器実測図(1)











8はS：1／4

0　5cm

第77図　遺構外出土土器実測図(2)

本類土器の焼成は良好で、暗赤褐色を呈する。

４類：磨消縄文が施文される土器

幅の狭い磨消縄文によって文様が施文されるものを一括した。なお、沈線間に条痕文が充填されるものも本類に含めた。

ａ：主文様が縦位方向に施文される土器（第79図13、第88図59～60、64～68）

深鉢、鉢、壷が主体となる。大湯環状列石特有の片口土器に本類の文様が描かれるものも有る。深鉢の文様帯は胴部上半に区画される。13は刻目の付けられた小さな山形口縁を呈する深鉢で、胴部上半に文様帯を持つ。文様帯は直線的な入組文によって上下2段に区画され、弧状文が重ねられている。沈線間にはＬＲ縄文が充填される。60は小型深鉢で文様帯内に花弁状文がされている。64・66は弧線文、66にはＳ字文が施文されている。

本類土器の沈線間に充填される縄文はＬＲ縄文が多い。焼成は良好なものが多く、色調は灰褐色、にぶい褐色等を呈する。

ｂ：幾何学的な文様が施文される土器（第88図77～84）

小型の深鉢、鉢、壷が主体となる。深鉢は波状口縁を呈する。幾何学的な文様や楕円形文・円文等を巧みに配置し文様としている。沈線間にはＲＬ・ＬＲ縄文が充填される。88～89は深鉢の胴部破片で沈線間に条痕が充填されている。焼成は良好で、色調は赤褐色、暗褐色を呈する。

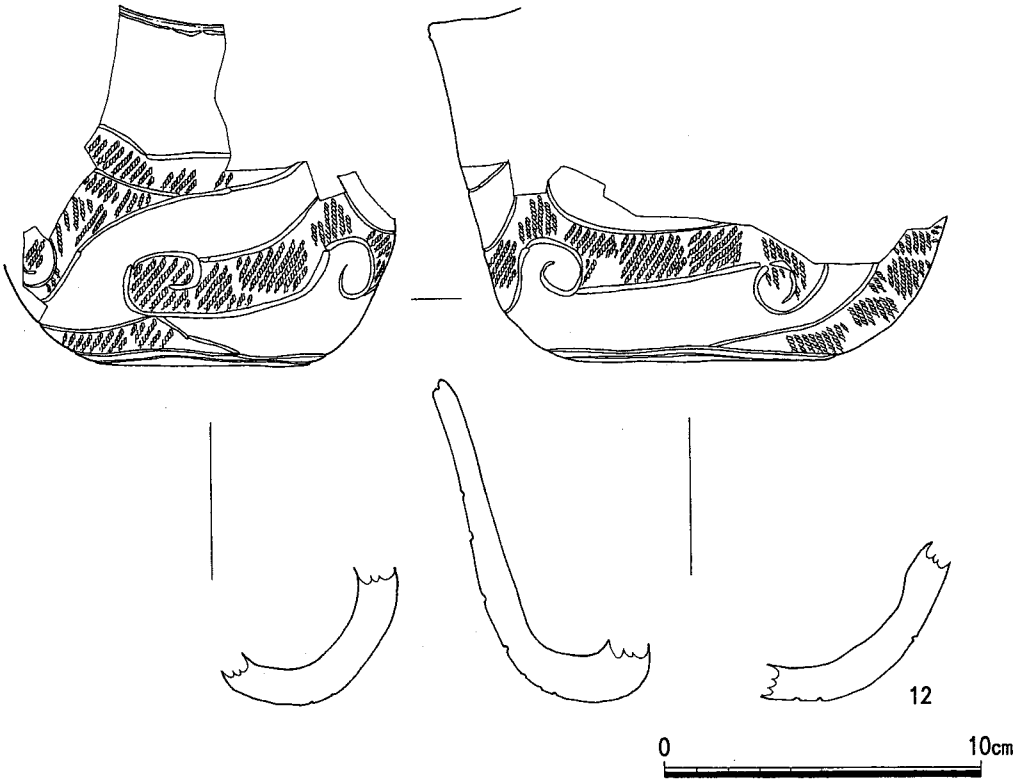
ｃ：主文様が横位方向に施文される土器（第77図、第78図12・14、第88図、第89図71～75）

主文様が横位方向に施文されるものを一括した。深鉢・壷を主体に、鉢、双口土器も見られる。文様帯には入組文、波状文等が施文される。12は双口土器と考えられる復元土器である。本体は空洞化したドーナツ状を呈し、相対する位置に注口を持つ。文様帯は胴部全域に渡り、帯縄文と無文帯を効果的に配置し入組文的な文様を施文している。沈線間にはＬＲ縄文が充填されている。14は平口縁を呈する大型の深鉢で、文様帯を胴部上半に有する。文様帯は２～３条の沈線で区画され、主文様として入組文が施文されている。沈線間に太いＬ縄文が充填されている。71～75は深鉢、壷の破片で、主文様として入組文、波状文が施文されている。

本類土器は、焼成が良好で、色調は灰褐色を呈するものが多い。

ｄ：帯縄文の幅が広くなる土器（第99図15、第89図91～93）

深鉢が主体となり、壷もみられる。帯縄文の幅が本類ａ～ｃに比べ広く、文様も直線的なものが多くなる。15は復元された大型の深鉢で、口唇部に刻目を有する。文様帯は底部付近にまで及ぶ。文様帯内に弧線文、Ｌ字文を配置し主文様とし、沈線間には条の大きなＬＲ縄文を充填させている。二次加熱を受けやや脆くなっている。91～93は深鉢の胴部上半の破片で文様帯には直線的な文様が施文されている。沈線間にはＬＲ縄文が充填されている。



第78図　遺構外出土土器実測図(3)

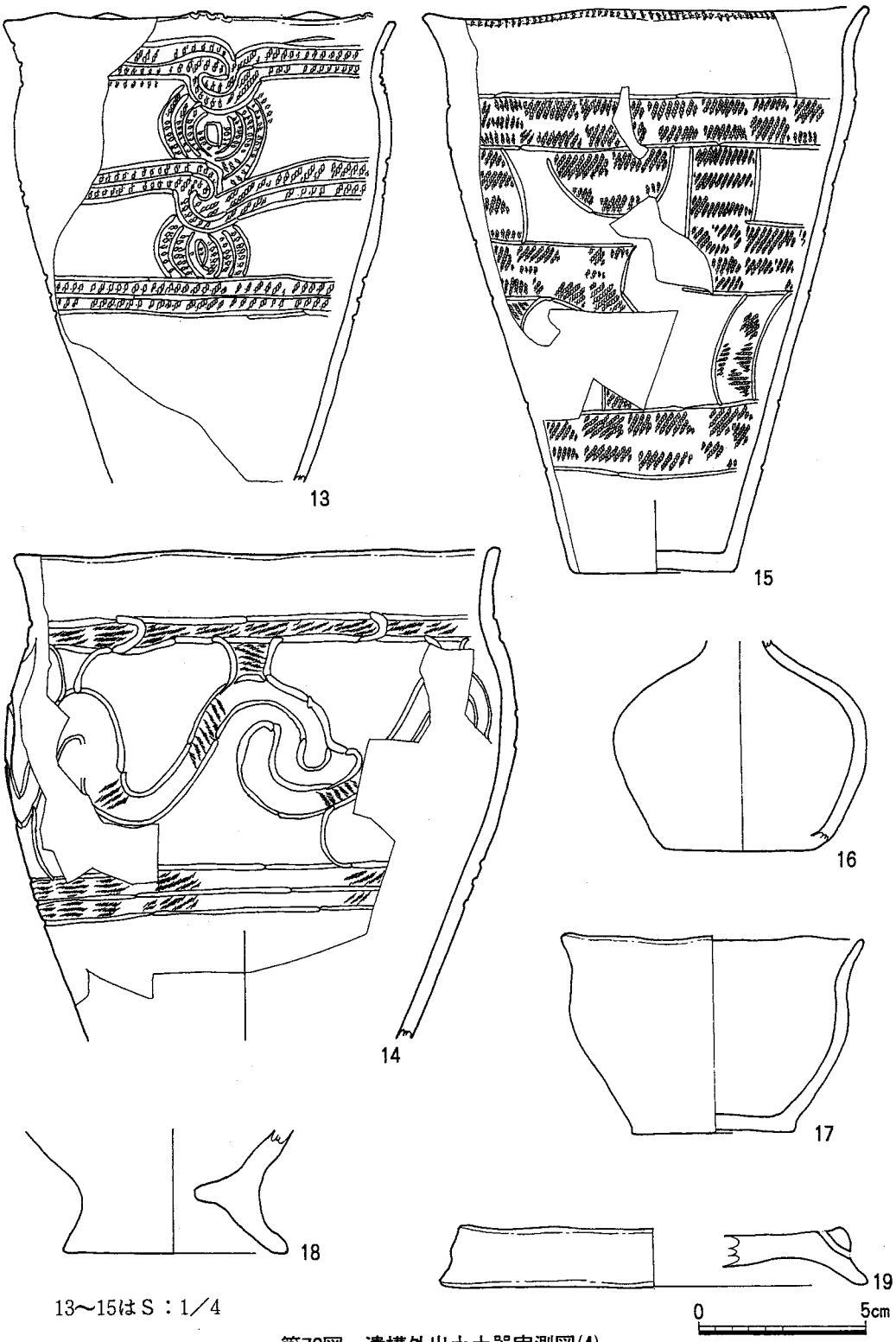
本土器の焼成は良好で、色調は橙色、にぶい褐色を呈する。

第Ⅲ類土器　縄文時代後期中葉の土器（第90図～第92図）

本群には縄文時代後期中葉の土器を一括した。東北地方北部の十腰内Ⅱ式、Ⅲ式土器に、東北南部の宝ケ峰式、関東地方の加曾利Ｂ１式、Ｂ２式に比定されるものである。

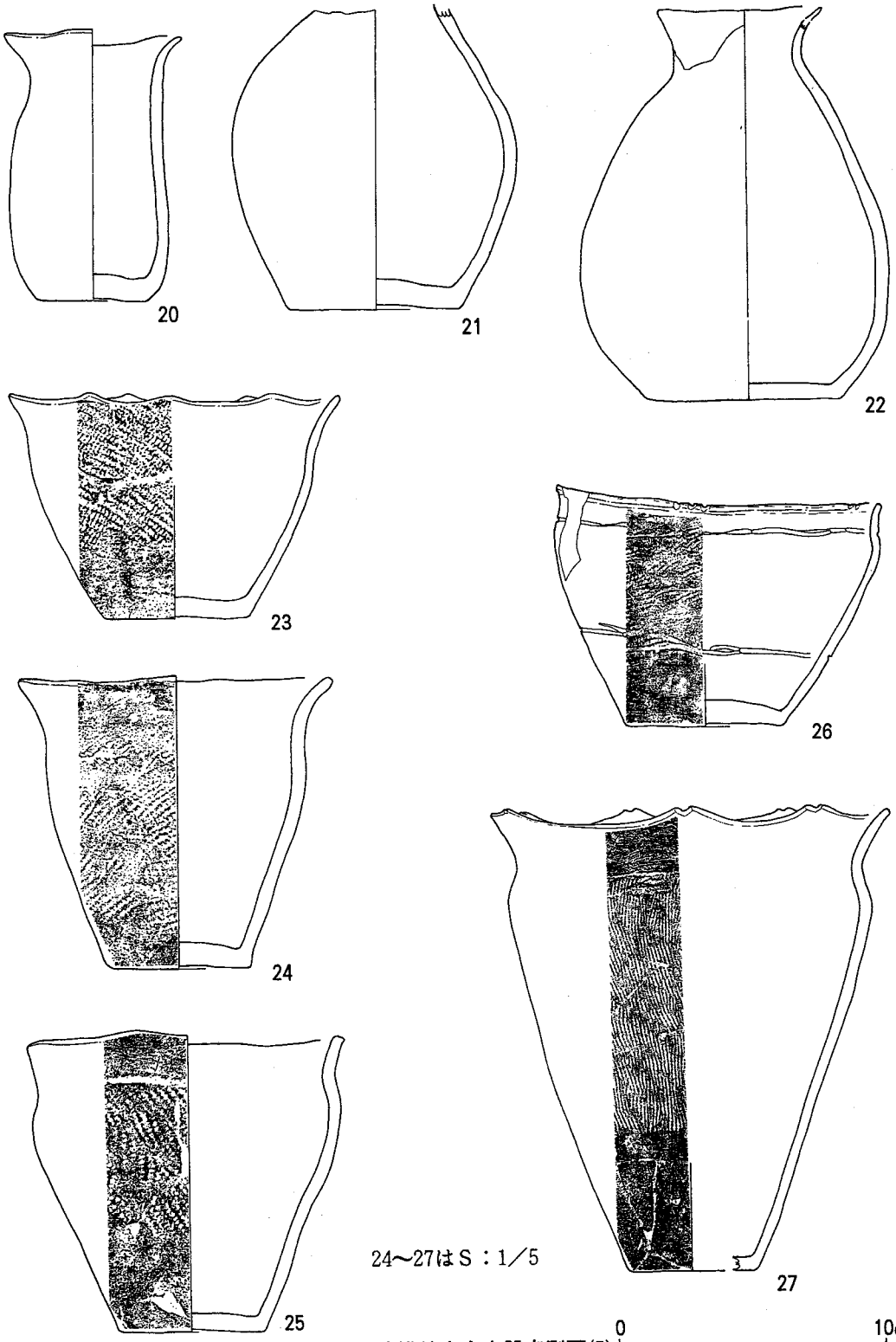
１類：平行沈線が主文様となる土器（第90図94～104）

口縁部に多条の平行沈線を施文するものを一括した。装飾突起を有する深鉢、平口縁を呈する浅鉢が主体となる。98は深鉢の口縁部破片で装飾的な突起を有する。口縁部は胴部から「朝顔状」に開き、口唇部は肥大化し、その断面は方形を呈する。口縁部文様帯に３～４条の平行沈線を施文し、弧線によって沈線を連結している。沈線間にはＬＲ縄文が充填されている。焼成は非常に良く、色調は黒褐色を呈する。94～104は深鉢、浅鉢の口縁部・胴部破片で、沈線を弧線または刺突によって連結している。沈線間には条のこまかなＬＲ縄文が充填されるが、99のように縄文が施文されないものも見られる。本類土器の焼成は良く、色調は黒褐色、赤褐色を呈する。

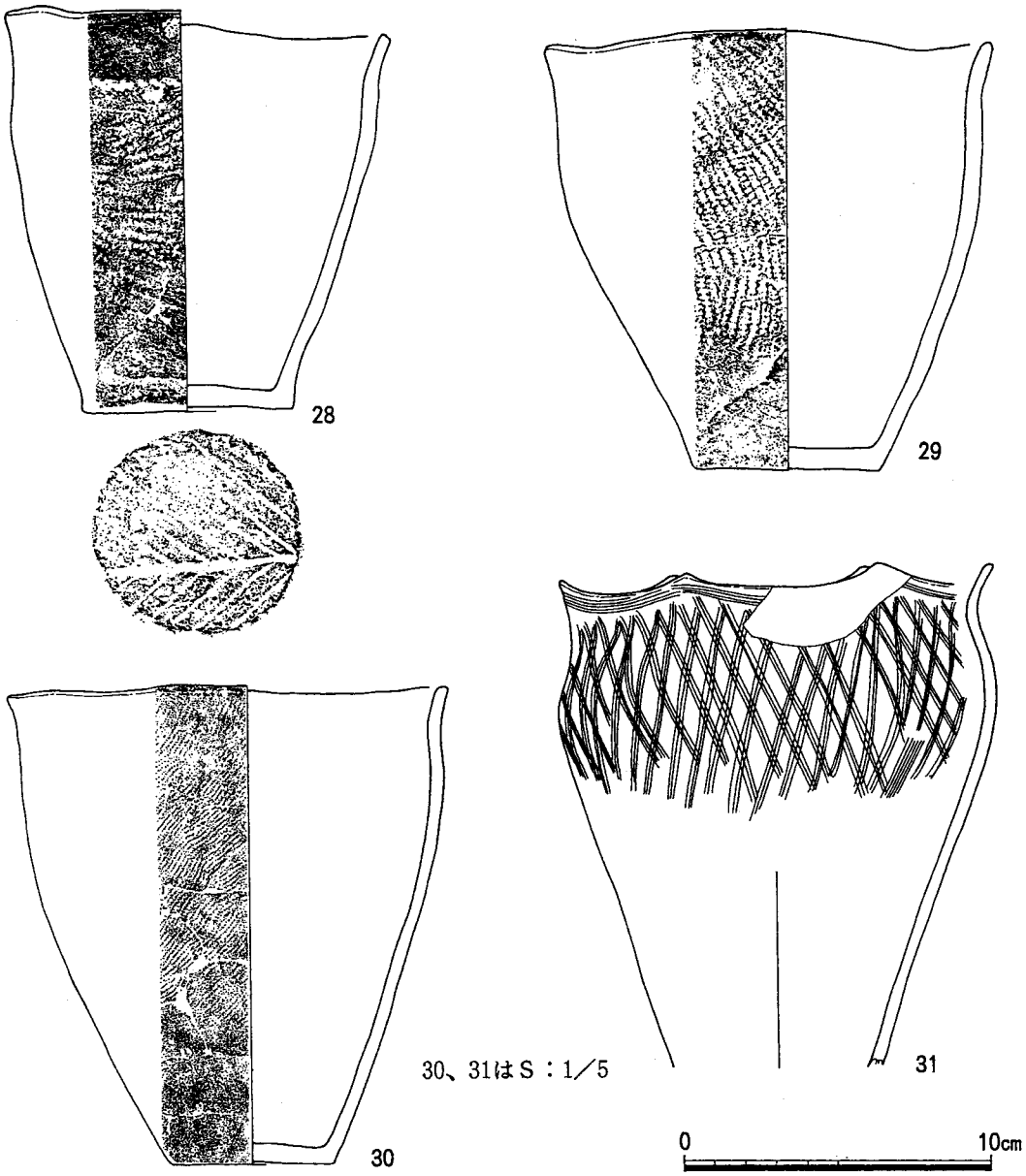


13〜15はＳ：1／4

第79図　遺構外出土土器実測図(4)



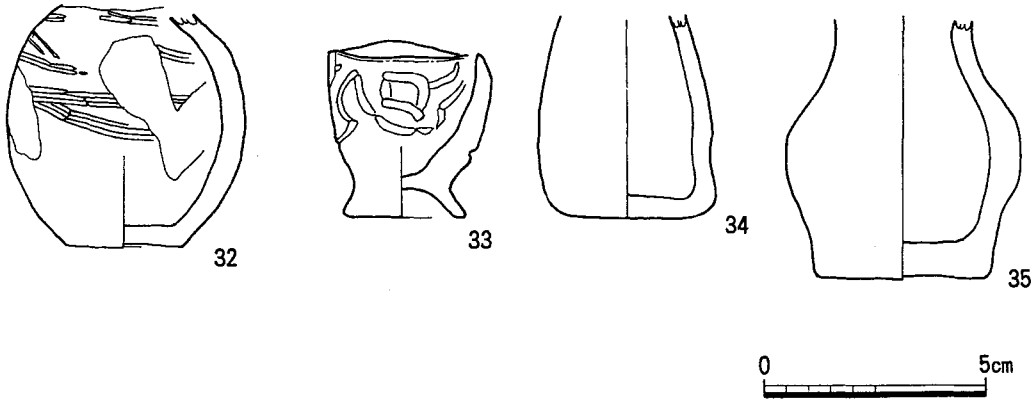
第80図　遺構外出土土器実測図(5)



第81図　遺構外出土土器実測図(6)

２類：磨消縄文の土器（第90図105～第91図117）

曲線的な沈線で描き出した幾何学的な磨消縄文が施文された土器を一括した。深鉢が主体となる。口縁部は胴部より朝顔状に開き、105のように装飾的な突起を持つもの、108・110のように山形口縁を呈するものがある。口唇部は肥大化し、その断面は方形となる。主文様として円文や変形楕円形文（アメーバ）、蛇行文が施文され、沈線間には条のこまかなＬＲ・ＲＬ縄



第82図　遺構外出土土器実測図(7)

文が充填されている。焼成は非常に良く、色調はにぶい赤褐色、橙色、黒褐色を呈する。

3類：磨消縄文に刺突が伴う土器（第90図118～121）

本群2類土器に類似した器形と文様を持つものである。沈線内には縄文を施文後、沈線に沿って刺突を連続的に付加する。刺突には竹管を用い、器面に対し直角または斜位に突き刺している。焼成は良く、色調は赤褐色、明褐色を呈する。

4類：短刻線・刺突文の土器（第91図122～125）

125は注口土器の胴部破片で短刻線が、122～124は深鉢または壷の口縁部破片で、縄文施文後または無文化後に装飾的に刺突が付加されている。焼成は良好で、色調は黒褐色、赤褐色を呈する。

第Ⅳ群土器　縄文時代後期の土器（第79図16～第81図31、第91図126～第92図153）

本群には無文、縄文、撚糸文、条痕文の土器を一括した。出土土器の中でも本群土器の出土量が圧倒的に多い。時期ごとの細分は極めて困難である。

1類：無文の土器（第79図16～第80図22、第91図126～129）

深鉢、鉢、壷が主体となり台付土器、台も見られる。20は小型の深鉢で平口縁を呈する。126～129は鉢、深鉢の口縁部破片で山形口縁を呈する129を除き平口縁を呈する。16、21、22は壷で頸部径が広いものと狭いものがみられ、16は小型で頸部は極めて狭い。17は平口縁の小型の鉢、18は製作段階から底部に穴のあけられている台付土器、19は土器の台である。

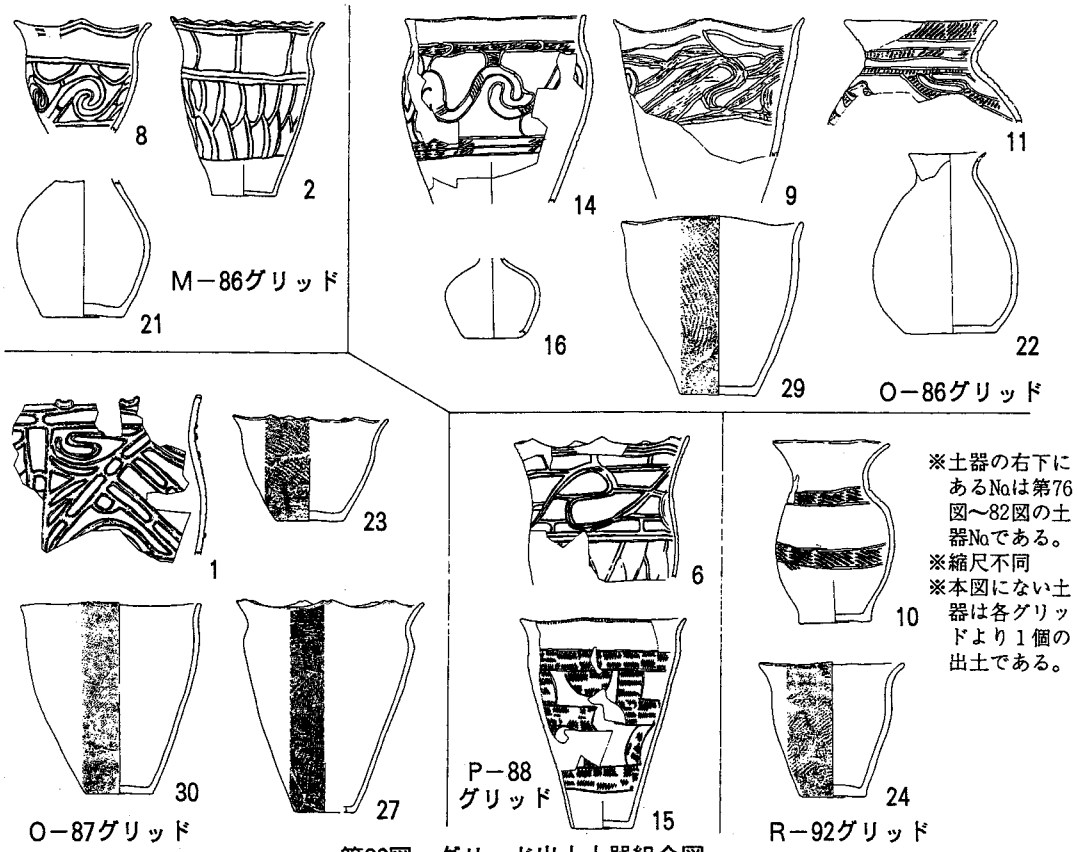
焼成は良好で、色調は灰褐色、浅黄橙色，淡黄色を呈する。21は二次加熱を受け表面が剥離している。

2類：縄文の土器（第80、81図23～30、第91図130～135）

本類には無節縄文・単節縄文が施文されたものを一括した。深鉢、鉢、壷が主体となる。単

第６表　遺構外出土土器観察表

図版番号	出土グリッド・層位	法量(口径×底径×高さ・cm) 施文・充填される縄文原体	色調
第76図—1	O—87　Ⅲc～d層	(—)×(—)×(—)	橙色
2	M—86　Ⅲc～d層	24.5×10.4×28.0	にぶい褐色
3	E—90　Ⅲa～b層	(16.5)×(6.0)×6.4	橙色
4	N—85　Ⅲc～d層	(—)×4.2×(—)	橙色
5	N—87　Ⅲb～d層	(3.1)×7.3×(4.6)	浅黄橙色
6	P—88　Ⅲb～d層	(—)×(—)×(—)	浅黄橙色
第77図—7	S—87　Ⅲc～d層	14.0×6.0×12.7	にぶい橙色
8	M—85　Ⅲa～b層	(22.8)×(—)×(—)	にぶい橙色
9	O—86　Ⅲb～d層	(15.4)×(—)×(—)	灰褐色
10	R—92　Ⅲa～b層	9.5×5.9×14.8　ＬＲ縄文	浅黄橙色
11	0—86　Ⅲc～d層	(12.2)×(—)×(—)　ＬＲ縄文	淡黄色
第78,79図—12	J—89　Ⅲb～d層	(—)×(7.8)×(10.5)　ＬＲ縄文	灰褐色
13	O—85　Ⅲb～d層	(23.2)×(—)×(—)　ＬＲ縄文	灰渇色
14	O—86　Ⅲa～b層	(28.9)×(—)×(—)　Ｌ縄文	橙色
15	P—88　Ⅲd層	(33.9)×(10.0)×(26.8)ＬＲ縄文	灰褐色
16	Q—86　Ⅲc～d層	(—)×(—)×(—)	浅黄橙色
17	N—86　Ⅲc～d層	9.0×5.0×6.1	赤橙色
18	P—92　表土	(—)×6.2×(—)	灰褐色
19	F—89　Ⅲb～d層	(12.8)×(11.8)×1.8	黒色
第80図—20	P—88　Ⅲd層	6.5×4.2×10.0	にぶい黄橙
21	M—86　Ⅲa～b層	(—)×(6.3)×(—)	にぶい黄橙
22	O—86　Ⅲb～d層	(—)×6.9×(—)	灰白色
23	O—87　Ⅲc～d層	(11.3)×5.9×8.3　ＲＬ縄文	淡黄色
24	R—89　Ⅲb～d層	11.7×5.4×11.0　ＬＲ縄文	浅黄橙色
25	H—87　Ⅲb～d層	11.8×5.5×11.3　ＲＬ縄文	黒色
26	S—92　Ⅲd層	24.2×11.7×18.2　ＬＲ縄文	褐灰色
27	O—87　Ⅲb～d層	(29.6)×(9.6)×43.6　ＲＬ縄文	浅黄色
第81図—28	D—86　Ⅲb～d層	12.5×7.0×13.2　ＬＲ縄文	にぶい橙色
29	O—86　Ⅲa～b層	(14.1)×5.9×14.3　ＲＬ縄文	灰褐色
30	O—87　Ⅲb～d層	28.7×10.9×31.1　ＲＬ縄文	褐灰色
31	E—88　Ⅲa～b層	(28.1)×(—)×(—)　条痕文	暗赤褐色
32	P—86　Ⅱ～Ⅲb層	(—)×2.5×(—)	にぶい褐色
33	S—88　Ⅲb～d層	3.5×1.7×3.9	淡黄色
34	F—86　Ⅲb～d層	(—)×4.0×(—)	にぶい橙色
35	P—89　Ⅲd層	(—)×3.8×(—)	灰褐色



第83図　グリッド出土土器組合図

節縄文が施文されたものが圧倒的に多い。23は7つの小さな山形口縁を呈する鉢である。26は大型の鉢で、沈線間に条の荒いＬＲ縄文が施文されている。24・25・27～30は深鉢で、29～30は口縁部上端から縄文が施文されている。25・27・28は縄文の圧痕を境に上部を無文化している。28の底には木葉痕が見られる。137～142は後期中葉の壷または深鉢の口縁部で、ある。焼成は良好で、色調は暗褐色、にぶい褐色等を呈する。

３類：撚糸文の土器（第92図143～149）

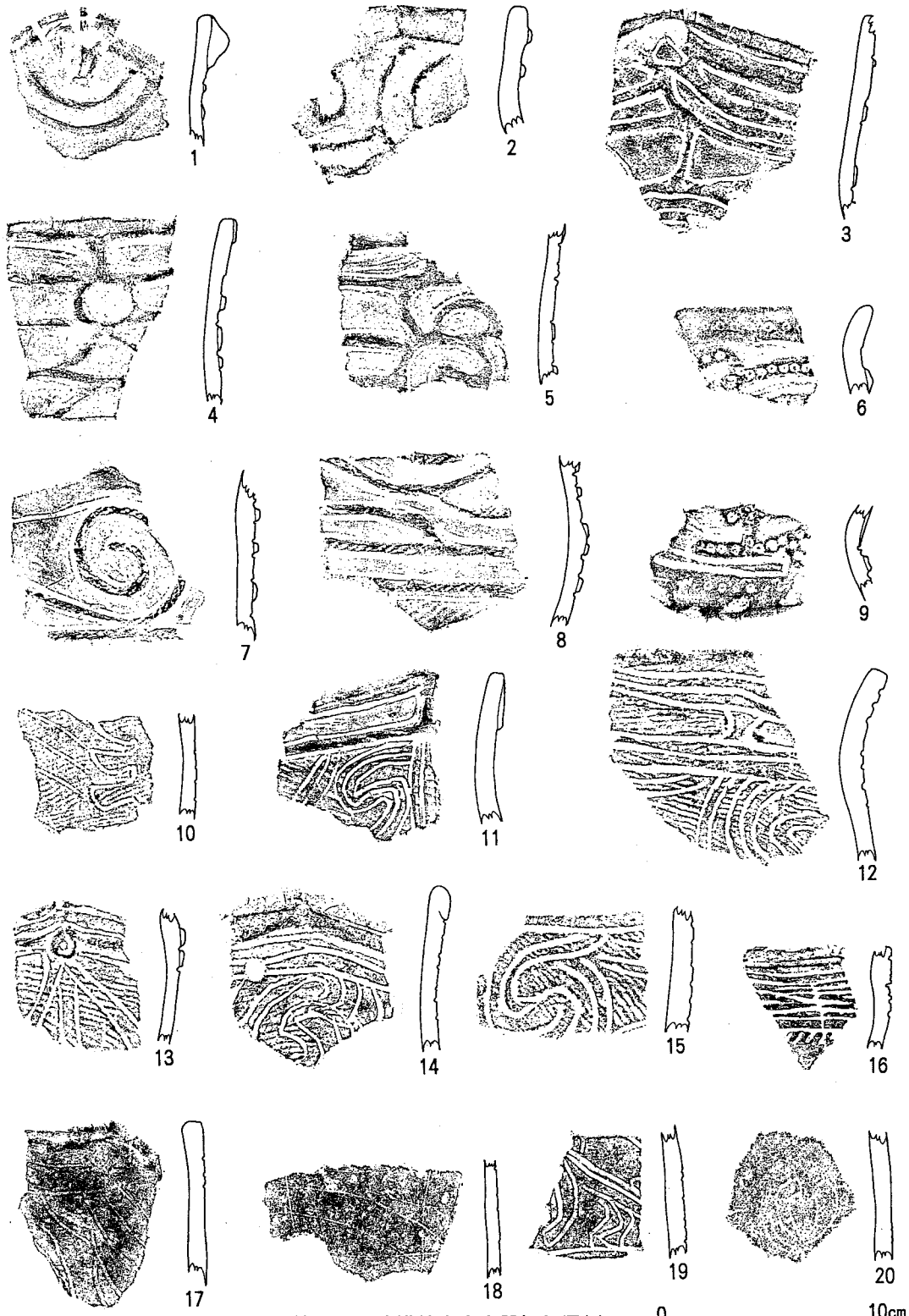
深鉢が主体となる。口縁部上端に沈線により文様を施文したものもこの類に含めた。

平口縁、波状口縁を呈し、折返口縁のものもある。短軸絡条体回転文、網目状・格子目状撚糸文が施文される。149は短軸絡条体回転文上に沈線により楕円形文を施文している

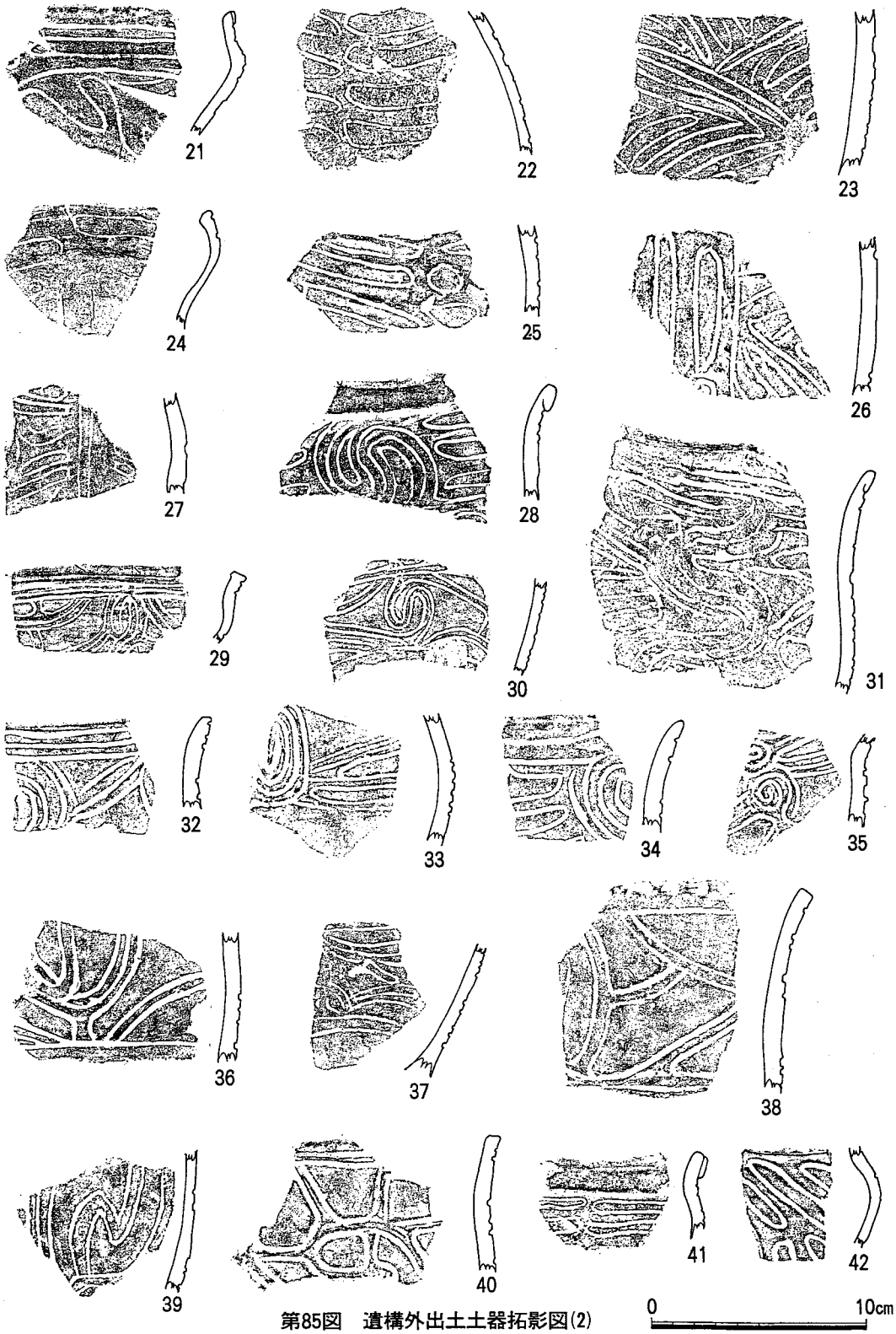
焼成は非常に良く、色調はにぶい褐色、灰褐色を呈する。

４類：条痕文の土器（第81図31、第92図150～153）

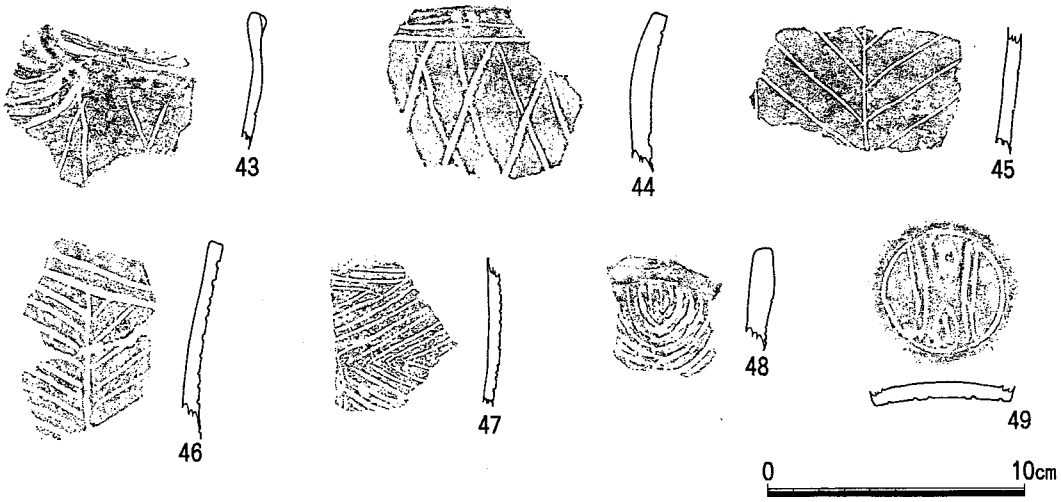
条痕文が施文された土器を一括した。深鉢が主体となる。31は６つの頂部を持つ深鉢で、口唇部と平行に条痕を施文後、胴部上半に格子目状に条痕を施文している。151は弧を描くよう



第84図　遺構外出土土器拓影図(1)



第85図　遺構外出土土器拓影図(2)



第86図　遺構外出土土器拓影図(3)

に、153は同一方向に条痕を施文している。本類土器の焼成は良好で、色調は暗赤褐色を呈する。

② 石　　器

B₂区遺構外より出土した石器は多種多様で、その数は剥片石器1,112点、礫石器が591点の総計1,703点である。遺物は調査区ほぼ全域に分布しているが、特に野中堂環状列石南西側付近に集中する傾向がみられることから、地形との関係が考慮される。遺物の大半は遺物包含層Ⅲa～Ⅲd層からの出土である。石器の分類については、形態別に類別細分した。石器出土分布図は第93図の通りである。

石　　鏃（第94図）

形態から２群６類に分類した。石材は硬質頁岩が多く、珪質頁岩、黒・赤色頁岩と続く。

１群…有茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

a…平基有茎石鏃で25点出土した。剥離調整は丁寧である。（１～３）

b…凹基有茎石鏃で15点出土した。基部に抉れをもつものである。（４～６）

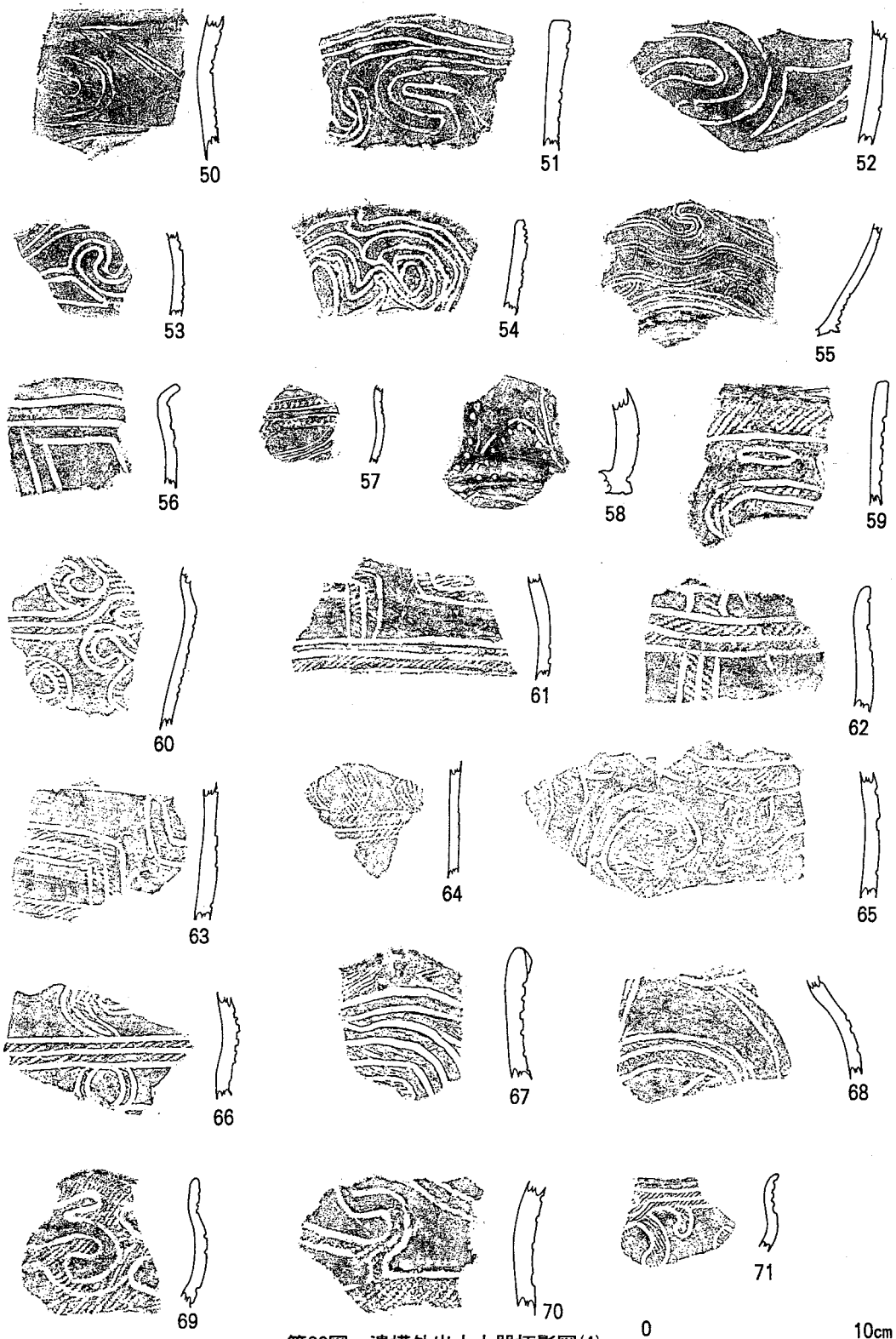
c…凸基有茎石鏃で11点出土した。基部は細長く、全体的に厚みがある。（７～９）

２群…無茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

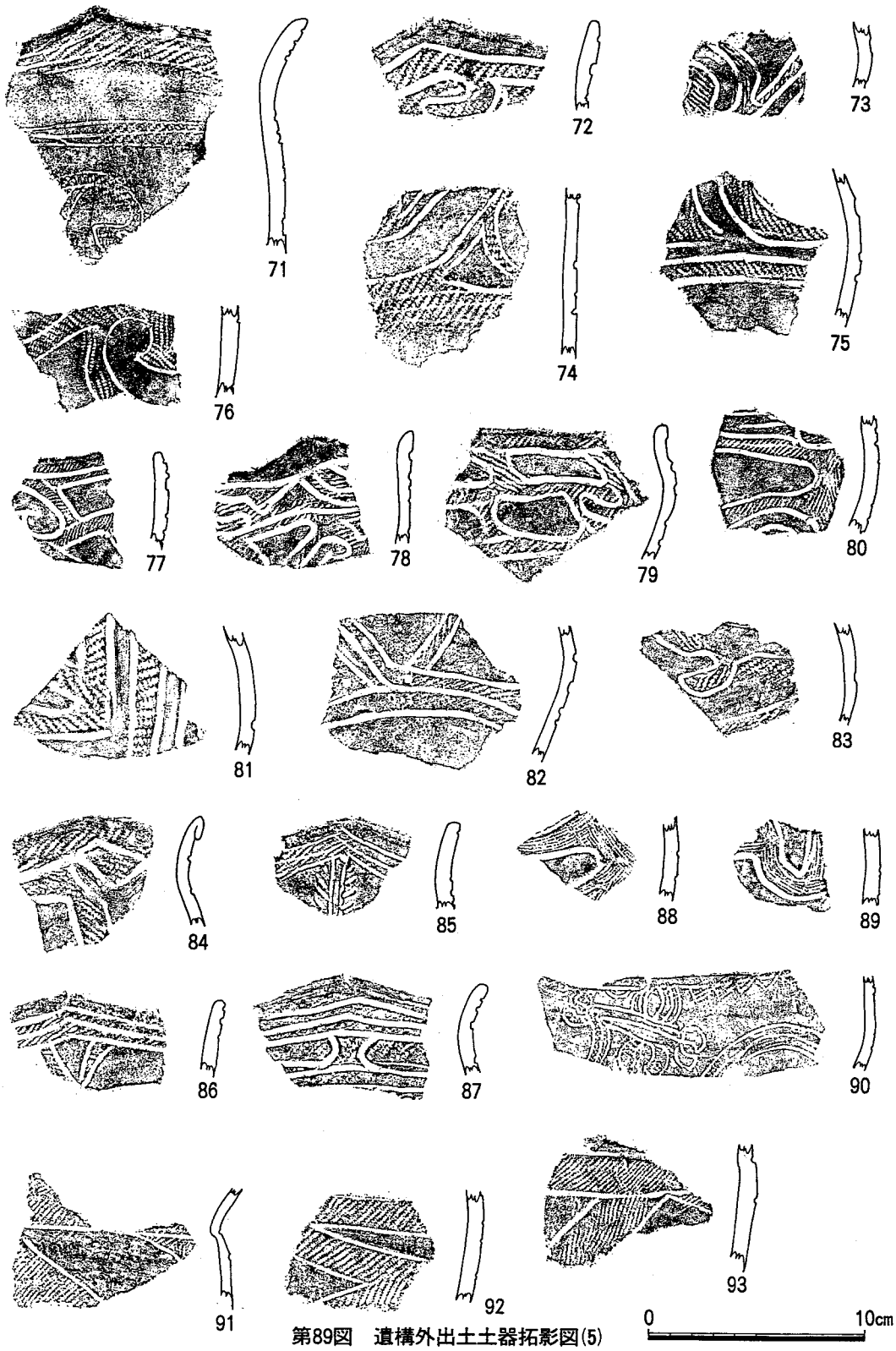
a…平基無茎石鏃で21点出土した。全体的に薄く、調整は丁寧である。(10～12)

b…凹基無茎石鏃で２点出土した。剥離調整は丁寧で、凹部の破損品が多い。(13)

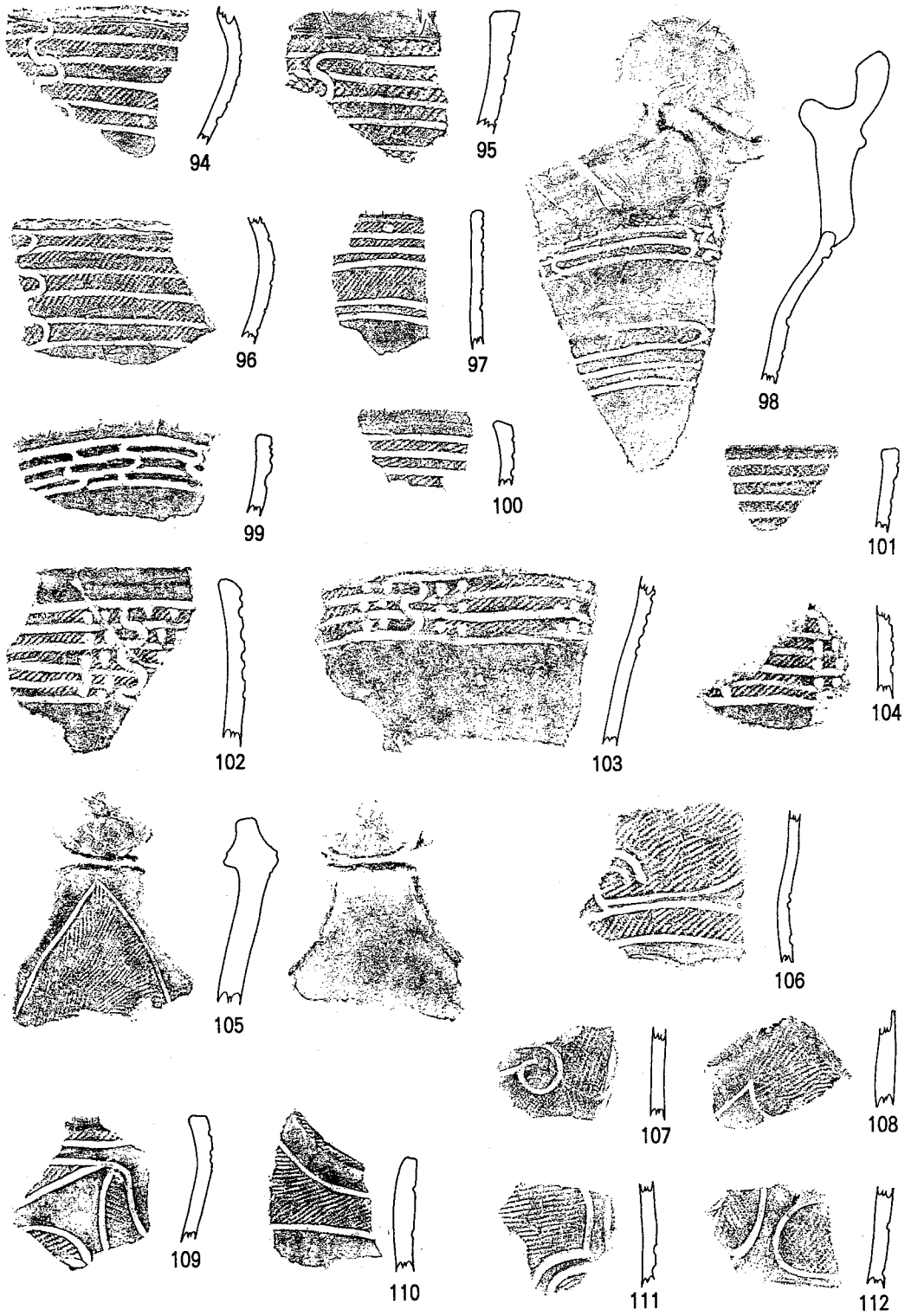
c…尖基石鏃で20点出土した。基部は細長く、全体的に厚みがある。(14～16)



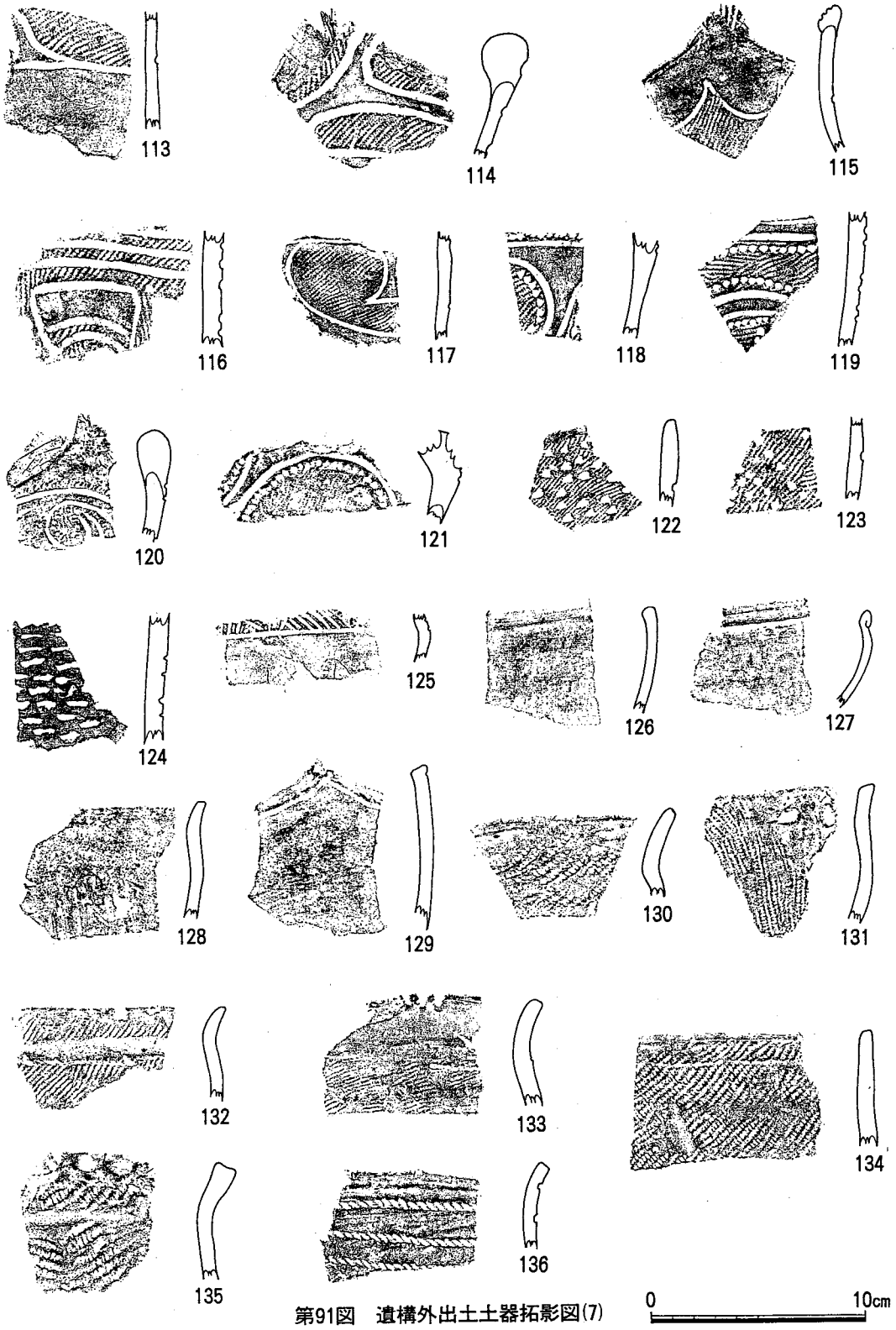
第88図　遺構外出土土器拓影図(4)



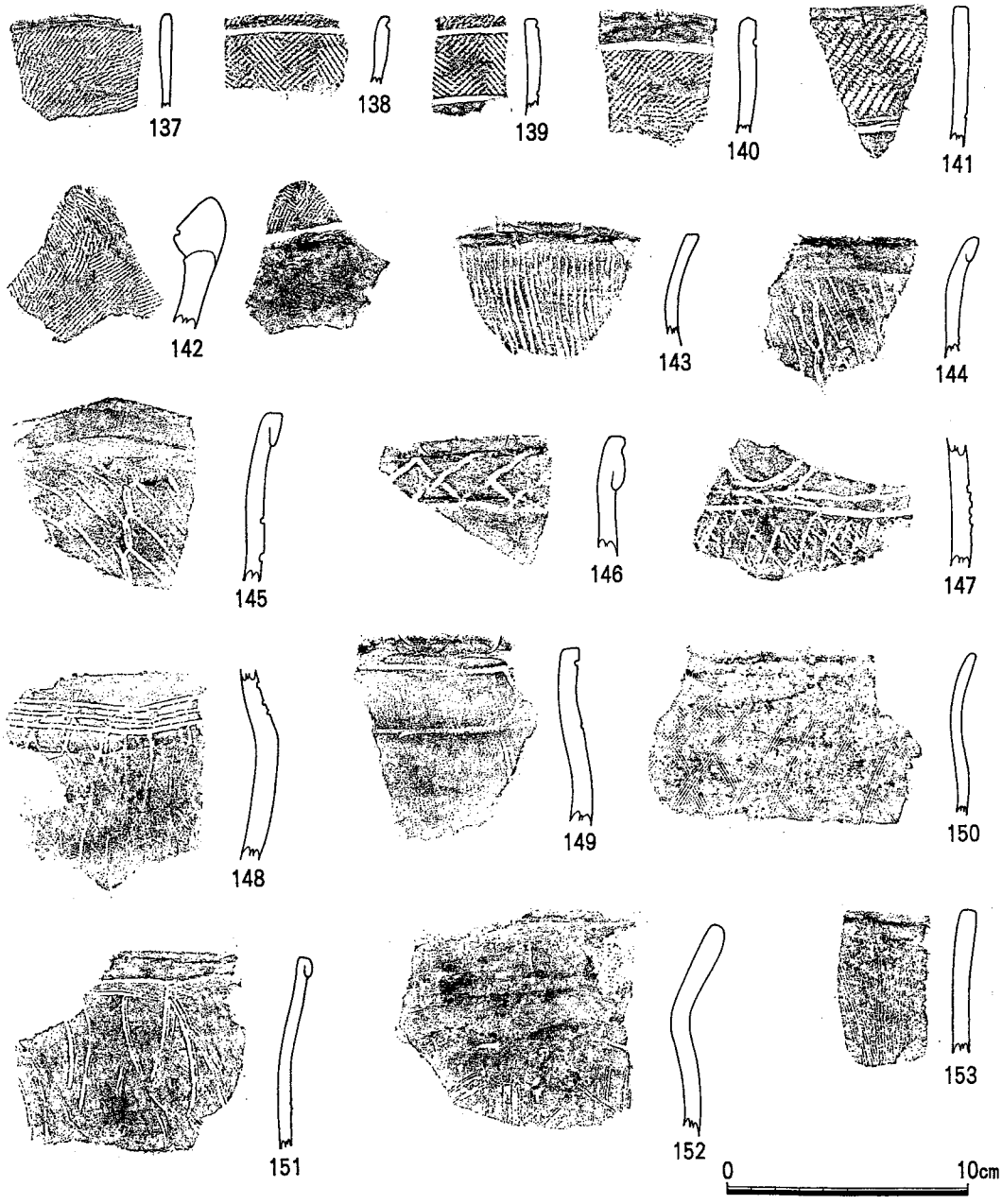
第89図　遺構外出土土器拓影図(5)



第90図　遺構外出土土器拓影図(6)　0　10cm



第91図　遺構外出土土器拓影図(7)



第92図　遺構外出土土器拓影図(8)

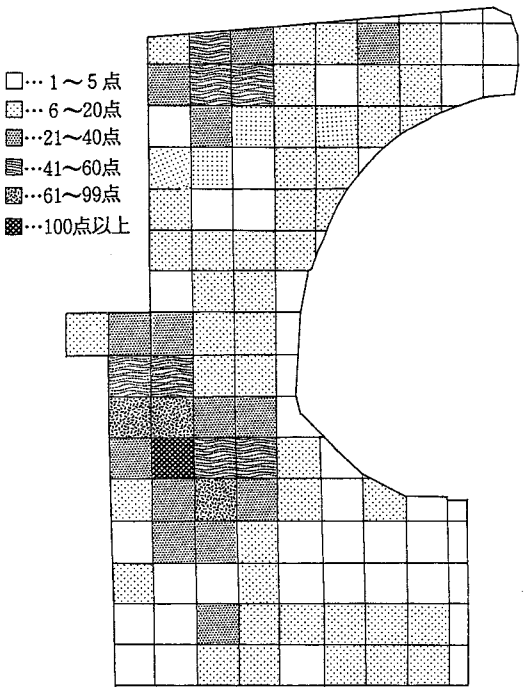
石　　錐（第94図）

形態から３群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩である。

１群…つまみ部と錐部の境が明確なもので、25点出土した。錐部、つまみ部にていねいな剥離調整がなされている。破損品が多い。(17～19)

２群…つまみ部と錐部の境が明確でないなもので、20点出土した。つまみ部から錐部にかけて逆三角形状になり、比較的ていねいな剥離調整がなされている。破損品が多い。(20～22)

３群…剥片の一部に錐部を作り出しているもので、23点出土した。錐部には破損や磨耗が著しい。(23～25)



第93図　石器分布状況

石　　匙（第95図）

形態から２群に分け、さらにつまみ部を上にして主要刃部が作り出される位置から、５類に細分した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩、黒色頁岩である。

１群…縦型石匙である。刃部先端が破損しているものがみられる。

ａ…主要刃部が、一側縁に作り出されるもので、23点出土した。(26、27)

ｂ…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、31点出土した。(28、29)

ｃ…主要刃部が先端部に作り出されるもので、８点出土した。(30、31)

２群…横型石匙である。刃部の作りは丁寧である。

ａ…主要刃部が一側縁に作り出されるもので、２点出土した。(32、33)

ｂ…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、１点出土した。(34)

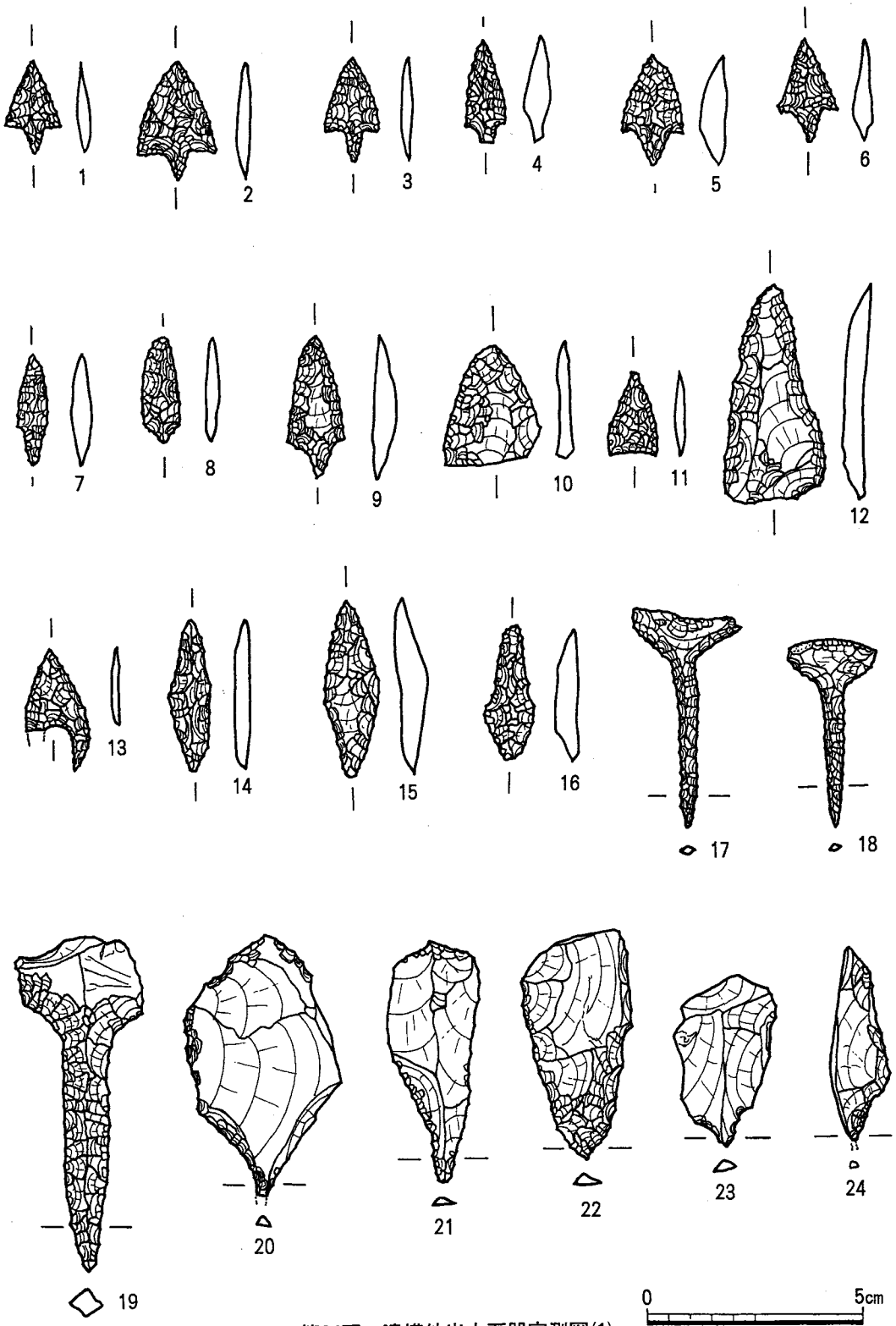
ｃ…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、３点出土した。(35、36)

石　　箆（第95図）

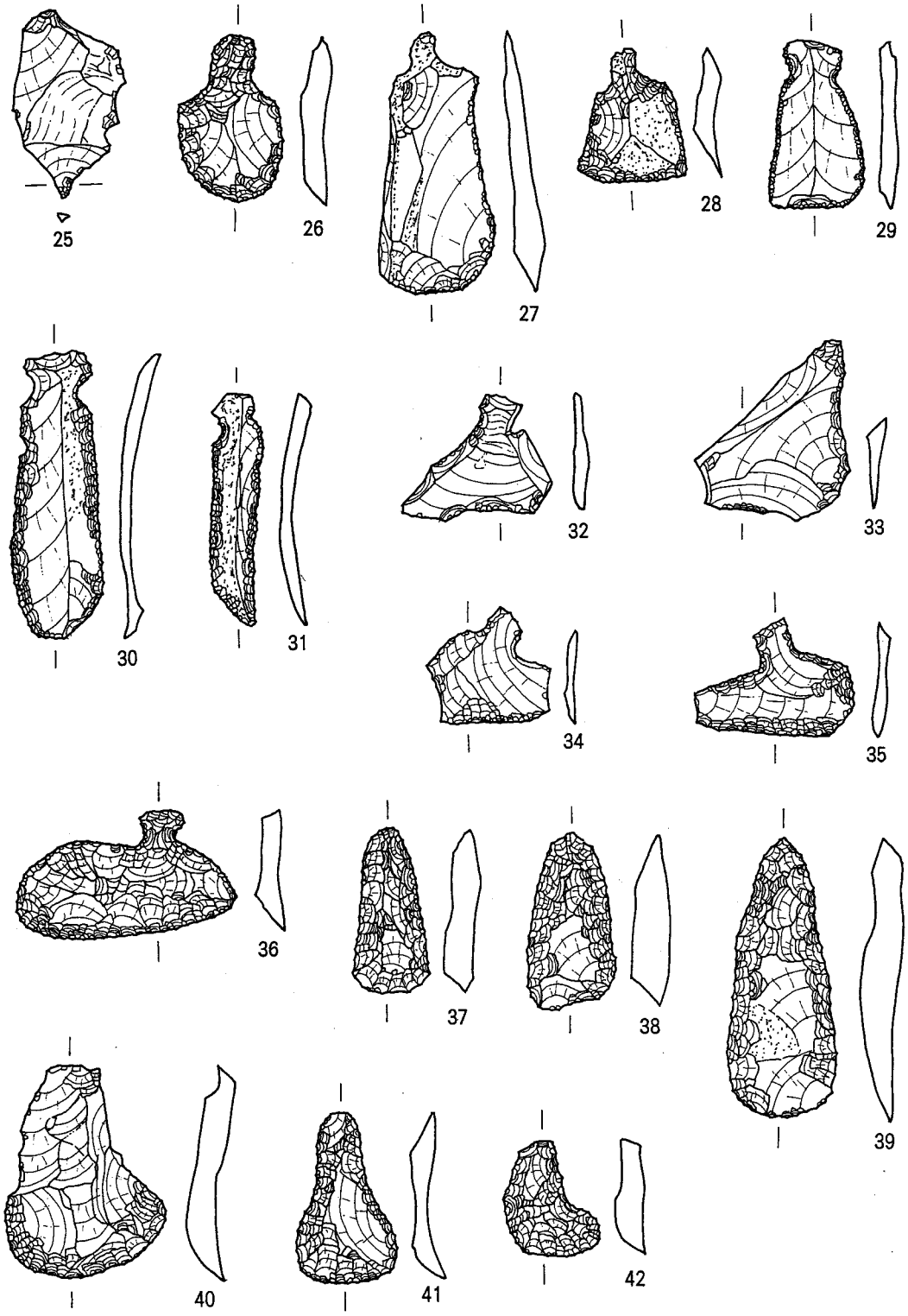
形態別に２群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩である。

１群…基部に対して刃部の幅が広くなる、撥状のものである。５点出土した。(37～39)

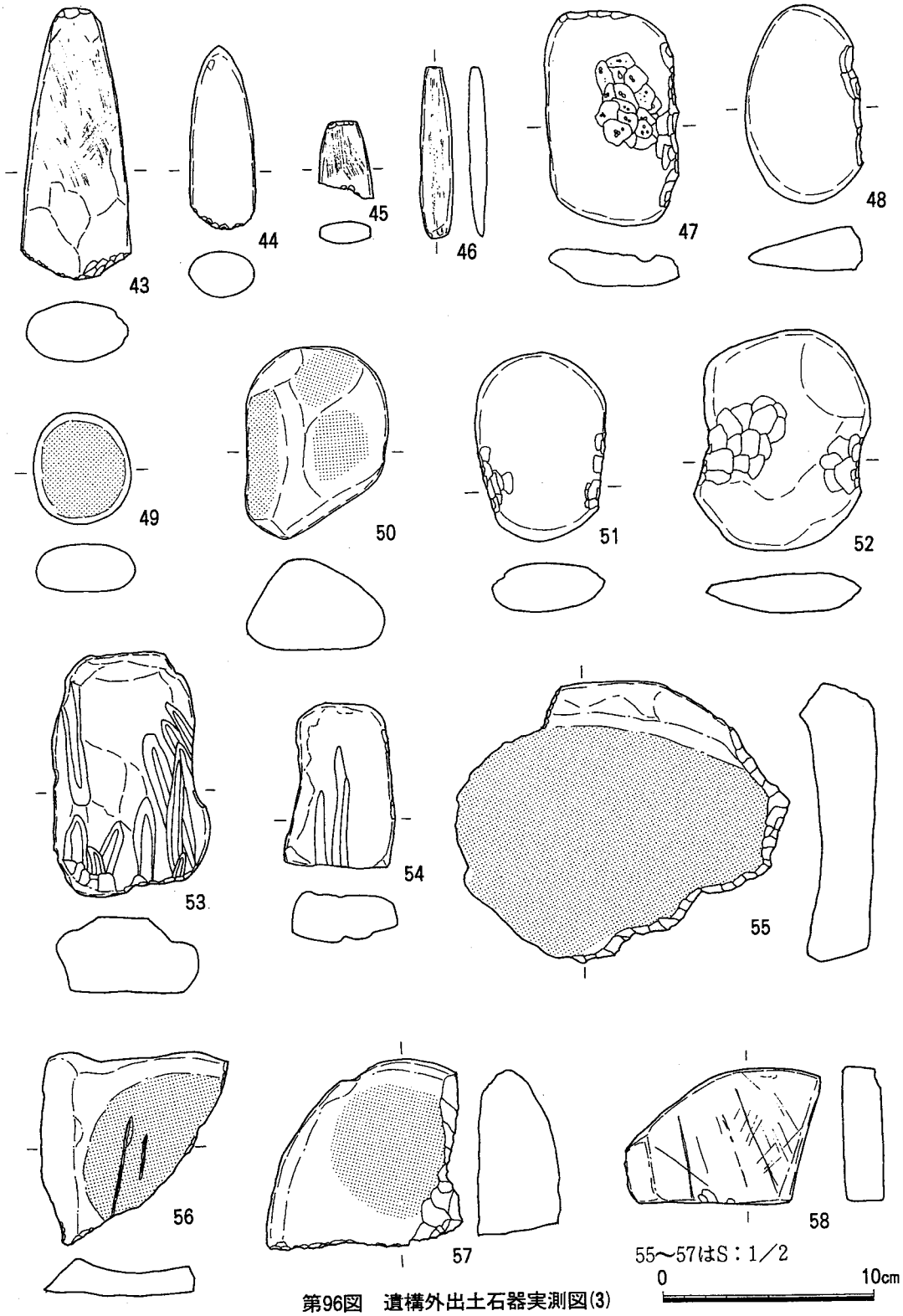
２群…基部に対して刃部の幅がやや広くなる、台形状のもので、６点出土した。(40～42)



第94図　遺構外出土石器実測図(1)



第95図　遺構外出土石器実測図(2)



第96図　遺構外出土石器実測図(3)

掻　　器

打面を上にして、主要刃部が作り出される位置および、刃部の形態別に5群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩が多く、黒色頁岩、赤色頁岩もみられる。

1群…主要刃部が左、右、先端いずれか一側縁に作り出されるもので、412 点出土した。

2群…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、243点出土した。

3群…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、38点出土した。

4群…主要刃部が周縁全域に作り出されるもので、37点出土した。

5群…刃部に抉れをもつもので、123点出土した。

石　　斧（第96図43～46）

定角式磨製石斧が28点出土し、刃部、基部ともに破損が著しい。石材は緑色片岩、緑色凝灰岩、石英玢岩、泥岩である。

石　　錘（第117図51・52）

扁平な川原石の一部が打ち欠かかれているもので、7点出土した。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、泥岩等である。

敲　　石（第96図47・48）

円礫、扁平な川原石の一部が打ち欠かかれているもので、63点出土した。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、砂質凝灰岩、石英閃緑玢岩、緑色凝灰岩、石英安山岩等である。

凹　　石

円礫、棒状の礫、扁平な川原石に使用痕として凹が観察されるもので、405点出土した。両面を使用しているものがほとんどである。磨面が観察されるものもみられる。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、緑色凝灰岩、緑色片岩、石英閃緑玢岩、砂岩、石英安山岩と様々である。

磨　　石（第96図49・50）

円礫に磨痕が観察されるもので、61点出土した。石材は砂質凝灰岩、石英安山岩である。

石　　皿（第96図55～57）

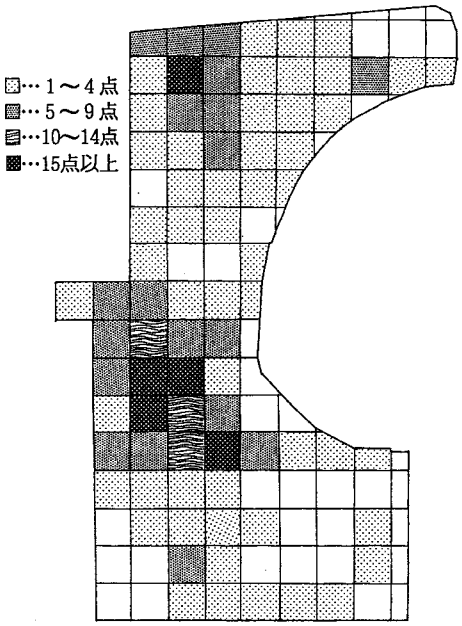
12点出土した。全て欠損品で、破損後砥石や凹石として転用されたものもみられる。石材は砂質凝灰岩、軽石質凝灰岩、安山岩等である。

砥　　石（第96図58）

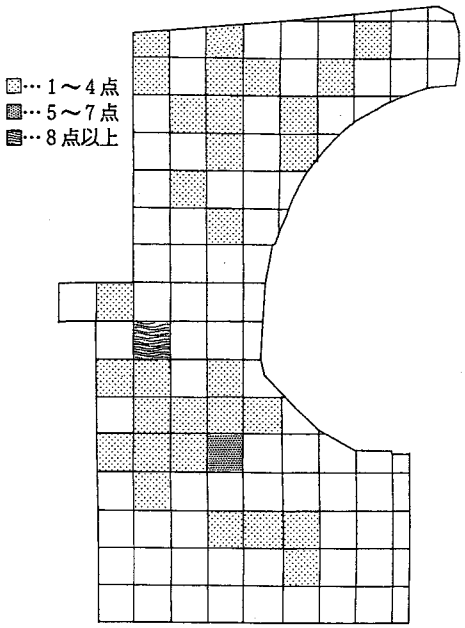
7点出土し、石皿から転用されたものが多い。石材は砂質凝灰岩が多用される。

③ 土 製 品

B_2区遺構外より出土した土製品は、土偶10点、装飾品8点、鐸形土製品20点、土錘1点、茸形土製品7点、三脚土製品1点、板状土製品2点、その他の土製品3点、土器片利用土製品が367点の総計419点が出土した。土製品の出土分布状況は第97、98図の通りであるが、野中堂



第97図　土器片利用土製品分布状況



第98図　土製品分布状況

環状列石周辺に分布し、特に南西部に多く集中する。

土　偶（第99図）

全て破損品で、10点出土した。1、3、6、8は土偶の胴部でそれぞれ沈線により入組文と格子目文が描かれている。3、8は板状の土偶である。2、4、7は土偶の脚部で、全て右足である。5は頭部で丸い顔に目、鼻、口、眉が作り出されている。9、10は土偶腕部である。9は大型土偶の左手で、10は右手部で、沈線による山形状文とＬＲ縄文が施文されている。

装 飾 品（第100図）

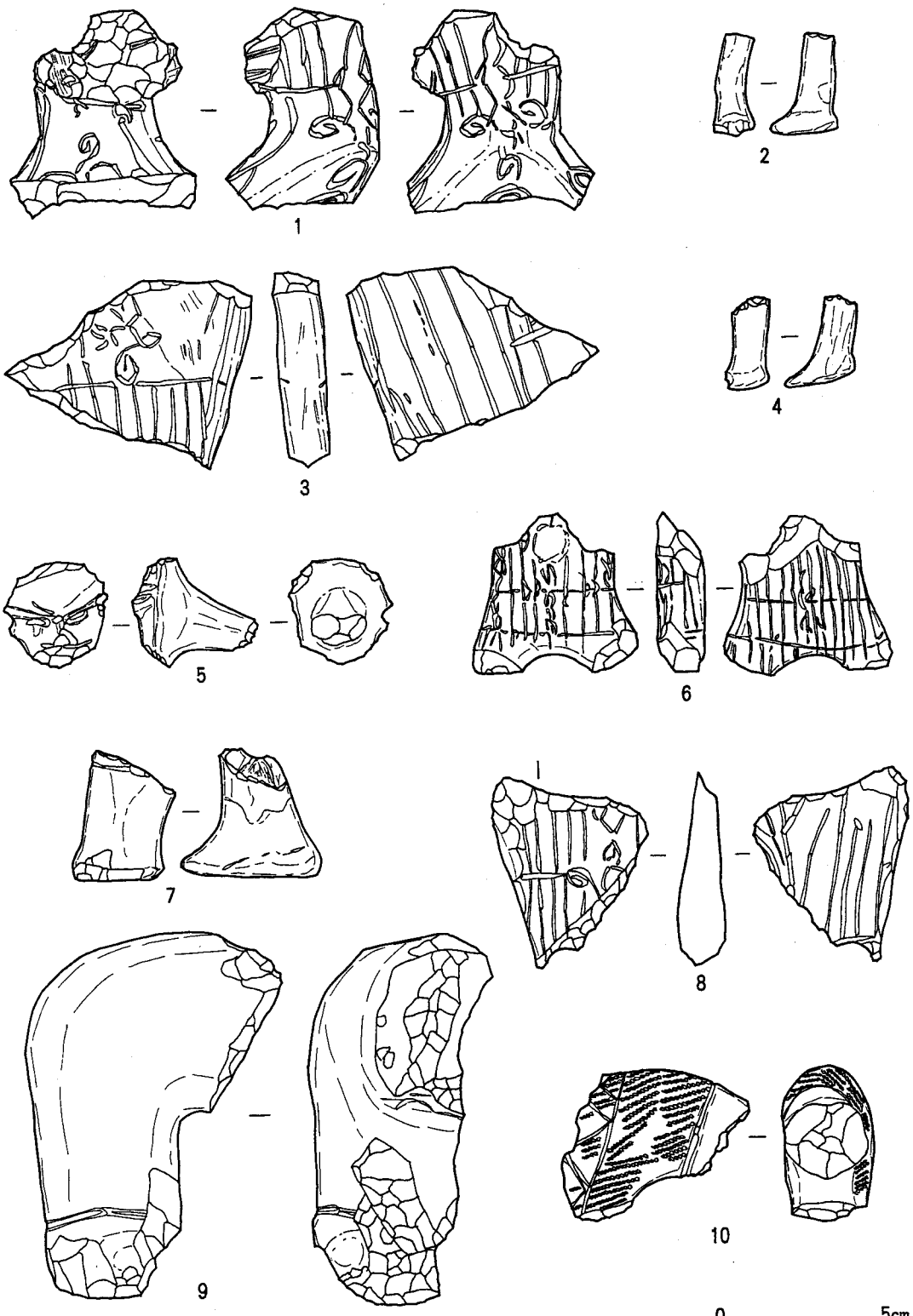
11～13、16～18は腕輪で、11は平行沈線と刺突文により文様が描かれている。16～18は比較的大型のもので18は、一部に沈線文が施文されている。14は貫通孔を有する耳飾りで、15は貫通孔を有するＹ字状装飾品である。

鐸形土製品（第100図19～32）

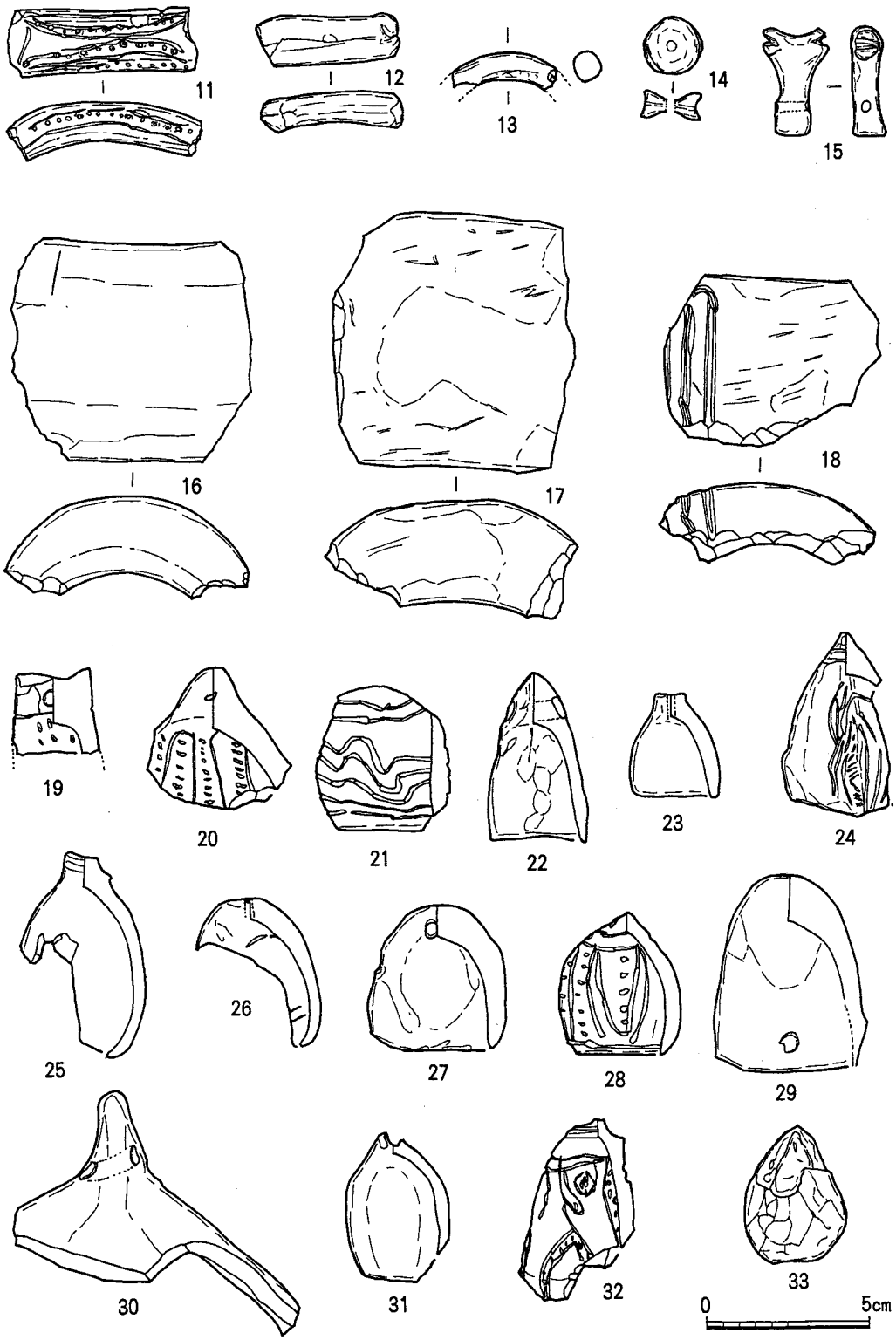
破損品が多く、胴部に対して横方向や縦方向に貫通孔が穿たれるものと、開口部断面が円形のものと楕円形のものがある。無文のものが多いが、沈線文と刺突文の組合せで文様を描くものもみられる。特に20、28は木の実（ドングリ）を模したものと推測され、30はこれまでの出土遺物の中で最大の鐸形土製品である。

茸形土製品（第101図34～40）

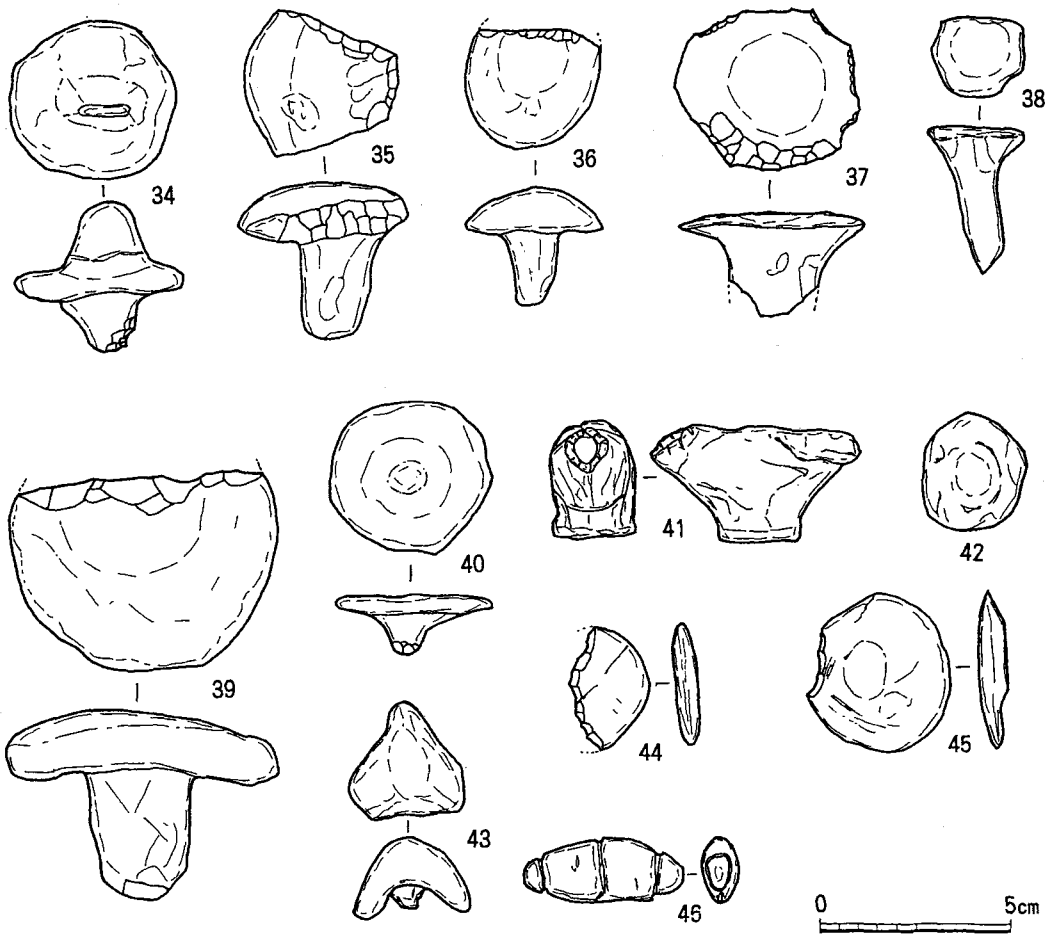
茸を模した土製品で、かさの部分が丸いものや平坦なもの、中央がつまみのように盛り上がっ



第99図　遺構外出土土製品実測図(1)



第100図　遺構外出土土製品実測図(2)



第101図　遺構外出土土製品実測図(3)

たものが出土している。柄の部分はまっすぐのびる。

土　錘（第101図46）

側面および短軸方向を一周するように、沈線が巡らされているもので、1点のみの出土である。

三脚土製品（第101図43）

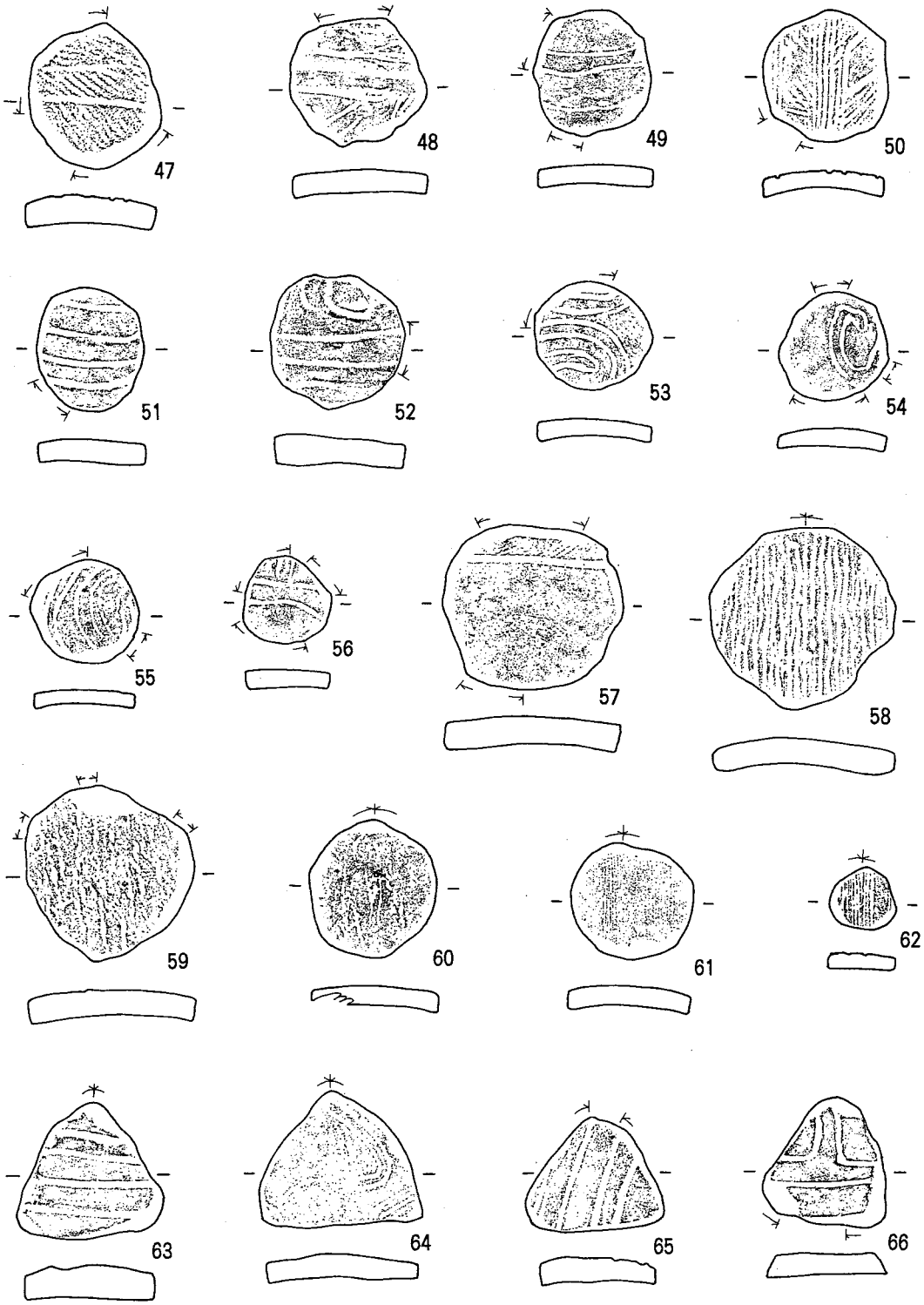
胴部中央が盛り上がり、胴部より三方向に脚が延びているもので、1点出土した。

板状土製品（第101図44・45）

円形状の土製品で、無文である。2点出土した。

土器破片利用土製品（第102図、第103図）

土製品の中で最も多く出土した。形態的に円形（299点）、三角（65点）、四角（11点）に分類した。土器破片を打ち欠きと研磨により整形しているもので、前者による整形技法が多い。



第102図　遺構外出土土器片利用土製品拓影図(1)

第103図　遺構外出土土器片利用土製品拓影図(2)

④　石 製 品

B₂区遺構外より出土した石製品は、石刀６点、板状石製品45点、腕状石製品１点、軽石石製品28点、その他の石製品１点の計81点が出土した。出土分布状況は第104図の通りである。調査区南部に多く分布する傾向がある。

石　　刀（第105図）

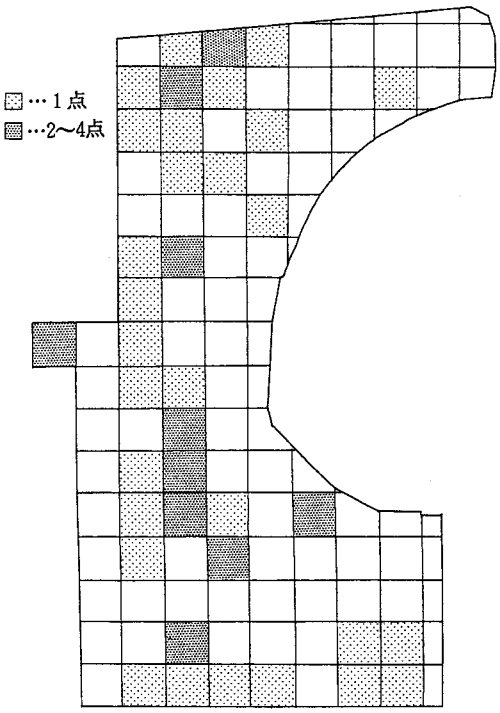
1のみが完形品で、4、6は内反り形の石刀である。使用される石材は粘板岩、片岩である。

板状石製品（第105図）

土器破片利用土製品同様打ち欠き、研磨により円形や三角形に整形された、板状の石製品である。7、8、13は丁寧な研磨によって整形された三角形のもので、8は沈線文様が描かれている。石材は砂質凝灰岩、石英安山岩、泥質凝灰岩、黒色泥岩である。

腕状石製品（第22図）

5cm大の川原石の中央部分に、研磨による凹が確認されるものである。石材は砂質凝灰岩が使用されている。



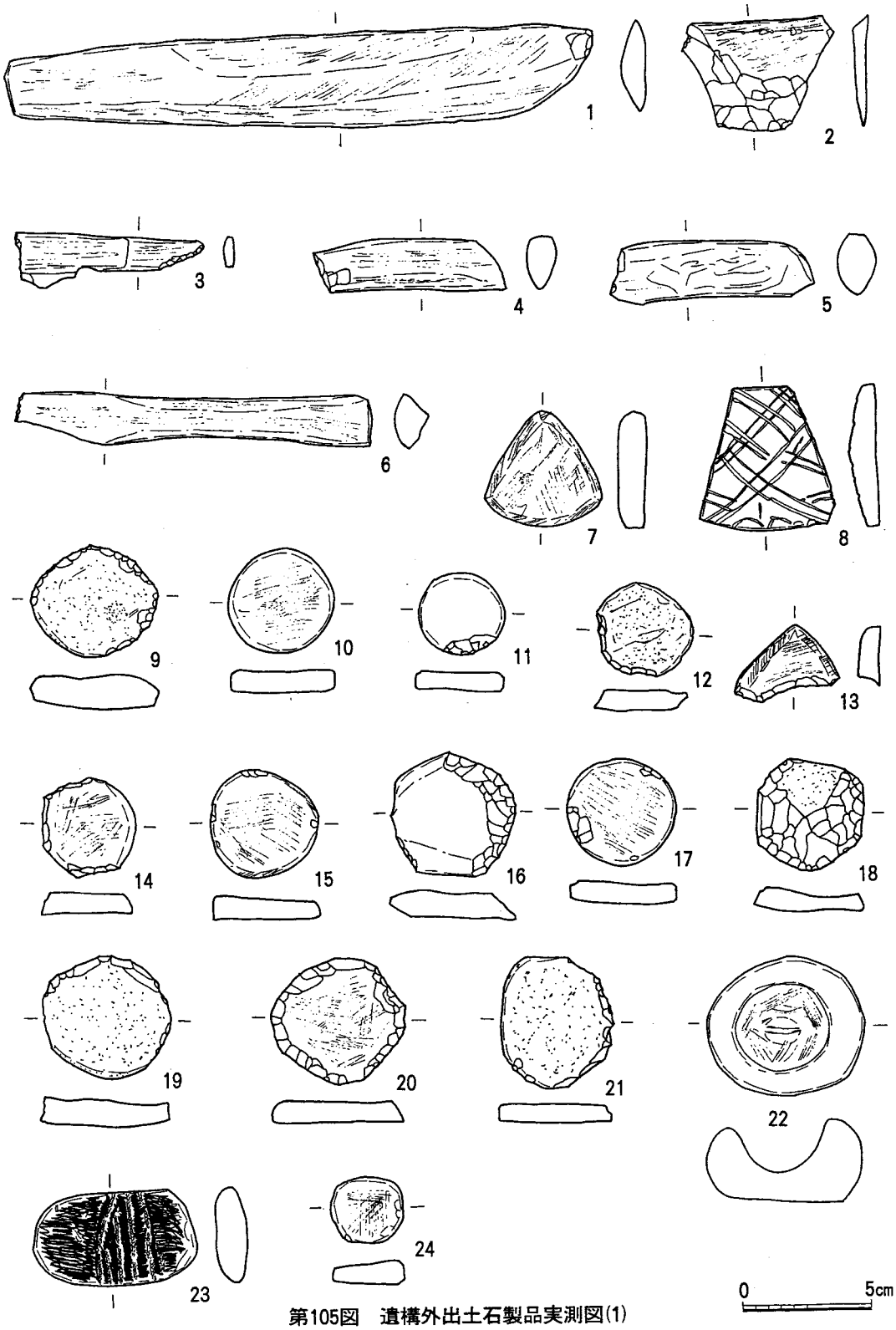
第104図　石製品分布状況

軽石石製品（第106図）

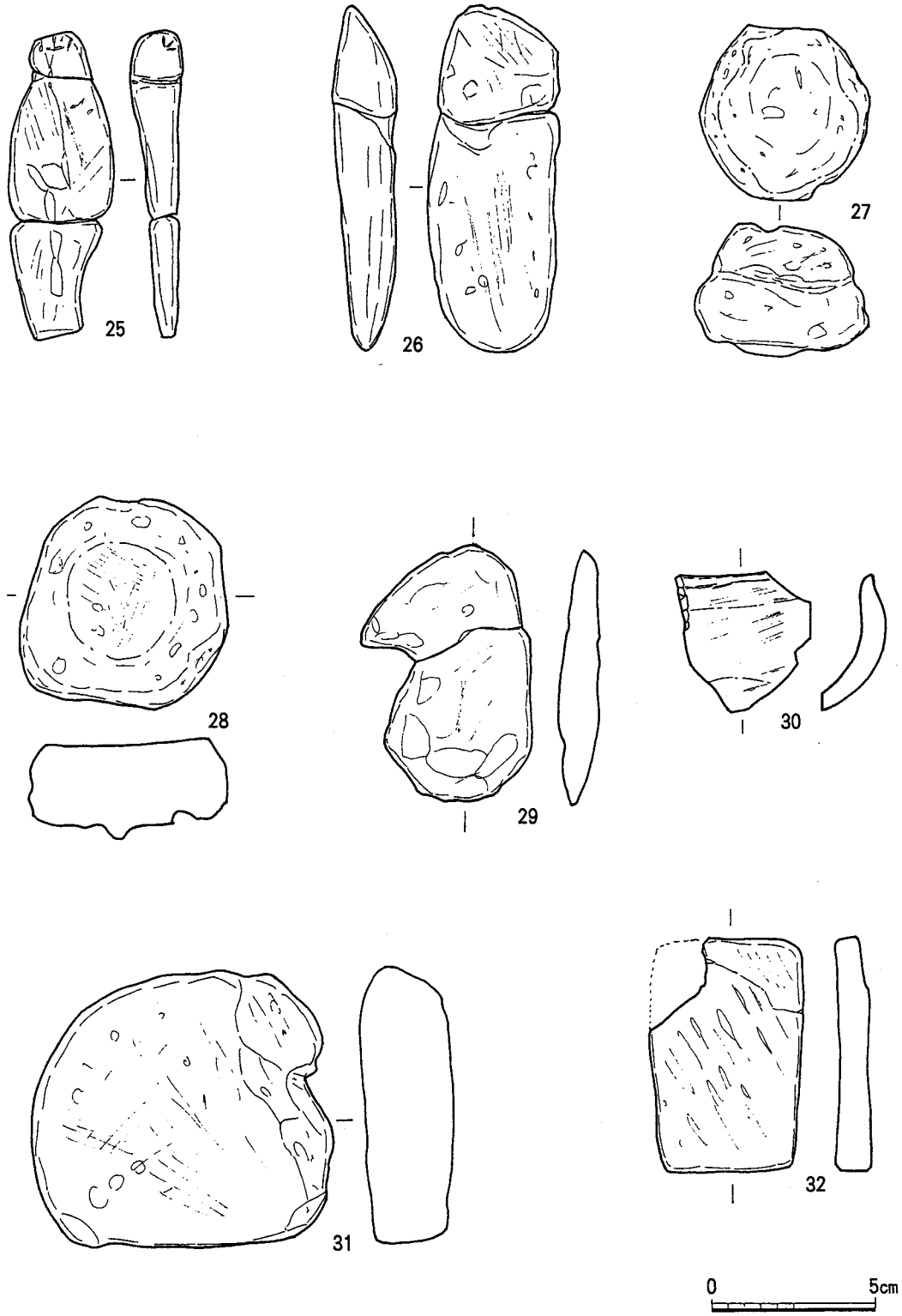
多孔質の軽石を円形、楕円形、長方形、その他いろいろな形に整形したものである。15は男根状のもので、26は石斧を、また、30は浅鉢形土器を模したものと思われる。

その他の石製品（第105図23）

本来ならば、石錘に区分けされるものであろうが、本報告書では石製品に区分することとする。焦げ跡の著しい6cm程の扁平な石にＬＲ縄文紐が巻き付けられた跡が残るものである。使用された石材は黒色泥岩である。（花海）

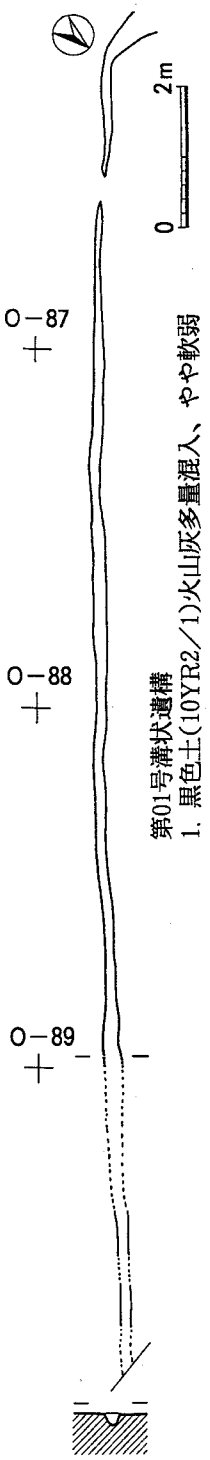


第105図　遺構外出土石製品実測図(1)



第106図　遺構外出土石製品実測図(2)

第Ⅳ章　歴史時代の検出遺構



第107図　第02号溝状遺構実測図

B_2区において検出された歴史時代の遺構は、溝状遺構１条、古道である。

１．溝状遺構

第01号溝状遺構（第５図）

調査区中央部北西寄り、Ｅ－87～Ｈ－91グリッドにかけて確認された。野中堂環状列石より西側へ放射状に延び、幅20～34cmを測る。

構築時期は、堆積土混入物より大湯浮石降下以前、平安時代以降と考えられる。

第02号溝状遺構（第107図）

調査区中央部南東寄り、Ｎ－86～89グリッドにかけて確認された。第148号土坑と重複し、本遺構が新しい。野中堂環状列石より南西側へ放射状に延び、幅４～20cmを測る。堆積土は、黒色土に大湯浮石粒が多量に混入する１層である。

構築時期は、堆積土混入物より大湯浮石降下以前、平安時代以降と考えられる。

２．古　　道（第５図）

調査区北部のＰ、Ｑ－88～93グリッドで確認された、中通り台地縁辺を通っていた旧街道である。

本古道の歴史は古く、寛永10年に、江戸幕府が諸国に派遣して、地方政治の良否を視察させた役人（巡見使）が通ったという記述があり、当時は「天下道」と呼称されていたようである。（鹿角市史第二巻下より）また、それ以前からも大湯～寺坂間を結ぶ生活道路や不老倉鉱山より採取した銅を運ぶ「銅の道」として使用されたようである。

古道は地山面まで整地が及び、堅くしまっており、当時の頻繁な使用頻度を物語っている。車輪と思われる轍もみられた。

（花海）

第Ⅴ章　自然科学的調査

調査結果　大湯環状列石第17次発掘調査　B_2区出土炭化材の同定

秋田県小坂町立十和田小中学校　山　谷　昌　久

1．樹種同定方法

出土した11種類の炭化材は、すべてのものが軟化し非常に脆くなっているため、徒手切片法を用いての切片の作成は困難であった。

そこで、試料の表面の土を洗い落としたあと、割れてできた断面を写真撮影することで観察した。

2．試料の特徴

構成要素　11種類とも導管要素がはっきりと確認できる。

木口面

- 導管の配列が環孔状　No.1　No.2　No.4　No.5　No.6　No.7　No.8　No.9　No.10　No.11　……　①
- 導管の配列が環孔状でない　No.3　……　②

① 孔圏外の小道管は火炎状配列　No.1　No.2　No.4　No.5　No.6　No.7　No.8　No.10　No.11　……　③
　孔圏外の小道管は火炎状配列でない　No.9　……　④

③ 広放射組織あり　No.6　No.8　No.11　……　⑤
　広放射組織なし　No.1　No.2　No.4　No.5　No.7　No.10　……　⑥

④ 孔圏外の小道管は接線状ないし波状に配列
　孔圏外の小道管は散在状に配列　No.9は、どちらか特定できない

⑤ 孔圏外の小道管は小さく、多数が複合する　No.6　No.8　No.11
　→ コナラまたはミズナラ

⑥ 孔圏は連続している　No.1　No.2　No.4　No.5　No.7　No.10
　→ クリ属

② 導管の配列は散孔状　放射状組織は広く、板目面で明らかな紡錘形を示す　No.3
　→ ブナ属、アオキ属など

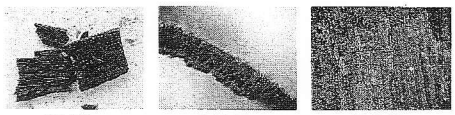
炭化物一覧

No.	科	属	種	遺跡名	遺構・グリッド			層位	備考
1	ブナ科	クリ属	クリ	00、大、B2				Ⅲd	
2	ブナ科	クリ属	クリ	00、大、B2	S1-02	Q-92 R-92	炉の内側	炉石の上面くらい	
3	ブナ科？	ブナ属？	ブナ？	00、大、B2	S1-02	炭のみ	H-238		
4	ブナ科	クリ属	クリ	00、大、B2	S1-02内	Q-92 R-92	SK-188	上～中位	
5	ブナ科	クリ属	クリ	00、大、B2	S1-02内	R-92	床面	上から4cmまでしかない炭の柱状	
6	ブナ科	コナラ属	コナラ	00、大、B2	S1-02内	炭のみ	H-144		
7	ブナ科	クリ属	クリ	00、大、B2	S1-02内	炉付近		上位	
8	ブナ科	コナラ属	コナラ	00、大、B2		D-94	SK-168	上～中位	
9	ブナ科？	クリ属？	クリ？	00、大、B2		G-88	SK(F)-112	？	
10	ブナ科	コナラ属	コナラ	00、大、B2		L-88	SK(F)-182	上位	

参考文献
「図説　木材組織」　島地　謙、伊東隆夫　共著　地球社
「日本の遺跡出土木製品総覧」　島地　謙、伊東隆夫　共著　雄山閣
「植物系統分類の基礎」　井上　浩、岩槻邦男　等　共著　北隆館
「原色日本植物図鑑」　北村四郎、村田　源　共著　保育社

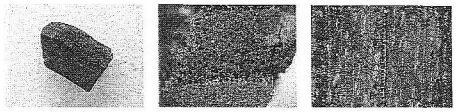
炭化材　1

No. 1　クリ（ブナ科）



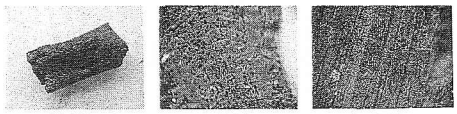
木片全体　木口面　柾目面

No. 2　クリ（ブナ科）



木片全体　木口面　柾目面

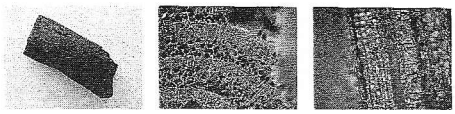
No. 3　ブナ?　（ブナ科?）



木片全体　木口面　柾目面

炭化材　2

No. 4　クリ（ブナ科）

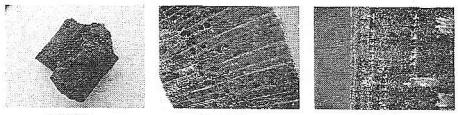


木片全体　木口面　柾目面

No. 5　クリ（ブナ科）

木片全体　木口面　柾目面

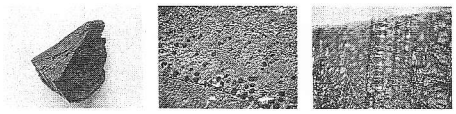
No. 6　コナラ（ブナ科）



木片全体　木口面　柾目面

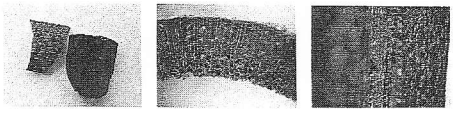
炭化材　3

No. 7　クリ（ブナ科）



木片全体　木口面　柾目面

No. 8　コナラ（ブナ科）



木片全体　木口面　柾目面

No. 9　?

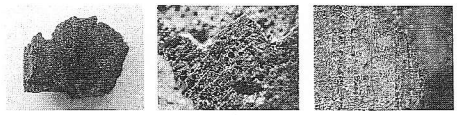
木片全体　木口面　柾目面

炭化材　4

No. 10　クリ?　（ブナ科）

木片全体　木口面　柾目面

No. 11　コナラ（ブナ科）



木片全体　木口面　柾目面

第Ⅵ章　調査のまとめ

特別史跡大湯環状列石は、鹿角市の北東部、大湯川の左岸に形成された標高180m前後の舌状台地に位置する。遺跡を取り巻く自然環境を観察すると、奥羽山脈をはじめとする四方の山並みを眺望できるほか、台地の斜面には今でも豊富な涌き水と堅果類をつける広葉樹が点在している。また台地西側の斜面下には川の幸を供給した大湯川があり、「マツリと祈りの場」を営むには絶好の立地条件であったといえる。

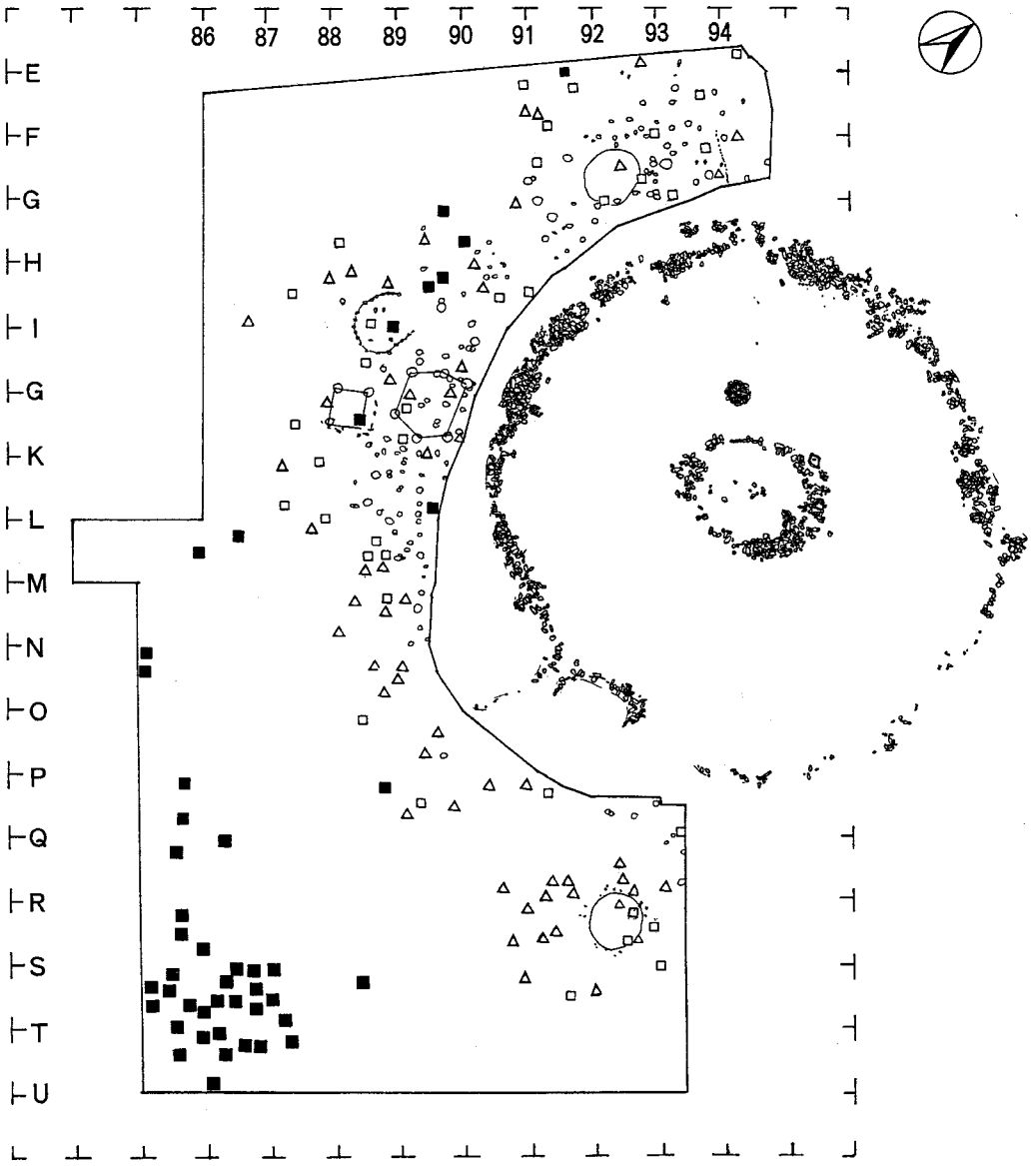
本年度調査は、野中堂環状列石の南西側を中心とした地域の遺構・遺物分布状況を把握し、万座環状列石との比較検討を行うため、また列石から発信される縄文人の精神文化を解明する糸口をつかむことを調査の目的とした。

調査の結果、竪穴住居跡２棟、建物跡３棟、柱穴状ピット427個、方形配石遺構1基、配石列1条、石囲炉2基、焼土遺構43基、埋設土器1基、Ｔピット1基、土坑57基、フラスコ状土坑34基合計573基（個）の遺構とともに、完形土器・復元土器35点、土器破片59箱、石器1,703点土製品419点、石製品81点が出土した。なお、上記のほかに歴史時代の溝状遺構２条、古道１条が確認されている。

竪穴住居跡は、野中堂環状列石の南東部、北西部に位置する。竪穴住居跡の径はいずれも約4.5mを測り、掘り込みは浅い。第01号竪穴住居跡の構築時期は底面出土土器より縄文後期中葉・十腰内Ⅱ式の時期であり、二つの環状列石が盛んに構築された時期より新しいものであった。野中堂環状列石の南西部に位置する第３号方形配石遺構と関連強いものと判断される。第2号竪穴住居跡は多くの土坑やフラスコ状土坑と重複しているが、いずれよりも新しい。重複する遺構からの出土遺物、本住居跡の出土遺物を比較しても住居跡の構築時期は縄文後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の範疇に入るもので、二つの環状列石が盛んに構築されていた時期と重なる。

竪穴住居跡については、これまで万座環状列石の北側の台地縁辺部から６棟を確認している。また昭和48年～51年にかけて行われた分布調査においても竪穴住居跡1棟を確認したのみであった。このことからも今後予定される列石周辺の発掘調査によって竪穴住居跡の棟数は飛躍的に増加するとは考えられない。鷹巣町伊勢堂岱遺跡、青森市小牧野遺跡でも同様の状況を推察することができ、環状列石を構築し、列石を中心に「マツリや祈り」を行った人々の「ムラ」を確認することがいずれの3遺跡の課題となるであろう。

建物跡として確定できたものは６本柱建物、４本柱建物、柱穴状ピットが巡るものの3棟である。４本及び６本柱建物跡は、調査区と野中堂環状列石間に未調査部分（フェンス下）を残していることから、この地区の調査によってその棟数は増加するものと予想される。万座環状列石と建物数・規模・分布状況を比較検討するにはその資料が少いが、現時点で看取しうるこ



○…柱穴状ピット
△…土　坑
□…フラスコ状土坑
■…屋外炉、焼土遺構

0　40m

第108図　遺構分布略図

とは、柱穴状ピットの規模が比較的小さいこと、ピットの分布密度が薄いことがあげられる。そのなかでも特に野中堂環状列石の南側出入口周辺から第２号竪穴住居跡西側にかけて柱穴状ピットが極めて薄く、これと同様に野中堂環状列石外帯の配石遺構数も少ない。配石遺構数に比例して建物跡が少なくなるのか今後の調査で見極めたい。ただ、列石周辺の昔の状況を知る古老の話によると河川工事に石を運び出したとも言っており、再度の聞き取り調査を行う必要がある。

方形配石遺構、配石列は各１基（条）を確認した。方形配石遺構は野中堂環状列石の南西側に位置し、野中堂環状列石と密接な繋がりを持つ第２号建物跡と重複し、配石遺構が新しい。本方形配石遺構の確認により、野中堂環状列石周辺にも万座環状列石同様方形配石遺構が分布することが推測される。

配石列は、野中堂環状列石の北東側に位置する。未調査部分（フェンス下）を挟んだ野中堂環状列石外帯の小塊間に数個の石が直線的に並んだものが確認された。列石より連続したもので、野中堂環状列石北西側の出入り口部分の一部と考えられる。

遺構の分布状況を観察すると、秋元（大湯環状列石第５次調査報告書）が万座環状列石を分析した際提示したように、野中堂環状列石においても土坑が環３内にほとんどが収まるものと考えられる。さらに、土坑が区域ごとにグループ化されることが推測され、列石外帯の小塊に対応する位置で数基～10数基からなるグループが形成される傾向を示している。また4基の土坑内より復元可能土器が出土しており、性格解明の手がかりとなった。第183号土坑の実測図並びに写真図版から看取されるように、いずれも横倒しの状況で出土している。

フラスコ状土坑も土坑と同様に環３内に分布するものと思われる。

焼土遺構は、野中堂環状列石の南側出入口37m付近に集中して確認された。これまでの調査でもこれほど密集することはなかった。南側出入口との位置関係を考慮すれば、何らかの儀式（マツリや祈り）に関連したものと想定できる。

遺構とともに出土した遺物は今回も多量であった。土器の大半は縄文時代後期前葉のもので十腰内Ⅰ式の特徴を持つ。わずかであるが後期中葉の十腰内Ⅱ式の特徴を持った土器が混在していた。第75図は各グリッドの出土量をあらわしたものである。粗密はあるものの万座環状列石周辺の遺構分布と同様に野中堂環状列石、建物群域、土坑・フラスコ状土坑群域を大きく取り囲み遺物廃棄域が存在することが判明した。なお、遺物は、調査区南側の台地縁辺部から延びる沢頭部分に多く分布している。土器は第83図に示した各グリッド毎の完形・復元土器の文様分布を見た場合、帯縄文系、沈線文系に偏る傾向がみられた。

また、本調査でも多種多様な土器、石器、土製品、石製品が出土した。特に注目されたものは、土器では筒状の注口土器、石器では縁に花弁状文様が彫り込まれた石皿、土製品では座位

の形態を示す土偶と恐らく全国でも最大規模を持つであろう鐸形土製品の一部である。また、鐸形土製品には木の実（クルミ）を模した文様が描かれているものもみられ、鐸形土製品の用途解明の手がかりになるものと考えられる。

なお、調査区南部では遺構確認のみを行った。その結果、配石遺構が検出され、来年度追調査を行い、遺構の解明に努めたいと思う。

（藤井・花海）

参 考 文 献

文化財保護委員会　『大湯町環状列石』1953年

青森県教育委員会　『中の平遺跡発掘調査報告書』1975年

青森市教育委員会　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ』1996年～2000年

岩手県教育委員会　『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書　西田遺跡』1980年

岩手県立博物館　『岩手県の土器』　1982年

大迫町教育委員会　『立石遺跡　昭和52年・53年度発掘調査報告書』1979年

滝沢村教育委員会　『湯舟沢遺跡　第1分冊・第2分冊』1986年

秋田県教育委員会　『高屋館跡発掘調査報告書』1988年

『伊勢堂岱遺跡　県道木戸石鷹巣線建設事業に係る発掘調査報告書』1999年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(1)～(3)』1998年～2000年

小林達雄　『縄文人の世界』朝日選書557　朝日新聞社　1996年

「縄文時代の自然の社会化」『季刊考古学・別冊６』雄山閣　1995年

小林　達雄ほか　『縄文時代の考古学』学生社　1998年

岡村道雄　『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店　1997年

冨樫泰時　「秋田県大湯遺跡」『季刊考古学・別冊６』雄山閣　1995年

林　謙作　「Ⅱ　縄文時代　３　マツリと記念物」『発掘が語る日本史１　北海道・東北編』新人物往来社　1986年

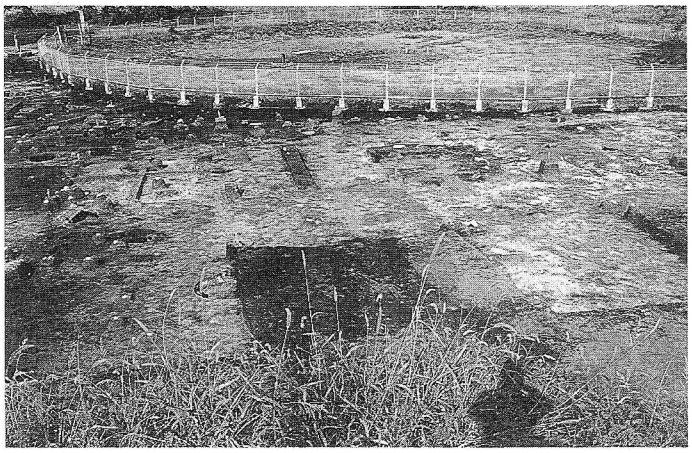
戸沢充則　『縄文時代研究事典』東京堂出版　1994年

成田滋彦　「青森県の土器」『縄文文化の研究４』雄山閣　1984年

安村二郎　「第七章　鹿角の交通」『鹿角市史　第二巻下』鹿角市　1986年

水野正好　「ストーンサークルの意義」『季刊考古学　第9号』雄山閣　1984年

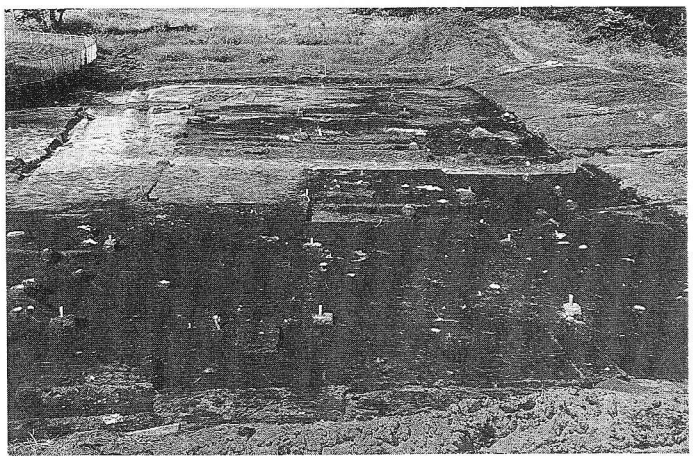
野中堂環状列石
西側隣接地



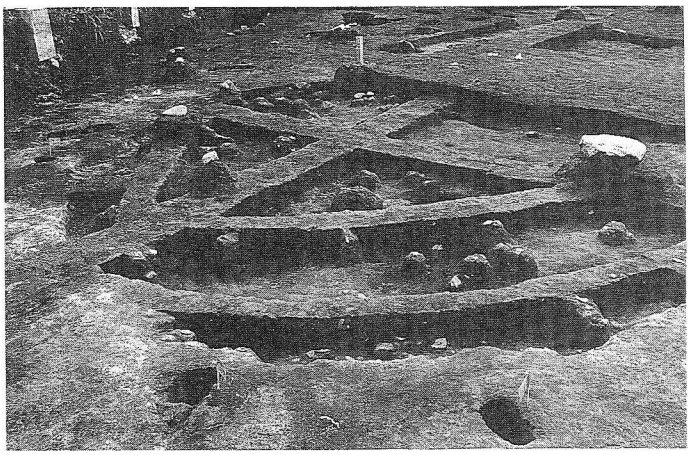
野中堂環状列石
南西側隣接地

野中堂環状列石
南側隣接地

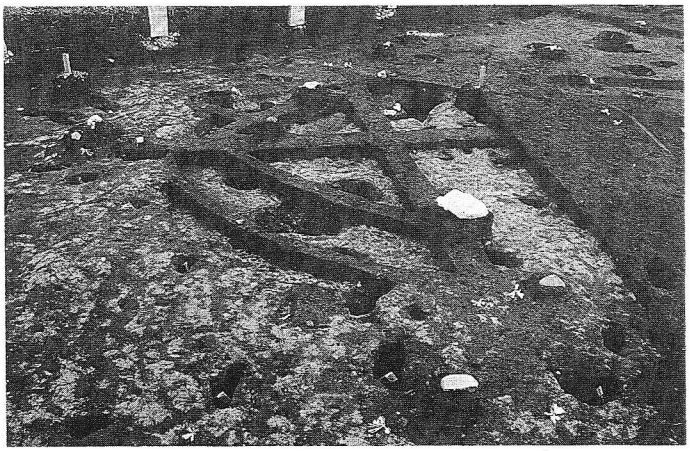
PL1　調査区全景(1)



野中堂環状列石
南東側隣接地

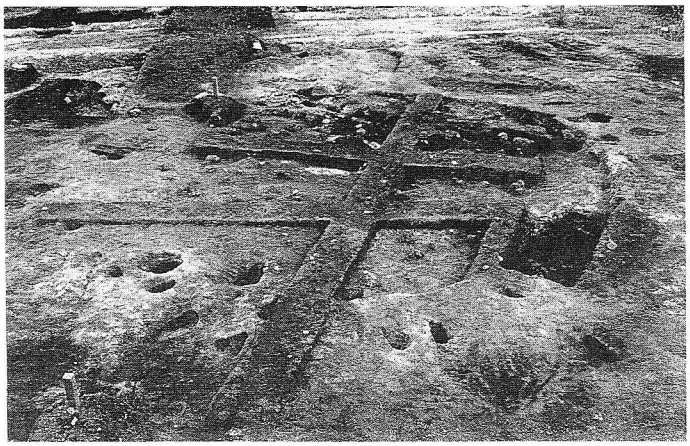


SI01遺物出土状況

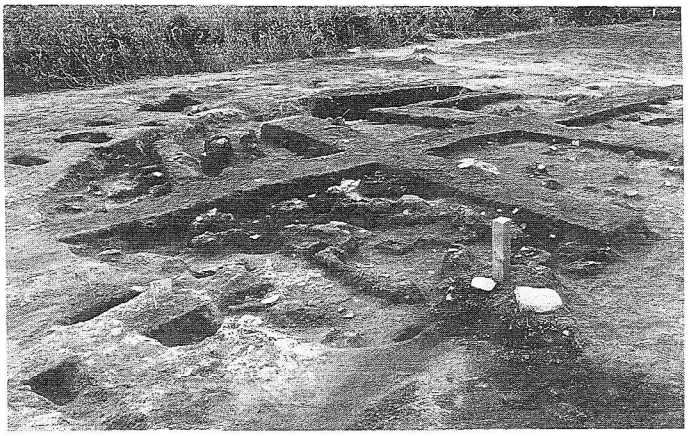


SI01

PL2 調査区全景(2)、竪穴住居跡(1)



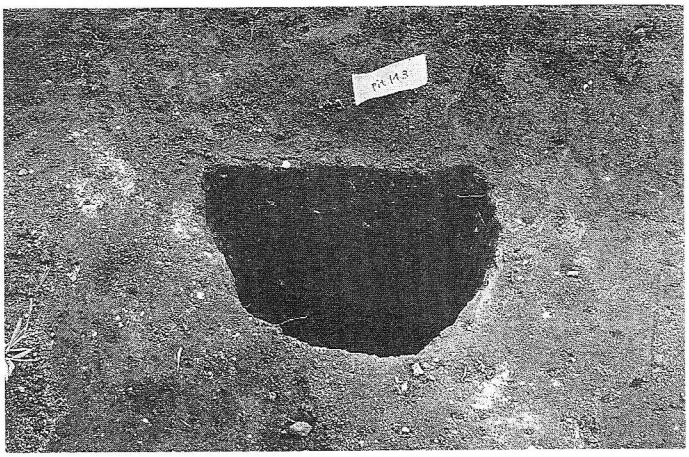
SI02



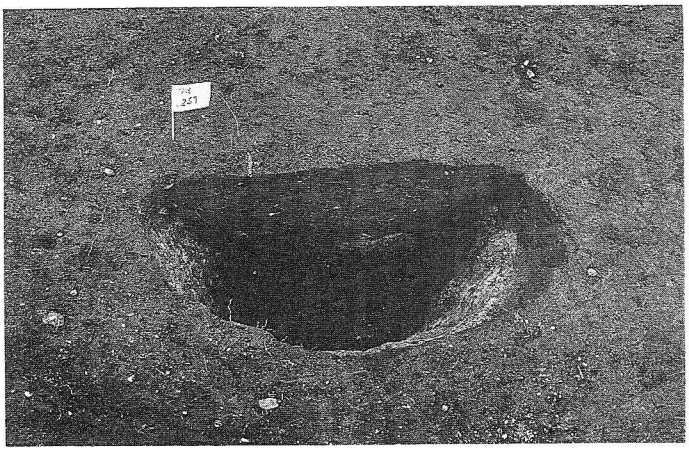
SI02

SB03

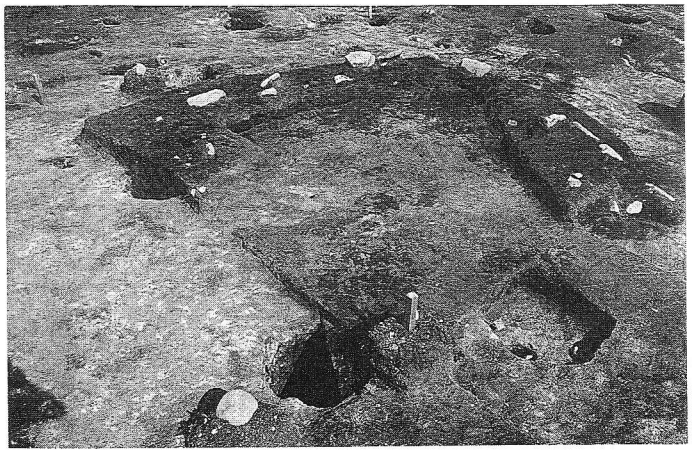
PL3　竪穴住居跡(2)、建物跡



Pit143

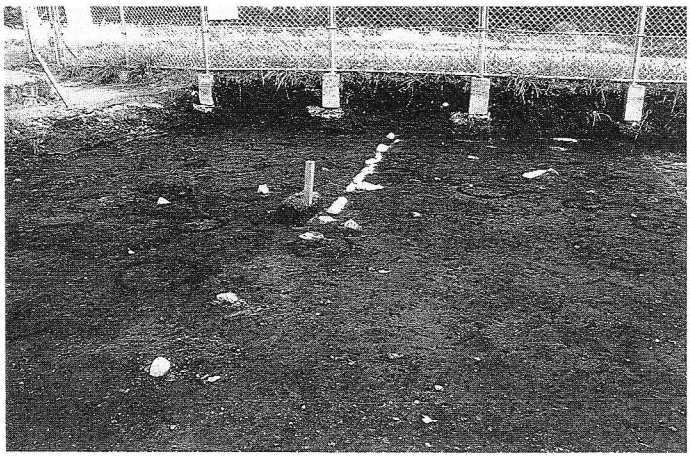


Pit259



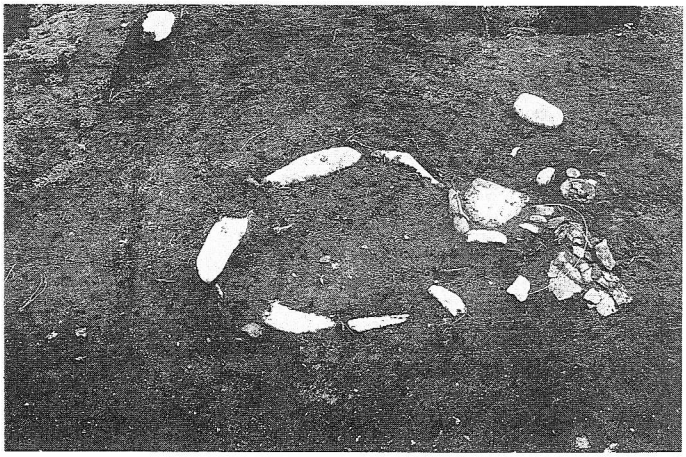
SX(S)02
方形配石遺構

PL4　柱穴状ピット、方形配石遺構



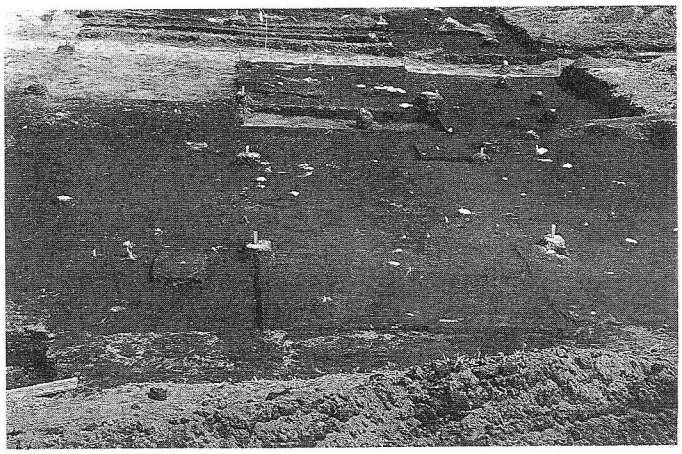
SX(S)01
配石列

SX(O)01

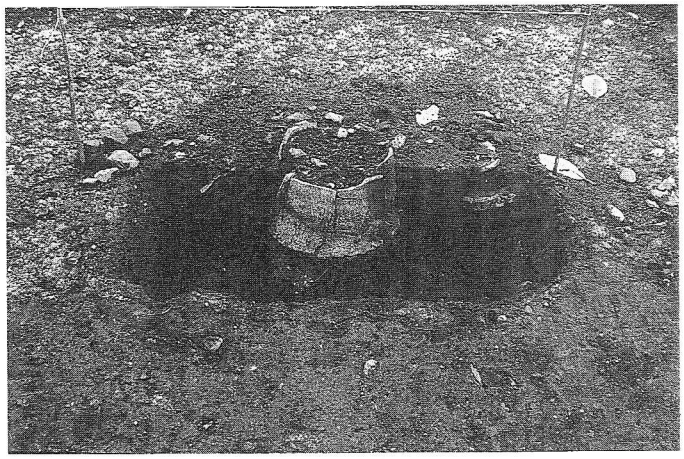


SX(O)02

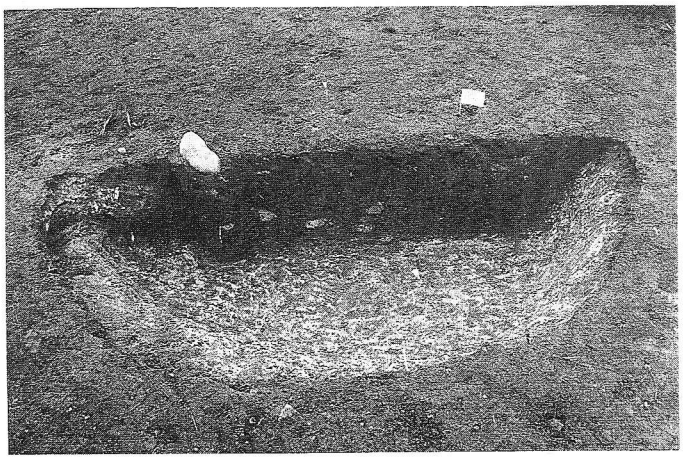
PL5　配石列、石囲炉



焼土遺構密集部全景

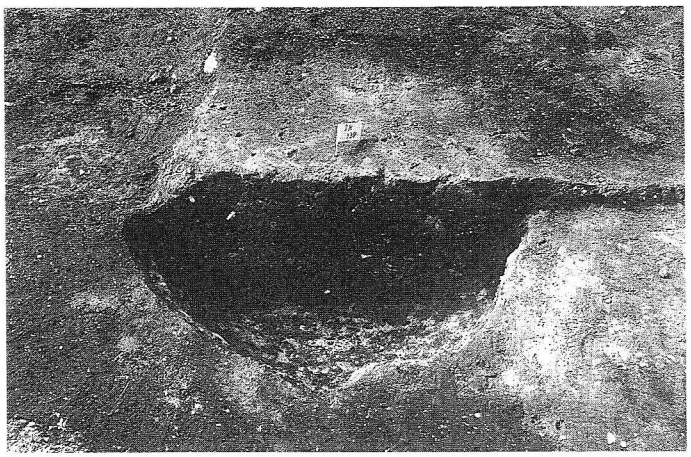


SX(U)01

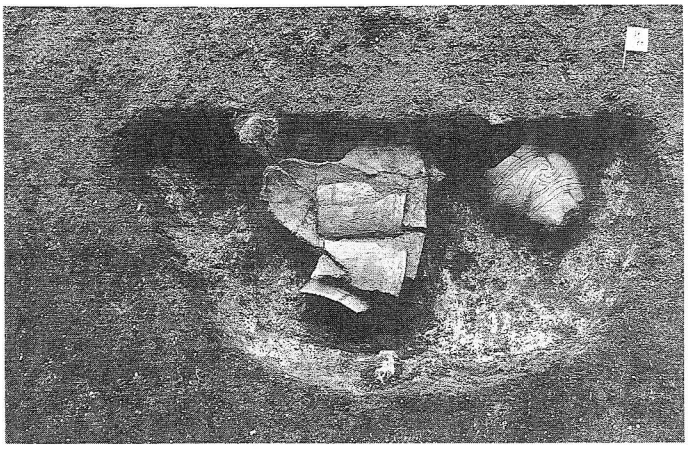


SK130

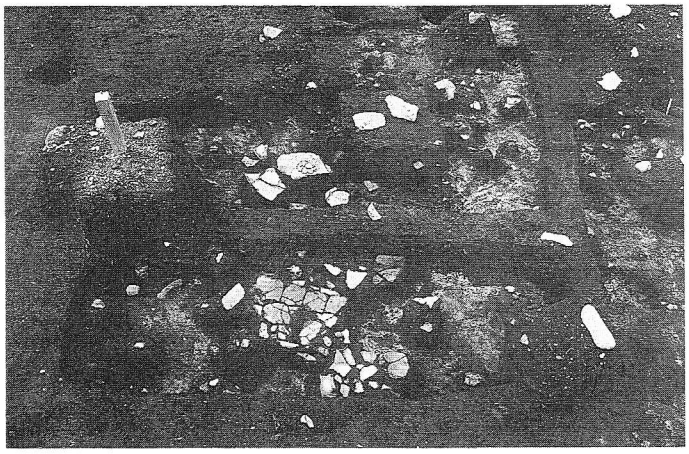
PL6　焼土遺構、埋設土器、土坑(1)



SK138

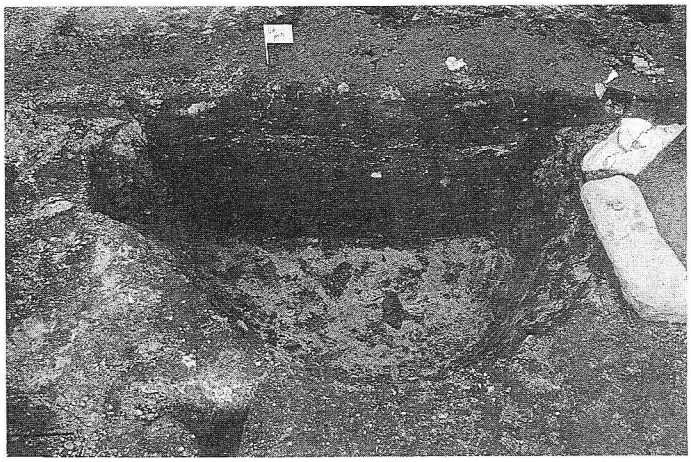


SK183

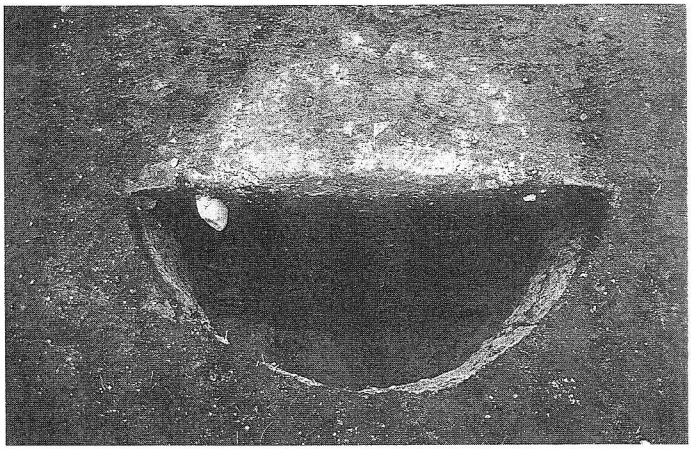


SK162

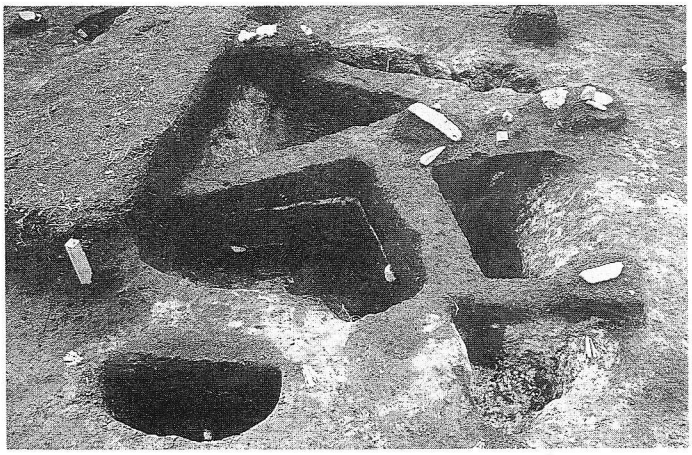
PL7　土　坑(2)



SK187

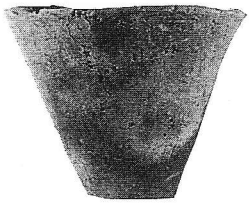


SK(F)131

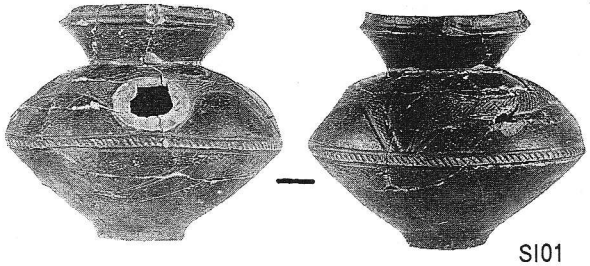


SK　192
SK　123
SK　198
SK(F)182
SK(F)191

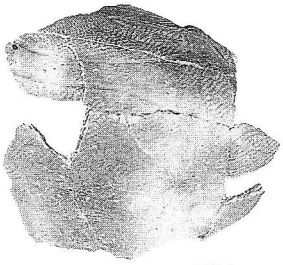
PL8　土坑(3)、フラスコ状土坑



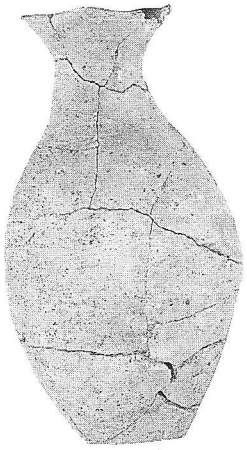
Pit138



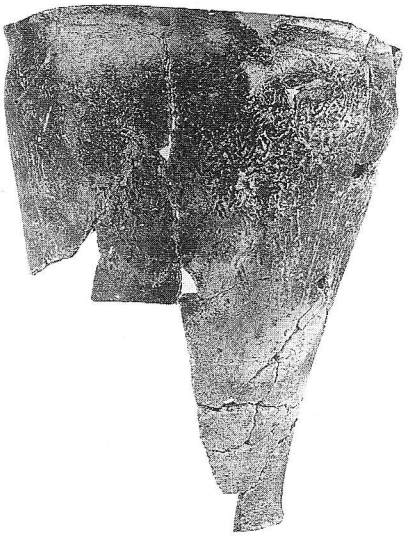
SI01



SI01



SI02



SK123

SI02

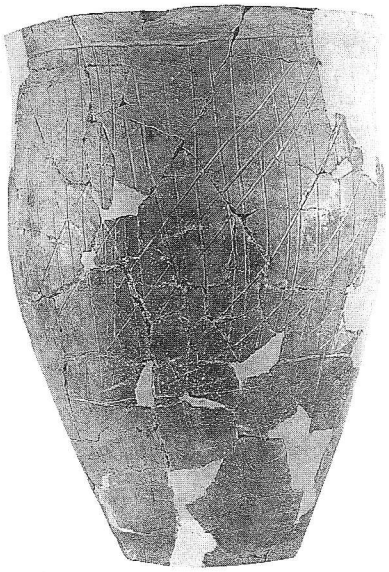
SK132

SK162

PL9　遺構内出土土器(1)

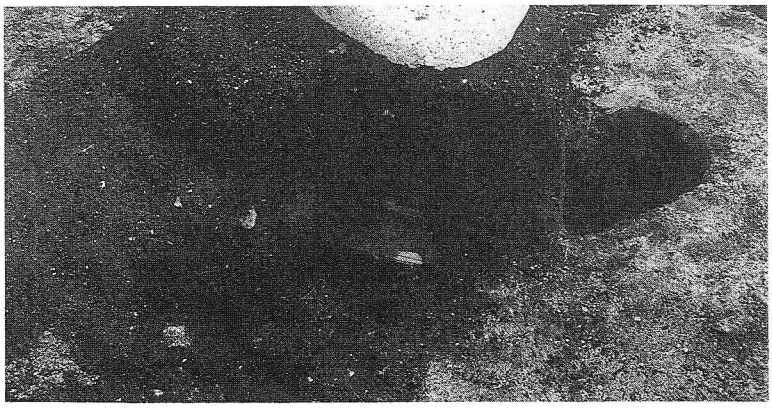
SK183

SK(F)182

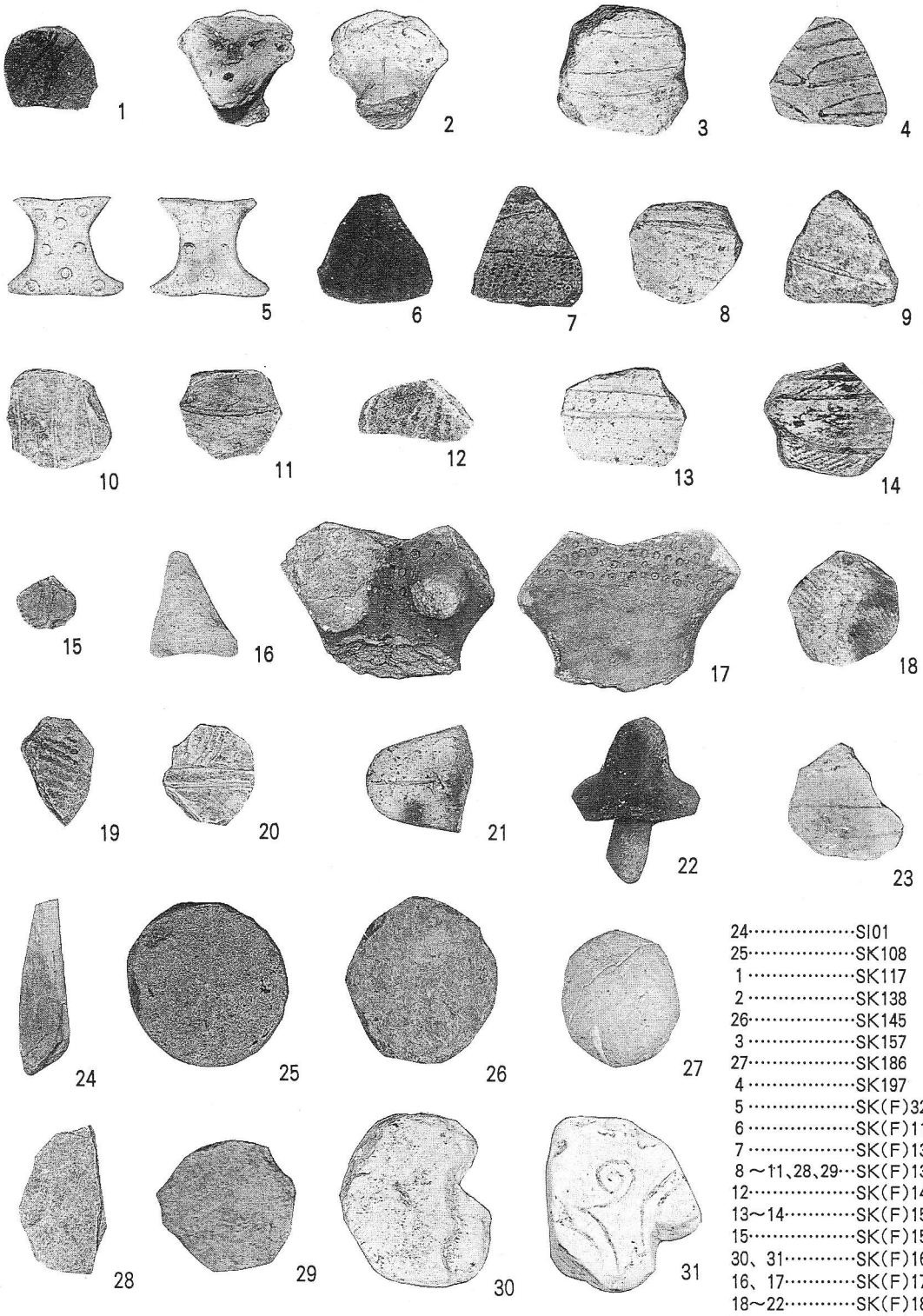


SX(U)01

SK189



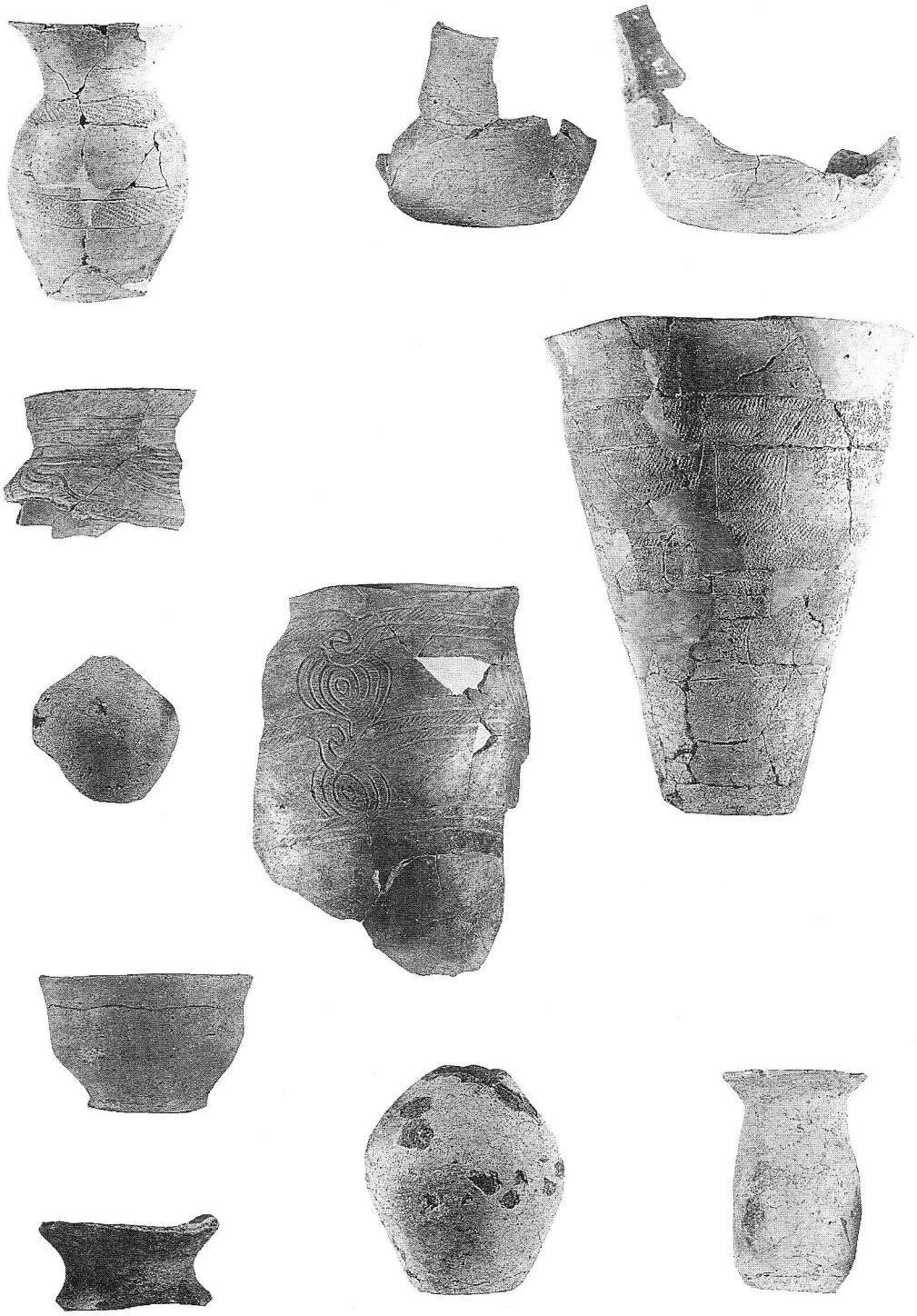
PL10　遺構内出土土器(2)



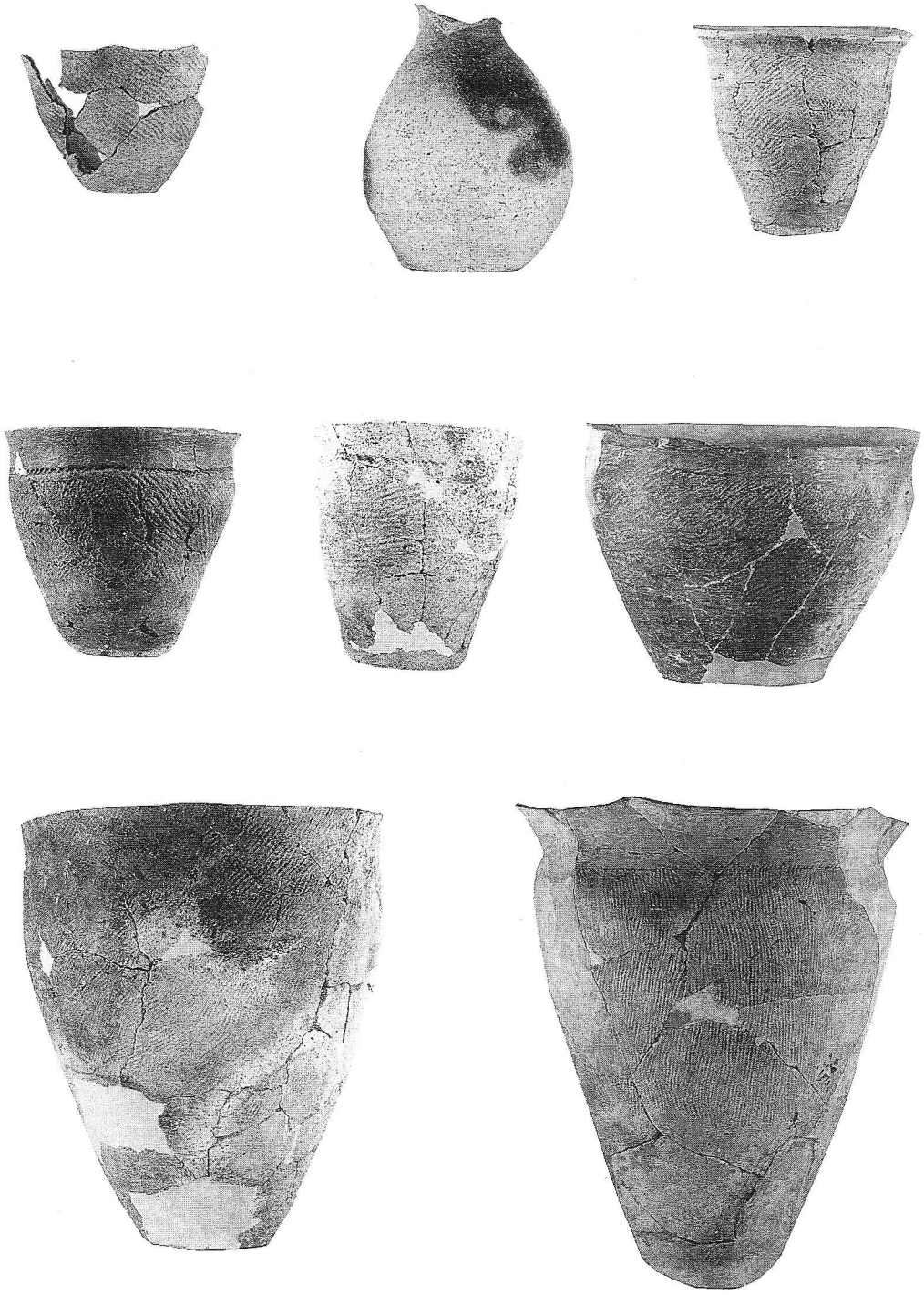
24……SI01
25……SK108
1 ……SK117
2 ……SK138
26……SK145
3 ……SK157
27……SK186
4 ……SK197
5 ……SK(F)32
6 ……SK(F)112
7 ……SK(F)133
8 ～11、28、29…SK(F)134
12……SK(F)146
13～14……SK(F)154
15……SK(F)155
30、31……SK(F)168
16、17……SK(F)170
18～22……SK(F)182
23……SK(F)190

PL11　遺構内出土遺物

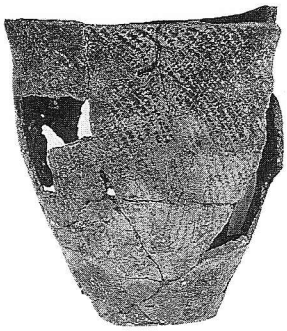
PL12　遺構外出土土器(1)

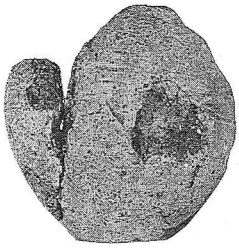


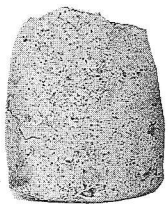
PL13　遺構外出土土器(2)

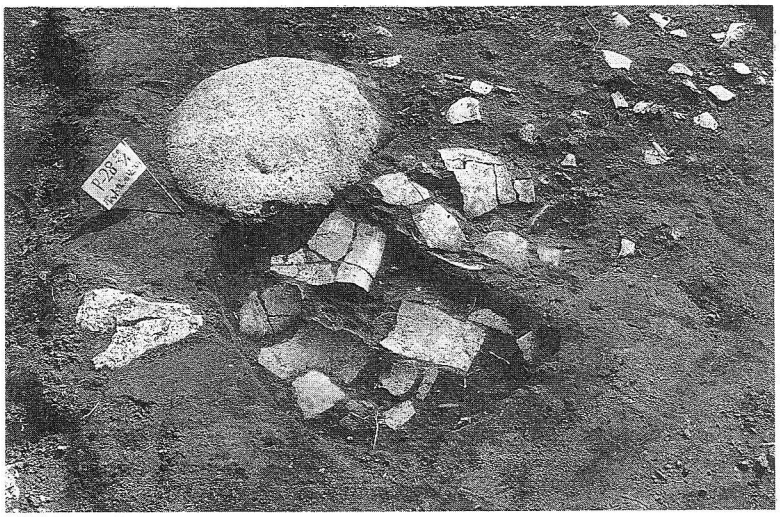


PL14　遺構外出土土器(3)



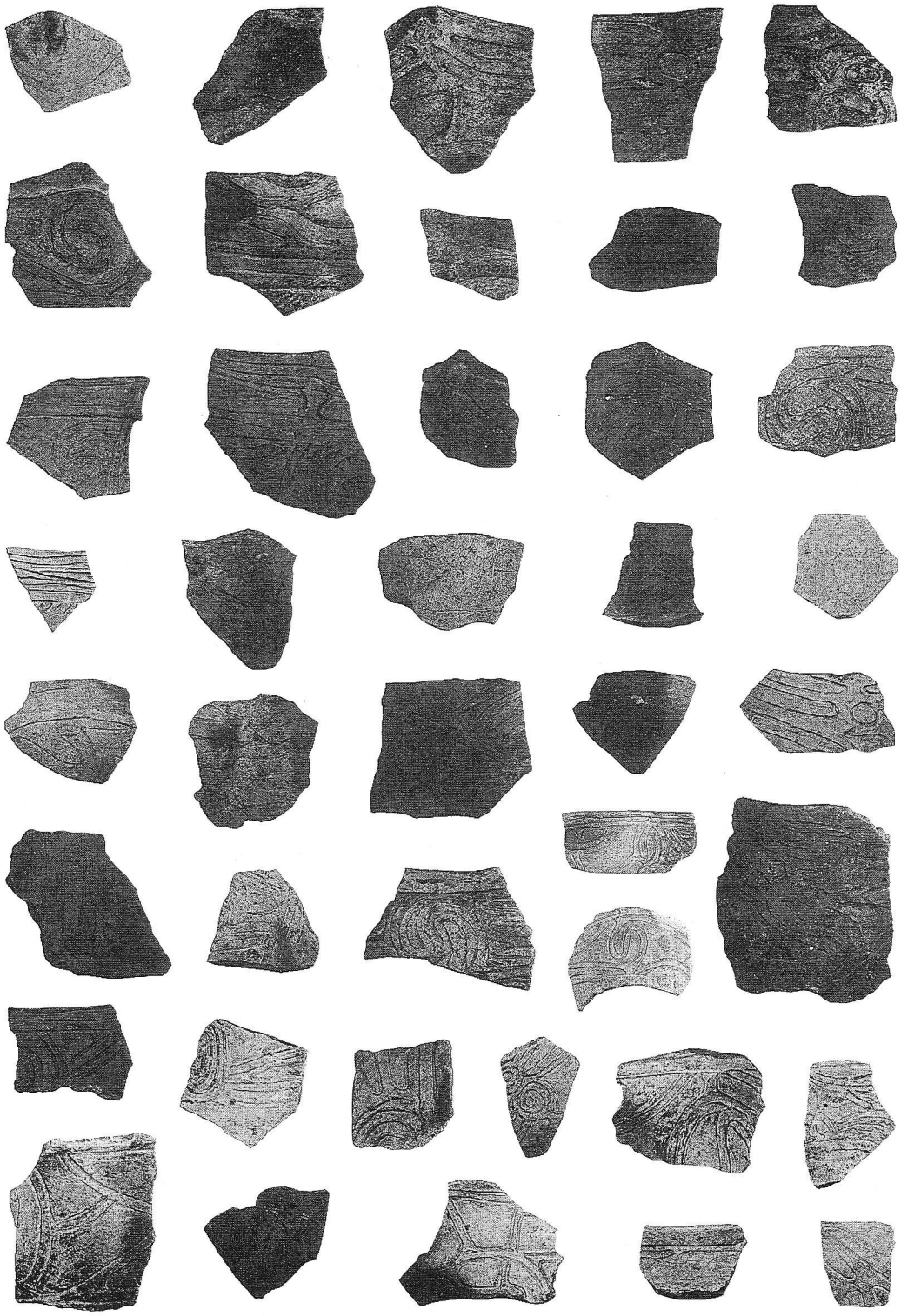




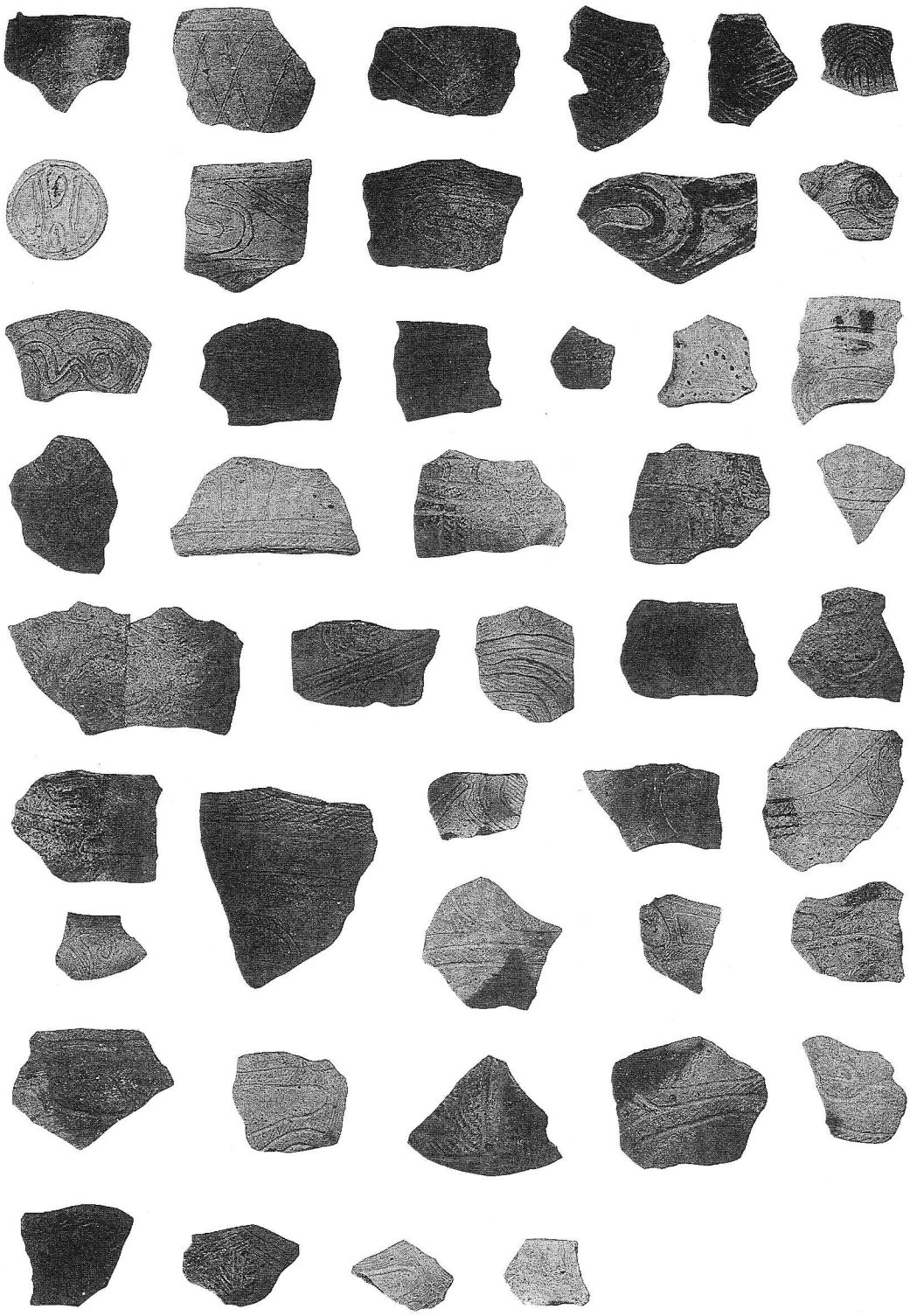


ｺ－87グリッド
土器出土状況

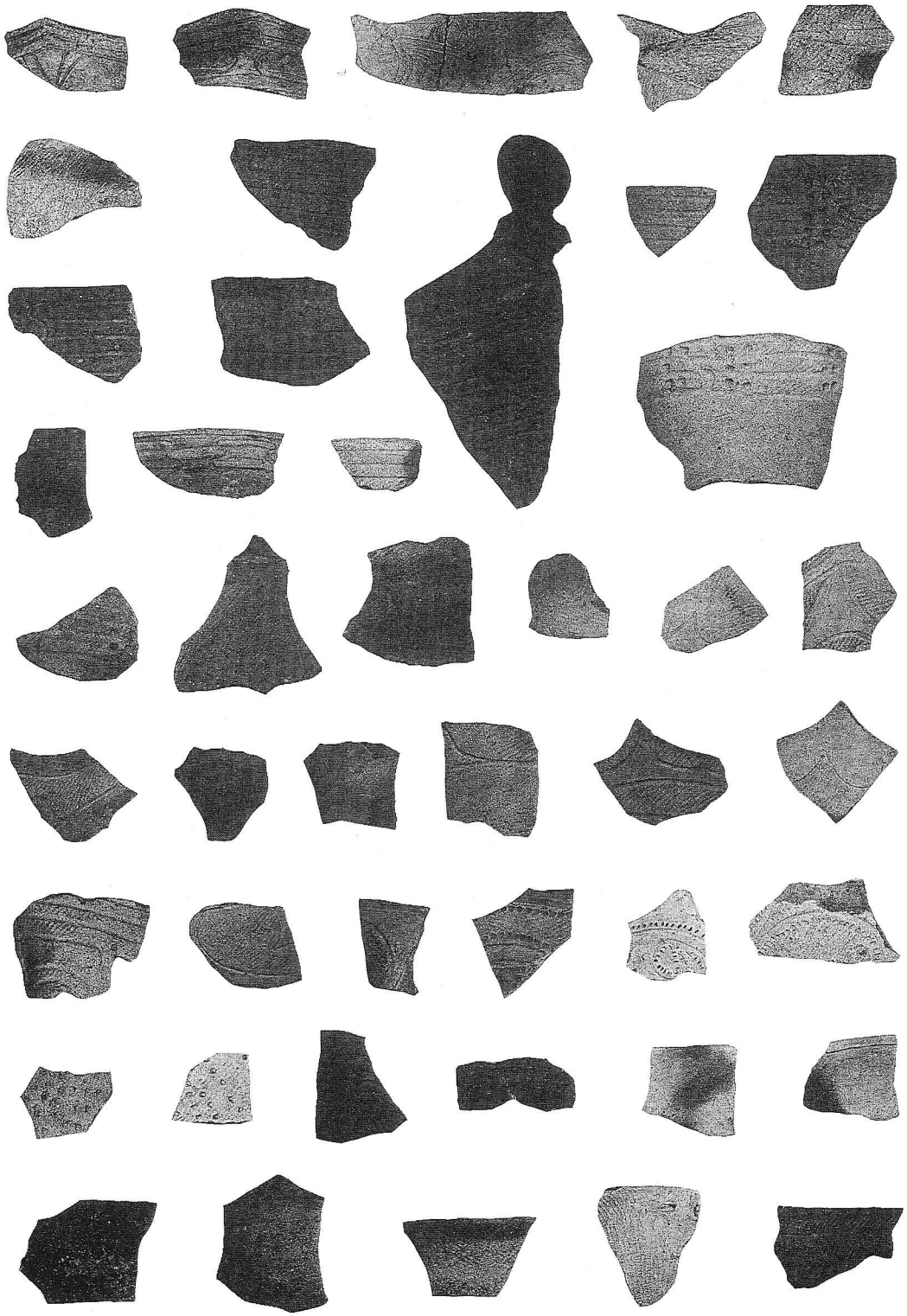
PL15　遺構外出土土器(4)



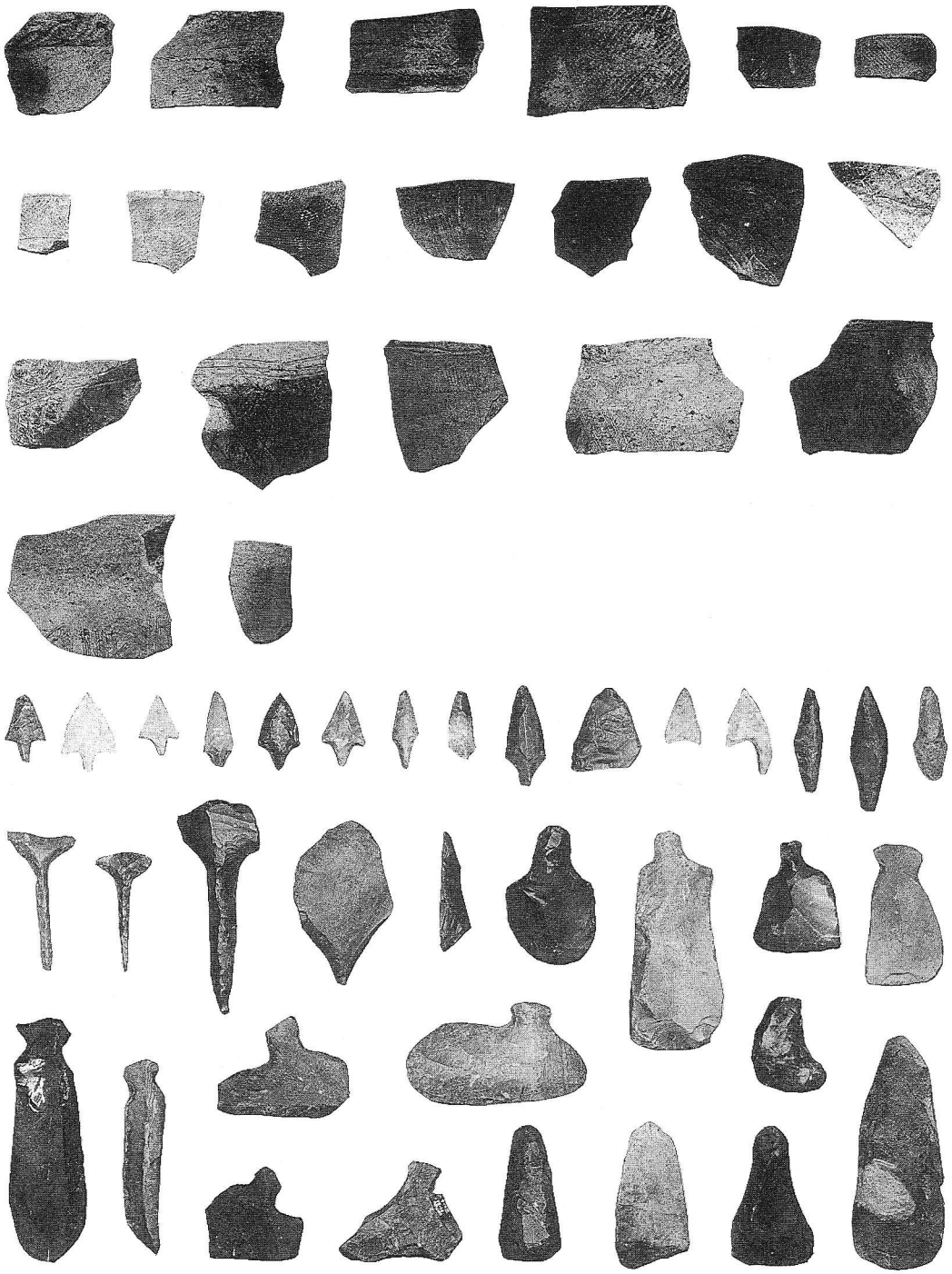
PL16　遺構外出土土器(5)



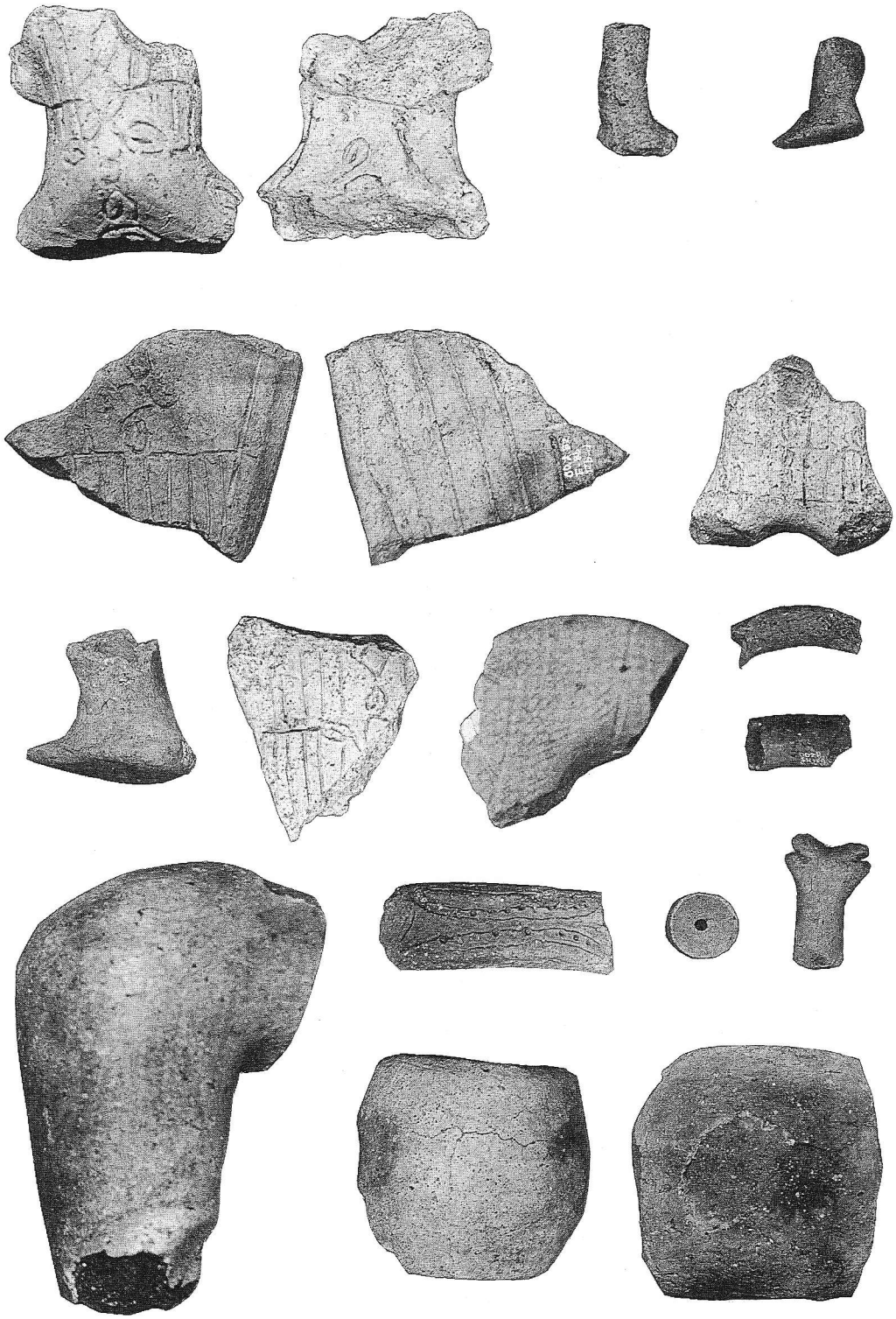
PL17　遺構外出土土器(6)



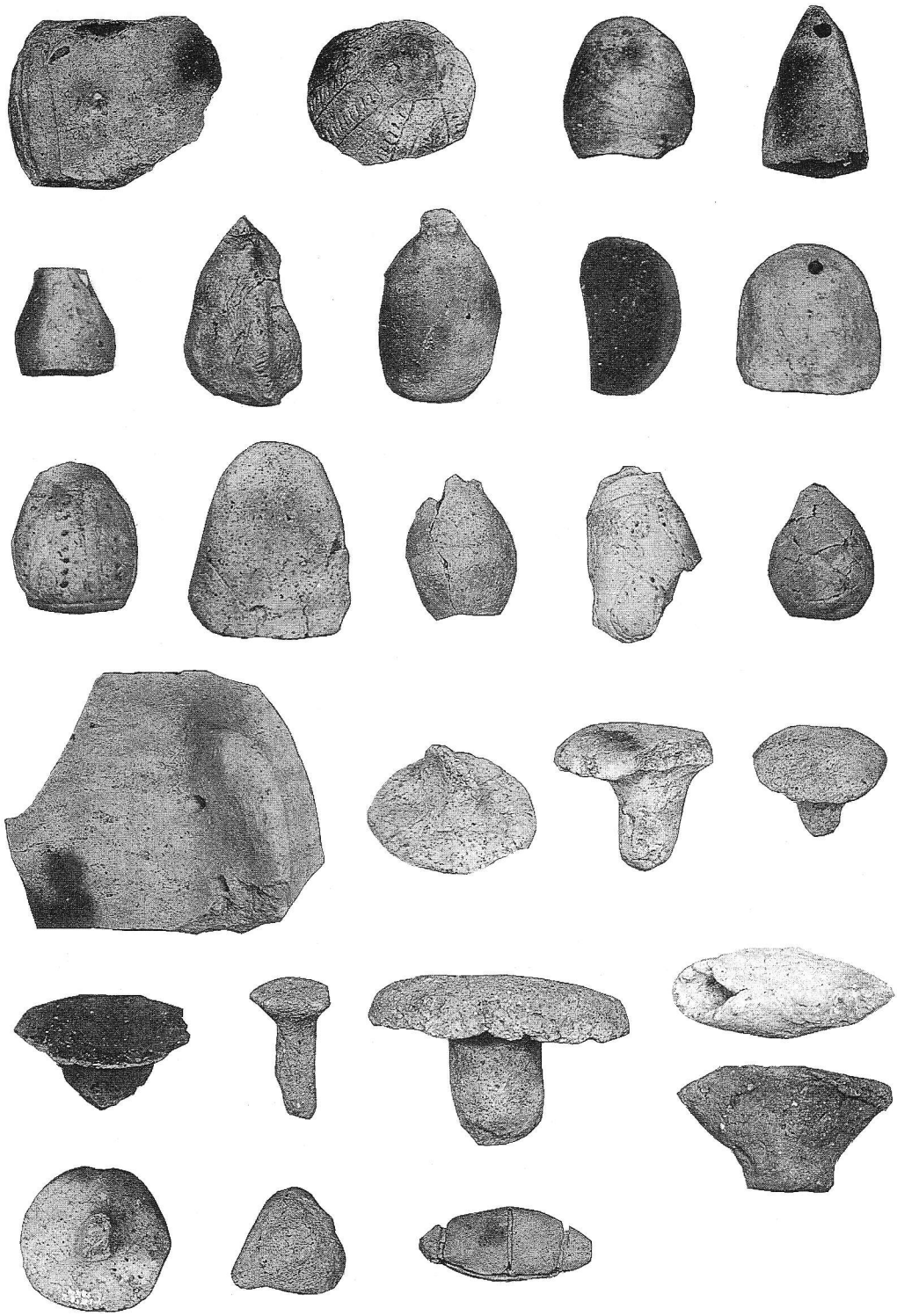
PL18　遺構外出土土器(7)



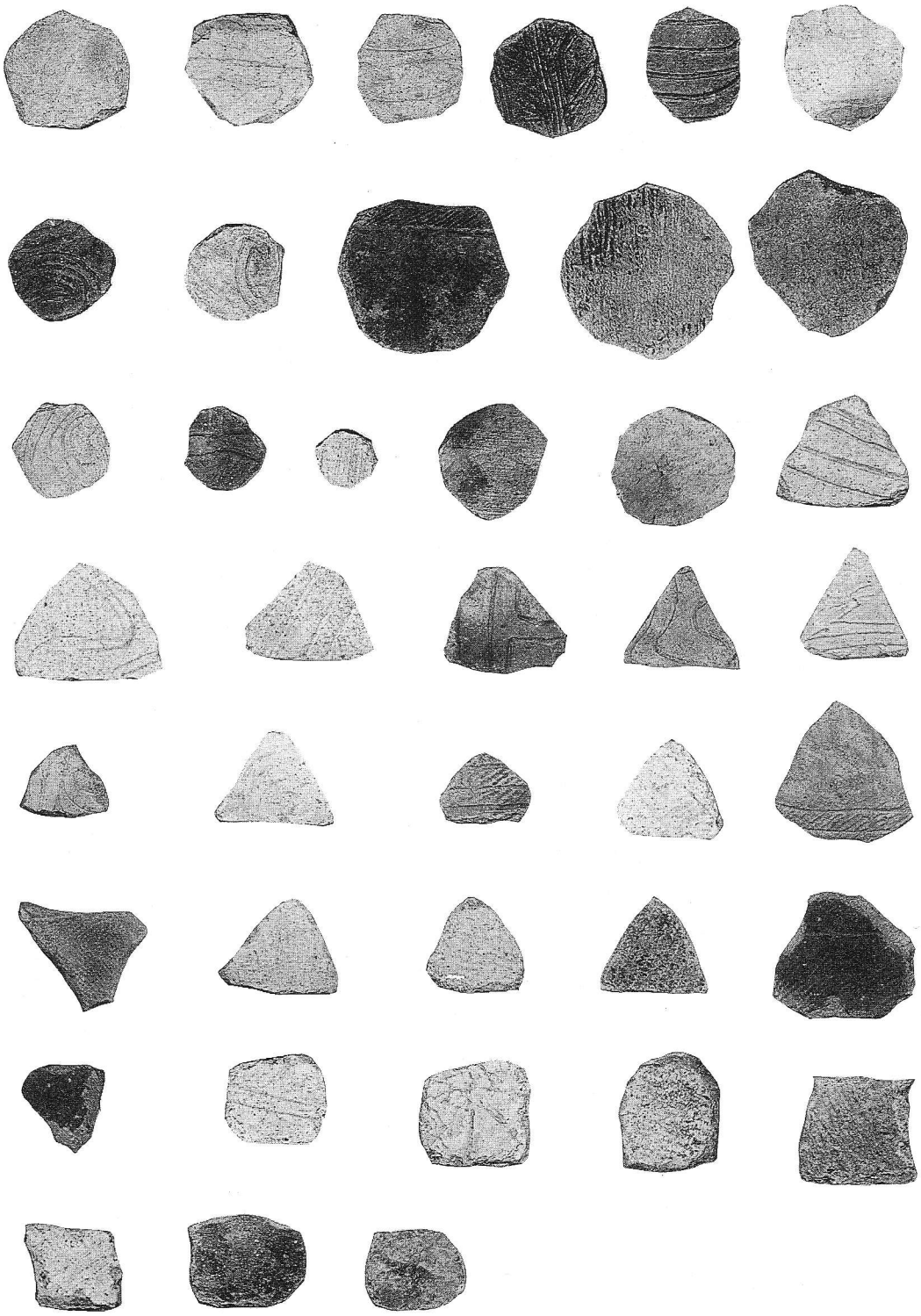
PL19　遺構外出土土器(8)、出土石器



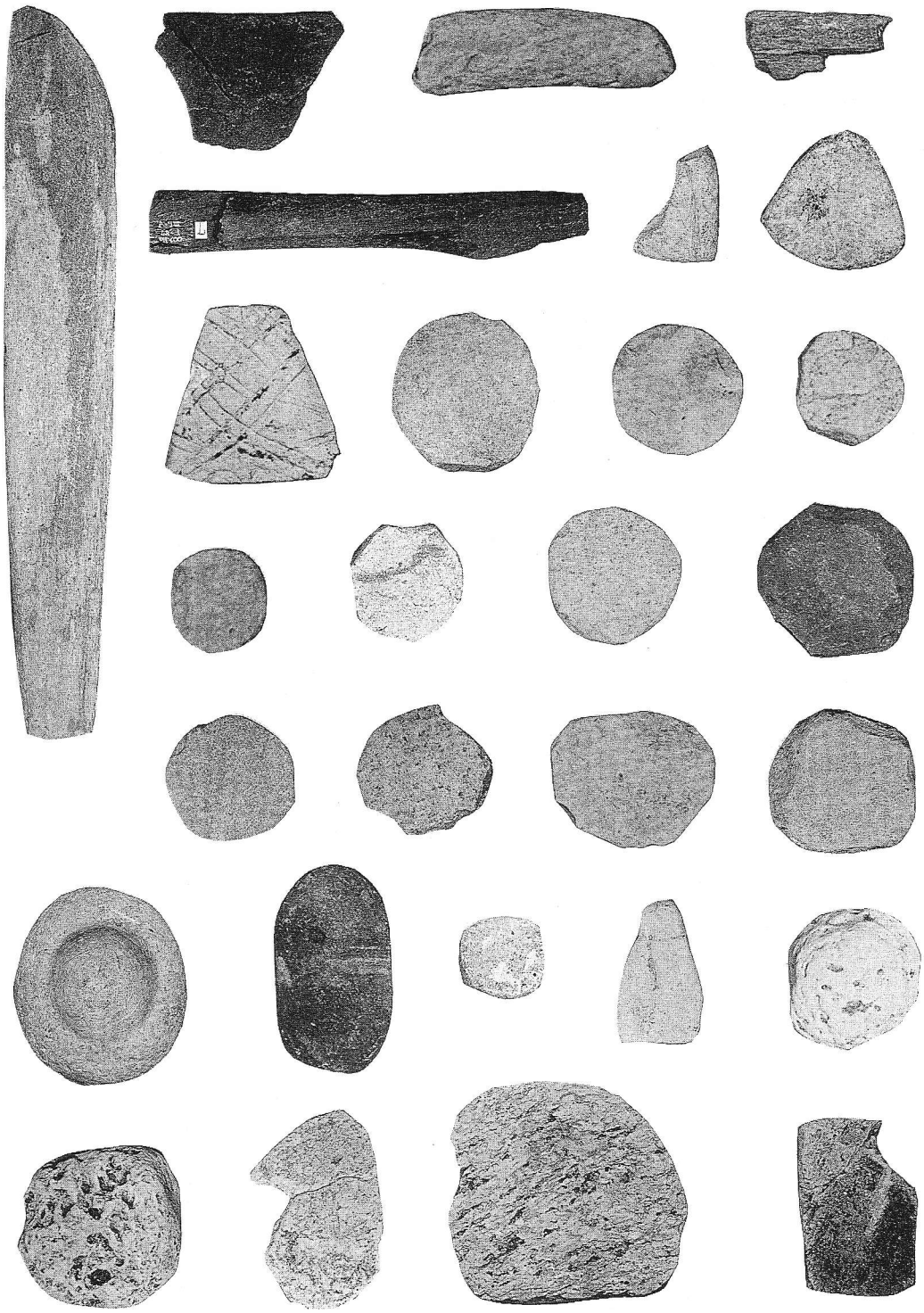
PL20　遺構外出土土製品(1)



PL21　遺構外出土土製品(2)



PL22　遺構外出土土製品(3)



PL23　遺構外出土石製品

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき　おおゆかんじょうれっせきはっくつちょうさほうこくしょ（17）
書名	特別史跡　大湯環状列石発掘調査報告書（17）
副書名	
巻次	
シリーズ名	鹿角市文化財調査資料
シリーズ番号	
編著者名	鹿角市教育委員会（生涯学習課）
編集機関	鹿角市教育委員会
所在地	〒018－5292　秋田県鹿角市花輪字荒田４番地１
発行年月日	西暦2001年３月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
特別史跡（とくべつしせき） 大湯環状列石（おおゆかんじょうれっせき）	秋田県鹿角市 十和田大湯 字万座 字野中堂 字一本木 後口	05209	123	40度 16分 20秒	140度 48分 49秒	2000. 5. 8 ～ 2000.10.31	2,745㎡	野中堂環状列石周辺の遺構分布の把握

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
特別史跡 大湯環状列石	環状列石	縄文時代後期	竪穴住居跡 建物跡 配石遺構 配石列 土坑 フラスコ状土坑 石囲炉 など	縄文土器 石器 石製品 土製品	環状列石・建物群・遺物廃棄域より「マツリと祈りの場」が作り出されている。

鹿角市文化財調査資料68

特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書（17）

発行年月日　平成13年３月30日
発　行　者　鹿角市教育委員会
〒018－5292
秋田県鹿角市花輪字荒田４番地１
☎　0186－30－1111
印　刷　所　㈲大館孔版社
〒017－0042
秋田県大館市字観音堂316－1